

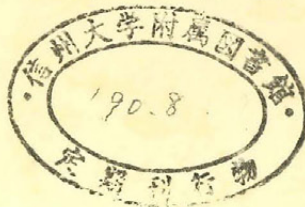
松本市文化財調査報告 No.83

MUKAIHATA  
松本市向畑遺跡Ⅲ

—緊急発掘調査報告書—

1990・3

松本市教育委員会



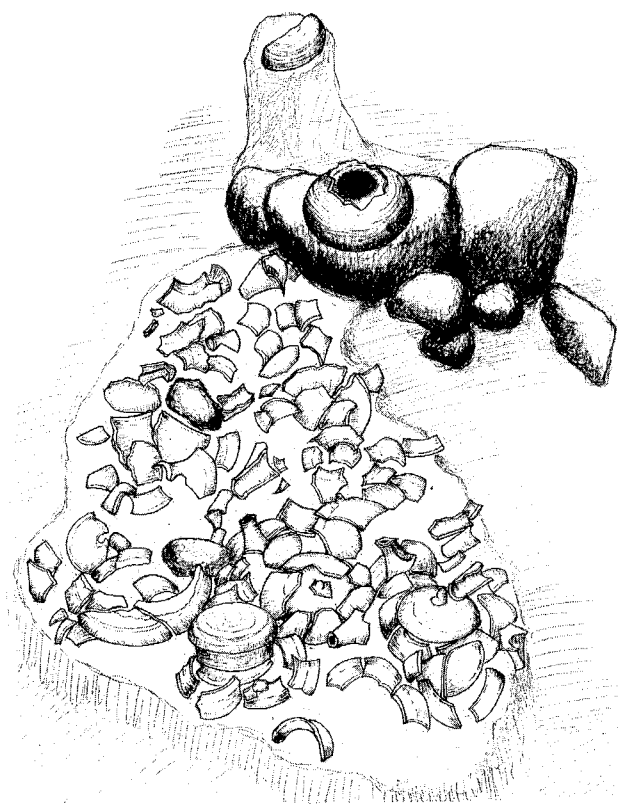
MUKAIHATA

# 松本市向畑遺跡 III

—緊急発掘調査報告書—

1990・3

松本市教育委員会



11号古墳A群

# 序

向畑遺跡は松本市の東部、中山地区にあり、この周辺の東山山麓は古くは縄文時代から中・近世に至るまでの多くの遺跡が確認され、隣接する内田地区、塩尻市片丘地区とともに、早くから識者の注目するところとなっていました。

当遺跡の発掘調査は昭和62年から昭和63年にかけて実施されております。そのうち62年の調査結果は既に報告書として刊行しておりますが、このたび63年の調査の成果をここにまとめ、無事に報告することができました。

63年の調査は、県営ほ場整備事業が当遺跡に及んだため、工事に先駆けて、松本市が松本地方事務所からの委託を受け、松本市教育委員会が行ったものです。発掘調査は、市教育委員会職員を中心に地元考古学研究者の先生方で組織した調査団により、7月11日から12月9日にかけて行われました。この調査で向畑遺跡のほぼ全域を発掘したことになります。その結果、中山地区に広がるかなり大規模な縄文時代から古墳時代にかけての当時の人々の生活の跡を発見することができました。

しかしながら開発のために発掘されたこれらの遺跡は、消えゆく運命にあります。このことを思うにつけ、大型開発の相次ぐ昨今、埋蔵文化財保護の機運がより一層盛り上がることを願ってやみません。

最後になりましたが、この調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました中山土地改良区、灼熱の夏から厳寒の冬にかけて発掘作業にあられた地元の皆様に心から謝意を表して序といたします。

平成2年3月

松本市教育委員会教育長

松村好雄

## 例 言

- 1 本書は、昭和63年7月11日から12月8日にわたって実施された松本市大字中山5029番地一帯に所在する向畑遺跡の緊急発掘調査に関する報告書である。
- 2 本調査は昭和63年度県営ほ場整備事業中山地区に伴う緊急発掘調査であり、松本市が長野県松本地方事務所から委託を受け、松本市教育委員会が実施したものである。
- 3 本遺跡は既に昭和62年度の県道建設と同年の県営ほ場整備事業に伴い2度の緊急発掘調査がなされ、それぞれに報告書（県道分：『松本市向畑遺跡Ⅰ』、ほ場分：『松本市向畑遺跡Ⅱ』）が刊行されており、今回の報告はそれに次ぐものである。このため遺構番号等はすべて一連のものになっている。
- 4 本書の執筆は下記の分担で行った。  
第1章第1・2節：事務局  
第2章第2節：三村竜一・久保田 剛・直井雅尚  
第3節1(1)・(3)：竹原 学 (5)：神沢昌二郎 2～5：関沢 聡  
第3章第2節：神沢昌二郎  
その他は直井雅尚が行った。
- 5 遺物の写真撮影は宮嶋洋一氏による。
- 6 石器の石材鑑定は太田守夫氏にお願いした。
- 7 掲載図の縮尺は基本的に次のように統一したが、これと異なる場合はその都度示した。  
遺構 1：80（古墳を除く）、遺構細部図 1：40  
遺物 土器実測図 1：4、陶磁器実測図 1：3、土器拓影 1：3  
石器実測図小形品 2：3、同中形品 1：2・1：3、同大形品 1：4  
土製品 1：2、石製品・ガラス製品小形品 2：3、同大形品 1：4  
金属製品 1：2、銭貨 2：3
- 8 「遺跡の地形・地質」「周辺遺跡」については先に刊行した『松本市向畑遺跡Ⅰ』（松本市文化財調査報告No60）の内容と重複するので割愛した。同書を参照されたい。
- 9 本書では調査結果の提示を重視したため、委託契約書、作業日誌等の事業の経緯を示す書類は掲載できなかったが、これらは現場で作成した測量図類、写真類、遺物、遺物実測図類とともに松本市立考古博物館で保管している。

# 目 次

序	
例言	
目次	
第1章 調査の経緯	
第1節 文書記録	4
第2節 調査体制	5
第3節 過去の調査について	7
第2章 調 査	
第1節 調査の概要	9
第2節 遺 構	
1. 住居址	10
2. 古 墳	18
3. 土 坑	21
4. 溝	24
5. 竪穴状遺構	26
第3節 遺 物	
1. 土器・陶磁器	110
(1)縄文時代の土器	110
(2)古墳時代前期の土器	112
(3)古墳時代中期の土器	112
(4)古墳時代後期の土器	118
(5)陶磁器	118
2. 石器	120
3. 石製品・ガラス製品	124
4. 土製品	125
5. 金属製品・銭貨	126
第3章 第1～3次調査のまとめ	
第1節 向畑遺跡の集落景観の変化	176
第2節 中世の土坑墓群	180
第4章 結 語	184

## 目 次

第1図 遺跡の範囲・調査地の位置 …………… 6	第30図 第11号古墳礫出土図 (西部・北部) ……………55
第2図 調査範囲 …………… 8	
第3図 第50号住居址実測図 ……………28	第31図 第11号古墳礫・遺物出土図 (南西部・南部) ……………56
第4図 第51A号住居址実測図 ……………29	
第5図 第51B号住居址実測図 ……………30	第32図 第11号古墳遺物出土細部図 ……………57
第6図 第52号住居址実測図 ……………31	第33図 第12号古墳実測図 ……………58
第7図 第53号住居址実測図 ……………32	第34図 土坑配置図(1) ……………59
第8図 第53号住居址炉・遺物出土図 ……………33	第35図 土坑配置図(2) ……………60
第9図 第54・55号住居址実測図 ……………34	第36図 土坑配置図(3) ……………61
第10図 第56号住居址実測図 ……………35	第37図 土坑実測図(1) ……………62
第11図 第56号住居址炉・柱穴変遷図 ……………36	第38図 土坑実測図(2) ……………63
第12図 第56号住居址ピット断面図 ……………37	第39図 土坑実測図(3) ……………64
第13図 第57・58号住居址実測図 ……………38	第40図 土坑実測図(4) ……………65
第14図 第59・60号住居址実測図 ……………39	第41図 土坑実測図(5) ……………66
第15図 第61・62号住居址実測図 ……………40	第42図 土坑実測図(6) ……………67
第16図 第63・64号住居址実測図 ……………41	第43図 土坑実測図(7) ……………68
第17図 第66号住居址実測図 ……………42	第44図 土坑実測図(8) ……………69
第18図 第67号住居址実測図 ……………43	第45図 土坑実測図(9) ……………70
第19図 第65・68・69号住居址実測図 ……………44	第46図 土坑実測図(10) ……………71
第20図 第70号住居址実測図 ……………45	第47図 土坑実測図(11) ……………72
第21図 第8号古墳全体図 ……………46	第48図 土坑実測図(12) ……………73
第22図 第8号古墳墳丘・周溝土層図 ……………47	第49図 土坑実測図(13) ……………74
第23図 第8号古墳石室実測図 ……………48	第50図 溝実測図(1) ……………75
第24図 第8号古墳石室断面図 ……………49	第51図 溝実測図(2) ……………76
第25図 第8号古墳石室内遺物出土図 ……………50	第52図 溝実測図(3) ……………77
第26図 第8号古墳周溝内遺物出土図 ……………51	第53図 竪穴状遺構(1) ……………78
第27図 第9号古墳実測図 ……………52	第54図 竪穴状遺構(2) ……………79
第28図 第10号古墳実測図 ……………53	第55図 竪穴状遺構(3) ……………80
第29図 第11号古墳実測図 ……………54	第56図 竪穴状遺構(4) ……………81

第57図	中世陶磁器	119	第74図	石器(3)	145
第58図	縄文土器(1)	129	第75図	石器(4)	146
第59図	縄文土器(2)	130	第76図	石器(5)	147
第60図	縄文土器拓影(1)	131	第77図	石器(6)	148
第61図	縄文土器拓影(2)	132	第78図	石器(7)	149
第62図	縄文土器拓影(3)	133	第79図	石器(8)	150
第63図	縄文土器拓影(4)	134	第80図	石器(9)	151
第64図	古墳時代土器(1)	135	第81図	石製品・ガラス製品	152
第65図	古墳時代土器(2)	136	第82図	土製品	153
第66図	古墳時代土器(3)	137	第83図	金属製品(1)	154
第67図	古墳時代土器(4)	138	第84図	金属製品(2)	155
第68図	古墳時代土器(5)	139	第85図	金属製品(3)	156
第69図	古墳時代土器(6)	140	第86図	金属製品(4)・銭貨	157
第70図	古墳時代土器(7)	141	第87図	縄文時代中期初頭・古墳時代前期 の遺構配置	177
第71図	古墳時代土器(8)・拓影	142	第88図	向畑古墳群分布図	178
第72図	石器(1)	143	第89図	土坑墓	182
第73図	石器(2)	144			

付 図

表 目 次

第1表	土坑集計表	22
第2表	住居址一覧表	82
第3表	向畑III土坑一覧表	86
第4表	溝一覧表	108
第5表	竪穴状遺構一覧表	109
第6表	石製品・ガラス製品一覧表	152
第7表	土製品一覧表	153
第8表	古墳時代土器一覧表	158
第9表	石器一覧表	169
第10表	金属製品一覧表	173
第11表	銭貨一覧表	175



# 第1章 調査の経緯

## 第1節 文書記録

- 昭和62年9月7日 埋蔵文化財保護協議を市役所及び現地にて実施。出席者は長野県教育委員会、松本地方事務所、松本市教育委員会。
- 12月21日 昭和63年度補助事業計画書提出。
- 昭和63年4月7日 昭和63年度国宝・重要文化財等保存整備費補助金内定。
- 4月27日 昭和63年度国宝・重要文化財等保存整備費補助金（国庫）交付申請書提出。
- 5月31日 昭和63年度文化財保護事業補助金（県費）内示。
- 6月1日 昭和63年度県営ほ場整備事業中山地区向畑遺跡埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約を結ぶ。
- 6月14日 昭和63年度文化財保護事業補助金（県費）交付申請書提出。
- 7月31日 昭和63年度国宝・重要文化財等保存整備費補助金（国庫）交付決定通知。
- 8月10日 向畑遺跡埋蔵文化財発掘調査の通知提出。
- 8月25日 昭和63年度文化財保護事業補助金（県費）交付決定通知。
- 9月12日 昭和64年度埋蔵文化財保護協議を市役所及び現地にて実施。出席者は長野県教育委員会、松本地方事務所、松本市教育委員会。
- 12月22日 昭和64年度補助事業計画書提出。
- 平成元年2月9日 向畑遺跡埋蔵文化財拾得届及び同保管証提出。
- 4月3日 平成元年度国宝・重要文化財等保存整備費補助金内定。
- 4月3日 平成元年度文化財保護事業補助金（県費）内示。
- 5月24日 平成元年度国宝・重要文化財等保存整備費補助金（国庫）交付申請書提出。
- 7月15日 平成元年度文化財保護事業補助金（県費）交付申請書提出。
- 7月18日 平成元年度国宝・重要文化財等保存整備費補助金（国庫）交付決定通知。
- 7月20日 向畑遺跡埋蔵物の文化財認定。
- 9月11日 平成元年度文化財保護事業補助金（県費）交付決定通知。

## 第2節 調査体制

### 1 昭和63年度（発掘調査・整理作業）

**調査団長：**中島俊彦（教育長）

**調査担当者：**神沢昌二郎（考古博物館長）

**現場担当者：**三村竜一（社会教育課）

**調査員：**三村 肇（長野県考古学会員）

中村賢二（社会教育課）

土橋久子（長野県考古学会員）

#### 発掘作業参加者

青木雅志、赤羽 章、赤羽包子、赤羽とみ子、荒井唯邦、五十嵐周子、石合佐千子、石井良子、石川末四郎、伊丹早苗、岩野公子、内沢紀代子、内村美保、海野 清、遠藤栄治、大出六郎、犬沢真二、太田千尋、大谷成嘉、大塚袈裟六、岡部登喜子、小川むつ子、奥原富藏、小野光信、開鳴八重子、金井ひろみ、金子富人、川上とよみ、川上典子、川上春子、北沢達二、木下ふき栄、小池直人、小島茂富、児玉春紀、小林謙次、小林文子、小松小きん、小松千寿子、小松正子、五味総一郎、清水慎司、下里順子、下里忠靖、下里末子、下里みつ江、瀬川長広、荘 秀也、袖山勝美、田上一郎、武居美保、竹内 忍、多田邦彦、田中泉造、塚原晴美、鶴川 登、直井由加理、永沢周子、中島新嗣、中島世津子、中島督朗、中島芳晴、中田美智子、中村喬頼、中村文一、籠町やよい、巾崎助治、林伊和夫、林 和子、原 初水、藤本利子、降旗勇次、北条多寿子、洞沢武子、堀 洋子、町田庄司、松尾明恵、丸山久司、丸山 誠、丸山よし子、南山久子、見村芳子、宮島俊行、宮島みつ代、村山正人、百瀬きゑ、百瀬八江、百瀬弘子、百瀬正美、百瀬良子、矢島利保、百合草朋弥、横山篤美、吉沢克彦、米山禎興、若井七十郎

#### 事務局

浅輪幸市（社会教育課長）、田口 勝（文化係長）、熊谷康治（主査）、降旗英明（主事）、山岸清治（事務員）、三沢利子

### 2 平成元年度（整理作業）

前年同様に市教育委員会の直営事業として実施したが、特に調査団の編成はせず、以下のような体制で行った。

**総 括：**直井雅尚

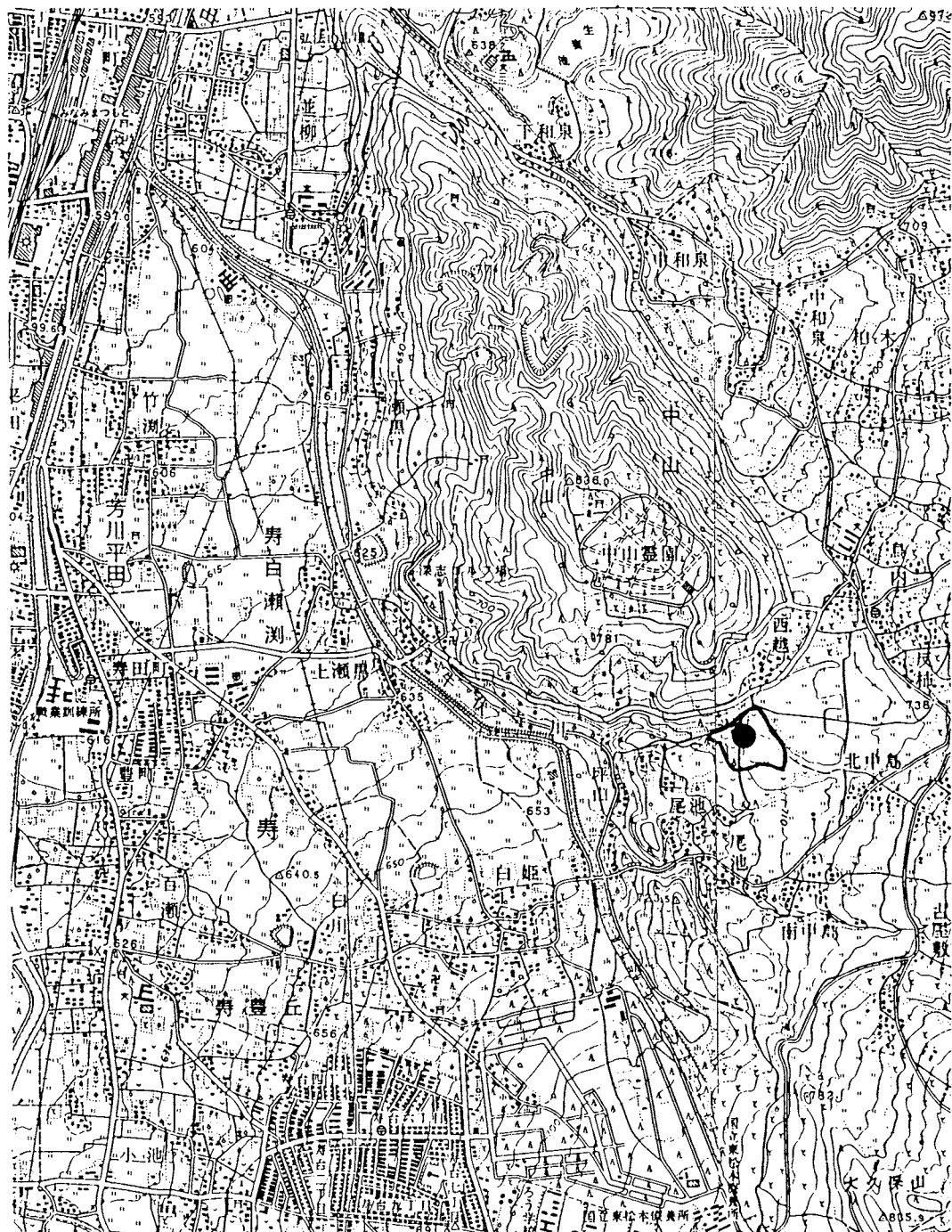
**責 任 者：**三村竜一

#### 整理作業参加者

石合佐千子、内沢紀代子、海野洋子、大木たかみ、開鳴八重子、川窪命子、斉藤つたえ、吉沢克彦

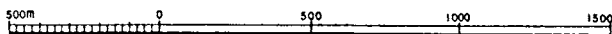
#### 事務局

浅輪幸市（社会教育課長）、田口 勝（文化係長）、熊谷康治（課係長）、山岸清治（主事）、赤羽美保



●印発掘地点

1:25,000 松本



第1図 遺跡の範囲・調査地の位置

### 第3節 過去の調査について

松本市教育委員会による向畑遺跡の発掘調査は今回が初めてではなく、昭和58年、昭和62年にも行われている。昭和58年の調査は今回調査地の東隣で保育所建設に伴うもの、昭和62年は県道建設とは場整備に伴うもの2件で、今回の調査は場所的にも原因上からもこの2件に続くものといえる。そこで、昭和62年の調査はいずれも正式な報告書（松本市教育委員会 1988 『松本市向畑遺跡Ⅰ』、同 1989 『松本市向畑遺跡Ⅱ』）が刊行されているため、ここでその報告内容を簡単にまとめてみたい。

遺物は各時代のものが多量に出土しているが、遺構からみると基本的に縄文時代中期初頭の住居址と土坑群、古墳時代前期の住居址群、古墳時代中期の古墳、中世の土坑群（土壙墓）の4段階で遺跡の変遷が捉えられている。

#### 1 発見された遺構

竪穴住居址 48軒（縄文時代中期初頭1、古墳時代前期45、同中期1）

古墳 2基（古墳時代中期）

土坑 941基（縄文時代約180、古墳時代約23、その他は中世）

溝 18本（縄文時代2、その他は時期不明）

竪穴状遺構 6基（時期不明）

特殊遺構 1基（用途不明、平安時代以降）

#### 2 出土した遺物

縄文時代 土器（早期末～前期初頭、前期中葉、中期初頭、中期後葉、後期前葉）

石器（石鏃、石匙、石錐、ピエス・エスキーユ、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、凹石、敲石、磨石、特殊磨石）

弥生時代 石器（石包丁、磨製石鏃）

古墳時代 前期の土師器、中期の土師器・初期須恵器、石器（砥石）、土製品（勾玉、紡錘車）、鉄器（鉗、釘、刀子?）、管玉

平安時代 土師器

中世 陶磁器、石製品（硯）、銭貨（宋銭）、鉄器

近世 陶磁器、人骨



トーンは今回報告分

第2図 調査範囲

## 第2章 調 査

### 第1節 調査の概要

調査地は松本市大字中山5029番地一帯にあたる。県道建設に伴い行った昭和62年度調査地の西側に接し、遺跡の載る台地の西半分を占めている。調査面積は10105㎡を測り、昭和62年県道建設に伴う調査2900㎡、同年ほ場整備に伴う調査4155㎡を合せると、計17160㎡となる。遺跡の全域を完掘したと言ってもよいであろう。

調査方法は昭和62年のときと基本的に同様で、測量用の座標軸も連続しているの、詳しくは同年および昭和63年度に刊行した『松本市向畑遺跡Ⅰ』『松本市向畑遺跡Ⅱ』を参照していただきたい。遺構番号については、竪穴住居址は50号、古墳は9号、土坑は1000号、溝は23号、竪穴状遺構は8号から付けたが先の調査との重複はない。ただし土坑については調査時にいくつか欠番が生じたため、本書作成時に新番号に振り替えたものがある。これについては一覧表に新旧番号を併記した。

調査結果は下の通りである。(カッコ内は総計)。多数の土坑を伴う縄文中期初頭の集落址、古墳前期の集落址、同中期の古墳群、中世の土坑群という重複した遺跡の構成が明らかになった。

#### 遺 構

竪穴住居址	21軒 (68)	縄文時代中期初頭8 (9)、古墳時代前期13 (57)、同中期 (2)
古 墳	5基 (7)	古墳時代中期4 (6)、同後期1 (1)
土 坑	973基 (1914)	縄文時代中期初頭565 (745)、中世以降344 (738)、不明多数
溝	12本 (31)	縄文時代中期2 (4)、古墳時代前期3 (6)、不明7 (21)
竪穴状遺構	6基 (12)	縄文時代2 (2)、平安時代1 (4)、不明3 (5)

#### 遺 物

土 器	縄文土器 (早期末、中期初頭・後葉) 土師器 (古墳前・中期、平安)、須恵器 (古墳中期)、陶磁器 (中世)
石 器	石鏃、石匙、石錐、スクレイパー、ピエス・エスキーユ、打製石斧、磨製石斧、凹石、敲石、磨石、砥石
土 製 品	土偶、土製円盤、紡錘車
石 製 品	石棒、石刀、玦状耳飾り、硯
金属製品	釘、刀子、鏃、鏝、馬具、銭貨
玉 類	勾玉、小玉

## 第2節 遺構

### 1. 住居址

#### (1) 第50号住居址 (第3図)

**遺構** 調査地区中央N5～N12、W56～W61に位置し、第553号土坑を切る。主軸をN-15°-Eにとり、規模は南北6.1m、東西5.3mを測る。平面形は隅丸長方形を呈している。壁高は16cmを測り、その掘り込みはなだらかである。床面積は28.2㎡を測る。床は地山である礫を含まない二次堆積ロームをそのまま用い、壁下を除き平坦で、堅くたたきしめられた良好なものであった。

施設はピットが5個、炉が3基発見されている。ピットはP<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>が方形に並び、深さも24～40cmを測り、支柱穴と想定される。またP<sub>5</sub>は規模・平面形よりみて、貯蔵穴と思われる。炉はすべてP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>の間の中央に位置し、規模22×20cm程度の地床炉であった。

**遺物** 土器、石器、石製品が出土している。土器は土師器で量は少ない。図化・提示できたものは甕・甔の2点のみである。石器(スクレーパー)、石製品(石棒)は縄文時代のもので、混入品であろう。本址は古墳時代前期に属する。

#### (2) 第51号住居址 (A号：第4図、B号：第5図)

**遺構** 調査地区の南側S42～S48、W66～W71に位置し、第1091号土坑に切られる。規模は南北5.5m、東西4.2mを測り、隅丸長方形のプランを呈する。主軸方向はN-10°-Eを示す。本址は掘り下げが進むにつれ、床が2枚あることが判明したため上部を第51A号住居址、下部を同B号住居址と命名した。壁はそれぞれ28cm、32cmの高さを測るが、掘り込みはA住の方がやや斜めである。

B住は深さ12～20cmの周溝を伴っており、ほぼ直に掘り込まれている。床面積は20.8㎡を測る。A住の床はロームと暗褐色土の混合層を用いた貼床で、非常に堅く平坦であった。その厚さは3～5cmを測る。一方下面のB住の床も平坦だが、軟弱な二次堆積ロームであったため、一部掘り過ぎてしまった可能性がある。A住床面ではピットが14個検出され、中央やや北寄り(P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>)と南西寄り(P<sub>7</sub>～P<sub>11</sub>)に集中している。南西寄りに設けられた炉は四方をピットに囲まれ、P<sub>8</sub>・P<sub>9</sub>・P<sub>10</sub>に切られている。規模36×34cmを測る地床炉である。また東壁部にはベット状遺構があり、2.1×1.1m、床からの高さは8～12cmを測る。ここには深さ40cmのピットが2基(P<sub>13</sub>・P<sub>14</sub>)あった。一方B住床面ではピットが6個発見された。P<sub>1</sub>・P<sub>4</sub>を除くと長径68～160cmを測る大きなものである。A住・B住ともに柱穴と相当するピットは見当たらなかった。

**遺物** 土器、石器が出土している。土器はすべて土師器で、壺、甕、埴、器台などの器種がある。9点を図化できたが全形がわかるものはない。石器は石鏃と砥石で、石鏃は混入品であろう。本址の時期は古墳時代前期である。

(3) 第52号住居址 (第6図)

**遺構** 調査地区の南側S42～S48、W66～W71に位置し、第1044号・第1112号・第1113号土坑が本址内に切り込んでいる。南北8.3m、東西6.2mを測る隅丸長方形を呈し、長軸方向はN-15°-Wを指す。壁は北隅部分で直に掘り込まれているが、全体的に緩やかな傾斜で、深さ8～24cmを測る。覆土は軟弱でさらさらした土質を持つ暗黄褐色土であった。床面は石英閃緑岩の混入が多い地山の黄褐色土を用いており、あまり堅さはない。本址中央で発見された炉は、68×64cmを測る地床炉であった。炉の他にはピットが9個検出されている。位置からみてP<sub>1</sub> (またはP<sub>2</sub>)・P<sub>3</sub>・P<sub>6</sub>・P<sub>7</sub>を支柱穴と想定する。また北端に並ぶ2個のピット (P<sub>8</sub>・P<sub>9</sub>) は、規模・場所からみて出入口の施設に伴うものと推定される。床面積は40.8m<sup>2</sup>を測る。本址は遺跡が平坦な台地上から西へ緩やかに傾斜していく境界にあり、同期の住居のほとんどは本址より西の緩斜面上に位置するのと対照的である。

**遺物** 土器と石器が出土している。土器はほとんどが縄文時代で中期初頭に属するが、少量早期末のものも混じる。1点を図示、5点を拓影で示したにすぎない。石器は打製石器、スクレーパーが1点ずつである。土器よりみて、本址は縄文時代中期初頭の住居址と考えられる。

(4) 第53号住居址 (第7図)

**遺構** 調査地区の中央やや北寄り、N35～N42、W51～W56に位置し、第10号古墳の周溝に南東部を切られる。規模は南北5.5m、東西5.4m、隅丸方形を呈する。床面積は25.5m<sup>2</sup>を測った。主軸方向はN-110°-Eを示す。壁は直に掘り込まれ、高さは44cmを測る。床面は二次堆積ロームの堅いものであった。発見されたピットは13個 (P<sub>1</sub>～P<sub>13</sub>) である。方形に並ぶP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>4</sub>は深さ28～60cmで柱痕も確認されており、これらを支柱穴と想定する。またP<sub>5</sub>は深さが36cmあり、位置的にも補助柱穴の可能性もある。また床面南東部には長さ76cm、幅8cm、深さ44cmの溝状の落ち込みがあり、間仕切りの可能性もある。炉は地床炉で、4基発見されている。柱穴P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>間に1基 (F<sub>1</sub>)、柱穴P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>間に2基 (F<sub>3</sub>・F<sub>4</sub>)、中央に1基 (F<sub>2</sub>) という内訳になる。F<sub>1</sub>・F<sub>3</sub>はそれぞれ柱穴間の中央に位置することから、時期が異なると推定する。またF<sub>2</sub>はF<sub>1</sub>もしくはF<sub>3</sub>の副炉として使用されたものと考えられ、F<sub>4</sub>にも同様のことがいえる。本址覆土は暗褐色土を呈すが、上層より炭化物粒・炭化材や多量の焼土が確認された。下部に至って、炭化材が放射状に配列するように検出された。これらの炭化材は大きなもので長さ2m、幅20cmほどもあり、いずれも床面に接し、この他の床面も被熱・焼土化していた。同様に壁面も焼土化していた。いわゆる焼失住居と認定できる。

**遺物** 土器と石器が出土している。石器は凹石で混入品であろう。土器はすべて土師器で壺、甕、鉢、高坏などの器種がみられる。炭化材の遺存に比して量が少ない。またいずれも小片で摩滅が進んでおり、5点を図示できたにすぎない。土器からみて、本址の時期は古墳時代前期に比定できる。



(5) 第54号住居址 (第9図)

**遺構** 調査地区中央N29～N33、W66～W69に位置し、北壁と東壁をそれぞれ第1971号・第1596号土坑に切られる。規模は南北3.1m、東西3.3m、床面積8.8㎡を測る小形の住居址である。隅丸方形のプランを呈し、主軸方向はN-15°-Eを示す。壁は高さ16cmを測り、緩やかな立ち上がりを持つ。床面は地山の二次堆積ロームを用いた堅い良好なものであった。ピットは9個(P<sub>1</sub>～P<sub>9</sub>)発見されているが、支柱穴の特定は難しい。炉は検出されなかった。

**遺物** 土師器の小片が数点したのみで、図示できるものはない。本址の時期は古墳時代前期と推定するが、根拠は希薄である。

(6) 第55号住居址 (第9図)

**遺構** 調査地区N41～N46、W70～W78、第12号古墳の範囲内に位置する。同古墳は既に削平され周溝を残すのみであるが、墳丘が築かれていたのであろう。主軸をN-25°-Eにとる6.1×6.0mの不整形のプランで、床面積は31.1㎡を測る。壁高は最大16cmを測り、立ち上がりはなだらかである。床面は黄色土で軟弱なものであった。覆土はローム塊が多量に混入した褐色土で、土質はやわらかくさらさらしている。北東部からは多量の炭化物の出土があった。炉はなく、ピットが2個発見されたのみである。

**遺物** 土師器が少量出土したのみで、図示できるものはない。壺、甕、台付壺などの器種がみられ、本址は古墳時代に比定される。

(7) 第56号住居址 (第10図)

**遺構** 調査地区西端S11～S21、W101～W108に位置し、第61号住居址を切る。規模・平面形は9.6×6.8mを測る楕円形を呈し、長軸方向はN-25°-Wを指す。壁はしっかりと掘り込まれており、壁高も52cmを測る深いものである。床面積は49.6㎡を測る。炉は中央2基(F<sub>1</sub>・F<sub>2</sub>)、北寄り1基(F<sub>3</sub>)の計3基を検出した。いずれも径50cmを超える地床炉である。この他55個という多数のピット(P<sub>1</sub>～P<sub>55</sub>)が検出された。これらは円形あるいは楕円形の配列が窺えるが、3基の炉と対応させて、二度の住居拡張に伴う三重の柱穴列を想定した。P<sub>1</sub>～P<sub>7</sub>、P<sub>8</sub>～P<sub>18</sub>、P<sub>19</sub>～P<sub>33</sub>(ただしP<sub>9</sub>を含む)という組合せを考えている(第9図)。覆土は一般的に砂質で大きく上下二層に分かれ、中間に焼土粒を含む層を一部に挟んでいる。また上層ほど黒みが薄く、本址の検出は非常に困難であった。床面は砂質の二次堆積ロームで、堅くたたきしめられている。

**遺物** 多量の土器と石器、土製品、石製品が出土している。土器は整理用コンテナー2箱分ほどあり、ほとんどが縄文中期初頭で、わずかに早期末のものが混じっている。ただし小片で摩滅しているものが多く、5点を図示、22点を拓影で示せたにすぎない。石器は石鏃、石錐、石匙、打製石斧、スクレーパー、磨石、砥石と多種で数量も多い。土製品は土偶が2点、石製品は石棒である。

本址は今回調査の縄文時代住居址の中で最多の遺物出土量であった。本址の時期は縄文時代中期初頭に比定できる。

(8) 第57号住居址 (第13図)

**遺構** 調査地区の南端S68～S74、W88～W93に位置し、南側が調査区域外にかかっている。規模は短軸が5.0m、長軸は現況で4.3mを測る。長軸方向はN-25°-Wを指し、楕円形を呈すものと推定する。確認された床面積は16.6㎡、推定復元で23.3㎡を測る。壁はやや斜めに掘り込まれていて、高さ24cmを測るが、わずかに4cmという浅い部分もある。床は砂質の二次堆積ロームであるが、多量の礫を含んでいる。覆土はかなり大きな礫が含まれる褐色砂質土層である。ピットは全部で13個(P<sub>1</sub>～P<sub>13</sub>)確認されているが、支柱穴は特定できない。炉は発見されていない。本址は検出の時点ではかなりの量の土器片が出土したが、掘り下げてみると床面と覆土の区別がつきにくく、炉も見られないという状況で住居と捉えてよいか疑問が残る。

**遺物** 検出面を中心に土器が少量出土したのみである。いずれも小片で図示できるものはない。本址の時期は、土師器の方が多いが、住居址形とピット内から出土した土器片をもって、縄文中期初頭と考えたい。

(9) 第58号住居址 (第13図)

**遺構** 調査地区西端S21～S25、W105～W108に位置する。第1746号土坑に切られ、第59号住居址を切る。長軸方向N-0°を指し、楕円形のプランを呈する。規模は長軸3.8m、短軸3.2m、床面積8.8㎡を測った。壁は高さ24cmを測り、立ち上がりは直に近いが、緩やかな部分もある。覆土は自然堆積のかなりやわらかい褐色土である。床面も二次堆積ロームの軟弱なもので特にたたきしめた様子もなかった。ピットは3個発見され、P<sub>1</sub>が32×32×24cmを測る円形、P<sub>2</sub>が72×52×20cm、P<sub>3</sub>が80×64×48cmを測る楕円形であった。炉は床面中央に設けてあり、深鉢の胴部下半を埋設した埋甕炉である。

**遺物** 土器と石器が出土している。石器は打製石斧1点のみ、土器も縄文中期初頭のもものが炉体埋設品を除くと少量のみで、図示1点、拓影4点を示したにすぎない。土器より縄文時代中期初頭に比定できる住居址である。

(10) 第59号住居址 (第14図)

**遺構** 調査地区西端S22～S24、W108～W111に位置し、東側を第58号住居址と第1746号土坑に、北壁を第1772号土坑に切られている。規模は短軸3.1m、長軸は現況で3.3mを測り、楕円形を呈する。主軸をN-80°-Wにとり、床面積は7.3㎡、復元推定で9.3㎡を測る。壁高は20cmで、直にしっかりと掘り込んである。覆土は軟弱で、地山とかなり似通った黄褐色をしていたため、検出は困難

を極めた。床面は二次堆積ロームで、これもやわらかいものであった。炉はないが、ピットが9個( $P_1 \sim P_9$ )発見され、いずれも40cm前後を測る深いものであった。 $P_9$ からは完形土器が出土した。

**遺物** 縄文土器のみである。 $P_9$ 出土品を除いて、小片が少量あるのみで、拓影4点を示せたにすぎない。 $P_9$ 出土品は口縁部を $\frac{1}{4}$ 程欠くのみで、今回調査の縄文土器の中ではもっとも欠損の度合いが少ない。本址の時期は縄文中期初頭に比定できる。

(11) 第60号住居址 (第14図)

**遺構** 調査地区西端S25～S29、W105～W110に位置し、北壁を第58号住居址に切られ、南壁に攪乱を受ける。規模・平面形は $4.2 \times 4.2$ mを測る楕円形を呈し、長軸方向はN-0°を指す。壁はしっかりと掘り込まれており、壁高も32cmと深い。床面は軟弱な二次堆積ロームをそのまま使い、軟弱で緩やかな起伏を持つ。床面積は $11.5$ m<sup>2</sup>を測る。ピットは8個( $P_1 \sim P_8$ )が検出された。この中で $P_1 \cdot P_6 \cdot P_7 \cdot P_8$ は柱穴の可能性がある。炉は検出できなかった。覆土はやわらかい褐色土で、自然埋没の状態を示していた。

**遺物** 縄文土器がわずかに出土した。いずれも中期初頭のもので、3点を拓影で提示し得たのみである。本址は縄文時代中期初頭の住居址と考えられる。

(12) 第61号住居址 (第15図)

**遺構** 調査地区の西端S20～S23、W102～W105に位置し、北側を第56号住居址に、南壁を第1070号土坑に切られる。規模は $3.6 \times (2.1)$ mを測り、不整形形を呈すものと推定する。長軸方向はわからない。確認された部分の床面積は $6.0$ m<sup>2</sup>、推定復元で $9.3$ m<sup>2</sup>を測る。壁はなだらかに掘り込まれていて、高さ16cmを測る。覆土はやわらかい褐色土で、自然埋没の様相を呈す。床面は二次堆積ロームの軟弱なものであった。ピットは全部で9個( $P_1 \sim P_9$ )確認されている。全体的に深い。特に壁の近くにある $P_1 \cdot P_8 \cdot P_7 \cdot P_6$ は30～42cmの深さがあり、柱穴の可能性も考えられる。炉は発見されていない。

**遺物** 土器と石器が出土している。土器は土師器の小片が20数点あるのみで、図示できるものはない。石器は磨製石斧である。本址は他遺構の重複関係からすると縄文時代中期初頭以前になるのだが、土器の様相は異なっている。石器の出土もあるので、ここでは一応本址の時期を縄文時代中期初頭としておく。

(13) 第62号住居址 (第15図)

**遺構** 調査地区西端S31～S33、W105～W109に位置する。第1700号・第1800号・第1805号土坑に切られる。規模 $3.7 \times 3.2$ 、床面積 $9.1$ m<sup>2</sup>を測る不整形形を呈し、長軸方向はN-110°-Eを示す。壁は高さ28cmを測り、立ち上がりは直に近い。ピットは23個( $P_1 \sim P_{23}$ )と多いが、重複が著し

く、柱穴の固定は難しい。床面は粘性のある二次堆積ロームで堅い。覆土は褐色土の単層で炭化物を含んでいた。

**遺物** 摩滅した土器の小片が数点出土したのみで、遺物による時期比定は不可能であった。住居址形と位置から縄文中期初頭の遺構と推定する。

#### (14) 第63号住居址 (第16図)

**遺構** 調査地区の中央北寄りN50～N55、W64～W69に位置する。平面形は隅丸長方形を呈すると推測され、中央部を第12号古墳の周溝で破壊されているため、確認された床面積は7.8㎡(推定復元では16.2㎡)であった。規模は長軸4.9m、短軸4.2mを測り、主軸をN-45°-Wにとる。壁高は28cmで、掘り込みはしっかりしている。炉は検出されなかったが、ピットは8個(P<sub>1</sub>～P<sub>8</sub>)発見された。位置的には柱穴にふさわしいと思われるものもあるが、いずれも深さがなく確定はできない。床面は地山の二次堆積ロームそのまま、平坦だが堅さはない。覆土は大きく上下二層に分かれるが、自然堆積の様相を呈していた。

**遺物** 土器、石器が出土している。土器はすべて土師器で、台付甕の一括品が1点あるのみである。石器は打製石斧で混入品であろう。本址は土器からみて古墳時代前期に比定できる。

#### (15) 第64号住居址 (第16図)

**遺構** 調査地区の中央北寄りN44～N50、W61～W67に位置する。東側を第12号古墳の周溝に切られ、規模にして5.3×(3.0)m、現況床面積12.4㎡の範囲を確認したにすぎない。平面形は長方形を呈すると思われ、復元面積は19.1㎡と推定する。主軸方向はN-15°-Eを指す。本来の壁は直に近くしっかりと掘り込まれており、壁高も36cmを測る。ピットは2個が検出された。P<sub>1</sub>は径36cm、深さ32cm、P<sub>2</sub>は44×36×56cmでどちらも柱痕が確認されており、位置的にも4本方形配列の主柱穴のうち2つと想定する。おそらく残りは周溝で破壊された部分にあったと思われる。炉は地床炉で32×26cmを測り、場所は床面中央北寄りにあたると考える。床面は軟弱で地山をそのまま用いたものである。覆土は褐色土単層で、南側には径10～35cm大の礫が数多く見られた。

**遺物** 土師器が少量出土しているが、小片が多い。甕、台付甕、壺、高坏、器台などがみられ、9点を図示、1点を拓影で示した。いずれも古墳時代前期に属するもので、本址の時期もそこに求められる。

#### (16) 第65号住居址 (第19図)

**遺構** 調査地区の中央北寄りの第12号古墳の範囲内にあり、N40～N45、W65～W70に位置する。また同古墳の周溝に東側を切られ、南側の床も削平を受けている。現況規模は4.1×3.7m、床面積11.9㎡を測るが、平面形は推定不可能であった。主軸方向はN-0°を指すと思われる。壁は最もよ

く残存していた部分で高さ20cmを測り、なだらかな掘り込みを持つ。ピットは7個( $P_1 \sim P_7$ )確認され、深さ20~28cmを測る。炉は中央北寄りの $P_2 \cdot P_3$ と $P_4$ の間に2基( $F_1 \cdot F_2$ )あり、それぞれ $32 \times 32$ cm、 $30 \times (16)$ cmを測る。2基とも地床炉で、 $F_2$ は $F_1$ に切られている。床面は起伏もなく平坦だが、やわらかい二次堆積ロームである。覆土は褐色土単層で、ローム塊、石英閃緑岩の多量混入が見られる。

**遺物** 土器と石器がある。石器は打製石斧で混入品と考える。土器は土師器片が20点ほどで、図化1点、拓影1点を提示できたのみである。古墳時代前期に比定できる。

#### (17) 第66号住居址 (第17図)

**遺構** 調査地区の北寄りN32~N39、W63~W70の第12号古墳の南側に位置し、同古墳周溝に北西隅を切られる。規模・平面形は南北5.6m、東西5.5mを測る隅丸方形を呈し、主軸方向はN-25°-Eを示す。壁は高さ32cmを測り、現況では北壁東端を除き、壁直下に深さ12cmの周溝を伴う。床面積は25.3m<sup>2</sup>を測る。床面の状態は壁直下を除き、堅くたたきしめた地山の二次堆積ロームである。覆土は基本的に暗褐色土で大きく上下二層に分かれ、上部のほぼ全面に0.5~3cm大の熱を受けた痕のある礫が含まれ、部分的には多量の焼土もみられた。その一方で床面にこれらの痕跡はなかった。確認されたピットは9個( $P_1 \sim P_9$ )で、6個が南西に集中している。支柱穴は位置・柱痕から $P_1 \cdot P_2 \cdot P_3$ であると思われるが、残りの1個が破壊された北西部付近にあったかどうかは明らかにできなかった。炉は規模 $42 \times 38$ cmの地床炉で、床面中央北寄りに設けられている。

**遺物** 土器と石器が出土しているが、石器は磨製石斧で混入品とみられる。土器はすべて土師器で、主に床面に多量に出土した。器種は壺、甕、台付甕、高坏、器台、蓋などがみられ、実測図12点、拓影4点を提示できた。いずれも古墳時代前期に比定されるもので、全形がわかるものも幾つかあり、該期の良好な一括資料となった。

#### (18) 第67号住居址 (第18図)

**遺構** 調査地区の中央北西寄りN33~N42、W76~W84に位置する。中央部を第11号古墳の周溝に、北側を第12号古墳の周溝に切られている。規模は南北7.6m、東西7.5mを測る隅丸方形を呈すると推定され、主軸をN-20°-Eに取る。全体の半分弱を破壊されているため、確認された床面積は27.9m<sup>2</sup>だが、推定復元では51.4m<sup>2</sup>を測り、今回報告分の古墳時代前期の住居の中では最大の規模をもつ。壁高は32cmを測り、やや斜めにしっかりと掘り込まれている。ピットは6個( $P_1 \sim P_6$ )発見された。位置・深さから $P_1 \cdot P_2 \cdot P_3$ が支柱穴と想定され、11号古墳の周溝に破壊された床面北東部に四本柱のうちの残りの1つがあったと思われる。本址のピットは全体的に深く、40~56cmを測る。炉は地床炉で、中央北寄りに設置されており、辛うじて破壊を免れている。規模は $40 \sim 32$ cmを測るものであった。床面は軟弱な二次堆積ロームで、中央部に高まりをもっている。

**遺物** 土器と石器が出土している。土器は土師器で壺、甕、台付甕、埴などの器種がみられる。量は少なく、4点を図示できたのみである。石器は砥石で本址に伴うものとする。土器からみて、本址は古墳時代前期に比定できる。

(19) 第68号住居址 (第19図)

**遺構** 調査地区の中央やや北寄りN25～N29、W69～W71に位置し、西側を第11号古墳の周溝に切られる。規模は南北3.3m、東西3.0m、床面積8.5㎡を測り、小形の隅丸方形を呈する。主軸方向はN-15°-Eを指す。壁は緩やかに立ち上がっていて、壁高は28cmを測る。床面はわずかに粘土質の二次堆積ロームで地山を用いている。ピット・炉など施設は発見されなかった。

**遺物** 土師器が数片出土したのみである。高坏1点を図示できた。古墳時代に比定されるもので、本址の時期もそこに求められよう。

(20) 第69号住居址 (第19図)

**遺構** 調査地区中央N22～N25、W69～W71、第11号古墳の東縁に位置する。同古墳周溝に西側の大半を切られ、3.2×1.4m、床面積2.4㎡を測る北東隅を検出したのみである。規模・平面形などは不明である。壁は高さ28cmを測り、なだらかに立ち上がる。床面は起伏があるものの堅くたたきしめられた二次堆積ロームである。ピットは1個で、92×88cmの円形を呈し、深さ32cmを測る。

**遺物** 土師器片が数点出土した。壺の底部1点を図示できたのみである。古墳時代前期に比定できる。

(21) 第70号住居址 (第20図)

**遺構** 調査地区西寄りN21～N25、W79～W86、第11号古墳の範囲内に位置する。南半分を同古墳の周溝で切られている。規模は東西6.1m、南北が現況で4.1mを測り、平面形は隅丸長方形を呈すると推定され、主軸をN-0°にとる。確認された床面積は22.4㎡(推定復元では39.7㎡)を測った。壁はかなり削平を受けているが最大で高さ32cmを残し、直に近い掘り込みをもつ。また確認された部分の壁下に深さ4～8cmの周溝が全周する。床面は二次堆積の黄褐色砂質土で、堅く平坦で傾斜はなかった。ピットは3個(P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>)発見されている。位置からP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>が4本方形配列の主柱穴の一部と想定され、他は周溝に破壊された南部にあったと思われる。炉は地床炉で、中央北寄りのP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>柱穴間に2基(F<sub>1</sub>・F<sub>2</sub>)存在する。規模はそれぞれ72×64cm、40×(28)cmを測り、F<sub>1</sub>がF<sub>2</sub>の一部を切っている。

**遺物** 少量の土師器が出土しただけだが、いずれも小片で1点を図示できたにすぎない。古墳時代前期に比定されるものもある。

## 2. 古墳

### (1) 向畑 8 号古墳

南端部飛び地の調査地区(XVIII区)、S 83~101、W93~113に位置する。墳丘はほとんど失われているが、周溝の大部分と横穴式石室を残す後期古墳である。この一帯は南西から南南西に向かう傾斜地で、石室は南西方向に開口し、その前面の周溝は最も低い部分にあたっているため、痕跡を残していない。

石室は天井石と側壁・奥壁の上段部を失っており、奥壁周辺で2段、他は1段の石積みを残すのみである。また開口部についても、本来は若干の袖や羨道の施設があったものの既に破壊されていると推定され、現況の石室の平面形は内法で長さ5.8m、幅1.7~1.8mの長方形を呈する。現存部の側壁は両側とも最大幅40~100cmの大きな垂角礫で構築され、高さは入り口付近で20cm、奥壁付近で60cmを測る。奥壁は幅80~90cm、高さ90cmの2枚の垂角礫を並べている。底面にはほぼ全面に径10~20cmの垂角礫が一重にきっちりと敷かれているが、開口部とその奥に2か所ばかりまったく見られないところがある。それについては当初からのものではなく、後世に抜かれたものと考えられる。奥壁のやや手前にこの礫敷きに接して70×40×30cmの垂角礫が存在したが、後世に置かれたり動かされた形跡はなく、石室内の何らかの施設の一部と考えられる。

墳丘は、本来の盛り土部分は石室の側壁両側と、奥壁の周溝の間にわずかに残っているだけで、他は周溝によって地山が削り残された分の高まりを微妙に感じるにすぎない。周溝の範囲から墳丘の径を推定すると約13~15mとなろう。

周溝は石室開口部全面を中心に全周の約1/3程を欠くが、その他は連続して巡っている。溝の幅は、北部で最も狭く約1.8m、北西部で約5.2m、南部で約3.5m、南東部は一部調査区域外に隠れるが5m以上あるとみられかなりバラツキがある。一方、幅の割に深さはなく、東部の最深部でも30~40cmを測るのみで、他は10~20cm内外である。また、北部から北西部にかけての周溝内にはわずかな凹凸が確認されたが、何らかの目的をもった付随する遺構ではなさそうだ。

遺物は石室内底面、覆土および周溝内から出土している。土器、石器、金属製品、玉類があるがとりわけ金属製品の多さに驚かされる。石器は縄文時代のもので混入品である。土器は主に周溝の両端部周辺から出土した。すべて須恵器で、蓋、坏、蓋坏、高坏、提瓶、平瓶、壺、大甕などの器種がみられる。金属製品は武器と馬具に大別され、武器には鍔、鐔、馬具には鐙、鞍、雲珠、辻金具、鉸具、留金具、このほかに工具として刀子がある。特に奥壁直下の底面付近からは鍔14本、鞍2点、鐙片2点が、また、右側壁中央部やや手前の直下からは石鍔3点、雲珠・辻金具2点がまとめて出土した。玉類は勾玉1点、小玉2点が石室内から出土している。古墳の構築時期は土器からみて、古墳時代後期6世紀末から7世紀初頭くらいに位置付けられると考える。本古墳は発掘調査が行われた一連の向畑古墳群の中では初めての後期古墳であり、貴重な資料となった。

ところで、今回発掘調査前の本古墳については、記録や出土品はまったく残されていないが、昭

和16年頃発掘が行われたという話が地元には伝えられており、実際に現況も角礫が積まれていて、いかにも古墳が存在するようであった。調査を開始して上部の礫や耕作土を除去するとすぐに石室の大礫が顔を出し、古墳の存在が確かめられた。しかも石室内上部の土層は混礫で締まりがなく、以前の発掘の際の埋め戻しの状況をも窺うこともできた。ただし石室の破壊状況は前述のとおりであり、それが昭和16年頃という発掘によるものなのか、さらにそれ以前の開墾等によるものなのかは判然としなかった。

## (2) 向畑9号古墳

調査地区の北部、N57～N72、W39～W57に位置する。南に10号古墳、南東に6号古墳、南西に12号古墳の周溝が近接している。墳丘、主体部は失われており、周溝のみの検出だが、北側は畑の開墾によって大きな段がつけられて破壊されている。また東側も県道工事との関連で、端まで調査できなかった。北向きの傾斜地上に立地するが、南側の周溝は大きく切れている。周溝の全形を推定すると、全周の1/3ほど南側部分が切れる、直径22mくらいのやや不整な円を描くとみられる。幅は西側で最も広く5m、東側で1.2mと一定せず、深さは西側60～70cm、東側40cmを測る。西側の断面形は底面に平坦部をもつ逆台形で、壁の傾斜は緩く、壁下に小さな溝をもっている。

本址の覆土上層には径30～40cmの礫が多数含まれていたが、人為的な投入、集積には見えなかった。遺物は古墳時代前期の土器、縄文時代の石器が出土しているが混入品であろう。

本址は全形がしっかり捉えられないうえに歪みもあるため、古墳の周溝と断定するには若干の躊躇も感じたが、古墳時代中期の古墳の集中する地帯に位置することや、溝の覆土の様子が他の古墳に似ることなどから判断した。従って、遺物はないが古墳時代中期の古墳であったと推定する。

## (3) 向畑10号古墳

調査地区中央部北寄り、N32～48、W43～54に位置し、東に6号古墳、西に12号古墳、北に9号古墳が近接している。墳丘、主体部は失われており、周溝の一部と推定される溝のみが検出された。南北に長く、わずかに西に張り出す弧状の溝で、南端部は自然に浅くなって消滅するが、北側は県道工事等の都合で端部まで調査できなかった。ただし昭和62年度の調査ではまったく確認されていないため、延びても5～6mほどであろう。第53号住居址を切り、南端部に1599号土坑、1601号土坑が切り込んでいる。確認部分は長さ約17m、幅2.3～3.5m、深さは中央部で50cmを測る。確認部分からの全形の推定は不可能だが、周溝の切れる位置からみて9号古墳に類似するものと考えられる。本址からは少量の古墳時代前期の土器片が出土しているが混入品で、本址に伴うものではない。また、覆土中に礫の混入も少なかった。

本址も溝のみの検出で、古墳と断定するには不安が残るが、9号古墳と同様の理由で、一応、古墳の一部と認定した。



#### (4) 向畑11号古墳

調査地区西側北寄り、N16～N32、W69～W94に位置し、第67～70号住居址、第9・10・30号竪穴状遺構、第1948号土坑、第23・32号溝を切る。立地は台地上の平坦地にあたる。すぐ北には隣接して第12号古墳があるが重複はない。墳丘、主体部はまったく失われているが、周溝はほぼ円形に全周する。周溝内縁を墳丘の裾部と想定すると、墳丘の径は約17.5～18.2m、周溝外縁までを含めると、南北26.5m、東西26.6mの規模をもつ円墳だったとみられる。周溝の幅は一定ではなく、北西部は3.3～4.2m、南東部は3.5～5mと太く、北東部は1.3m、南西部は2.3～2.5mと細い。特に北東部の細さは著しいが、ここは12号古墳と最も接近するところで、12号古墳周溝との重複をまるで意図的に回避しているかのように本址周溝の外縁線が内側にへこんでいるためである。深さも場所によってかなり異なり、東部40～60cm、南部40～60cm、西部30～70cm、北部は最も深く70～110cmを測る。壁の傾斜は北側で急な他は概して緩やかである。

覆土は腐食土質の暗黄褐色土や黒褐色土が自然堆積状を呈して層をなしていたが、後世の耕作の関係か、南側は堅く締まり、北側は比較的柔かかった。また北部と南西部の覆土上層には径30cmを超える礫が多数集中しており、人為的になげこまれ、集められたものと推定される。

本址からの出土遺物は多く、土器、石器、鉄器、石製品など多種にわたるが、石器、石製品は縄文時代の遺物で混入したものである。主要の遺物は土器で、特に周溝南部および南西部と北部には若干の鉄器を伴って、集中して遺存している地点が6か所あった。土器は土師器が中心で若干の須恵器が混じる。図化・提示できたものは64点だが、7点は古墳時代前期の土器で混入品である。器種毎の数は土師器杯5点、高杯29点、壺2点、二重口縁壺1点、甕4点、ミニチュア9点、須恵器杯蓋1点、蓋杯1点、甕3点、甕2点で、土師器の高杯が飛び抜けて多いが、杯部と脚部が分離して同一個体の識別が不可能なものもあったので、実数はもう少し減るものと思われる。鉄器には鍬、刀子などがみられた。6か所の遺物集中は便宜的にA～F群と呼称したが、A群が最も大きく25個体、B群は須恵器の大甕を中心に11個体、C群4個体、D群1個体、E群1個体、F群はミニチュアばかり8個体であった。特にA群には溝の底面との間に人為的に築かれた土段のような土層があり、また杯と高杯が重なっている状態がいくつか見られたりして、溝内での祭祀的な目的で置かれた土器群であることが窺える。他の群もこれほど顕著ではなかったが同様の用途であろう。本址は出土土器からみて古墳時代中期、5世紀後半～末の築造と考えられる。

本址と、隣接する12号古墳の関係については、前述のとおり本址周溝の北東部分が12号古墳の周溝との重複を避けるように意図的に狭めて掘られている点からみて、既に12号古墳は存在しており、それを意識しながら本址が築かれたものと推定される。

#### (5) 向畑12号古墳

調査地区西側北寄り、N35～56、W62～81に位置する。11号古墳の北西に隣接し、第63～67号住

居址、第32号溝、第11号竪穴状遺構を切る。立地は台地が北側にわずかに傾き始める緩斜面上にあたる。墳丘と主体部はまったく失われて、周溝のみを残す古墳である。周溝はほぼ円形を呈し、北西部分に幅3mのブリッジ(陸橋)を持つが、他の部分は切れることなく全周する。墳丘の直径(周溝内縁の径)14.4~16.5m、周溝外縁までを含めれば19.5~20mの規模をもつ円墳である。周溝の幅は、最小が南西部で1.1m、最大が東部で2.4m、平均して約2m前後を測り、11号古墳に比べて一定している。深さは最深部でも50cmと比較的浅い。

覆土は暗褐色土と黄褐色土が自然堆積状に層をなしており、東部と南東部の上層には径20cm内外の礫の集中が見られたが規模の大きいものではなく、成因が人為的なものかどうかは測りかねた。本址からは土器、石器などの遺物が出土しているが、石器、石製品は明らかに縄文時代遺物の混入で、土器も周辺の古墳時代前期の住居址から混入を除くと、本址に確実に伴うものはわずかである。土器は22点を図化・提示した。すべて土師器で、このうち13点は本址に伴うものであり、器種は坏、高坏、壺、二重口縁壺、甕がある。これらの土器はいずれも完形品に近いが、出土状況は、集中することなく単体で溝の底部付近に横転していたものが多い。本址は出土土器からみて古墳時代中期、5世紀後半~末の築造と推定される。

本址に隣接する11号古墳と本址の関係は、11号古墳の項で述べたとおり、出土土器でみた時期は同じだが、11号古墳の周溝が本址周溝を避けるように掘り込まれている点から、本址が先行し、しかも11号古墳築造に際しては充分本址が意識されていたものであることがわかる。

### 3 土坑

今回の調査では多数の穴が検出され、このうち竪穴住居址に伴わず径が50cm以上のものを土坑とし、それ未満をピットとして扱った。その数は発見された各種遺構の中でもとりわけ多く、本遺跡を代表する遺構といえよう。

①分布 今回の調査では全部で973個の土坑(第1000号~第1972号土坑)を確認した。調査地区の西から南にかけて、外側を取り巻くように縄文時代の土坑が広がる。これらが特に集中している部分は、第11号古墳範囲内と縄文住居址がまとまって検出された西側である。また調査区域の東半分からは、中世の土坑が固まって発見されている。この分布状況を見ると、概して中世の土坑は台地上の平坦な中央部分に、一方縄文の土坑はなだらかに下っていく斜面に設けられている。

なお中世以降の土坑は大きく3つの部分に区分けされていることが窺える。すなわち(N12~S9, W69~W84)、(S1~S39, W51~W66)、(S12~S39, W66~W86)という範囲に集中している。これらは互いに隣り合っているが、わずかに土坑のない空地が確認され、これを墓道と判断したい。

②規模 長径は最大440cm、最小50cmである。50cm単位で見ると50~100cmが最も多く、5割以上を占め、次いで101~150cmが299基、151~200cmが103基を数える。また201~250cmのものと250cmを超

えるものはほぼ同数で、それぞれ28基、29基であった。

③平面形態 大きく分けると円形、楕円形、方形、長方形の4つになり、それぞれに不整形のものがある。またどれにも該当しないと判断したものについては、特に不整形という項目を設けた。規模と平面形との関係はあまり見られないが、100cm前後からそれ以下を測るものは円形及び楕円形を呈する傾向があると思われる。

④断面形

A 方形、長方形を呈するもの

底面が平坦で垂直に近い角度（斜度が85°～90°）で立ち上がるもの。

B 台形を呈するもの

底面が平坦で壁の斜度が85°以内で外傾して立ち上がるもの。浅いものはA類と近似性をもつ。

C 半円形を呈するもの

底面が徐々に浅くなり、緩やかに立ち上がっていくもので、底面と壁面との区別が付きにくいもの。

D フラスコ状を呈するもの

検出面より下に最大径をもったもの。袋状をしたもの。

E 二段底のもの

底面が二段になっているもの。

F その他

第1表 土坑集計表

時 期	合 計
縄文時代	565
中世以降	344
不 明	64
合 計	973

断 面 形	合 計
A.方 形	130
B.台 形	529
C.半円形	222
D.フラスコ	4
E.二 段	16
F.その他	41
不 明	31
合 計	973

覆 土	合 計
a.自然堆積	575
b.人為堆積	354
c.不明瞭	15
未 掘	29
合 計	973

規模（長径）	合 計
50～100	513
101～150	299
151～200	103
201～250	28
251～	29
不 明	1
合 計	973

平 面 形	合 計
円 形	418
楕円形	294
方 形	144
長方形	92
不整形	13
不 明	12
合 計	973

時 期	円 形	楕円形	方 形	長方形	不整形	不 明	合 計
縄文時代	332	202	14	9	8	0	565
中世以降	56	67	127	83	5	6	344
不 明	30	25	3	0	1	5	64
合 計	418	294	144	92	14	11	973

上記A～Eにあてはまらないもの、底面の凹凸の激しいもの、三角形を呈するものなど。またA～Fの他にそれらの中間型があるが、いずれか一つの分類を行なった。

#### ⑤覆土

- a 自然堆積を示すもの。各土層が土坑の形状に合わせて層的に重なり合って堆積しているもの。
- b 一時的または短期的に重なりまとまった埋没状況を示すもの。かなり深い土層でも単層もしくは不規則な土層が観察されるもので、ローム粒・ローム塊が混入している例が多い。このような覆土はかなり特殊な状況下で形成されたものである。人為的な埋め戻しが考えられる。
- c 土層の区分が不明瞭で漸移的に土色・土質が変化するもので、数は非常に少ない。中には土坑の壁と覆土の識別さえ困難なものもある。

#### ⑥特徴的な土坑

第1114号土坑（第40図） 調査地区やや南寄りの緩やかに下り始める斜面に近いところ（S42-W82）に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は142×96×28cmを測る。断面形は半円形である。覆土は自然堆積で縄文土器が出土している。

第1764号土坑（第47図） 調査地区中央西寄り（S18-W90）に位置し、120×113cmの円形を呈する。断面形は台形で、深さ52cmを測る。覆土は自然堆積である。

第1197号土坑（第39図） 中世土坑の集中区内（S27-W60）に位置する。円形に近い平面形を呈し、規模は253×195cmと比較的大きな部類に入る。ほぼ直に掘り込まれた壁は108cmとかなり深く、断面形は台形を呈する。人為堆積とみられる覆土からは人骨が出土した。

第1220号土坑（第42図） 中世以降の土坑が集中する区域、調査地区中央東寄り（S24-W66）に位置し、第1225号土坑とP<sub>1047</sub>を切る。規模は177×155cmを測り隅丸方形を呈する。本次調査で発見された唯一（以前の調査を含めると3基）の火葬墓で人為堆積の三層から成る。断面形は半円形を呈し、深さ48cmを測るものであった。床面より約3cm上で焼土層（黒色・赤色）がみられ、この層から骨片が多量に出土した。銭貨が3点発見されているが、被熱のため名称の特定は不可能であった。

第1240号土坑（第41図） 調査地区の北東寄り（N60-W48）、中世土坑の集中区域から外れたところに位置する。規模は一辺275cmを測る大きなもので、平面形は方形を呈する。覆土は人為堆積の様相を示す。断面形は長方形を呈し、100cmとかなり深い。陶器が出土した。

#### ⑦出土遺物と時期

多数の土坑からは土器、石器、銭貨などの遺物が出土した。土器は縄文中期初頭のもものが主体で、若干、古墳時代前期のものも混じる。石器は石鏃、石匙、打製石斧、磨製石斧、凹石、磨石、スクレイパー、ピエス・エスキューなどが出土している。中世以降の遺物としては内耳鍋、陶磁器、銭貨などがみられる。銭貨はほとんどが宋銭であった。これらの出土遺物と覆土の状況などを合わせて、各土坑の所属時期を推定する手掛かりとした。

#### 4. 溝

##### (1) 第23号溝 (第50図)

調査地区の中央N19～S10、W68～W76に位置し、他の遺構との重複が激しい。北側では第11号古墳の周溝に、南側では第1419号土坑とP<sub>911</sub>に切られ、P<sub>912</sub>を切る。最も重複が多い部分は中間部で、第1517号・第1520号・第1539号・第1544号・第1546号土坑に切られ、第1510号・第1597号土坑を切る。規模はおよそ30mを測る長いもので南北に伸びており、幅20cm、一番広いところでは80cmを測った。深さは8～32cmで、断面形は半円形もしくは皿形を呈する。覆土は暗褐色砂質土で、南下するほどに暗褐色土になる。流路であった形痕はなく、何らかの目的で掘られたものであろう。遺物は全く出土せず所属時期の特定はできないが、切り合い関係などから古墳時代中期以前のものと分かる。

##### (2) 第24号溝 (第51図)

調査地区の南端S53～S56、W57～W70に位置し、第1060号・第1064号土坑を切る。規模は長さが13m弱、東西に伸び、幅は20～140cmを測る。深さ18～30cmの辺りまで掘り下げたところで、人為的に打ち欠いた石英閃緑岩が多量に検出された。これらの礫は何か別の施設の構築材として用いられたものの残骸と思われ、本址を溝として扱ったが、礫を廃棄するために掘られたものとも考えられる。完掘はしていない。礫の割れ口は皆新しく、中世以降の遺構であると推定される。遺物の出土はない。

##### (3) 第25号溝 (第51図)

調査地区南西端S55～S58、W100～W109に位置し、第1626号・第1627号・第1628号・第1636号土坑に切られる。この一帯は地形的には台地上の西端にあたり、これより西は長い斜面となっている。一部調査区域外にかかっているが、長さ6.2m、幅は90～170cmを測る。深さは最大でも25cmで、覆土は石英閃緑岩粒が混入した明褐色土である。人為的に掘られたもので流路であった様子はない。時期は出土した土器片より、縄文時代中期初頭と考える。

##### (4) 第28号溝 (第50図)

調査地区の中央西側N14～N20、W98～W101に位置し、第29号溝と第1912号土坑を切る。北側で第1911号土坑に切られており、確認された長さは南北に5.6mである。幅は90cmで、狭いところでも50cmを測る。深さは最大10cm程度の浅いもので、覆土は石英閃緑岩の混入する褐色土であり、底面には若干の礫を伴っていた。出土遺物には縄文土器片と土師器片がある。土師器は古墳時代前期に属するもので、本址の所属時期もそこに求めたい。

(5) 第29号溝 (第50図)

調査地区の中央西側N16～N22、W95～W101に位置し、第1913号土坑を切り、第28号溝に交差する形で切られている。西側の調査区域外から東にカーブを描いて伸び、現況で長さが6.8m、幅は40～120cmを測る。断面形は東部では段をもち、北部では半円形を呈する。深さは57cmを測るが、東側は比較的浅い。覆土は黒褐色土の自然堆積であった。出土遺構はない。重複関係からみて、古墳時代中期以前の遺構と考えられる。

(6) 第30号溝 (第51図)

調査地区の中央西端N23～N27、W86～W99に位置し、中間部を第11号古墳の周溝に切断され、北壁は第1936号土坑に切られる。規模は長さ約13m、幅は95～300cmを測り、開いたV字形を呈する。深さは3～14cmを測る極めて浅い溝で、覆土は暗褐色土の単層である。なお底面より5cm大の礫が露出した。出土遺物は全くないが切り合い関係より、所属時期は古墳時代中期以前と考えられる。

(7) 第32号溝 (第50図)

調査地区の北西端N39～N50、W79～W83に位置する。南側を第11号古墳周溝に、中間を第12号古墳の周溝に切られる。確認部分は長さ7.8m、幅40～60cmである。深さは最大で17cmとそれほど深いものではない。覆土は自然堆積による暗褐色土の単層である。出土遺物には古墳時代中期の土師器片があるが、混入品の可能性もある。時期は切り合い関係より、古墳時代中期以前とみたい。

(8) 第33号溝 (第52図)

調査地区北端の第12号古墳周溝より北に伸び、N56～N68、W69～W74に位置する。長さは12.2mを測り、北側は調査区域外にかかる。120～250cmを測る広い幅を持つが、深さが最大24cmと浅い感じを受ける。壁はなだらかに落ち込み、断面は皿形を呈する。覆土には礫が少量混入し、底面は二次堆積ロームであった。北側は調査区域外にかかるため全体の平面形は知り得ないが、現況では弧を描いているようにも見え、付近一帯が向畑古墳群に当たることから、古墳周溝の一部である可能性が指摘できる。遺物には古墳時代の土師器片数点があるが、混入品の可能性もあり、本址の時期は特定できない。ただし切り合い関係より、古墳時代中期以前であることは間違いなからう。

#### (9) 第34号溝 (第52図)

調査地区北端N66～N71、W58～W70に位置し、東側が調査区域外にかかる。西に伸び、南にカーブしており、その長さはおよそ13mを測る。最大幅は120cm、深さは5～22cmであった。覆土はさらさらした土質の暗褐色土である。出土遺物は皆無であり、時期も分からない。

### 5. 竪穴状遺構

#### (1) 第8号竪穴状遺構 (第53図)

調査地区の南端S72～S75、W84～W89に位置し、南側が調査区域外にかかる。本址一帯は遺跡のある台地の南端にあたり、これより南は急な下りの斜面となる。北側部分のみの検出のため、規模にして4.0×2.2mを確認したが、平面形は明らかではない。壁高はかなり低く、16cmを測った。掘り込みは緩やかである。また大きなもので径64cmを測る大礫が10個ほど散在する。底面は細かな起伏をもち、地形に沿って南に傾斜している。本址に伴うピットなどの施設は確認できなかった。遺物は縄文土器が少量出土している。

#### (2) 第10号竪穴状遺構 (第54図)

調査地区の中央西端N26～N31、W86～W91に位置し、西側を第11号古墳の周溝に、南壁の一部を第1936号土坑に切られる。短軸は4.2m、長軸は現況で5.8mを確認した。平面形は楕円形を呈すると推定される。壁高は24cmを測り、立ち上がりは直に近い部分と緩やかな部分をもつ。ピットは12個を検出した。深いものは44cmを測る。なお付近一帯は縄文時代のピットが集中しており、本址に伴うものとして扱ったピットの中でも、単独のピットが含まれている可能性がある。本址は竪穴状遺構としたが、あるいは竪穴住居址の可能性も捨て切れない。遺物としては縄文時代の土器片が少量出土しており、所属時期もそこに求めたい。

#### (3) 第11号竪穴状遺構 (第55図)

調査地区の中央北端N47～N54、W71～W76に位置し、南壁の一部を第1934号土坑に、東壁は第1968号土坑にそれぞれ切られ、第1966号土坑を切っている。5.4×4.6mの規模をもち、平面形は不整長方形を呈する。壁は最大で高さ52cmを測り、なだらかに掘り込まれている。底面は起伏があり、たたきしめた様子もなかった。覆土はローム塊が混入する褐色土で人為堆積の様相を呈していた。南隅の2.2×1.4mの範囲内に小礫が集中している。本址の性格は不明だが、覆土や底面の状況は、数多い中世以降の土坑に類似している。

(4) 第12号竖穴状遺構 (第53図)

調査地区のやや北寄り N66～N69、W49～W61に位置し、北側を第9号古墳周溝に切られる。規模は現況で6.3×3.1mを測るが、平面形の推定は不可能である。壁は56cmとやや深く、なだらかに掘り込まれ、底面は緩やかなカーブを描く。覆土は自然堆積状を呈している。出土遺物がなく、所属時期は不明である。

(5) 第13号竖穴状遺構 (第56図)

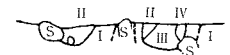
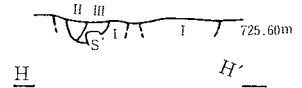
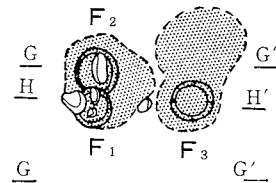
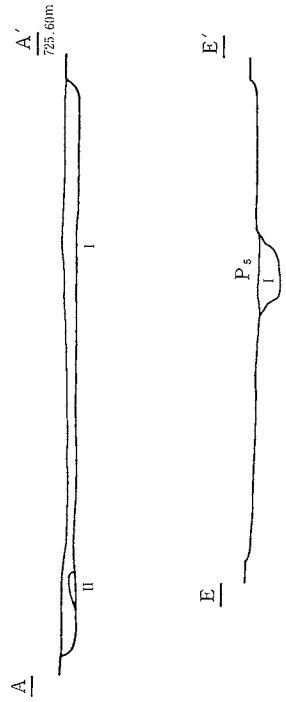
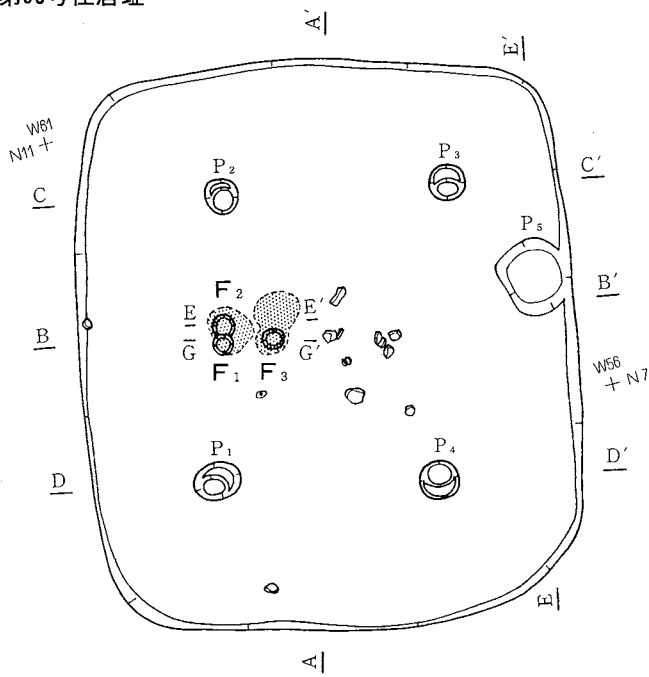
調査地区の北部東端 N41～N44、W44～W47に位置し、調査区域外にかかる。現況で3.2×2.8mを測り、平面形は楕円形を呈すると推定される。壁は176cmを測る深いもので、西壁では直に掘り込まれている。南北方向の断面形は楕円形を呈し、中間部にやや小さな段がある。遺物には古墳時代前期の土師器があるが、後世の混入品である。昭和62年度調査の第2号・第3号・第4号竖穴状遺構に規模・平面形・断面形など類似している。所属時期は平安時代である。

(6) 第14号竖穴状遺構 (第56図)

調査地区の西端 S 4～S 8、W100～W104に位置し、第1841号土坑に北壁の一部を、第1843号・第1844号土坑に床面を切られる。径4.1mの円形を呈する。深さは西壁部で20cmを測るが、他の壁では8cmと極めて浅く、緩やかに立ち上がる。底面は軟弱な二次堆積ロームで小さな起伏をもつ。ピットなど本址に伴う施設は確認できなかった。ごく少量の縄文土器片が出土しており、縄文時代中期初頭の遺構と考える。



第50号住居址



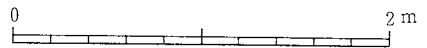
- I : 暗褐色土 (石英閃緑岩塊混入)
- II : 暗褐色土

Pit

- I : 黒褐色土 (黒色土塊多量混入)
- I' : Iよりやや明るい (黒色土塊少量混入)
- II : 褐色土

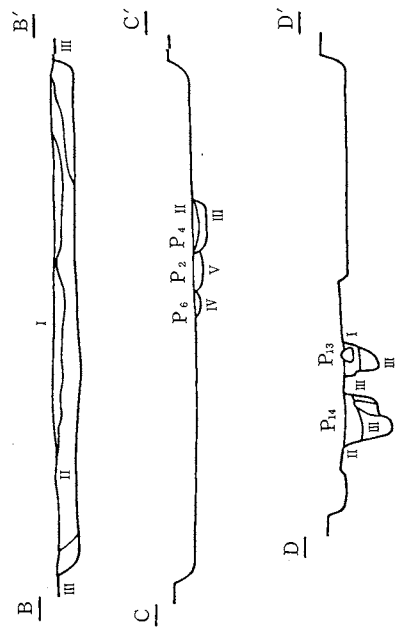
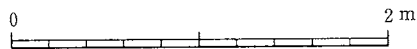
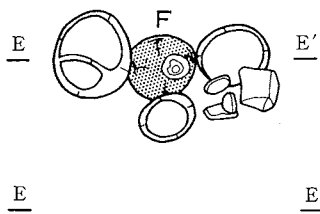
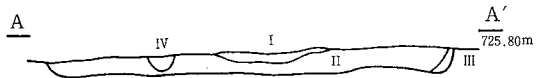
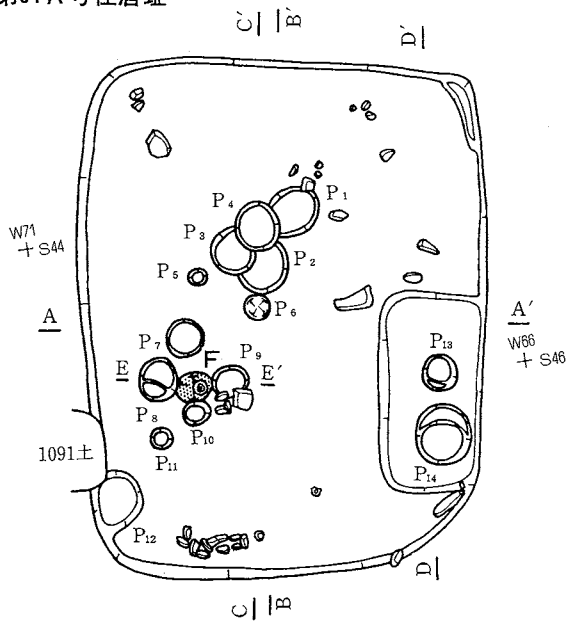


- I : 被熱土 (被熱した石英閃緑岩塊多量混入)
- II : 赤褐色土 (被熱土塊と少量の暗褐色土粒混入)
- III : 暗褐色土 (被熱土塊φ5mm少量混入)
- IV : 茶褐色土 (石英閃緑岩塊少量混入)



第3図 第50号住居址実測図

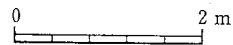
第51A号住居址



- I : 黑色土 (暗褐色土粒、塊混入)
- II : 暗褐色土 (黑色土塊混入)
- III : 黄褐色土 (暗褐色土塊混入)
- IV : 暗褐色土

Pit

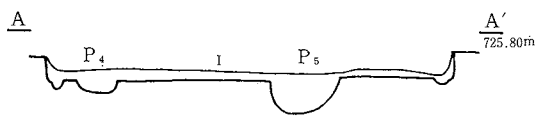
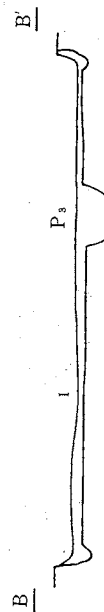
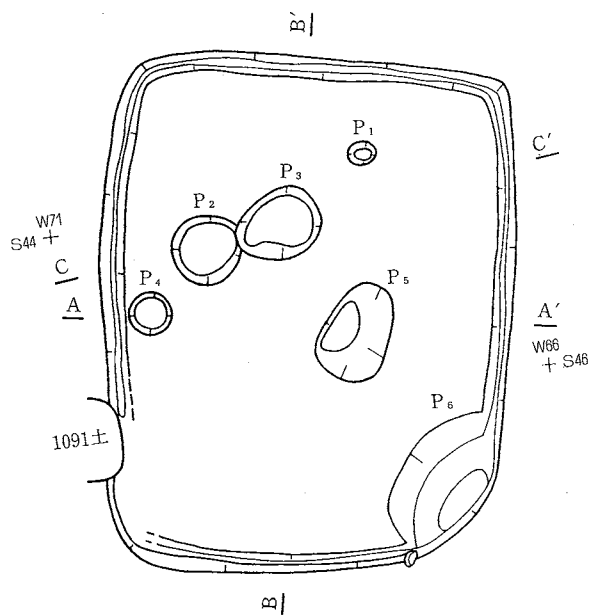
- I : 暗褐色土
- II : 暗褐色土 (炭化物、石英閃綠岩塊φ0.5mm混入)
- III : 黄褐色土 (石英閃綠岩塊φ5mm混入)
- IV : 暗褐色土 (炭化物、焼土粒多量混入)
- V : IVよりやや明るい



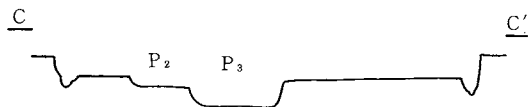
- I : 褐色土 (炭化物、焼土粒、少量混入)
- II : 焼土

第4図 第51A号住居址実測図

第51B号住居址

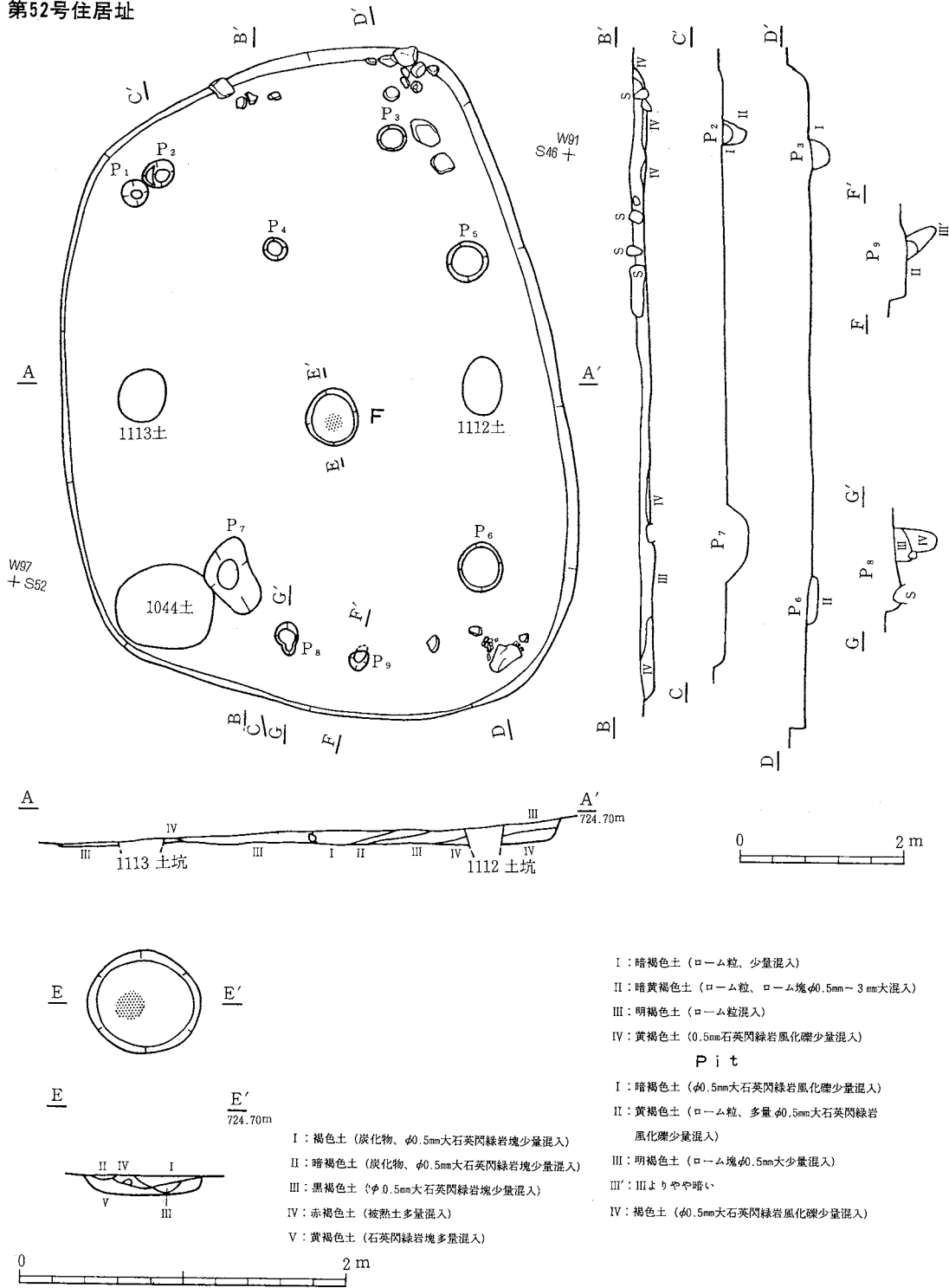


I : 暗褐色土



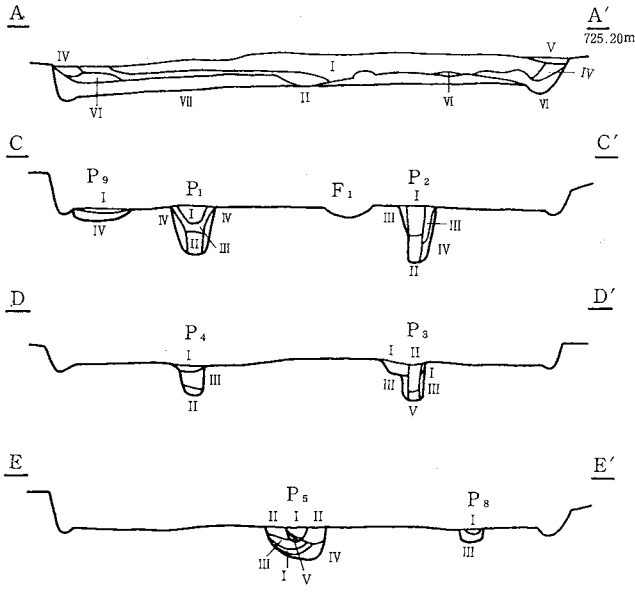
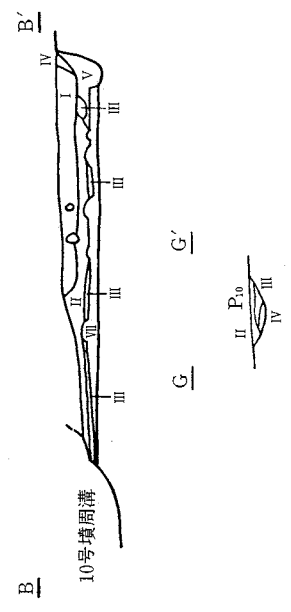
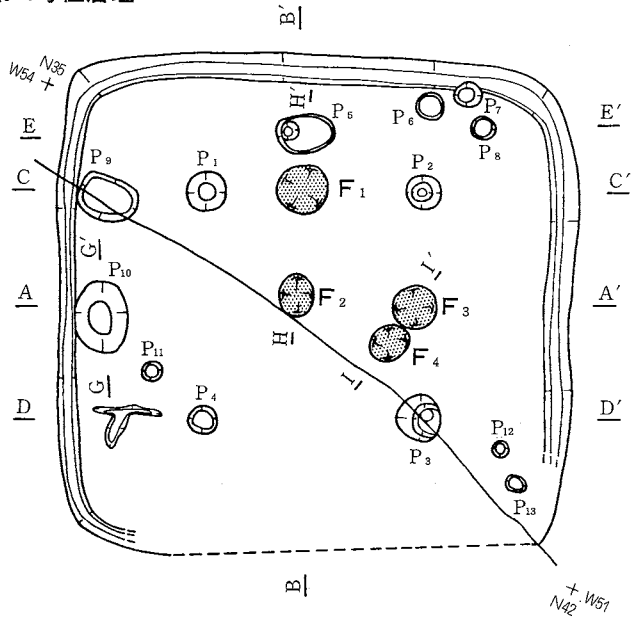
第5图 第51B号住居址实测图

第52号住居址

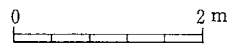


第6図 第52号住居址実測図

第53号住居址

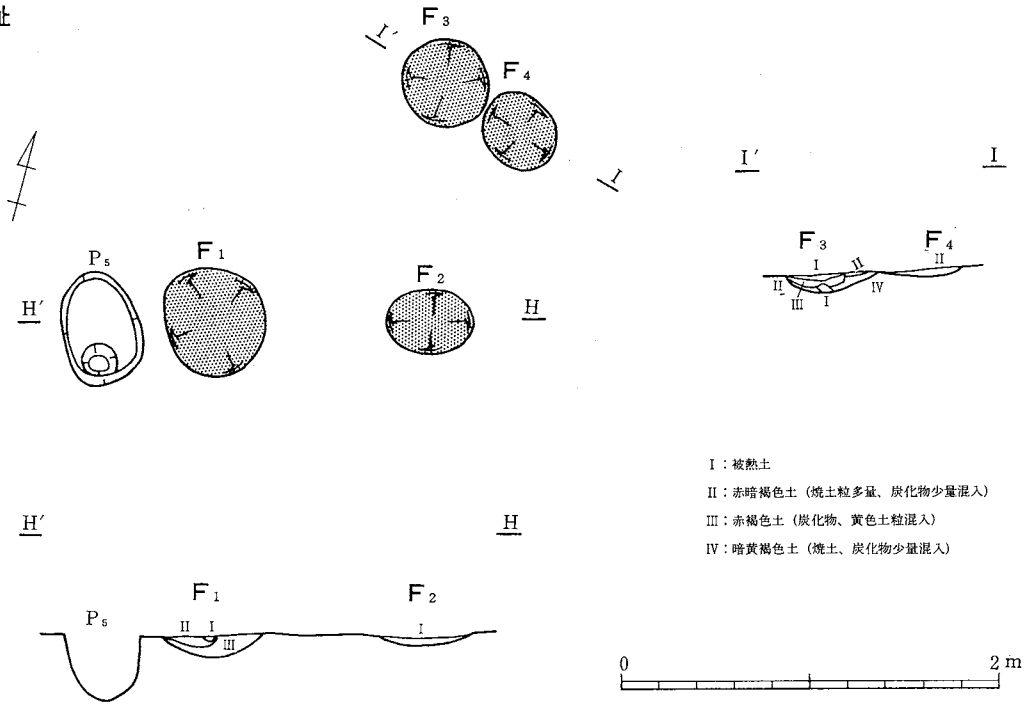


- I : 褐色土 (石英閃綠岩塊φ 5 mm混入)
  - II : 褐色土 (炭化物、石英閃綠岩塊φ 5 mm少量混入)
  - III : 褐色土 (燒土粒、塊φ 5 mm、炭化物、石英閃綠岩塊φ 5 mm少量混入)
  - IV : 赤褐色土 (燒土粒、塊φ 0.5-1 cm多量混入)
  - V : 明褐色土
  - VI : 暗褐色土 (黃色土粒少量混入)
  - VII : 暗褐色土 (炭化物が80%)
- Pit**
- I : 暗褐色土 (炭化物、燒土粒少量混入)
  - II : 暗褐色土
  - III : 明褐色土
  - IV : 黃褐色土
  - V : 暗褐色砂質土

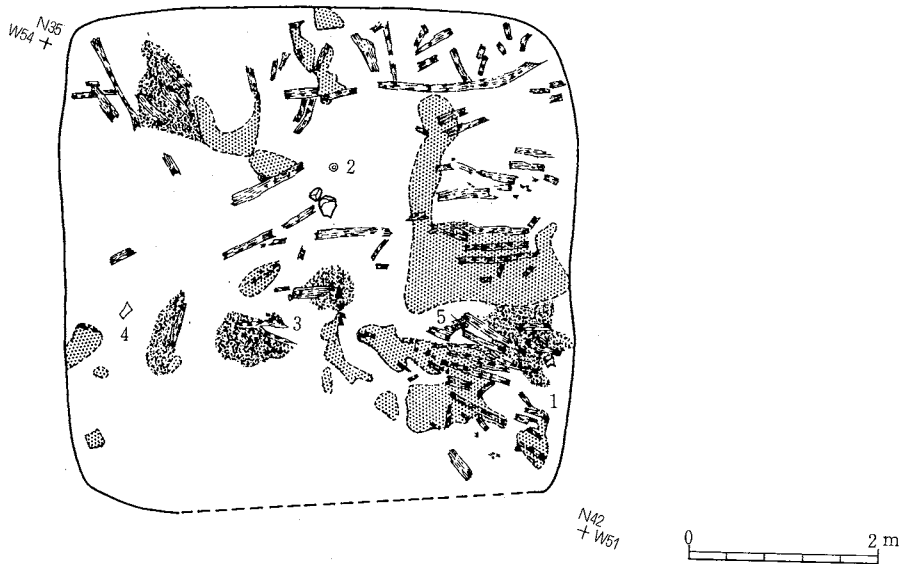


第7图 第53号住居址実測図

炉址

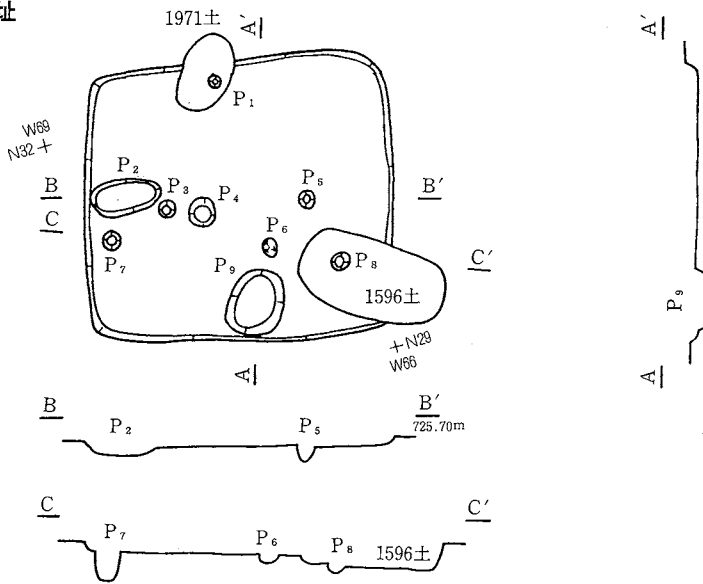


遺物出土

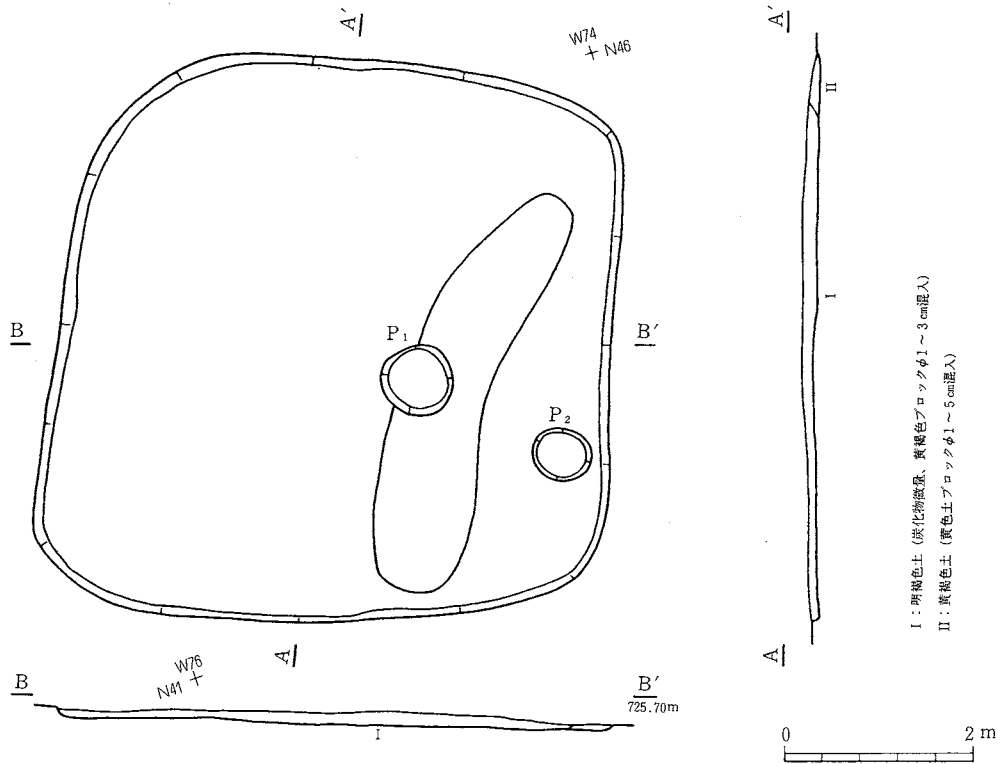


第 8 图 第53号住居址炉・遺物出土图

第54号住居址



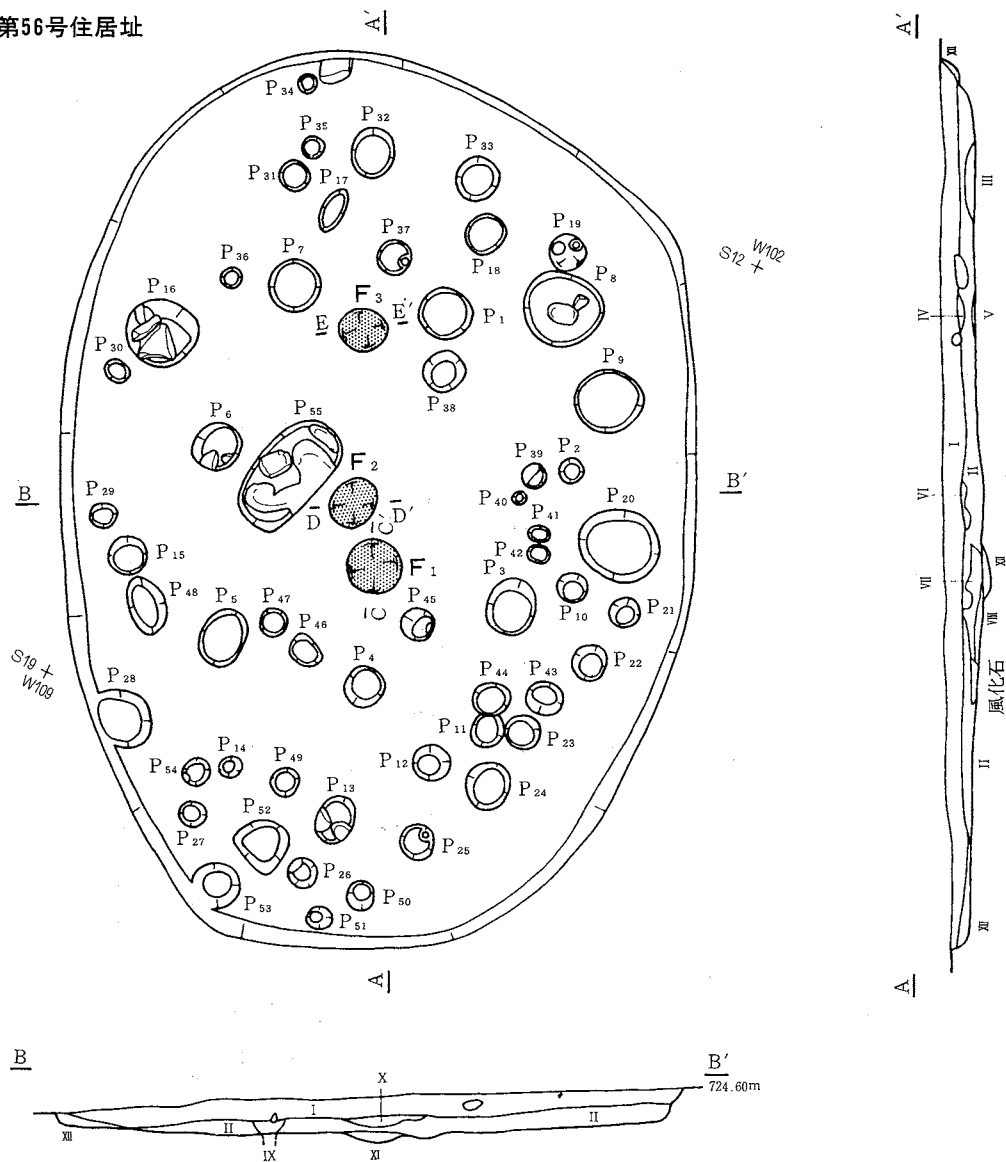
第55号住居址



I : 明褐色土 (炭化物微量、黄褐色ブロックφ1~3 cm混入)  
 II : 黄褐色土 (黄褐色土ブロックφ1~5 cm混入)

第9図 第54・55号住居址実測図

第56号住居址



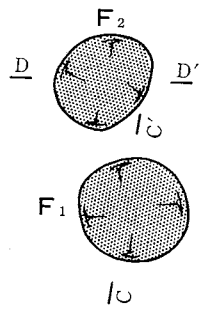
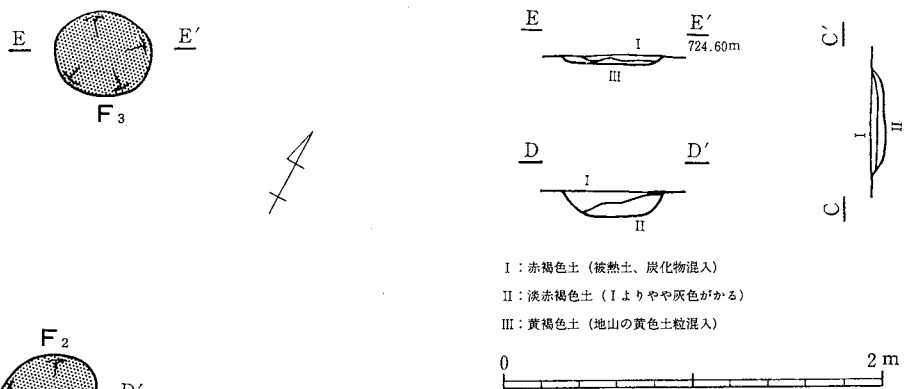
- |                          |                                      |
|--------------------------|--------------------------------------|
| I : 褐色土 (石英閃緑岩粒少量混入)     | VIII : 茶褐色土 (酸化ブロック多量混入)             |
| II : 暗褐色土 (石英閃緑岩粒多量混入)   | IX : IIよりやや暗く石英閃緑岩粒の量が少ない)           |
| III : Iより明るく石英閃緑岩粒の量が多い) | X : 赤褐色土 (VIIより赤く、硬く石英閃緑岩塊多し)        |
| IV : Iより灰色が強い            | XI : 赤茶褐色土 (VII・Xと違い地山が被熱した様に赤茶けている) |
| V : Iに炭化物被熱土粒混入          | XII : 黄褐色土 (黄色土粒多量混入)                |
| VI : 淡褐色土 (灰色がかった焼土混入)   |                                      |
| VII : 赤褐色土 (炭化物、焼土粒少量混入) |                                      |



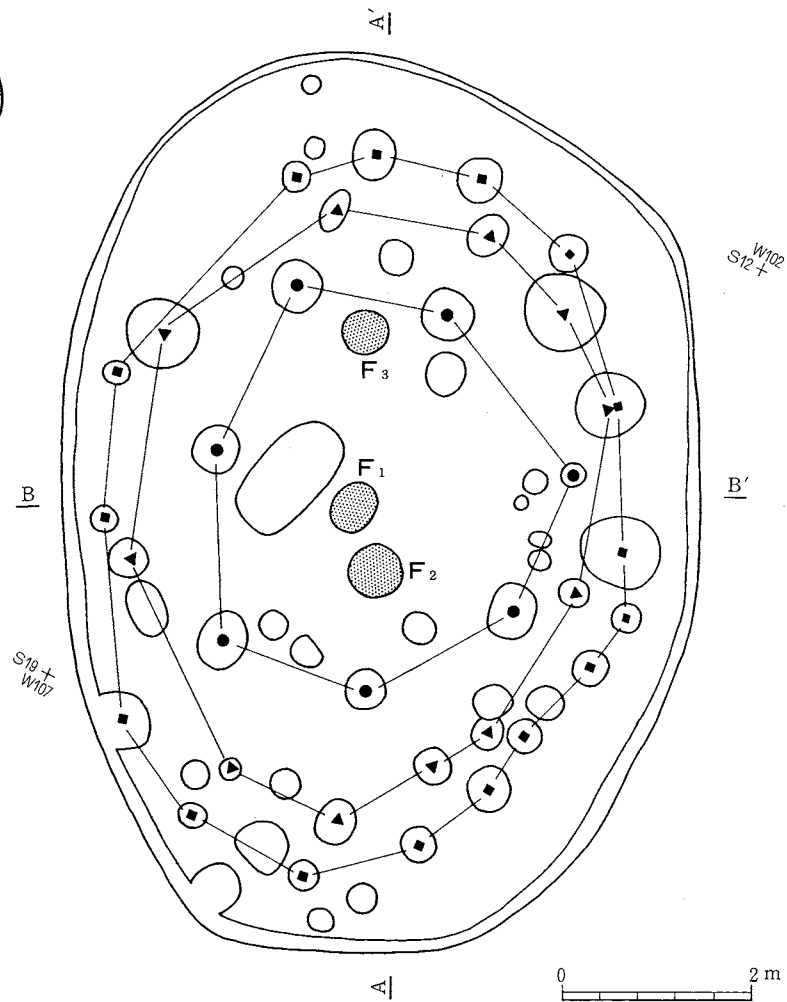
第10図 第56号住居址実測図



炉址

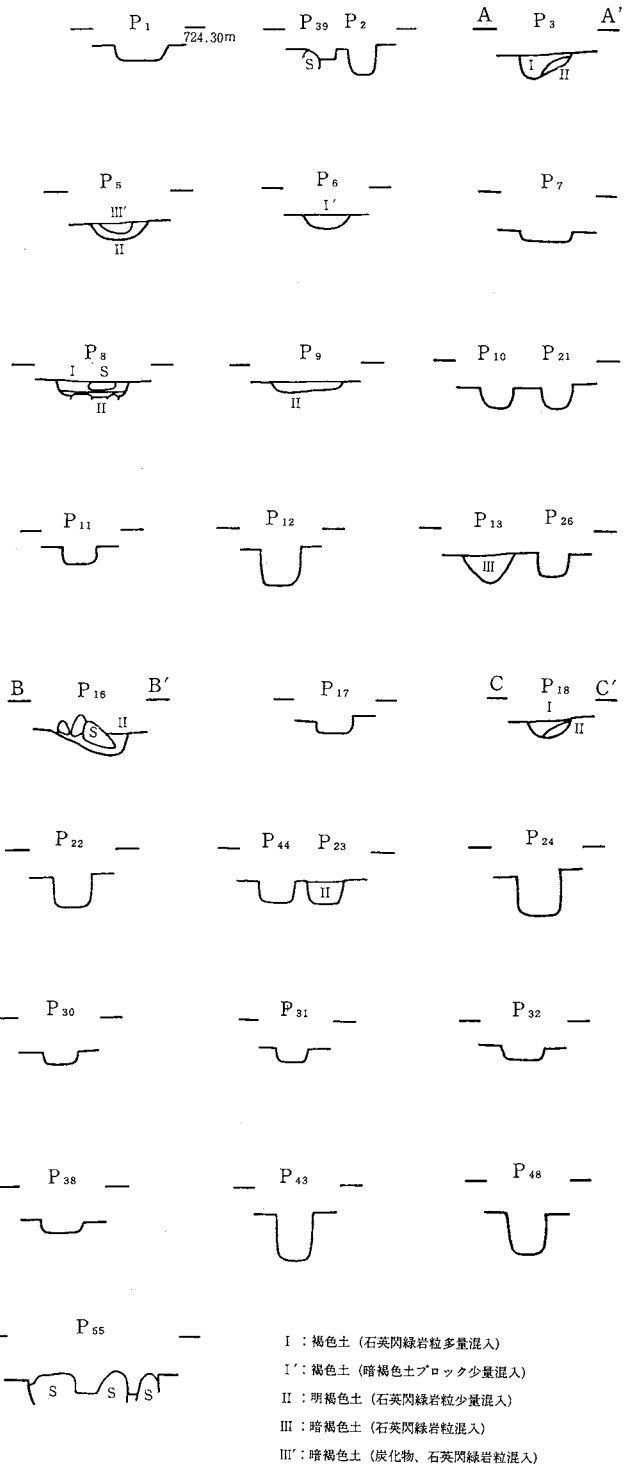
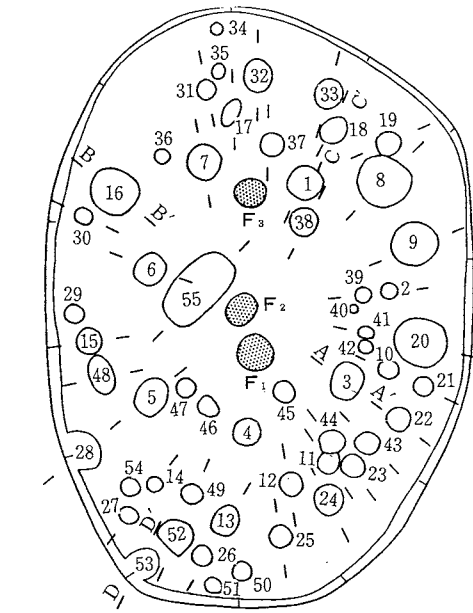


柱穴変遷図



第11図 第56号住居址炉・柱穴変遷図

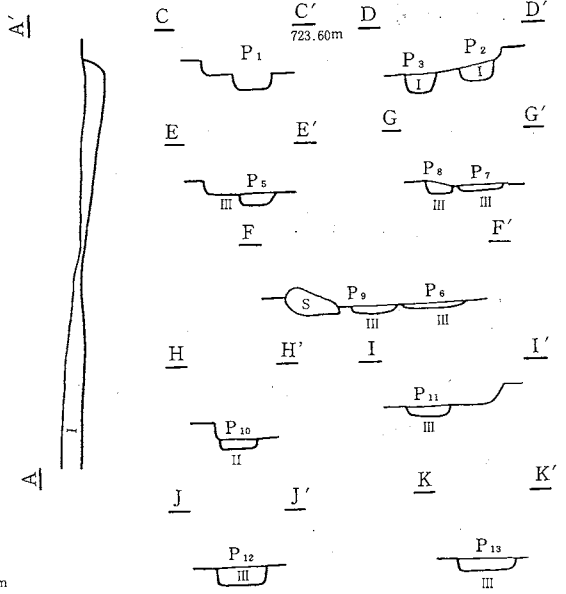
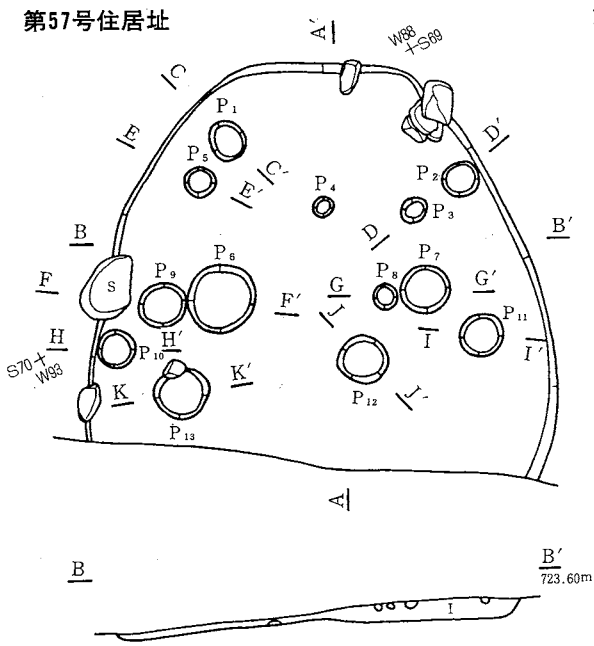
ピット断面図



- I : 褐色土 (石英閃緑岩粒多量混入)
- I' : 褐色土 (暗褐色土ブロック少量混入)
- II : 明褐色土 (石英閃緑岩粒少量混入)
- III : 暗褐色土 (石英閃緑岩粒混入)
- III' : 暗褐色土 (炭化物、石英閃緑岩粒混入)

第12図 第56号住居址ピット断面図

第57号住居址



I: 明褐色土 (石英閃綠岩粒多量混入)

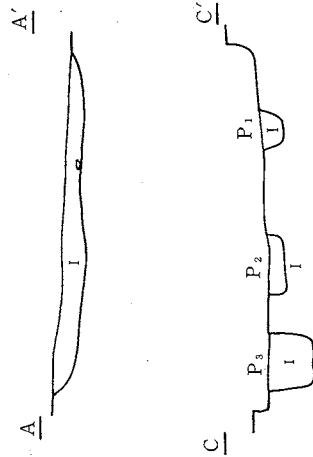
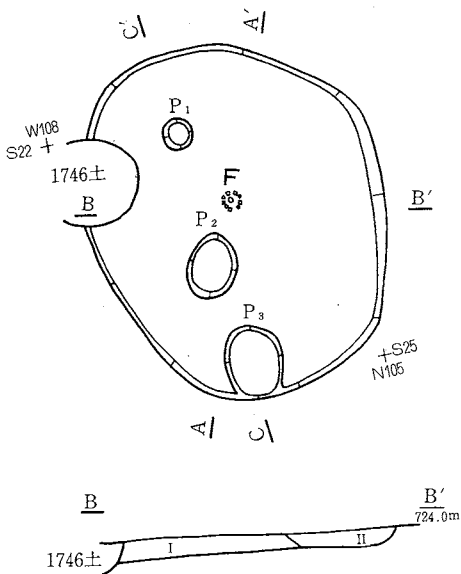
Pit

I: 黄褐色土 (ローム塊φ1~2cm, 石英閃綠岩塊φ0.5mm多量混入)

II: 褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5mm少量混入)

III: 明茶褐色土 (マンガン、石英閃綠岩塊φ0.5mm少量混入)

第58号住居址



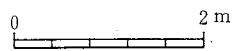
I: 褐色土 (炭化物、石英閃綠岩粒少量混入)

II: 明褐色土 (炭化物、石英閃綠岩粒少量混入)

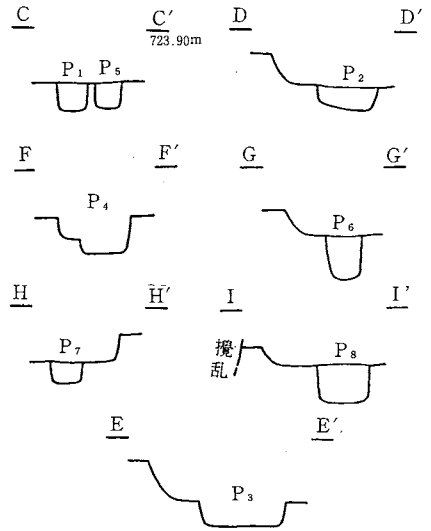
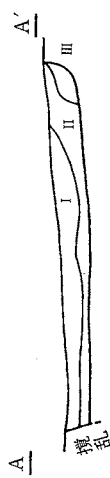
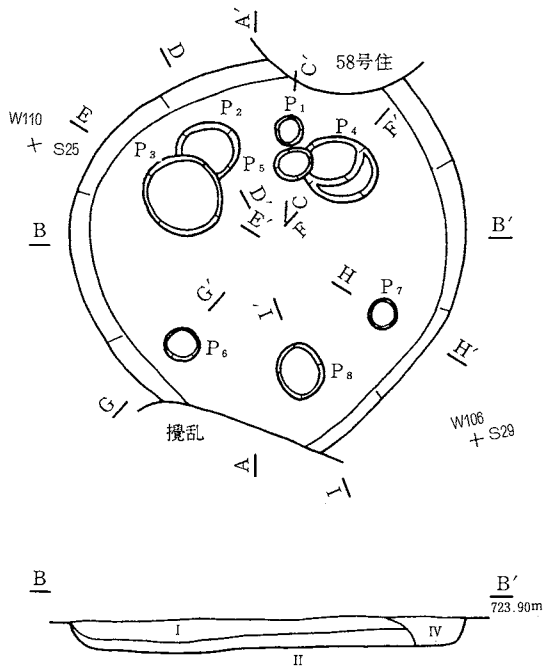
Pit

I: 褐色土

第13図 第57・58号住居址実測図



第60号住居址

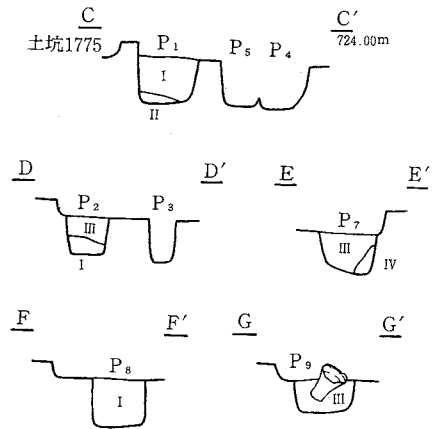
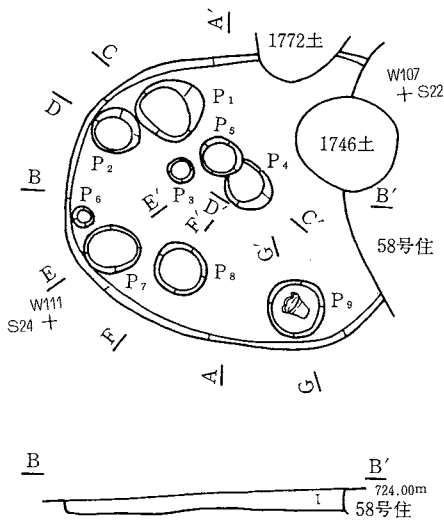


- I: 褐色土 (黄色土粒、石英閃綠岩塊少量混入)
- II: 明褐色土 (黄色土粒多量、石英閃綠岩塊少量混入)
- III: 黄褐色土 (地山の黄色土多量混入)
- IV: 暗褐色土

Pit

- I: 褐色土 (石英閃綠岩塊少量混入)

第59号住居址



- I: 褐色土 (石英閃綠岩粒少量混入)
- II: 明褐色土 (石英閃綠岩粒少量混入)
- III: 黑褐色土 (炭化物、石英閃綠岩粒少量混入)
- IV: 褐色土 (炭化物、石英閃綠岩粒少量混入)
- V: 黄褐色土 (石英閃綠岩塊多量混入)

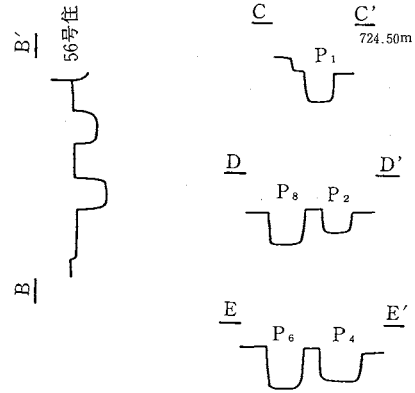
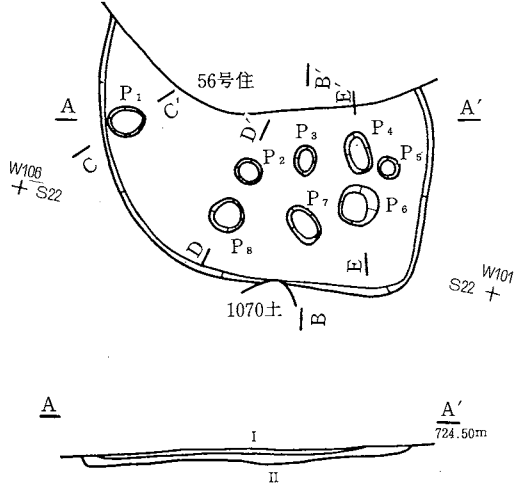
Pit

- I: 明褐色土 (石英閃綠岩粒少量混入)
- II: 黑褐色土 (炭化物、石英閃綠岩粒少量混入)
- III: 褐色土 (炭化物、石英閃綠岩粒少量混入)
- IV: 黄褐色土 (石英閃綠岩塊多量混入)



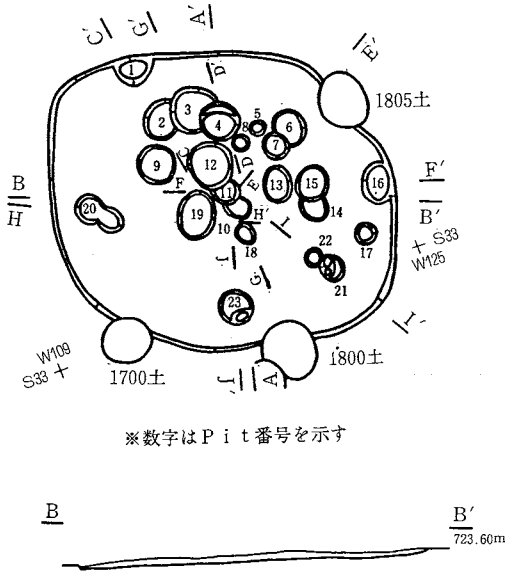
第14图 第59・60号住居址实测图

第61号住居址

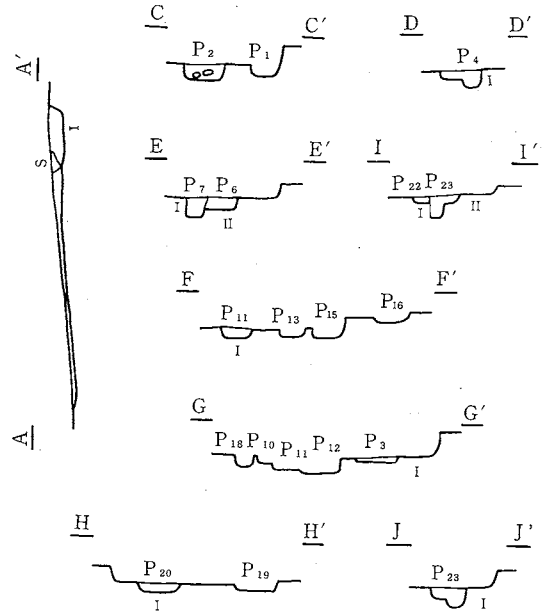


I : 褐色土 (石英閃緑岩塊φ0.5mm少量混入)  
 II : 明褐色土 (石英閃緑岩塊φ0.5mm少量混入)

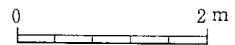
第62号住居址



※数字はP i t 番号を示す

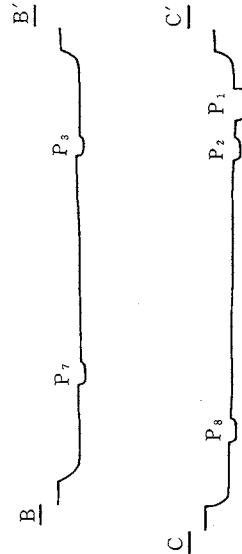
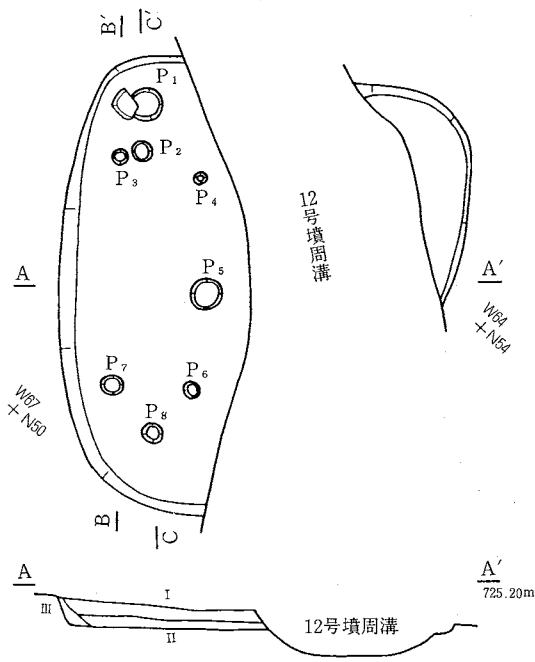


I : 褐色土 (炭化物、ローム粒、石英閃緑岩粒少量混入)  
 P i t  
 II : 明褐色土 (石英閃緑岩粒少量混入)  
 III : I に黄色味がやや強い

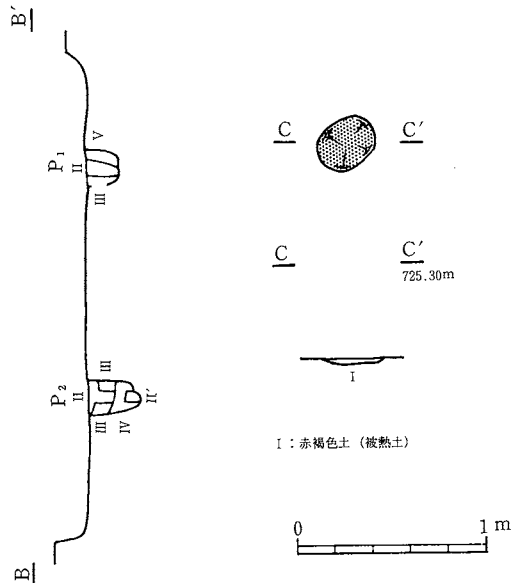
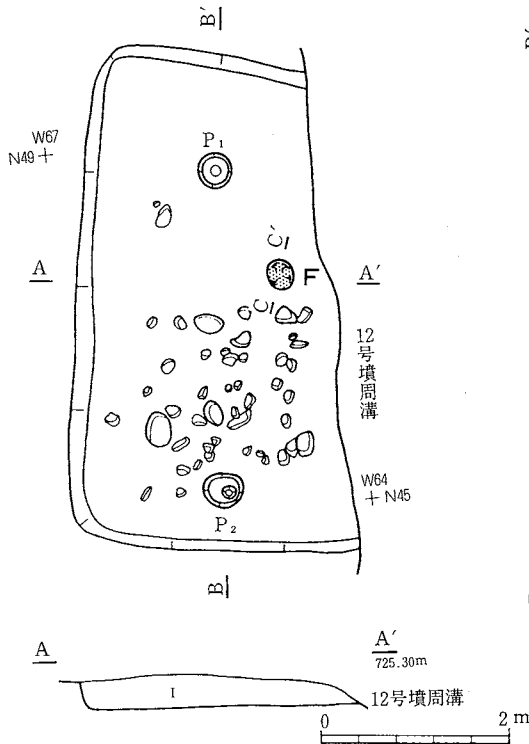


第15図 第61・62号住居址実測図

第63号住居址

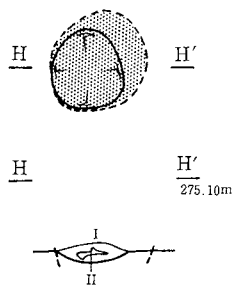
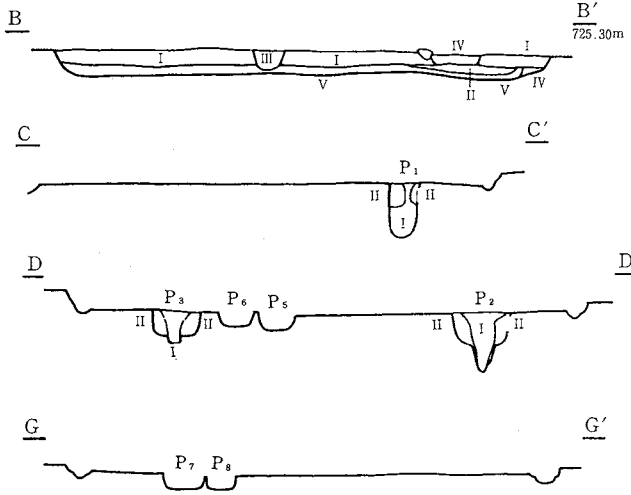
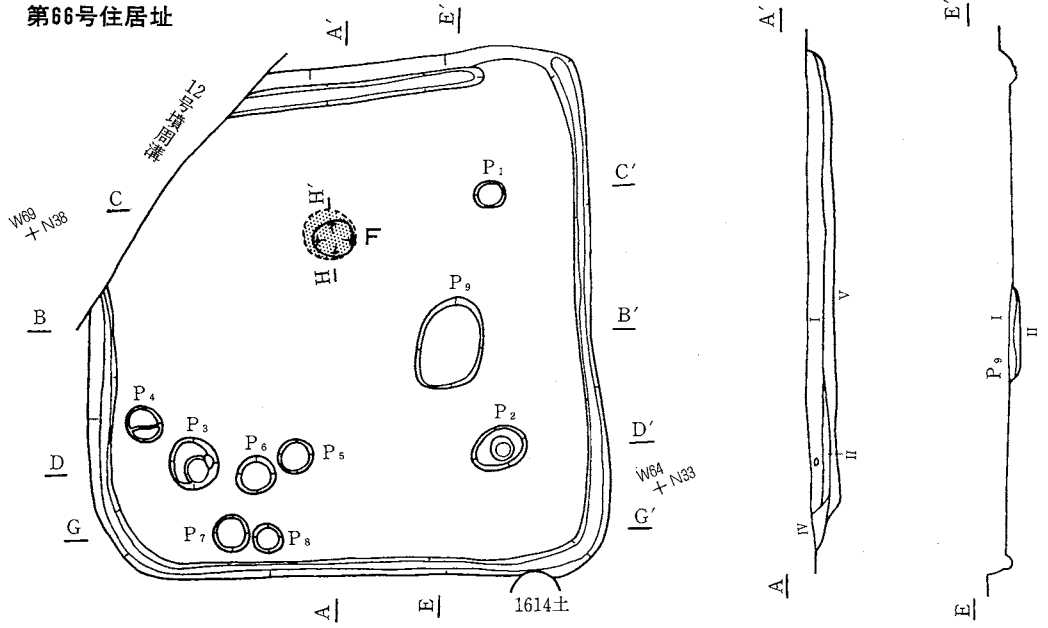


第64号住居址

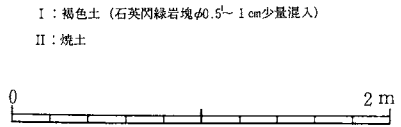


第16図 第63・64号住居址実測図

第66号住居址

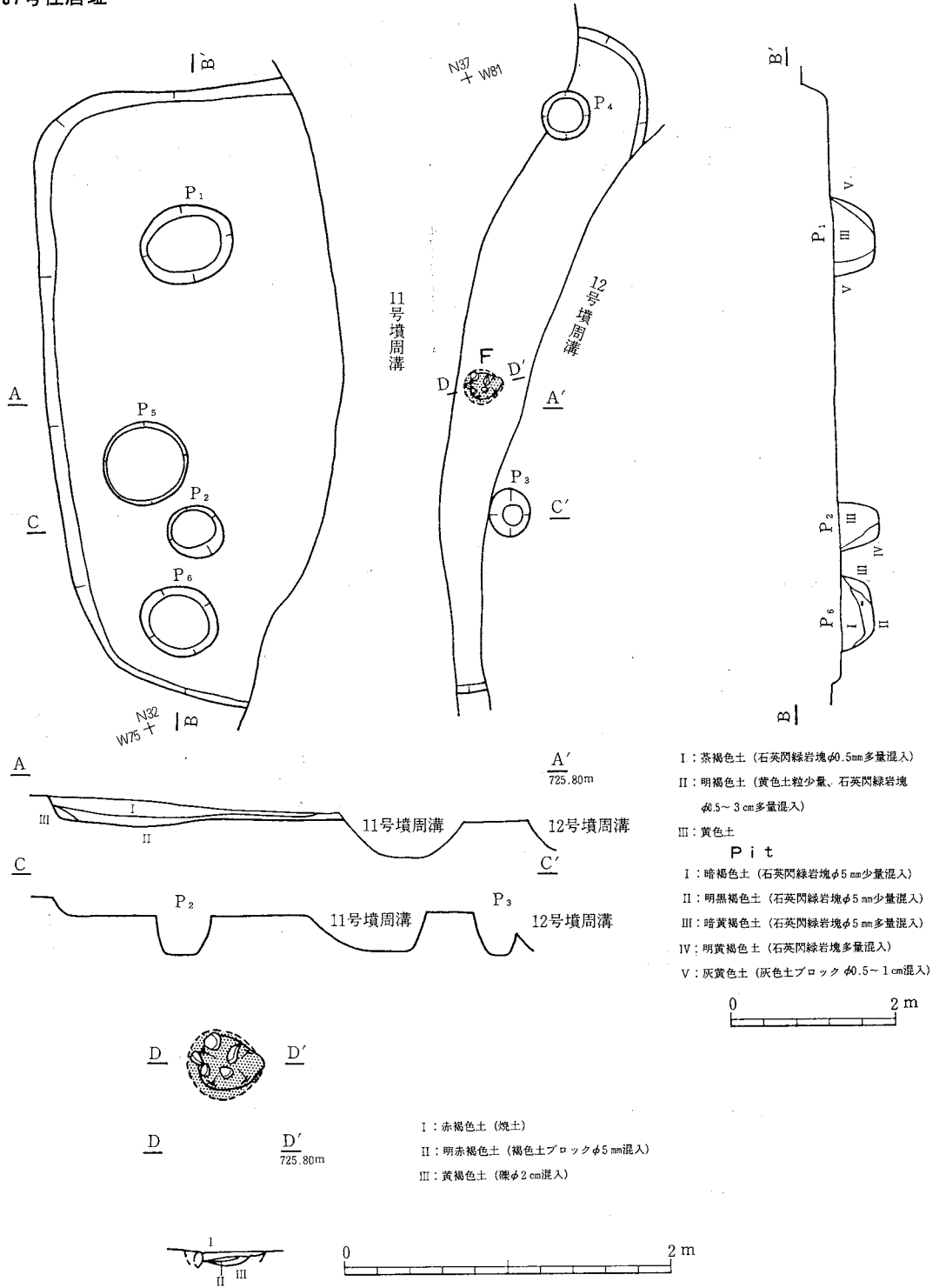


- I : 暗褐色土 (炭化物、礫、 $\phi 0.5 \sim 3$  cm多量混入)
  - II : 褐色土 (石英閃緑岩塊 $\phi 5$  mm少量混入)
  - III : 暗褐色土 (炭化物、土器片、石英閃緑岩塊 $\phi 5$  mm多量混入)
  - IV : IIより明るい褐色土
  - V : 暗褐色土      VI : 赤褐色土 (焼土、炭化物混入)
- Pit**
- I : 褐色土 (炭化物、ローム塊 $\phi 0.5 \sim 1$  cm、石英閃緑岩粒混入)
  - II : 明褐色土 (ローム塊 $\phi 0.5 \sim 1$  cm、石英閃緑岩粒多量混入)



第17図 第66号住居址実測図

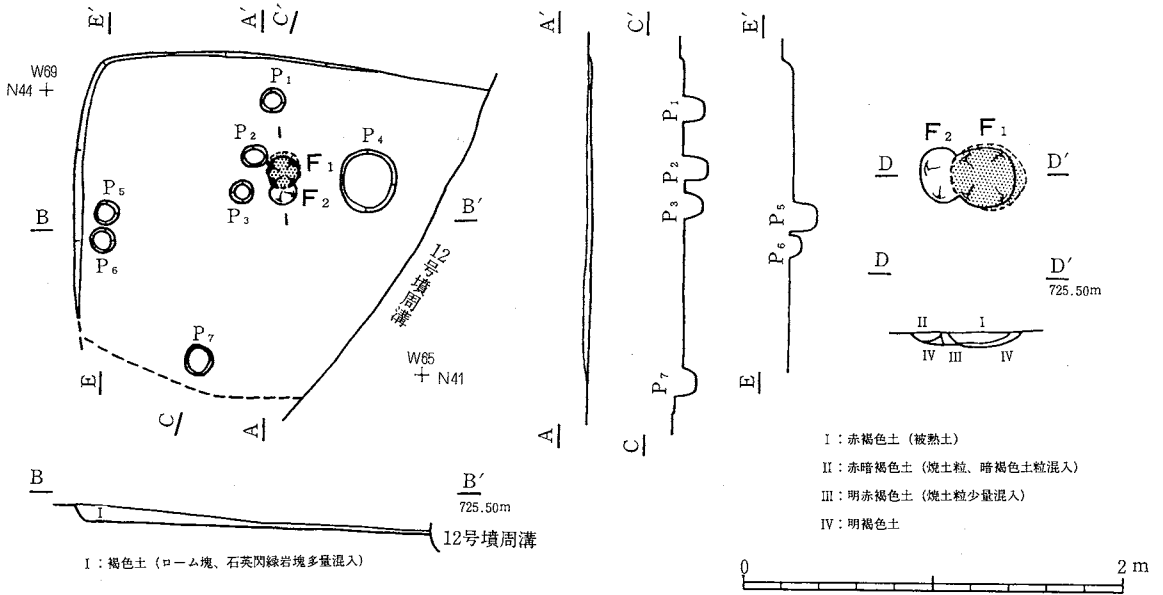
第67号住居址



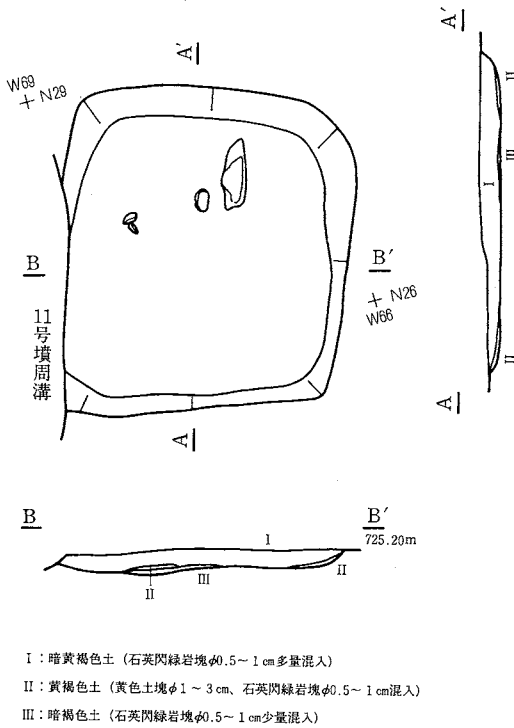
第18図 第67号住居址実測図



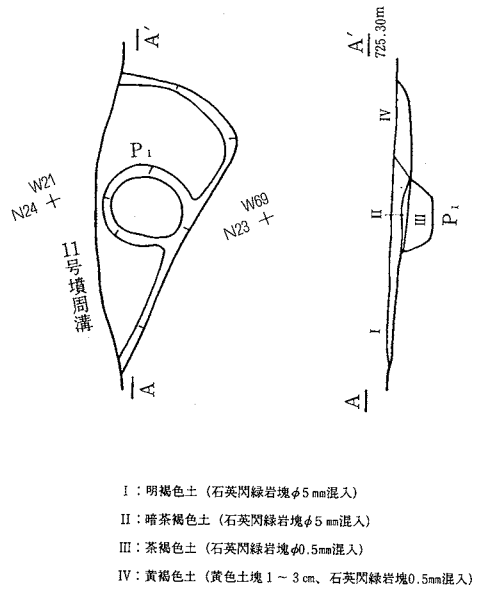
### 第65号住居址



### 第68号住居址

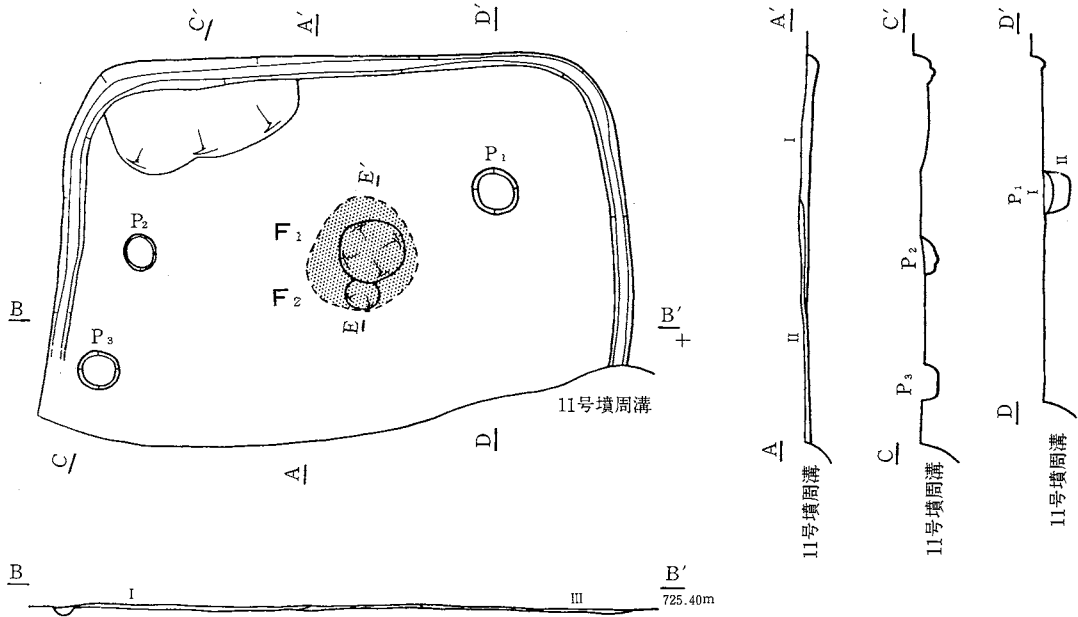


### 第69号住居址



第19图 第65・68・69号住居址実測図

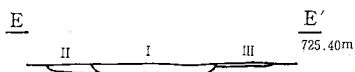
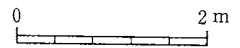
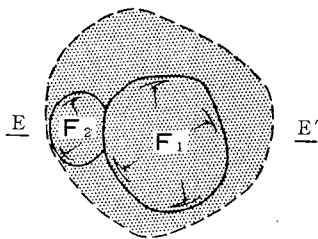
第70号住居址



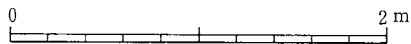
- I : 暗黄褐色土 (石英閃緑岩塊φ5mm少量混入)
- II : 暗褐色土
- III : 暗赤褐色土 (焼土粒少量混入)

Pit

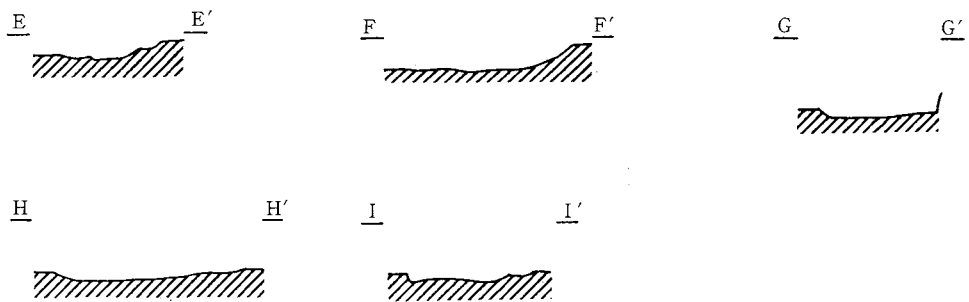
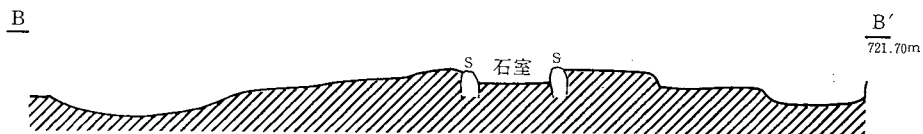
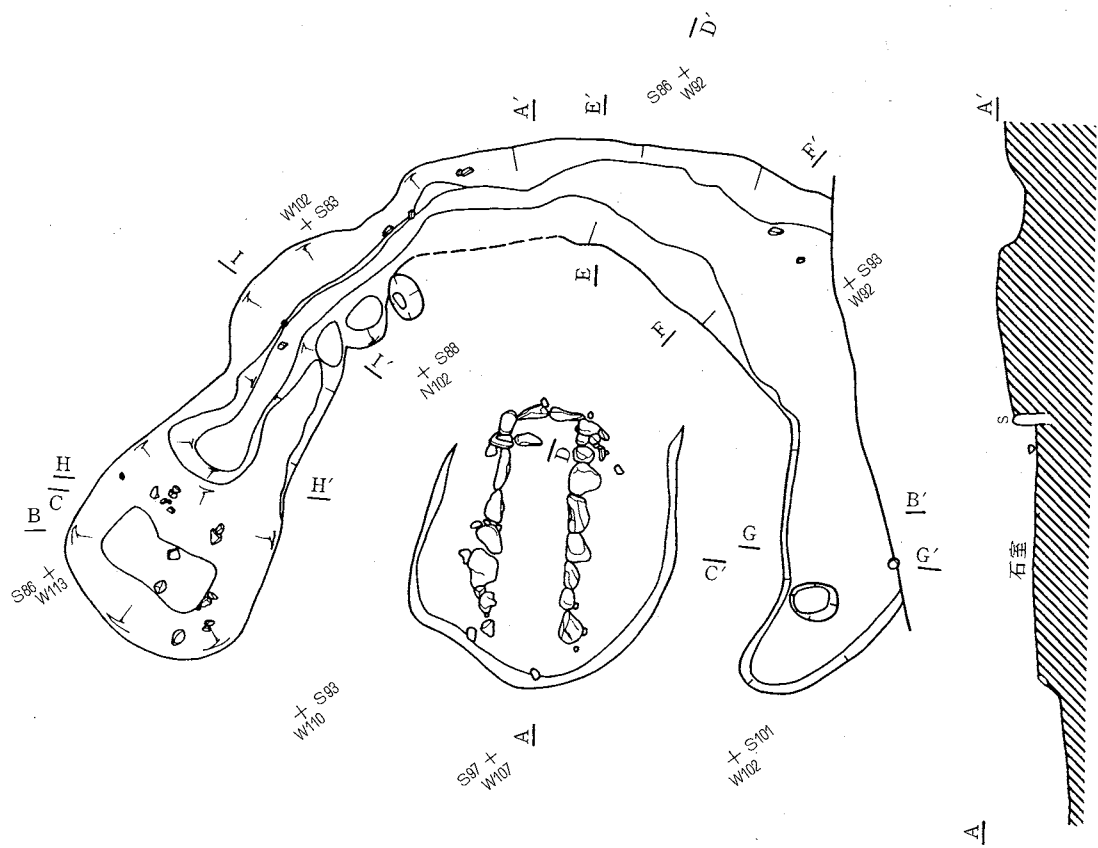
- I : 暗褐色土 (ローム塊φ1cm多量混入)
- II : 暗褐色土



- I : 焼土
- II : 焼土 (褐色土ブロック混入)
- III : 褐色土 (焼土粒少量混入)



第20図 第70号住居址実測図



第21图 第8号古墳全体图

C

C'  
721.70m

第8号古墳墳丘

I : 暗茶褐色土 (茶褐色土粒・ブロックφ3~20cm多量混入)  
 I' : Iより茶褐色土ブロックが小さく少ない  
 II : 黒色土  
 II' : IIに茶褐色土ブロックφ3~10cm多量混入  
 III : 暗褐色土 (石英閃緑岩粒少量混入)、当時の地表  
 IV : 暗茶褐色土 (IにIIIを混入した感じ)、掘り方  
 V : 暗黄色土 (石英閃緑岩塊φ0.5~1cm黄色土ブロックφ1~3cm多量混入)  
 VI : 暗黄色土 (石英閃緑岩塊φ0.5~1cm少量混入)  
 VI' : 暗黄色土 (石英閃緑岩塊φ0.5~1cm多量混入) } 周溝

} 盛土

D

D'

E

E'

721.70m

F

F'

G

G'

H

H'

G

G'

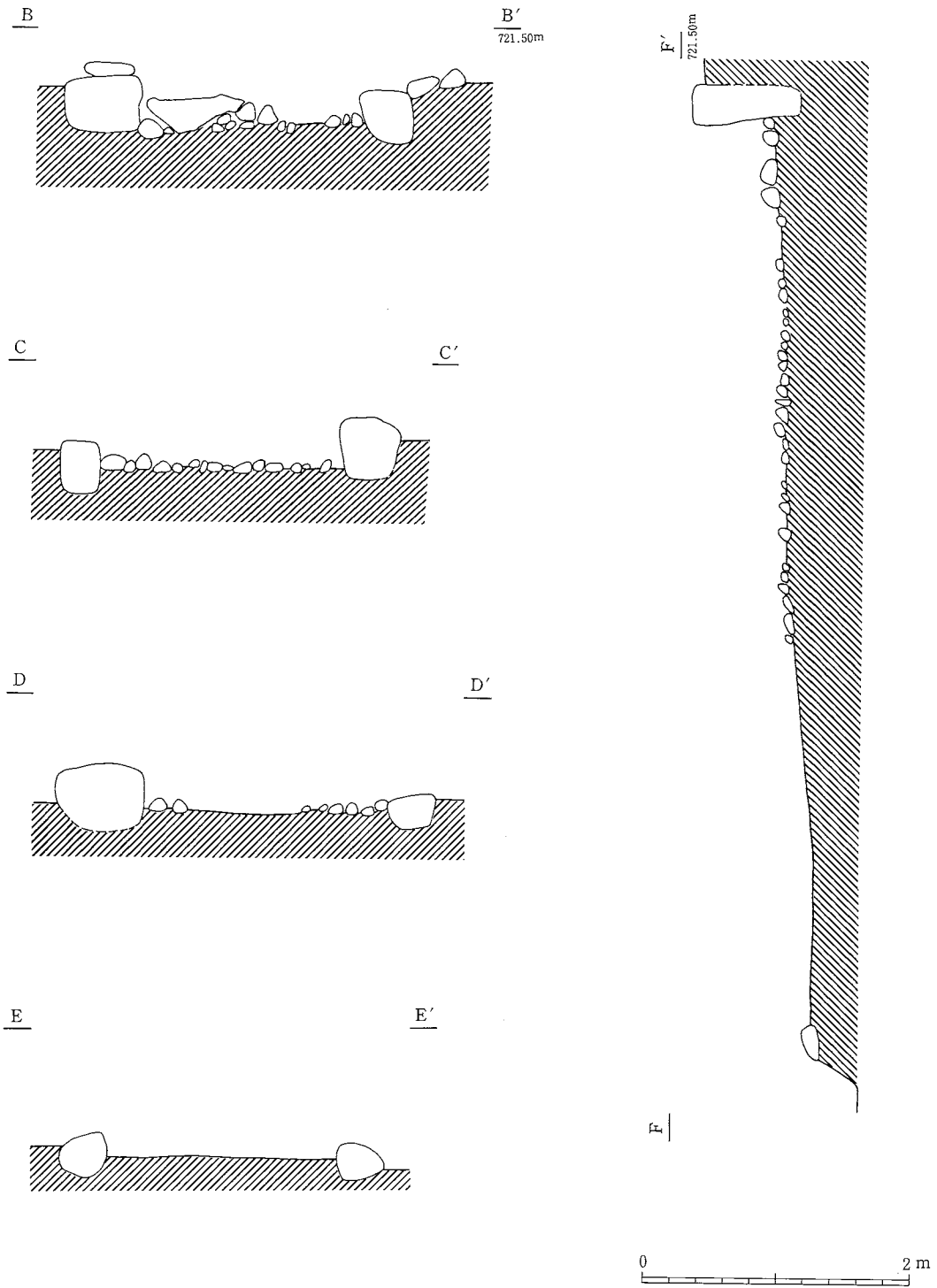
第8号古墳周溝

I : 黒褐色土  
 I' : Iに炭化物少量混入  
 II : 暗褐色土 (石英閃緑岩塊φ0.5cm、少量混入)  
 III : 明褐色土 (石英閃緑岩粒φ0.5cm多量混入)  
 IV : 暗茶褐色土 (茶褐色土粒φ0.5~3cm少量混入)  
 V : 暗黄色土 (石英閃緑岩塊φ0.5cm多量混入)  
 VI : 黄色土 (石英閃緑岩粒φ0.5cm混入)

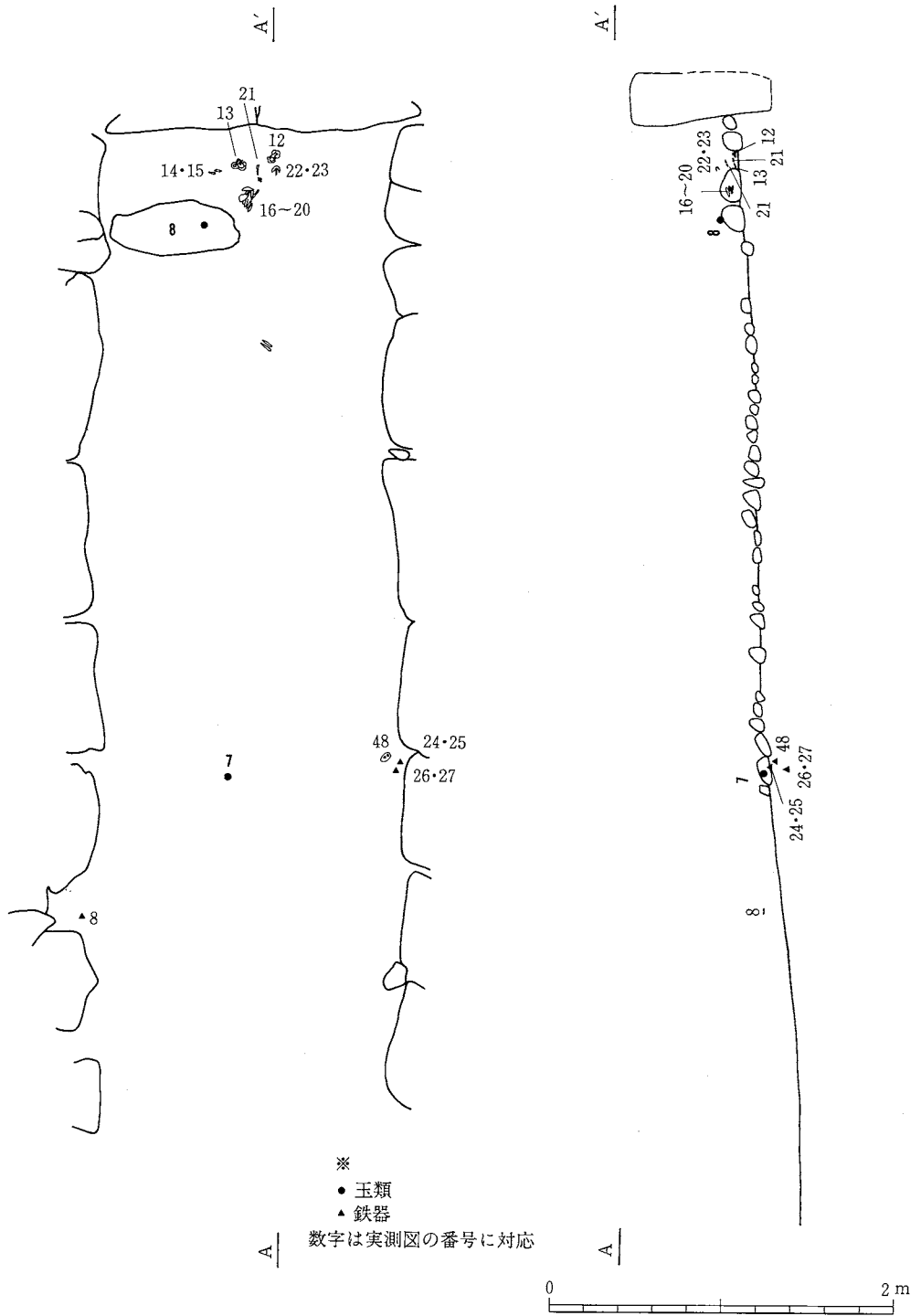
第22図 第8号古墳墳丘・周溝土層図

- 47 -

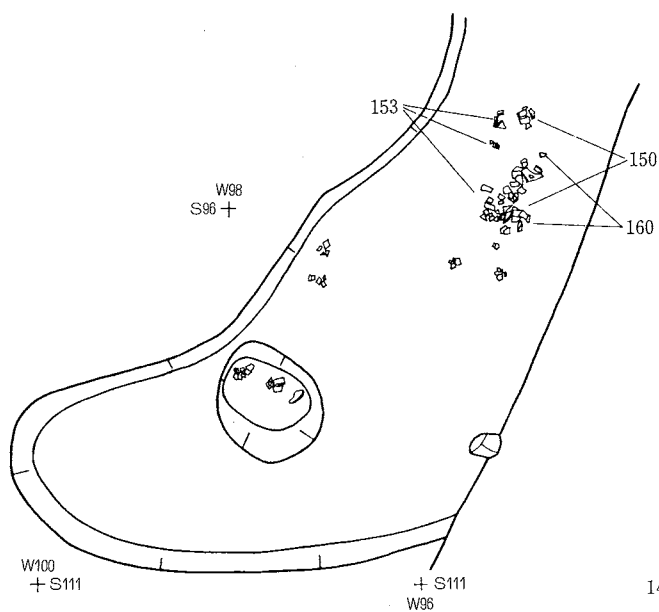




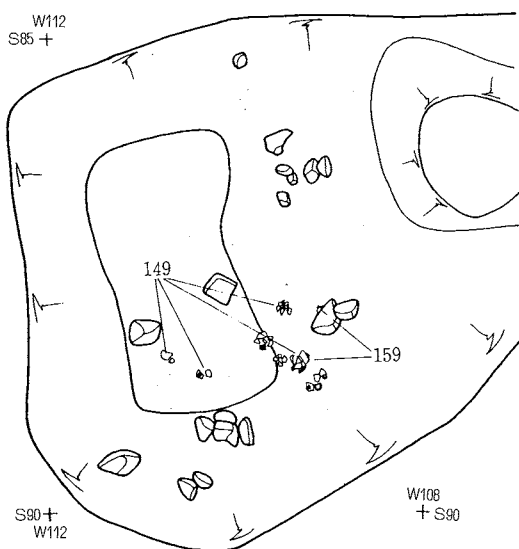
第24图 第8号古墳石室断面图



第25図 第8号古墳石室内遺物出土図

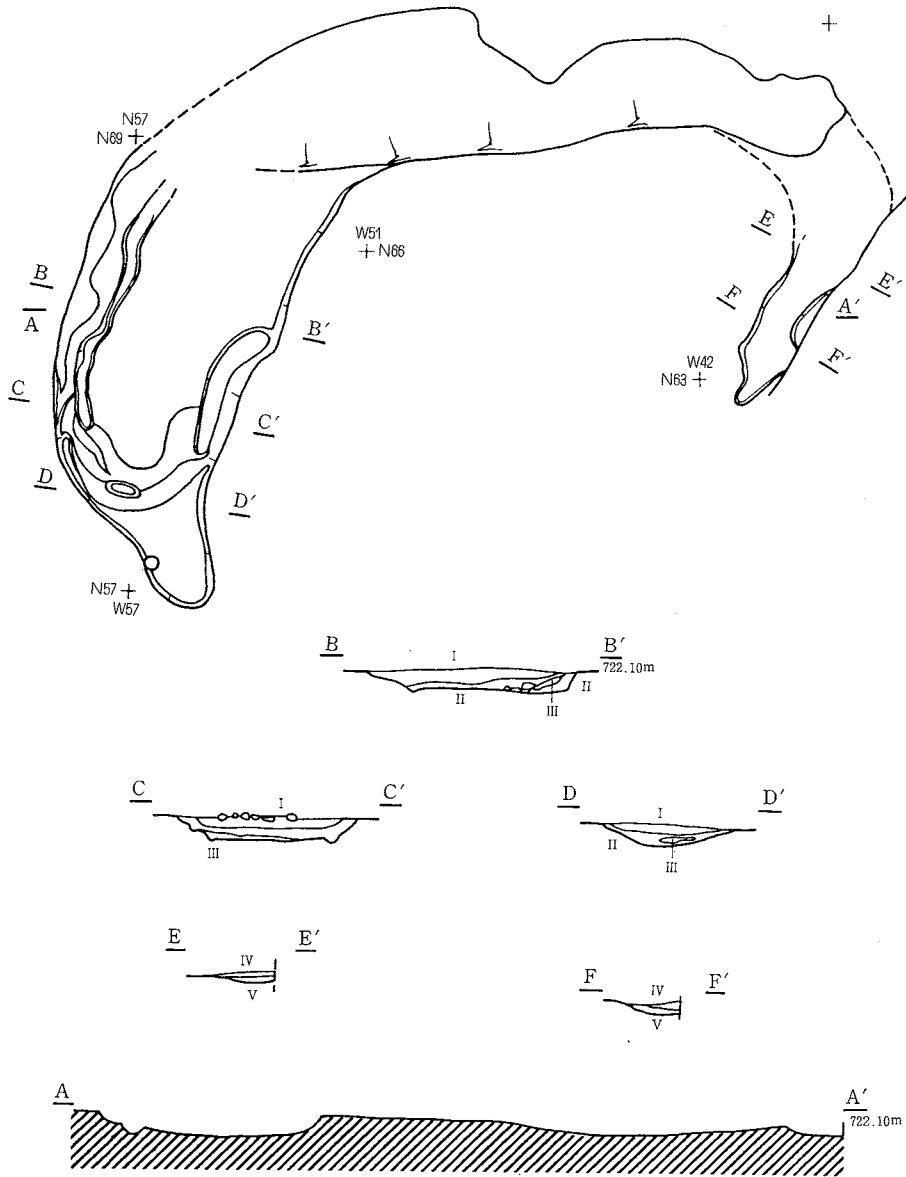


- 149 : 須恵器提瓶
- 150 : " 提瓶
- 153 : " 甕
- 159 : " 高坏
- 160 : " 甕

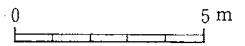


第26図 第8号古墳周溝内遺物出土図

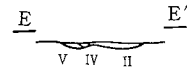
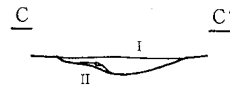
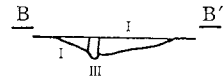
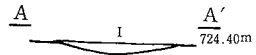
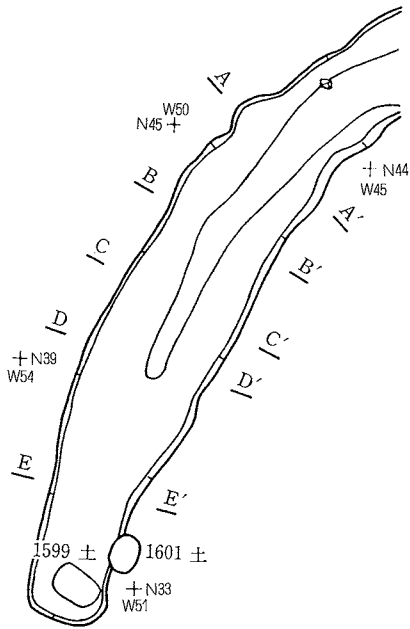




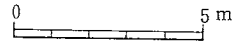
- I : 暗褐色土 (石英閃綠岩塊 $\phi$ 0.5~1 cm多量混入)
- II : 褐色土 (石英閃綠岩塊 $\phi$ 0.5~1 cm多量混入)
- III : 暗黄褐色土 (石英閃綠岩塊 $\phi$ 0.5~1 cm多量混入)
- IV : 明褐色土 (石英閃綠岩塊 $\phi$ 0.5~1 cm多量混入)
- V : 黄褐色土 (石英閃綠岩塊 $\phi$ 0.5~1 cm多量混入)



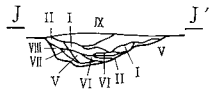
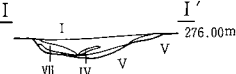
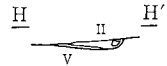
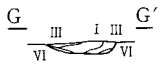
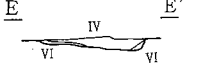
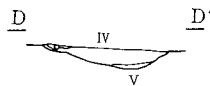
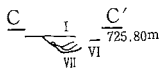
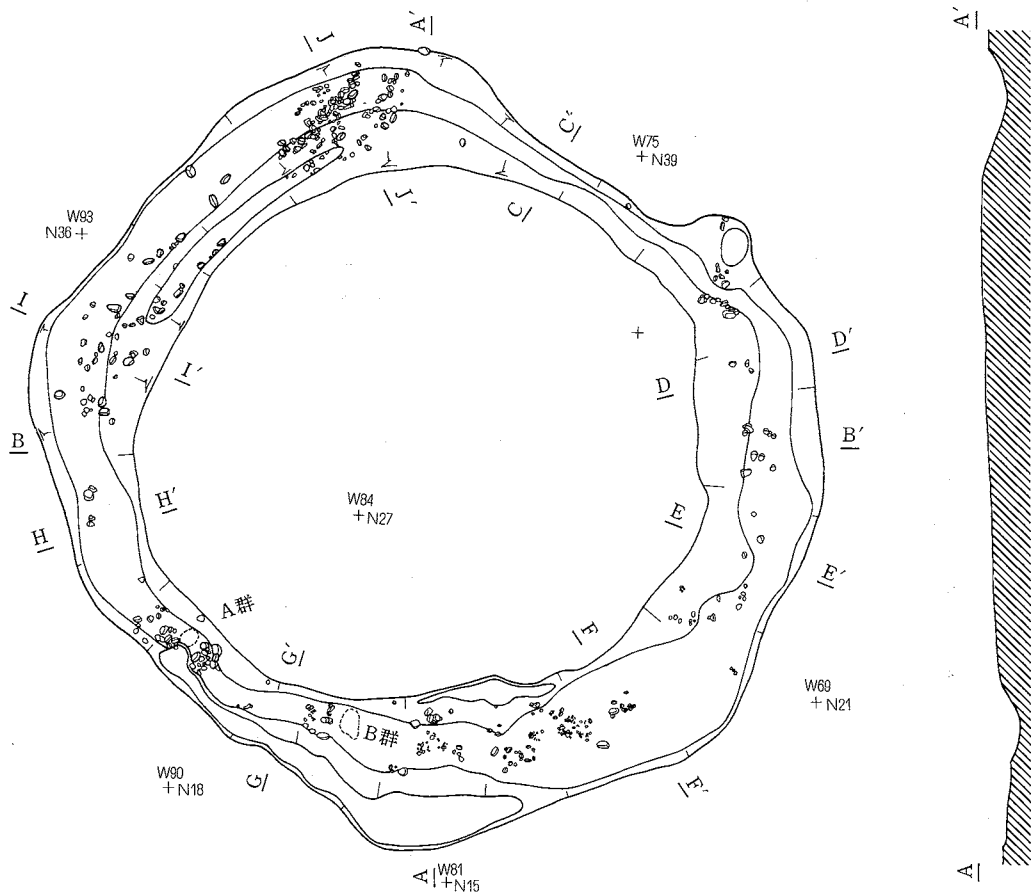
第27图 第9号古墳実測图



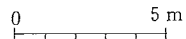
- I : 明褐色土 (石英閃緑岩粒少量混入)
  - II : 暗褐色土 (石英閃緑岩塊φ0.5cm少量混入)
  - III : IIより淡い暗褐色土 (炭化物、ローム塊0.5cm、石英閃緑岩塊φ0.5cm少量混入)
  - IV : 黄褐色土 (ローム塊φ0.5~5cm、石英閃緑岩塊φ0.5cm多量混入)
  - V : 明(灰)褐色粘質土 (石英閃緑岩塊φ1~3cm多量混入)
- ※III、IV、V層に53住履土の流入あり



第28図 第10号古墳実測図

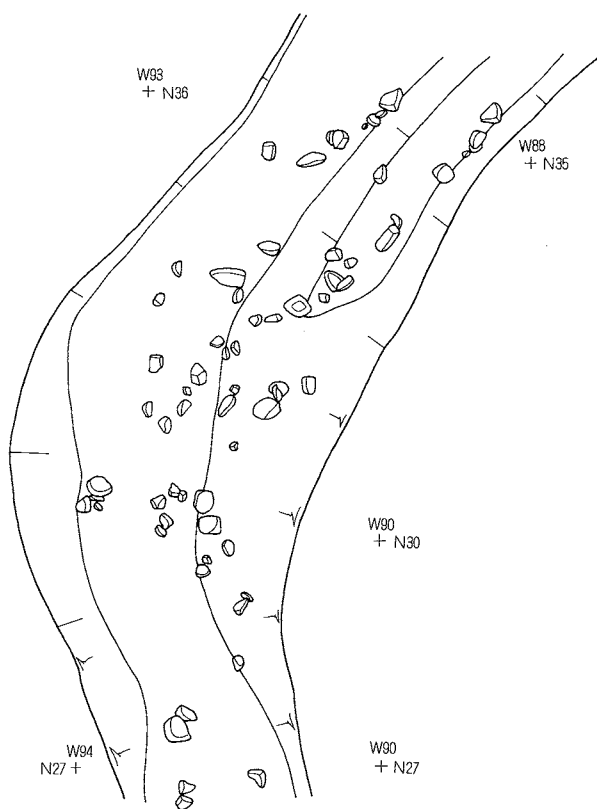


- I : 暗茶褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5-1cm多量混入)
  - II : 暗茶褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm少量混入)
  - III : 暗褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm少量混入)
  - IV : 黑褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm少量混入)
  - V : 暗黄褐色土 (黄色土粒混入)
  - VI : 黄褐色土 (黄色土粒多量混入)
  - VII : 黄茶褐色土 (黄色土粒、茶褐色土粒混入)
  - VIII : 明黄褐色土 (黄色土粒多量混入)
- } 有機物を含む層

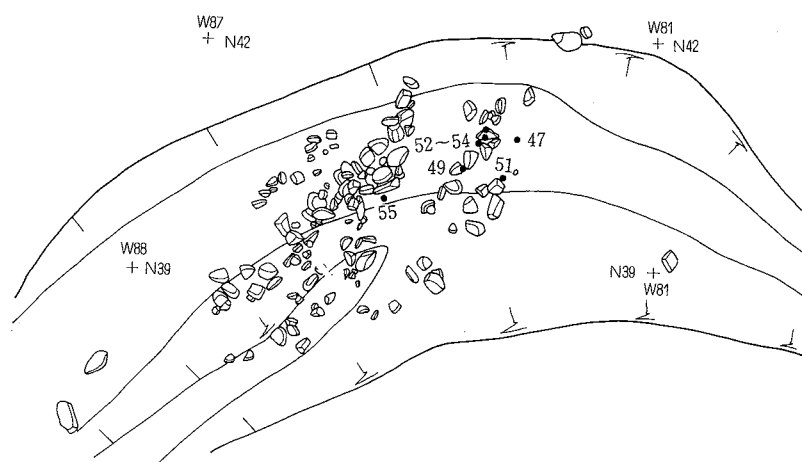


第29図 第11号古墳実測図

西部



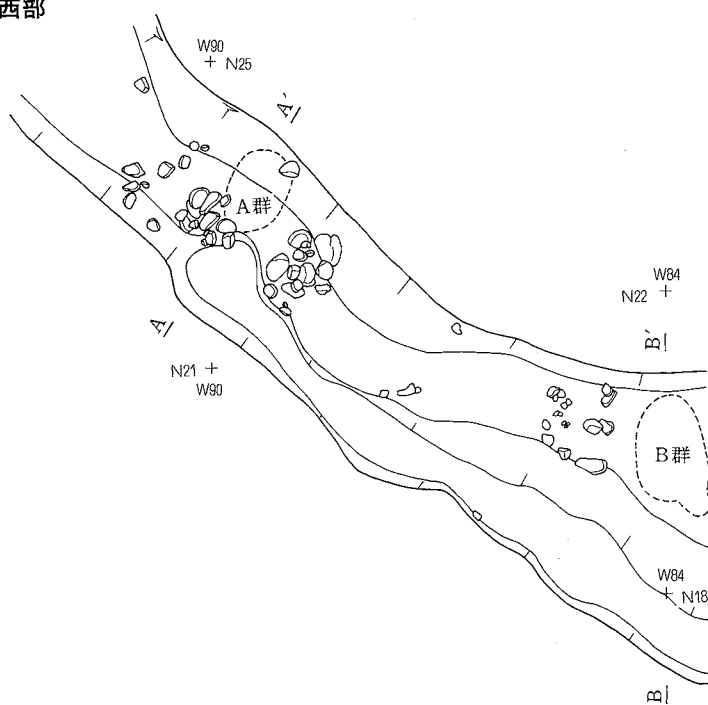
北部



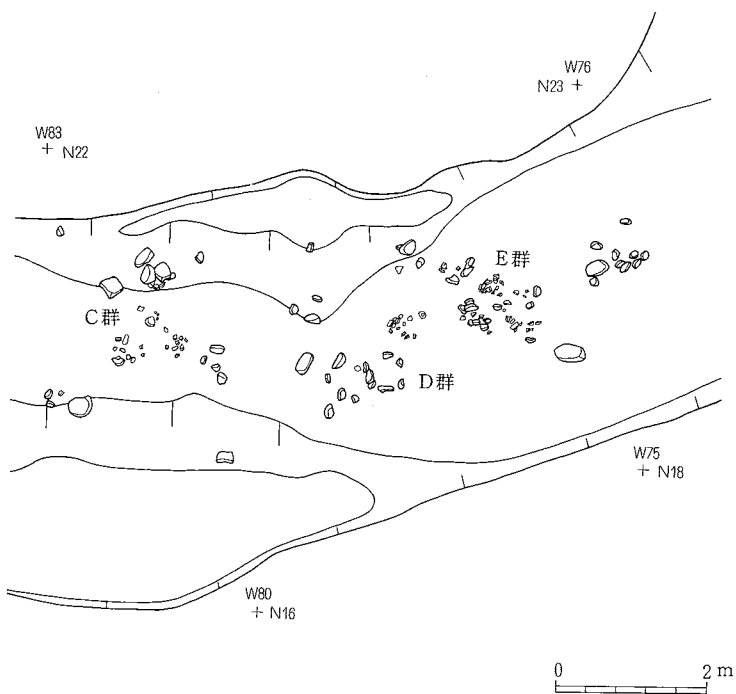
●はミニチュア（F群）出土地点

第30図 第11号古墳磔出土図（西部・北部）

南西部

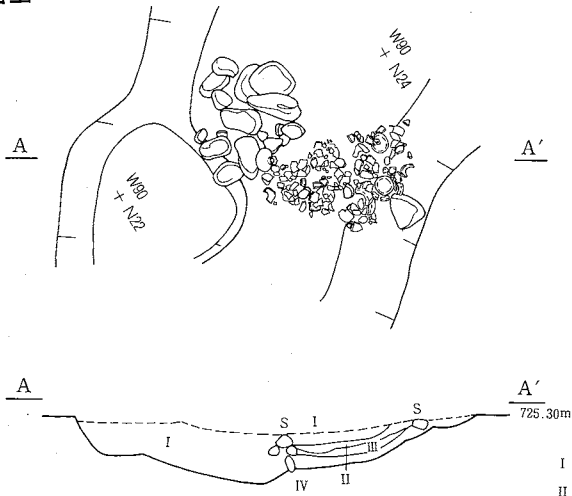


南部



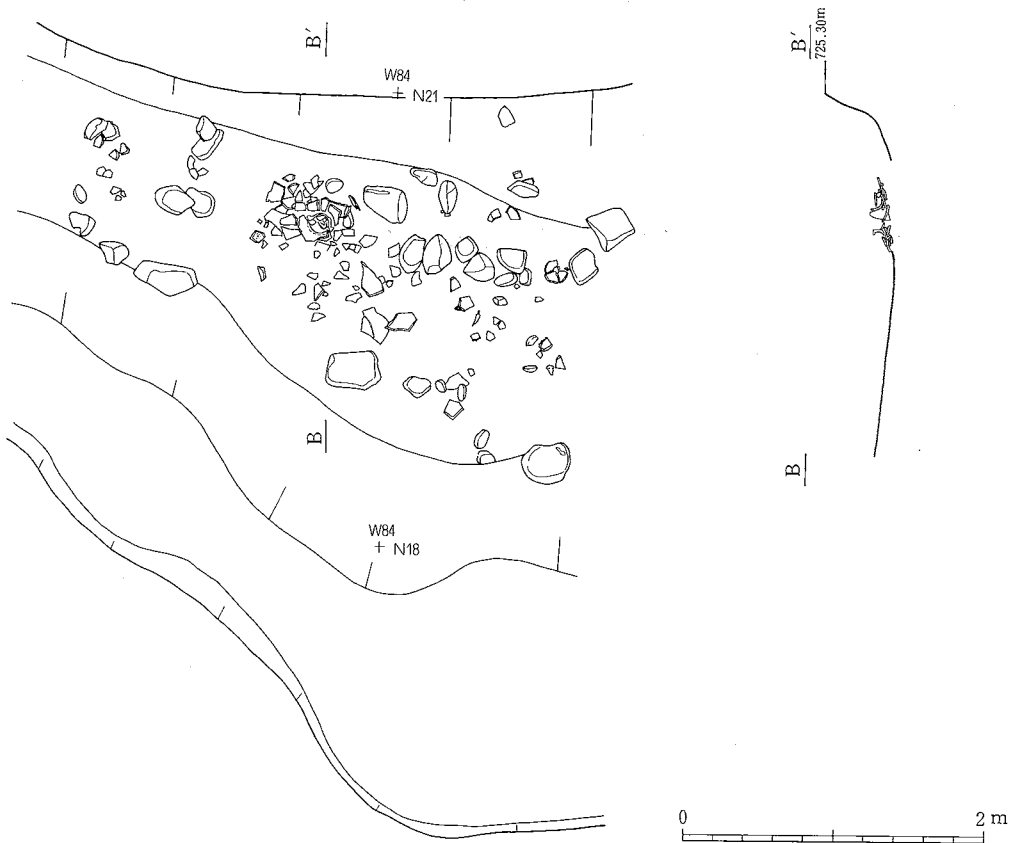
第31図 第11号古墳跡・遺物出土図（南西部・南部）

A群遺物出土

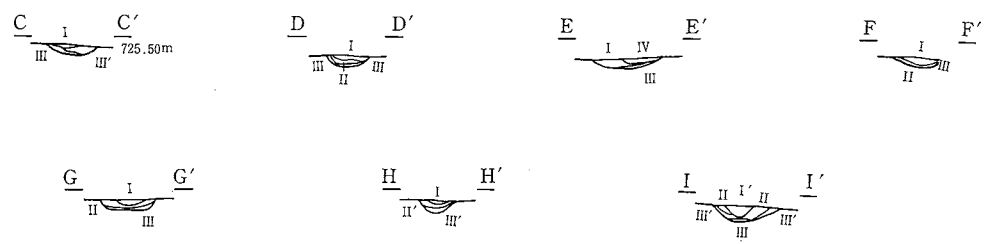
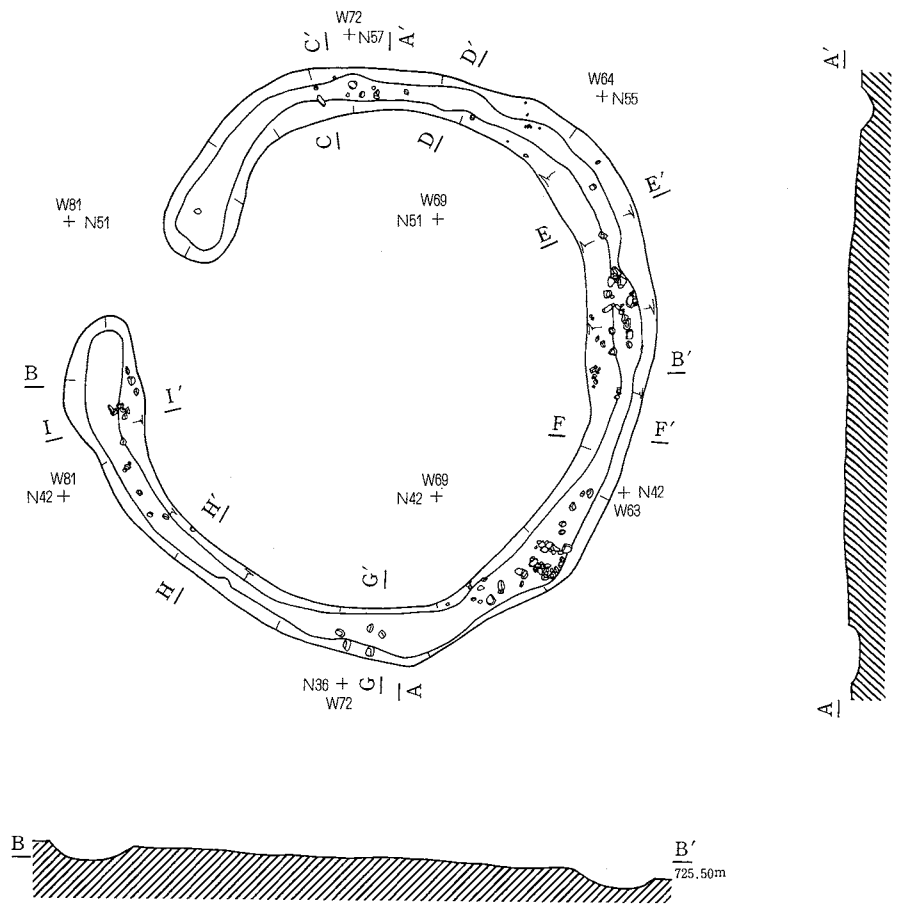


- I : 黑褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm少量混入)
- II : 暗褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm少量、黄色土粒微量混入)
- III : 明褐色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm、黄色土粒混入)
- IV : 暗黄色土 (石英閃綠岩塊φ0.5cm、黄色土粒多量混入)

B群遺物出土



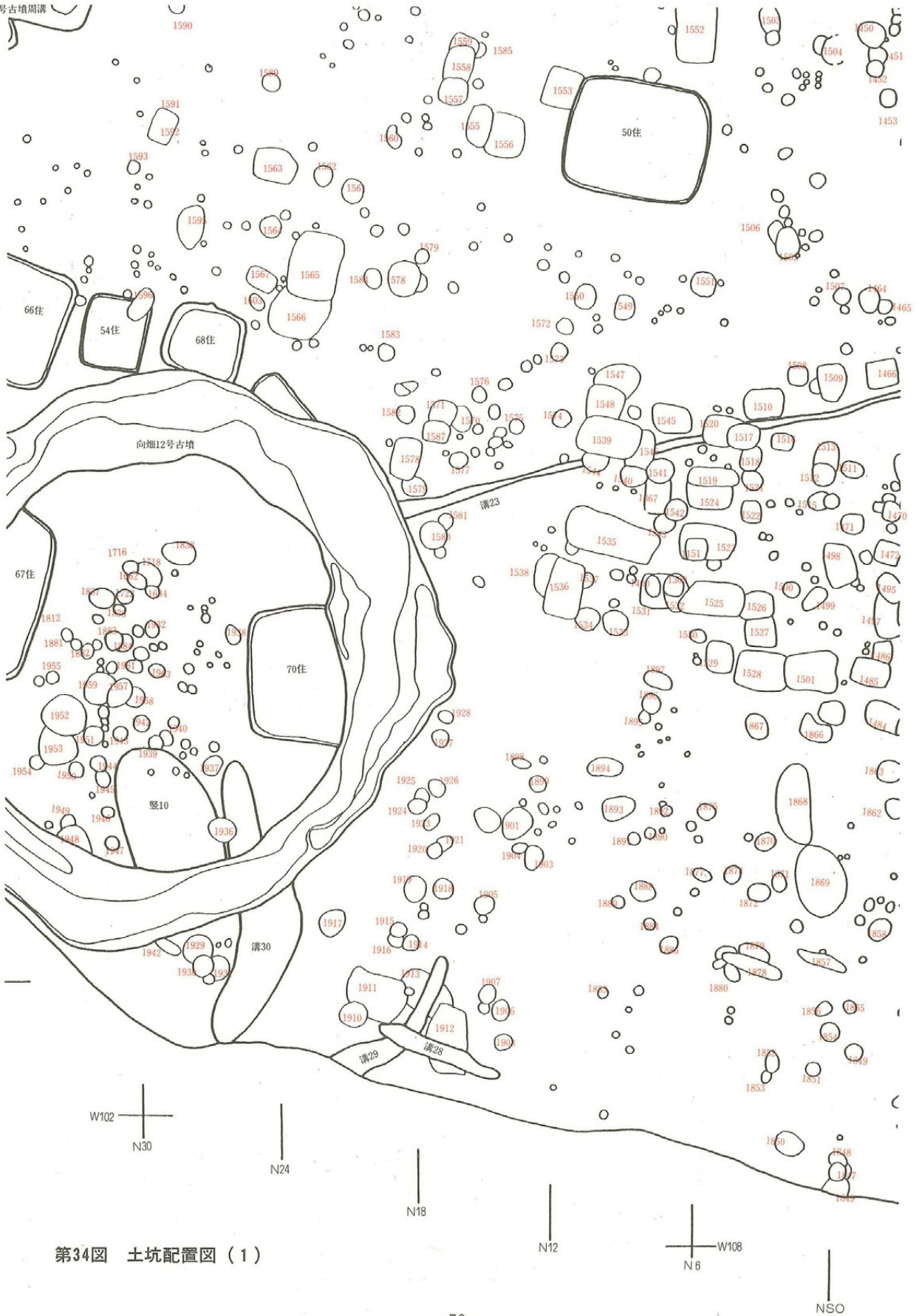
第32図 第11号古墳遺物出土細部図



- I : 暗褐色土 (石英閃緑岩塊φ0.5cm少量混入)
- I' : I に炭化物少量混入
- II : 褐色土 (黄色土粒、塊φ0.5cm、石英閃緑岩塊φ0.5cm少量混入)
- II' : II の石英閃緑岩のみ認めず
- III : 黄褐色土 (黄色土粒、塊φ0.5~5cm、石英閃緑岩塊φ0.5~1cm混入)
- IV : 暗褐色土 (II と同)

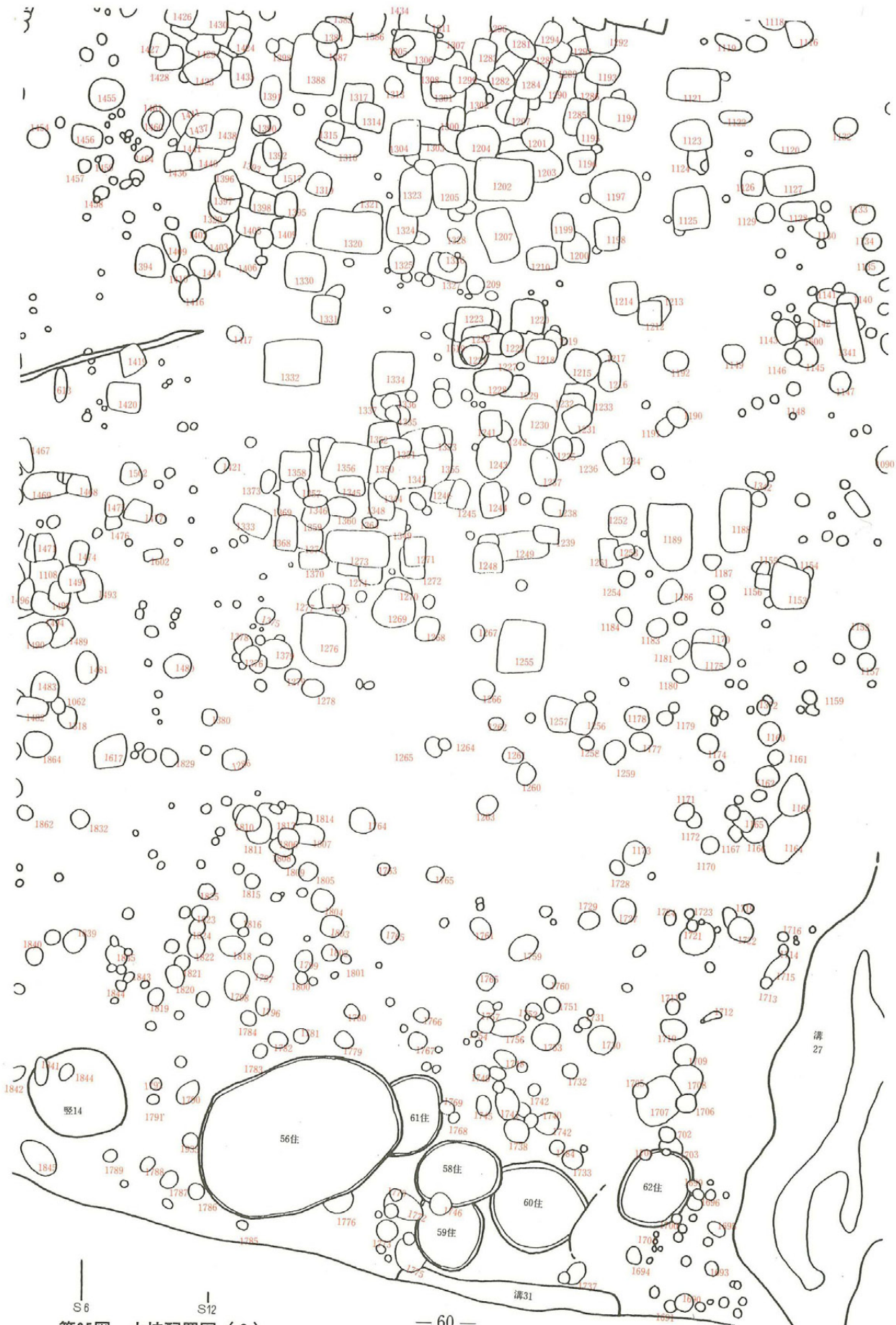


第33図 第12号古墳実測図



第34図 土坑配置図(1)



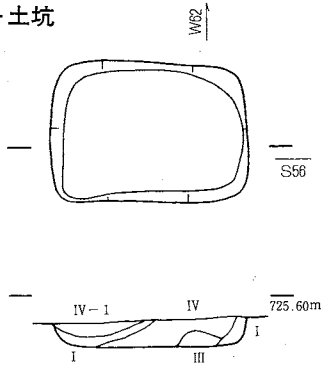


第35图 土坑配置图(2)

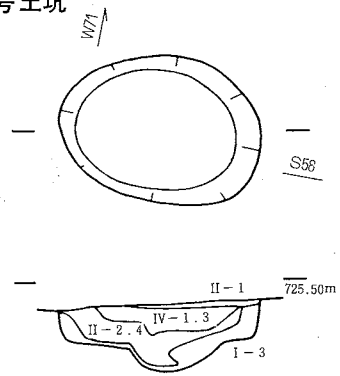


第36図 土坑配置図(3)

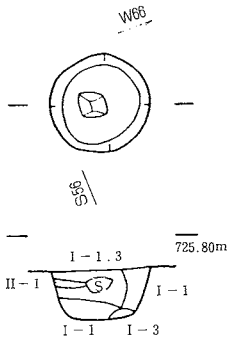
第1001号土坑



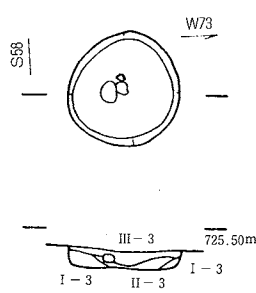
第1008号土坑



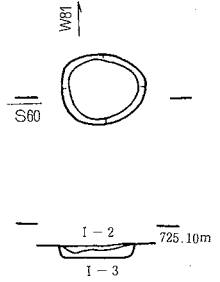
第1004号土坑



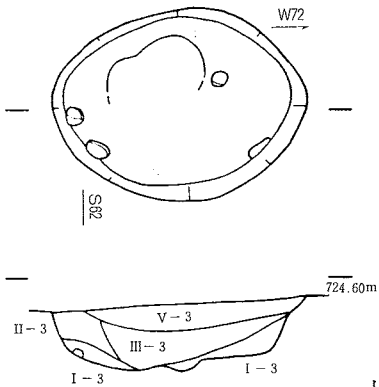
第1012号土坑



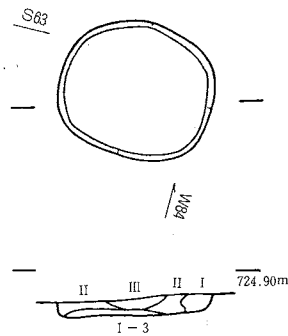
第1028号土坑



第1033号土坑

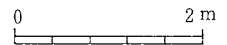


第1030号土坑



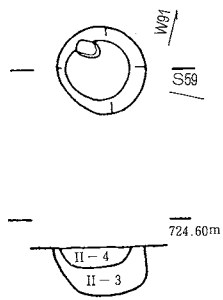
土坑統一土層

- |         |           |
|---------|-----------|
| 基本土層    | 混入物       |
| I：黄色土   | 1：ローム・粒・塊 |
| II：黄褐色土 | 2：砂粒      |
| III：褐色土 | 3：小礫・礫    |
| IV：暗褐色土 | 4：炭化物     |
| V：黑褐色土  | 5：烧土      |
| VI：黑色土  |           |

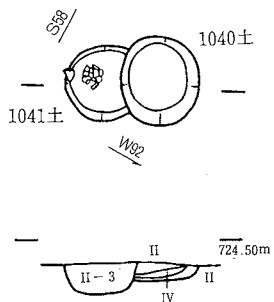


第37图 土坑実測図(1)

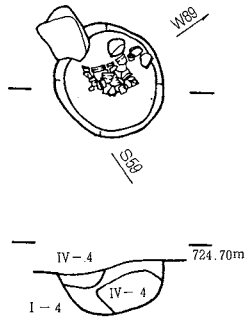
1038号土坑



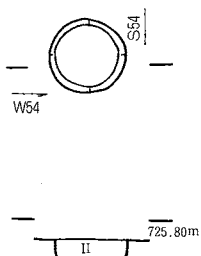
第1041·1040号土坑



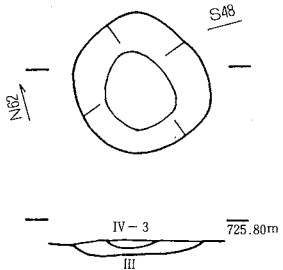
第1045号土坑



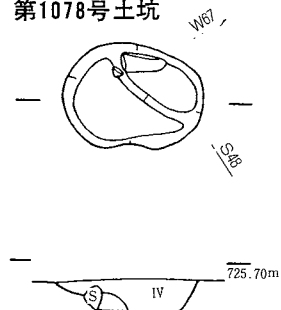
第1058号土坑



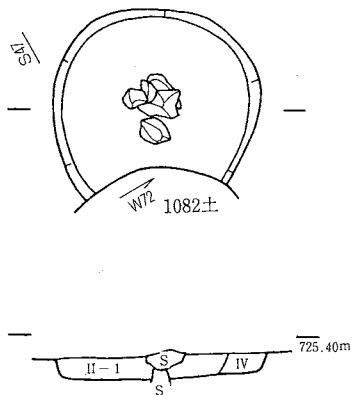
第1066号土坑



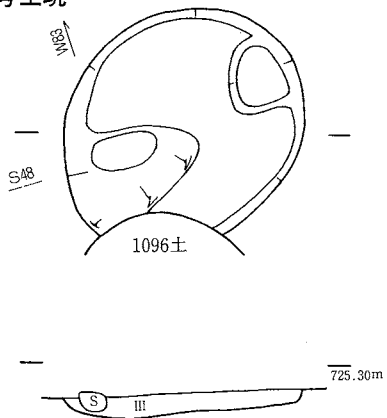
第1078号土坑



第1084号土坑

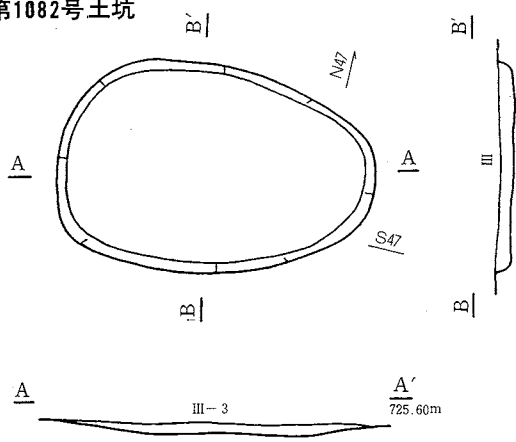


第1101号土坑

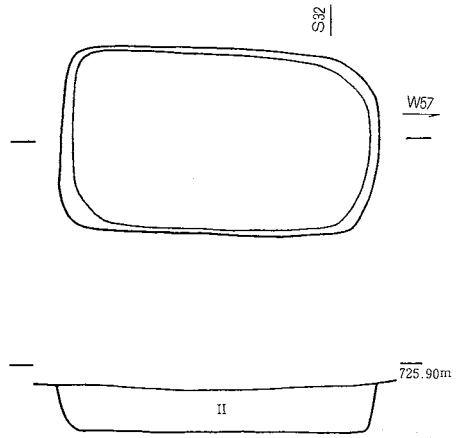


第38图 土坑实测图(2)

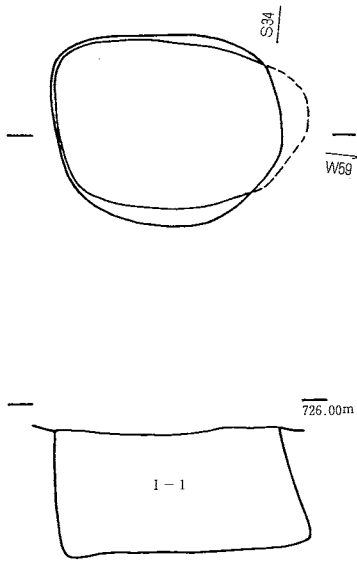
第1082号土坑



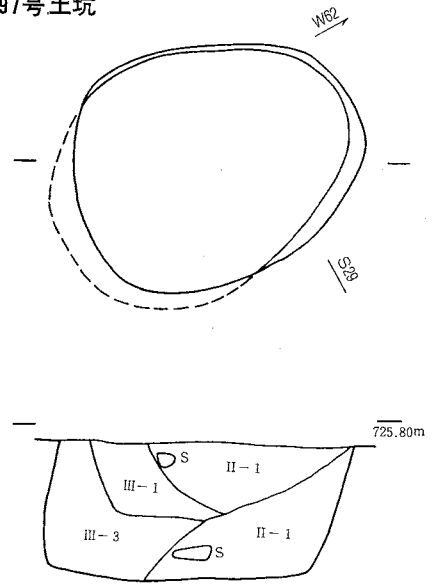
第1121号土坑



第1123号土坑

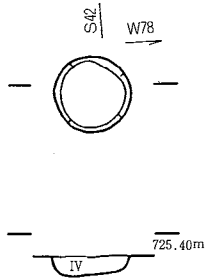


第1197号土坑

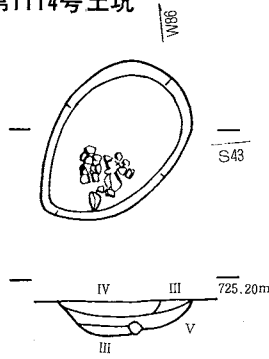


第39图 土坑实测图(3)

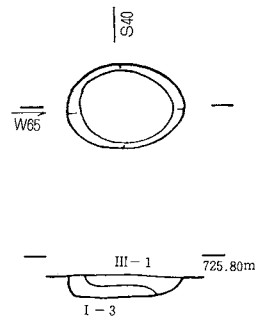
第1105号土坑



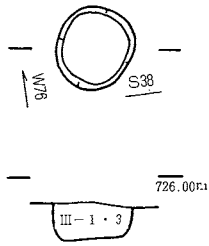
第1114号土坑



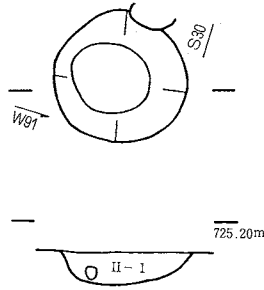
第1135号土坑



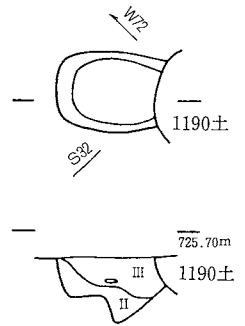
第1150号土坑



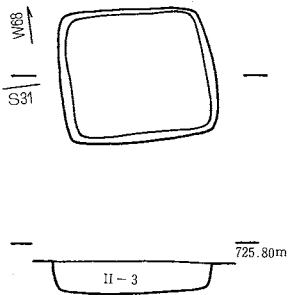
第1173号土坑



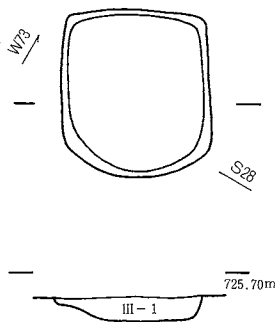
第1191号土坑



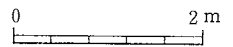
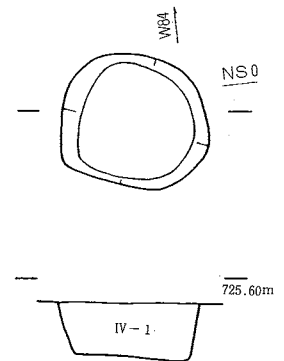
第1212号土坑



第1231号土坑

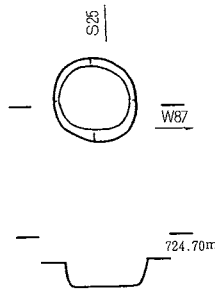


第1247号土坑

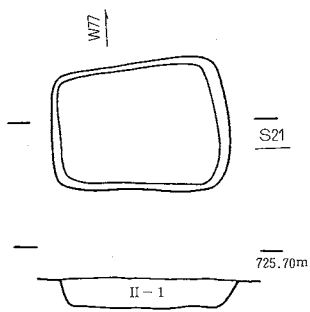


第40图 土坑实测图(4)

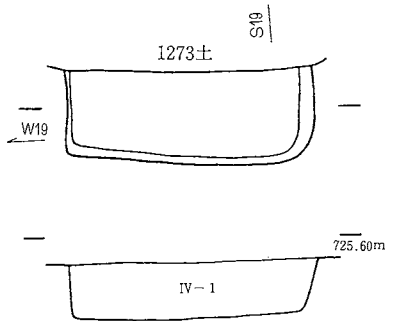
第1261号土坑



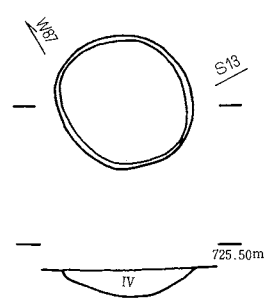
第1271号土坑



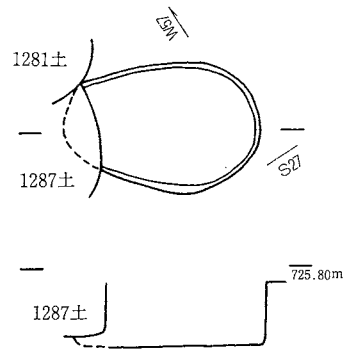
第1274号土坑



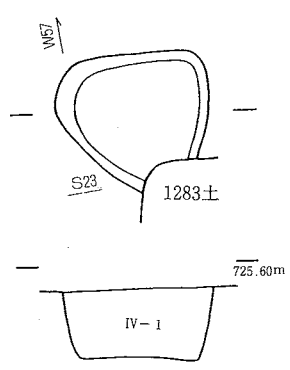
第1280号土坑



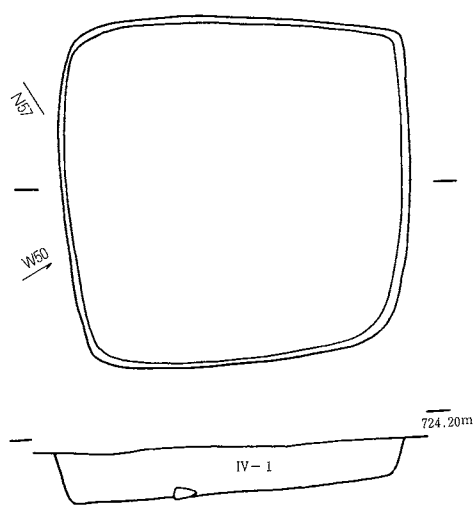
第1294号土坑



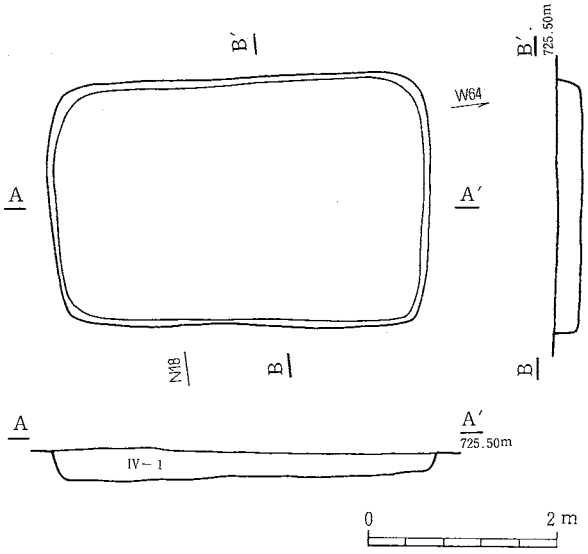
第1299号土坑



第1240号土坑

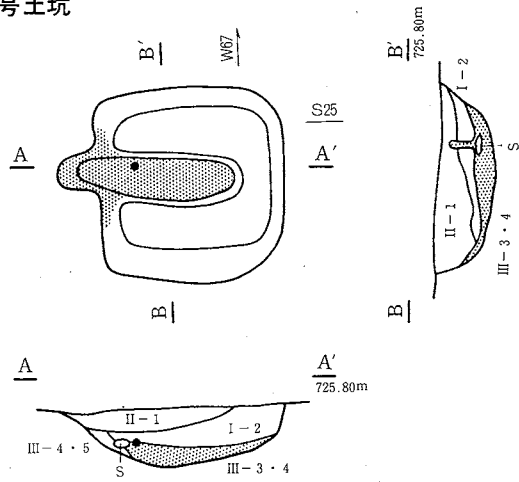


第1320号土坑

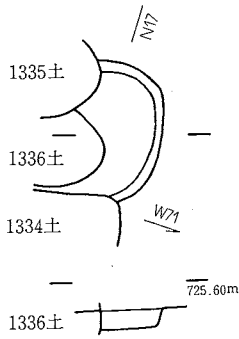


第41图 土坑实测图(5)

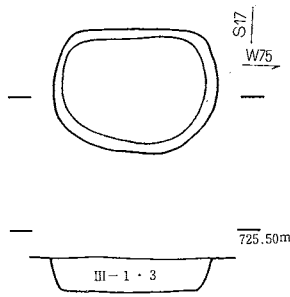
第1220号土坑



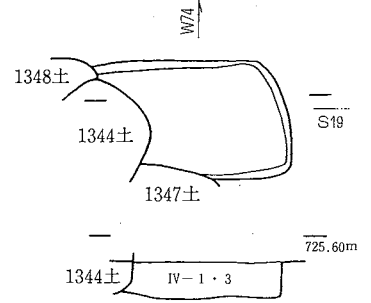
第1337号土坑



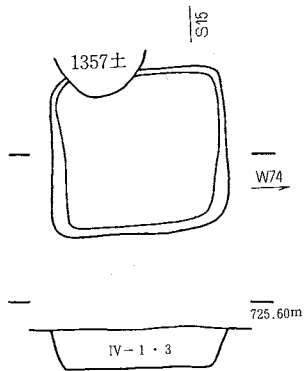
第1345号土坑



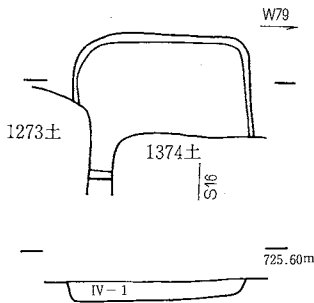
第1350号土坑



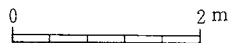
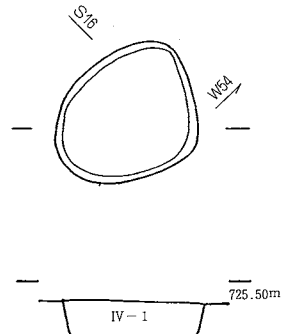
第1358号土坑



第1370号土坑



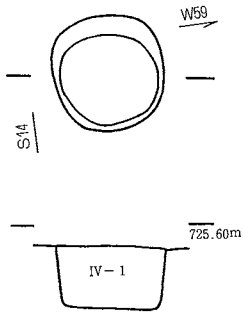
第1384号土坑



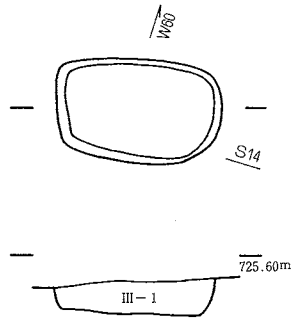
第42图 土坑实测图 (6)



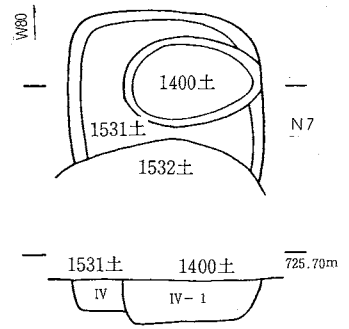
第1390号土坑



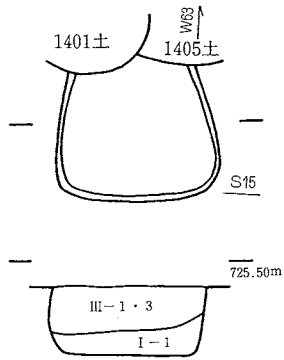
第1392号土坑



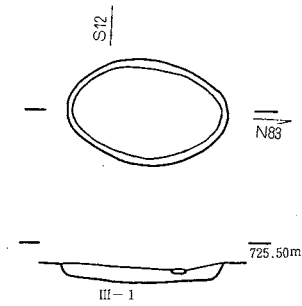
第1400·1531号土坑



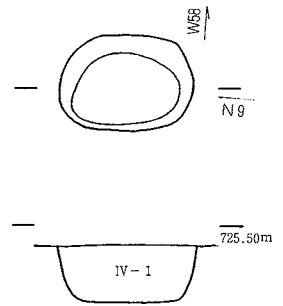
第1409号土坑



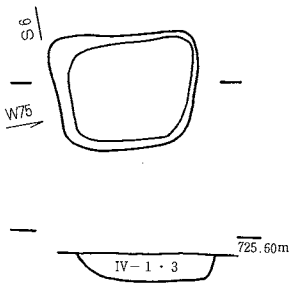
第1426号土坑



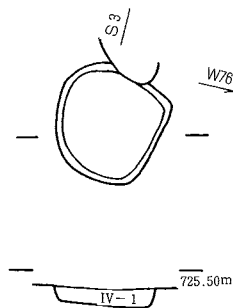
第1460号土坑



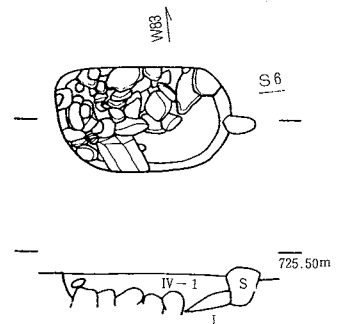
第1468号土坑



第1470号土坑

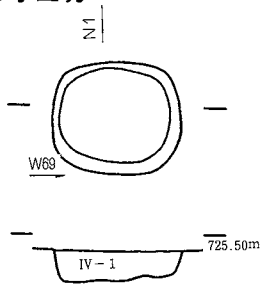


第1481号土坑

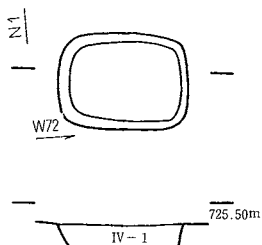


第43图 土坑实测图(7)

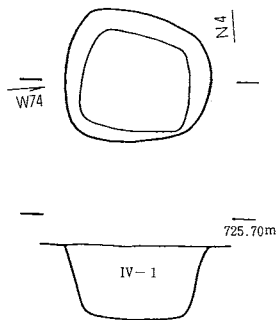
第1508号土坑



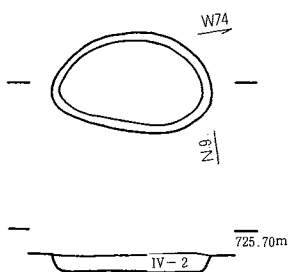
第1516号土坑



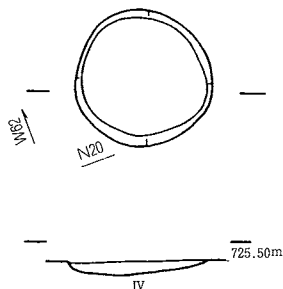
第1518号土坑



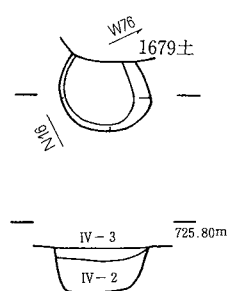
第1540号土坑



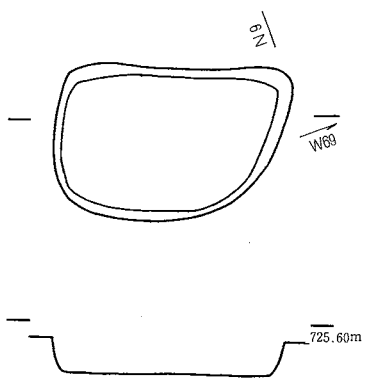
第1561号土坑



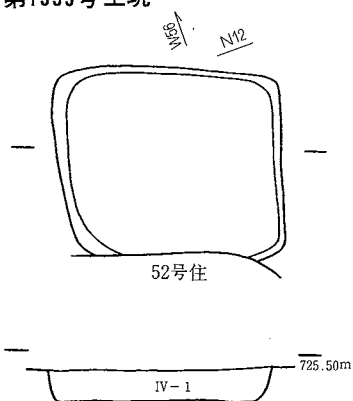
第1581号土坑



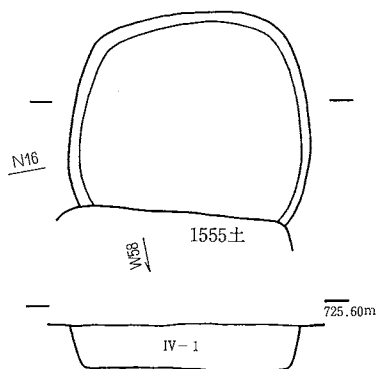
第1547号土坑



第1553号土坑

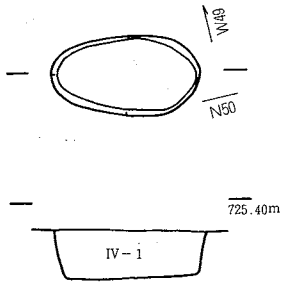


第1556号土坑

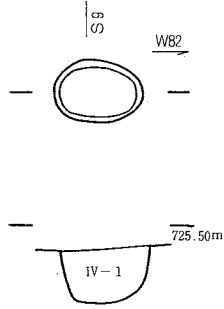


第44图 土坑实测图(8)

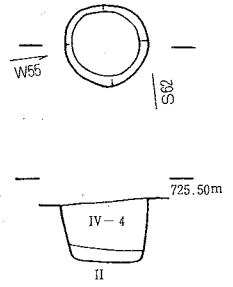
第1587号土坑



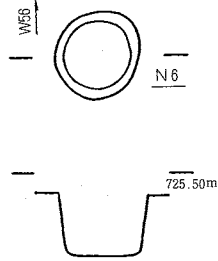
第1594号土坑



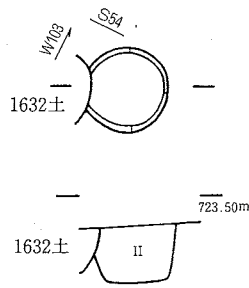
第1604号土坑



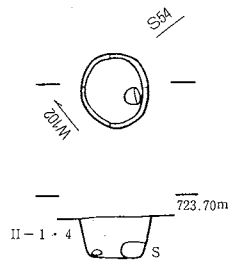
第1615号土坑



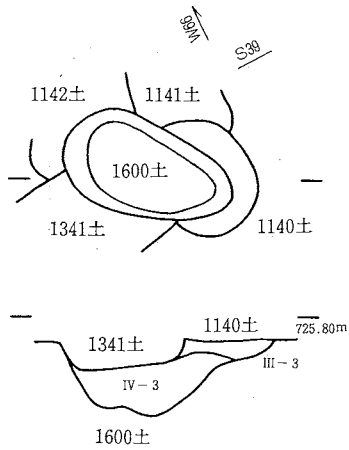
第1633号土坑



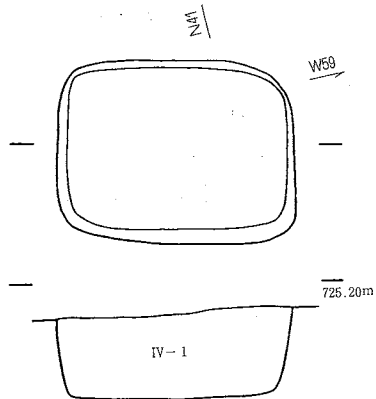
第1635号土坑



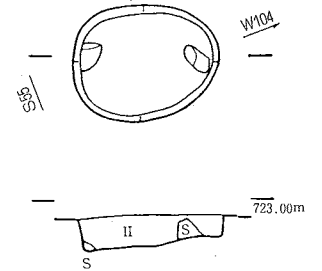
第1600号土坑



第1605号土坑

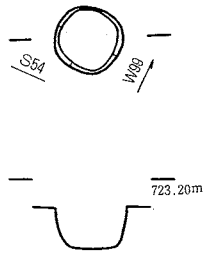


第1631号土坑

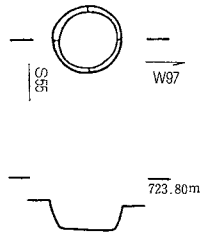


第45图 土坑实测图(9)

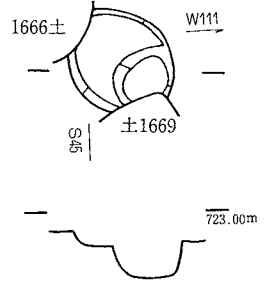
第1643号土坑



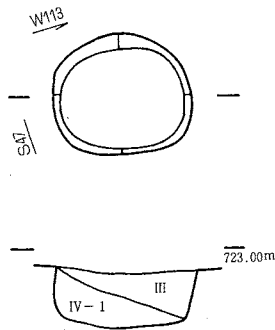
第1645号土坑



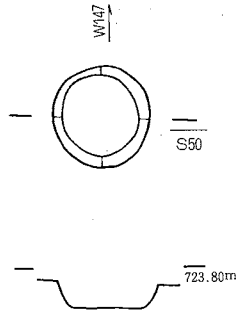
第1668号土坑



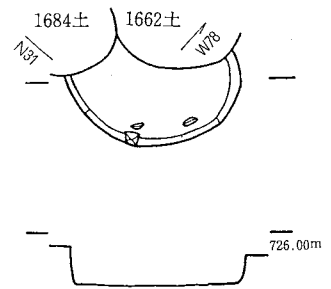
第1670号土坑



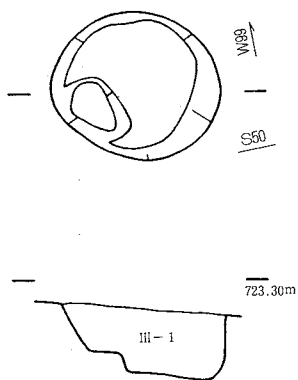
第1675号土坑



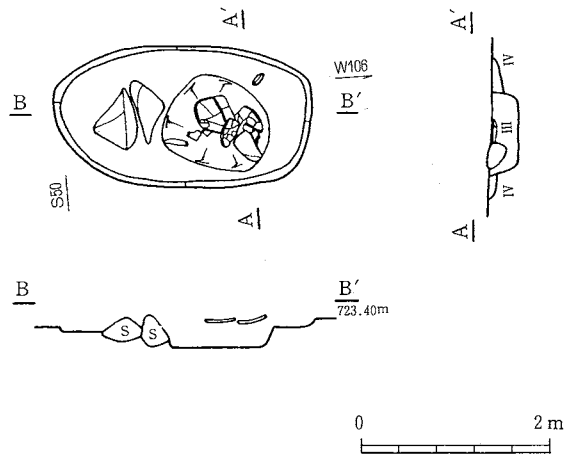
第1718号土坑



第1730号土坑

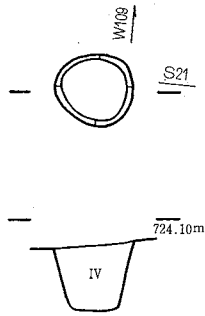


第1655号土坑

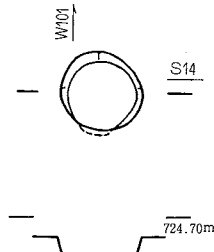


第46图 土坑夷测图(10)

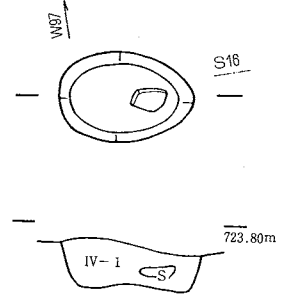
第1774号土坑



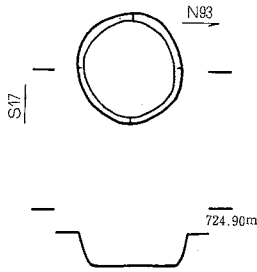
第1783号土坑



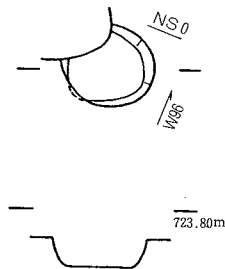
第1799号土坑



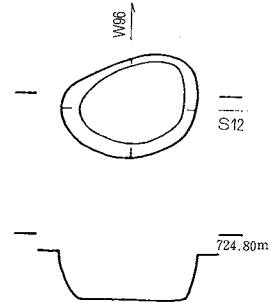
第1805号土坑



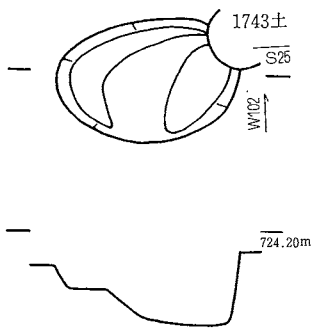
第1821号土坑



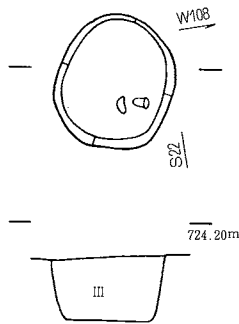
第1822号土坑



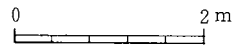
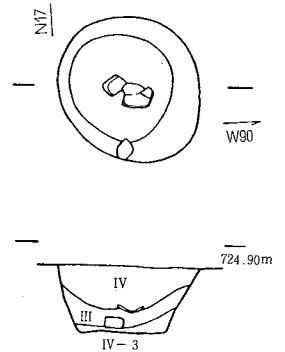
第1740号土坑



第1746号土坑

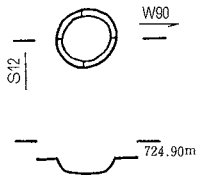


第1764号土坑

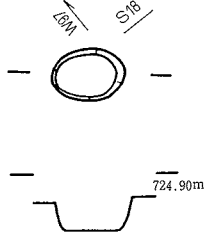


第47图 土坑实测图 (11)

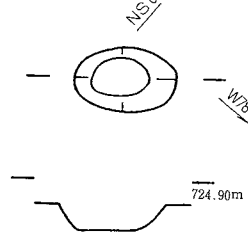
第1828号土坑



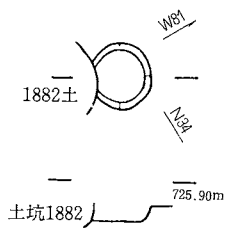
第1833号土坑



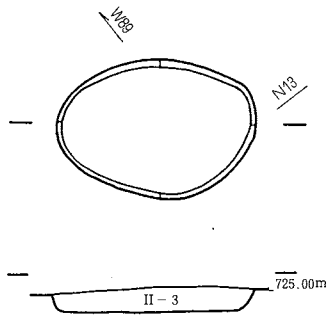
第1856号土坑



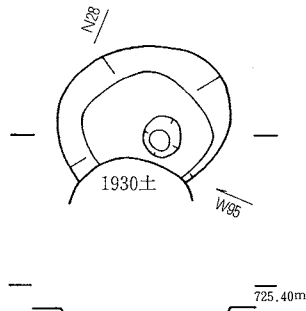
第1881号土坑



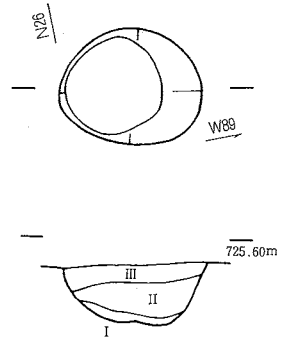
第1901号土坑



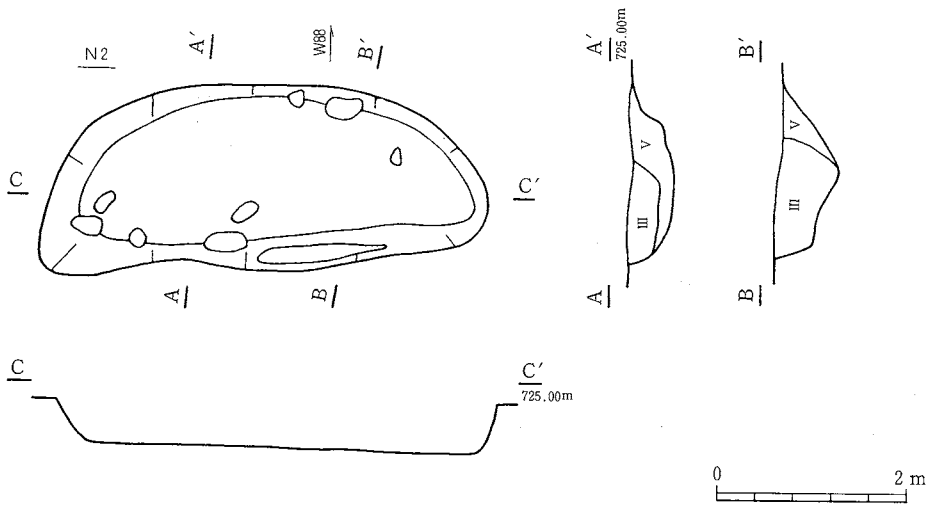
第1929号土坑



第1936号土坑

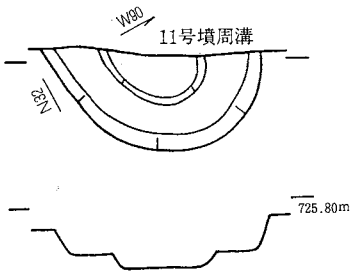


第1868号土坑

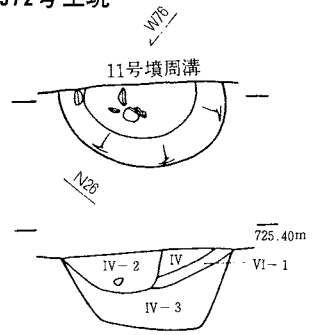


第48图 土坑实测图 (12)

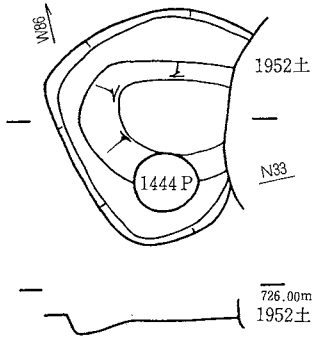
第1948号土坑



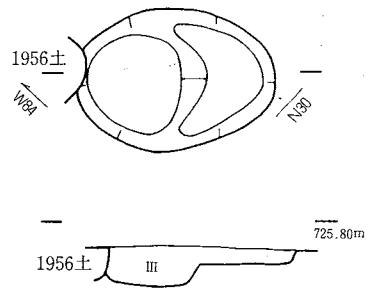
第1972号土坑



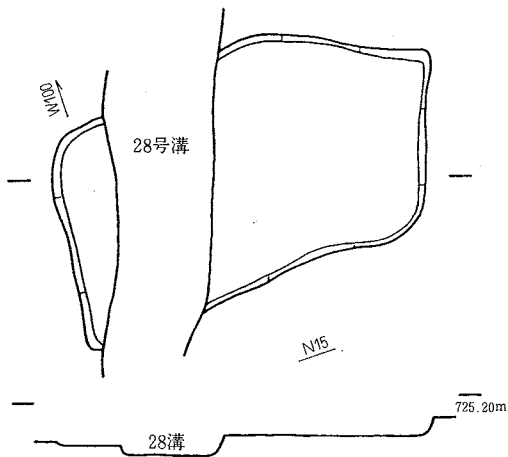
第1953号土坑



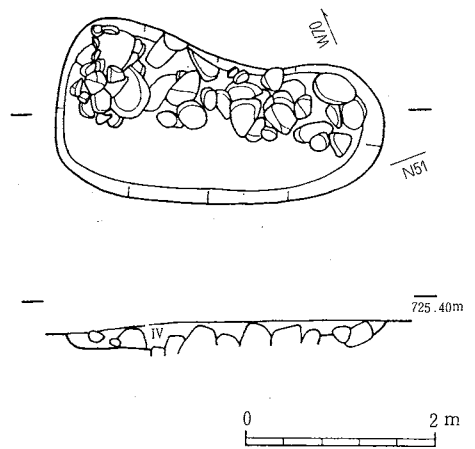
第1952号土坑



第1912号土坑

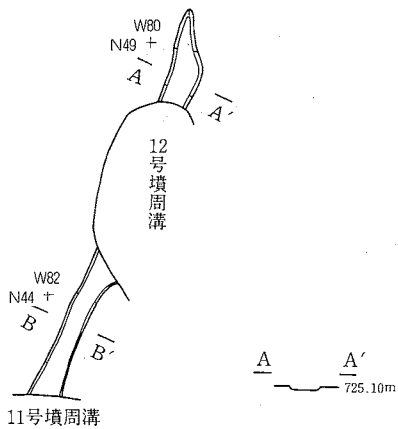


第1968号土坑

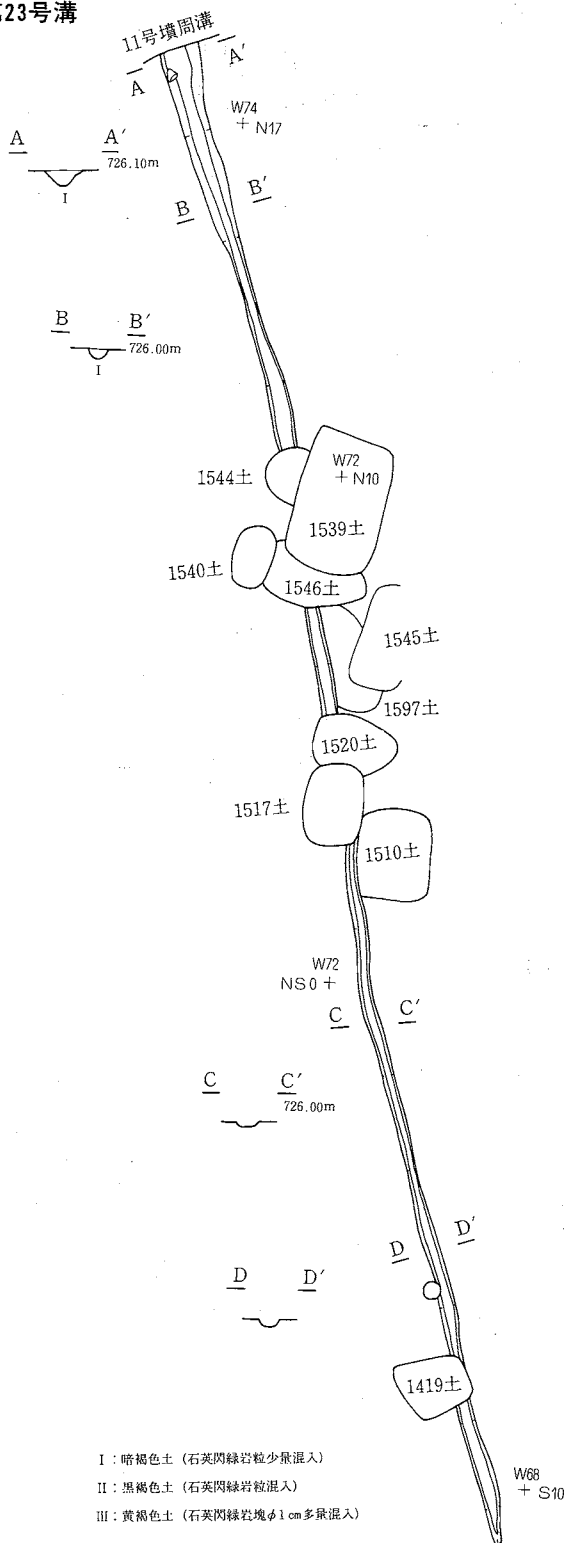


第49图 土坑实测图 (13)

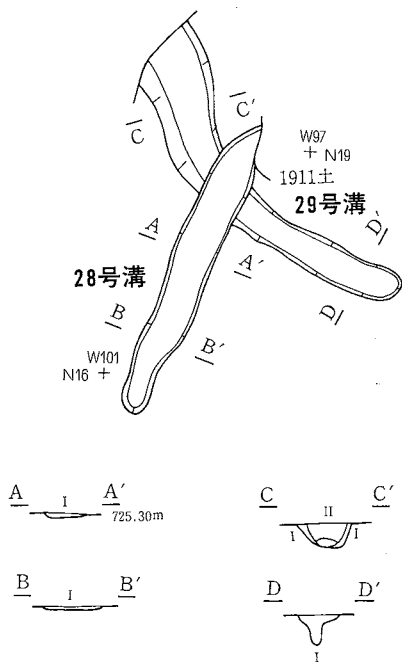
第32号溝



第23号溝



第28・29号溝

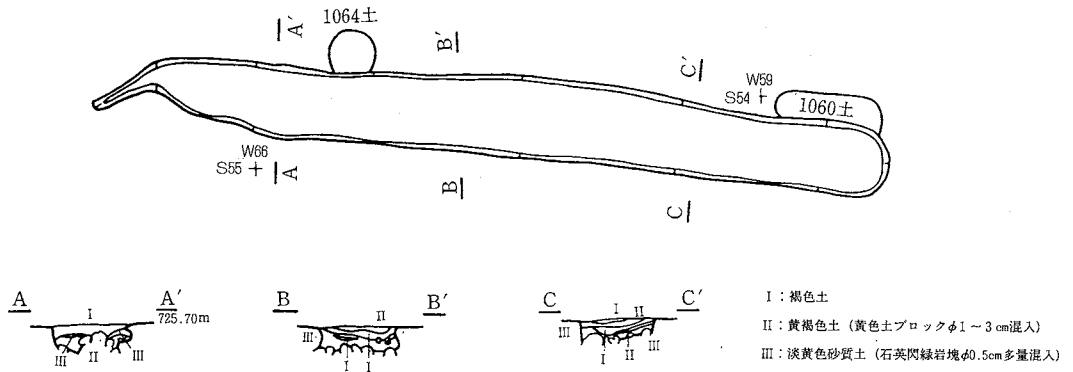


- I : 暗褐色土 (石英閃綠岩粒少量混入)
- II : 黑褐色土 (石英閃綠岩粒混入)
- III : 黄褐色土 (石英閃綠岩塊φ1cm多量混入)

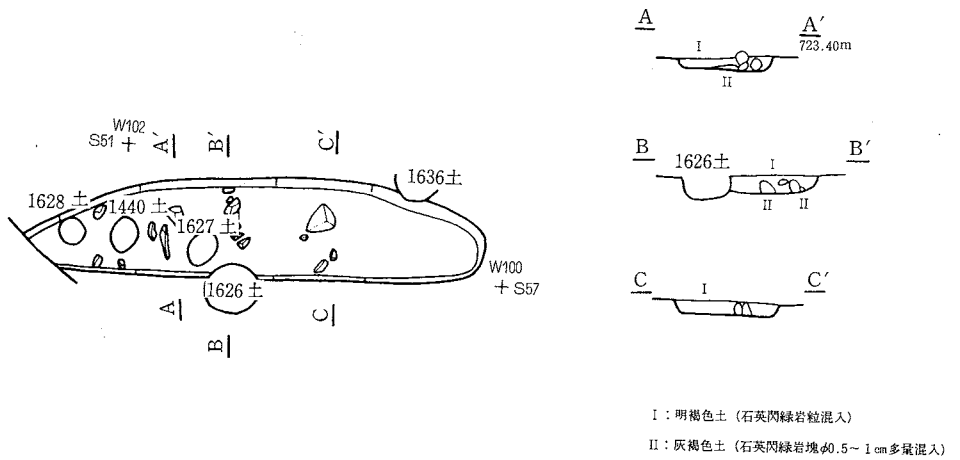
第50図 溝実測図(1)



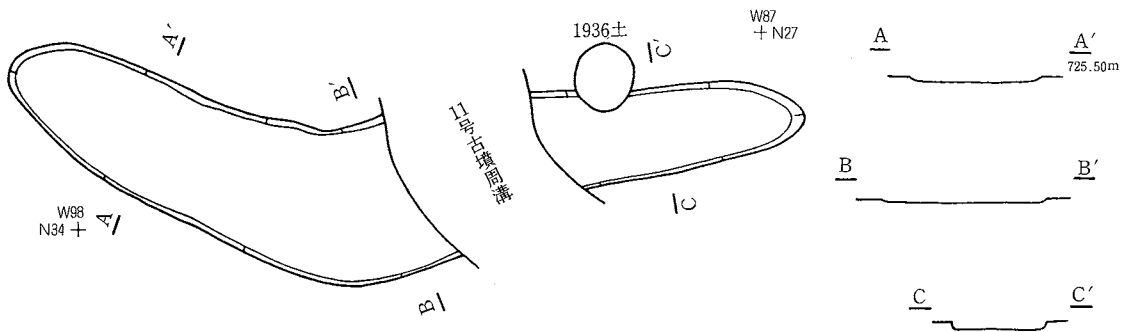
第24号溝



第25号溝

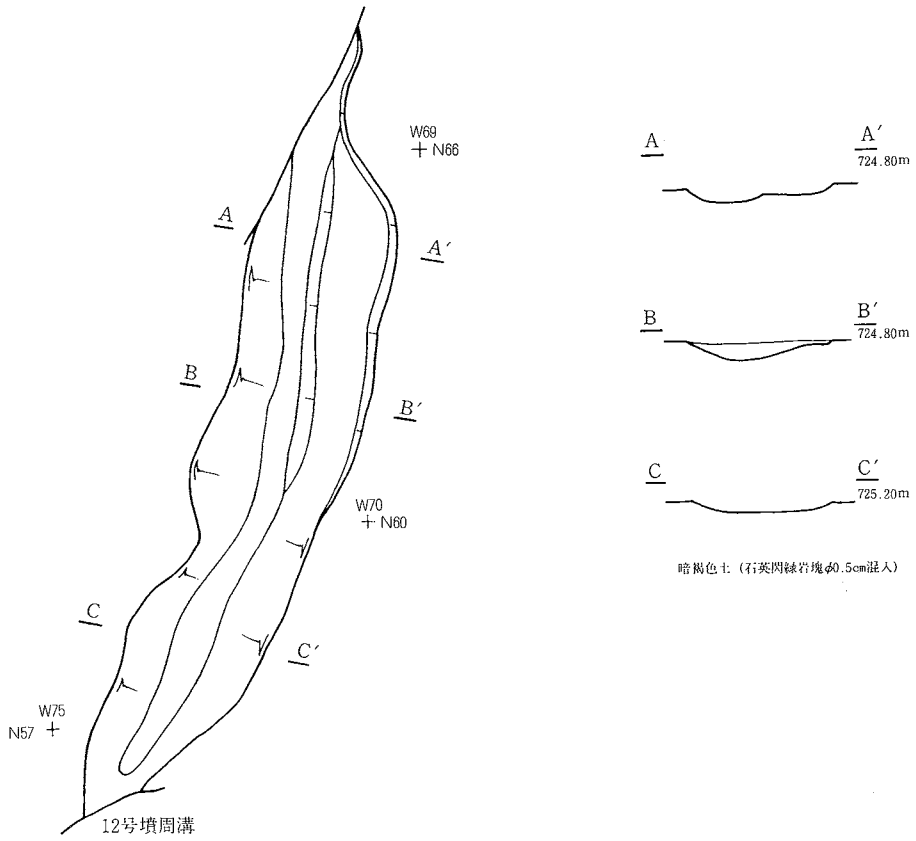


第30号溝

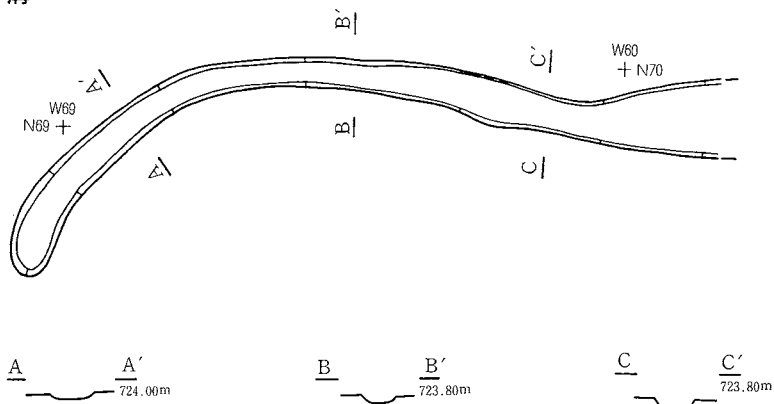


第51図 溝実測図(2)

第33号溝

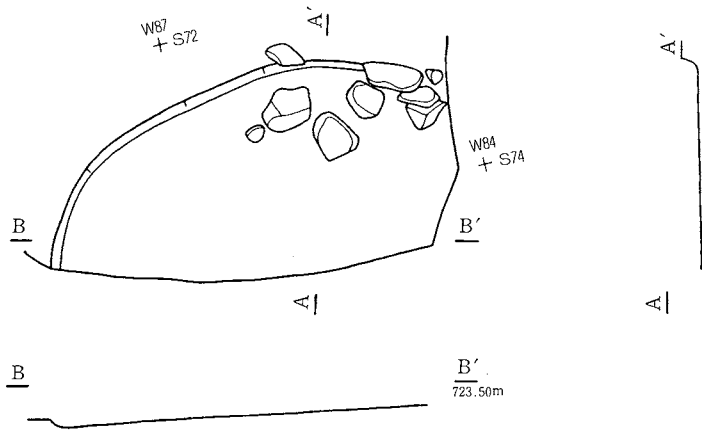


第34号溝

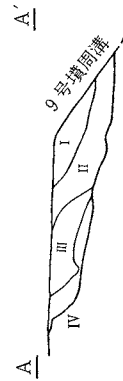
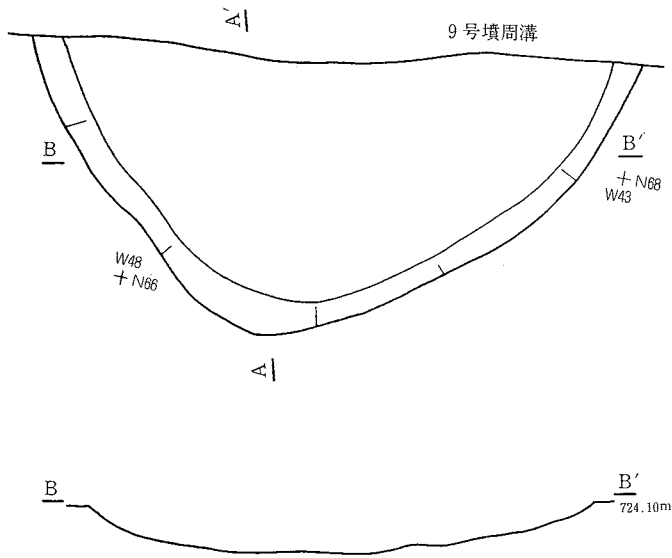


第52図 溝実測図(3)

第8号竖穴状遺構



第12号竖穴状遺構

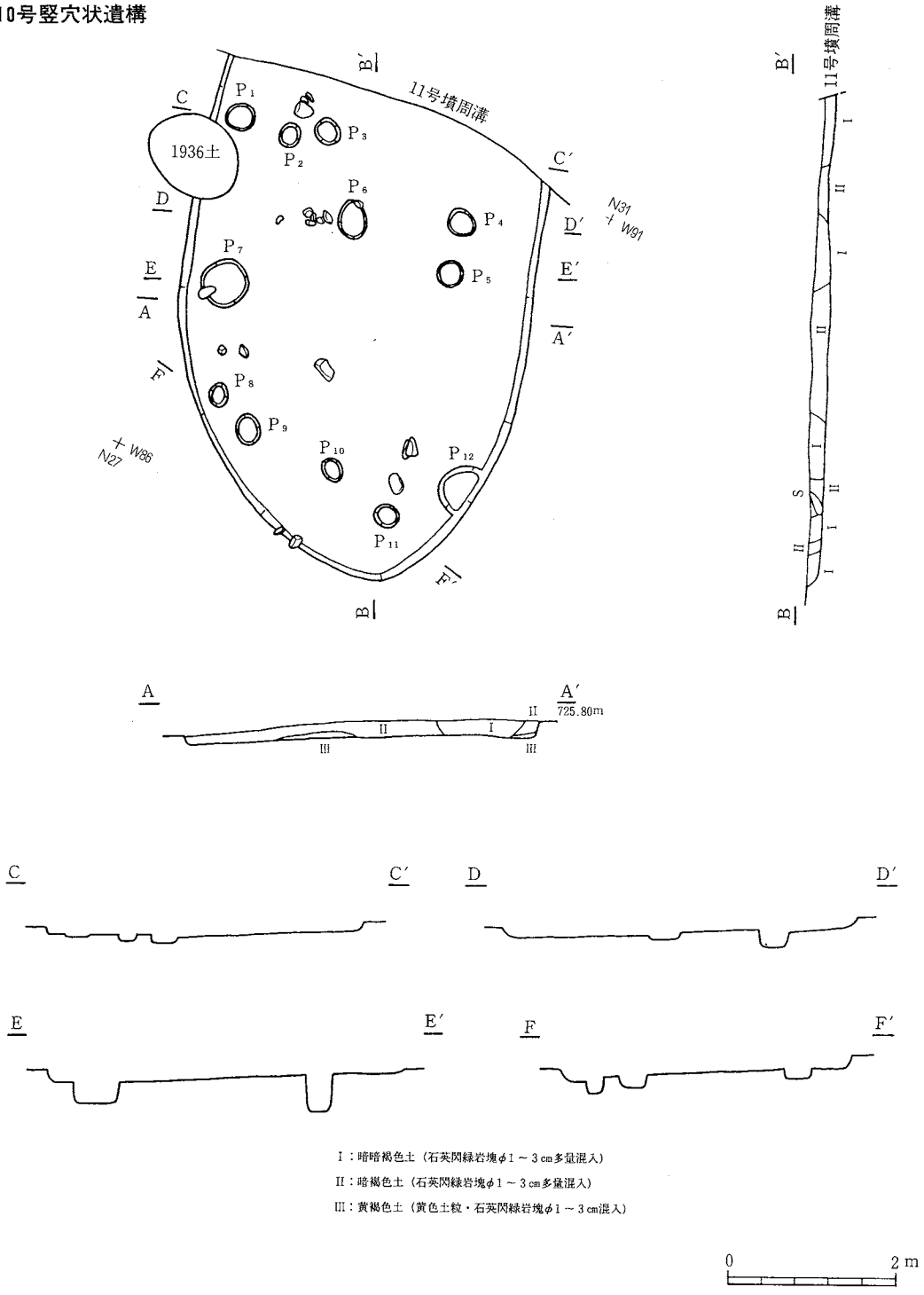


- I：褐色土（石英閃綠岩塊少量混入）
- II：暗褐色土（石英閃綠岩塊混入）
- III：茶褐色土（石英閃綠岩塊混入）
- IV：黄褐色土（石英閃綠岩塊・黄色土粒混入）



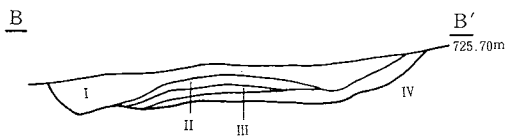
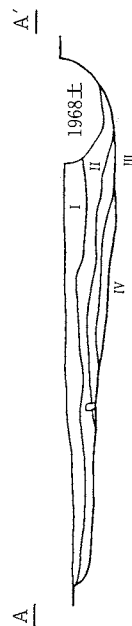
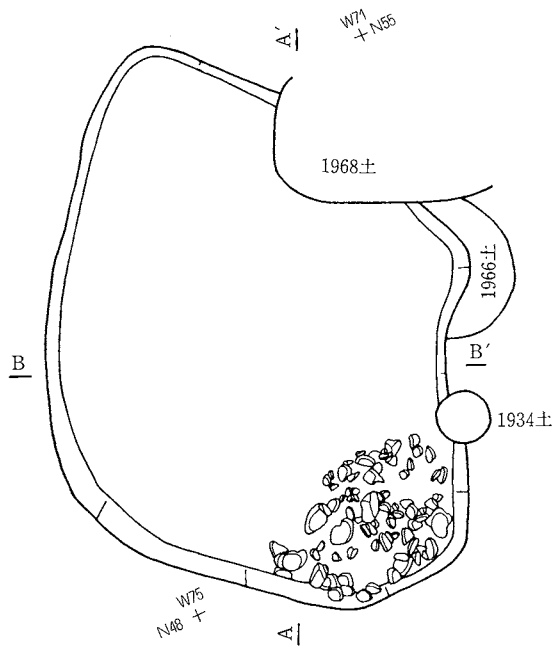
第53図 竖穴状遺構（1）

第10号竖穴状遺構



第54图 竖穴状遺構 (2)

第11号竖穴状遺構

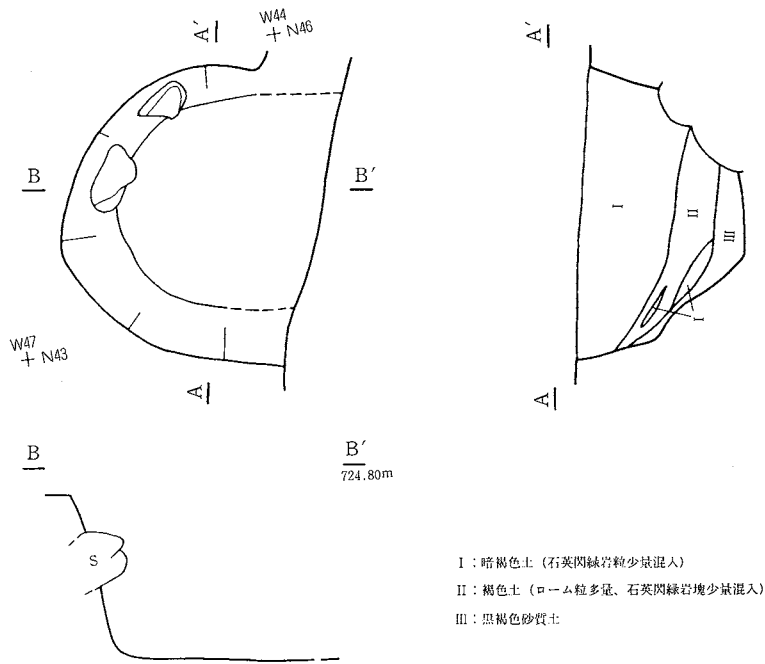


- I : 褐色土 (炭化物φ0.5~20cm、ローム塊φ3~10cm混入)
- II : Iより明るい褐色土 (礫混入)
- III : 褐色土 (ローム塊φ0.5~2cm多量混入)
- IV : 暗褐色土 (ローム塊φ10cm混入)

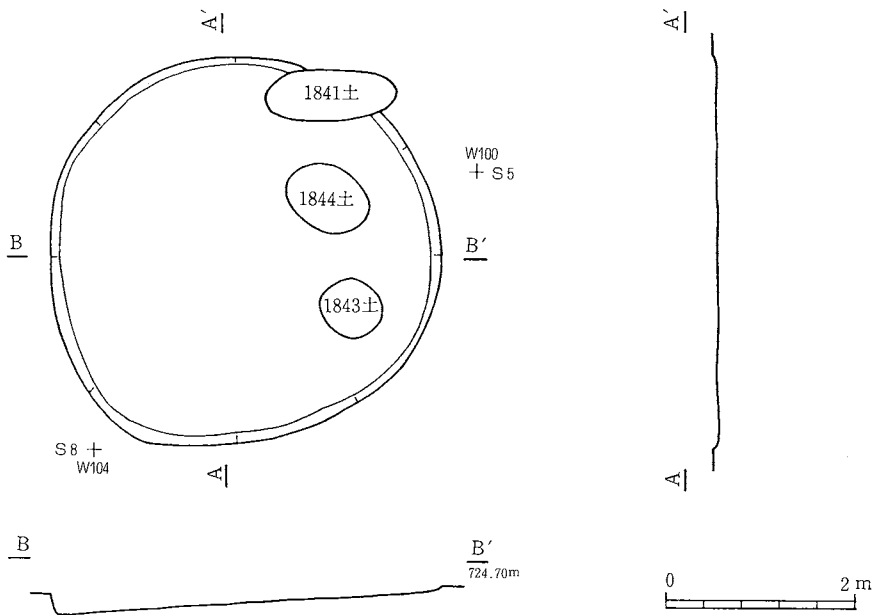


第55図 竖穴状遺構 (3)

第13号竖穴状遺構



第14号竖穴状遺構



第56图 竖穴状遺構 (4)

第2表 住居址一覧表

(床面積については現況復元を示す)

遺構 No.	年度	図 No.	主 軸	平面形 規模 (cm)	床面積 (㎡)	炉位置	炉形態 規模 (cm)	時期	出土遺物	備 考
1	62	II	N-65°-W	隅丸方形 576×566×25	<u>27.0</u> 27.9	中央西寄り	地床炉 42×48	古墳 前期	土師器高坏、壺	30土を切る。27・28・31土に切られる。
2	62	II	(N-0°)	(隅丸方形) (384)×376×48	<u>10.0</u> 13.8	柱穴間	地床炉 100×60	古墳 前期	土師器壺、埴、甕	5住を切る。4溝に切られる。
3	62	II	(N-11°-E)	(隅丸方形) 500×(380)×25	<u>14.0</u> 23.0	(中央)	地床炉 40×40	古墳 前期	土師器壺、甕	
4	62	II	N-90°-E	隅丸長方形 378×290×50	<u>9.0</u> —	なし	—	古墳 前期	土師器壺、鉢、甕、埴	
5	62	II	不明	不明 (322)×(160)×24	<u>1.1</u> 不明	不明	—	古墳 前期	土師器甕	2住・4溝に切られる。
6	62	I	(N-0°)	(隅丸方形) 500×(330)×40	<u>11.5</u> 23.7	不明	—	古墳 前期	土師器高坏、鉢、甕、直口壺、手づくね	7・8住を切る。55・56・124・125土に切られる。55土床面下に貯蔵穴あり。
7	62	I	N-90°-W	方形 860×820×40	<u>37.6</u> 66.2	柱穴間	地床炉 45×36	古墳 前期	土師器高坏、鉢、甕、瓢壺、壺、埴	8・41住、382・388土を切る。6・32住、56・60・124・125・389・390・391・392土に切られる。
8	62	I	(N-0°)	(隅丸方形) 520×(200)×50	<u>7.9</u> 32.3	不明	—	古墳 前期	土師器鉢、甕、壺、台付甕	6・7住、55・57・120・123土に切られる。
9	62	I	(N-104°-E)	方形 410×(200)×30	<u>11.8</u> 18.9	不明	—	古墳 前期		77・78土を切る。
10	62	I	(N-101°-E)	(不整形) 400×(304)×16	<u>8.6</u> 不明	不明	—	古墳 前期		94・95・97土に切られる。
11	62	II	N-0°	不整形 490×476×12	<u>14.2</u> 16.2	中央	地床炉 24×18	縄文 中期 初頭	縄文土器、深鉢	128・129・130・131・200・259土に切られる。
12	62	II	N-165°-W	隅丸方形 680×670×9	<u>38.8</u> 41.5	柱穴間	地床炉 44×48	古墳 前期	土師器高坏、器台、埴、甕、土製勾玉	145・155・156・157・161・165土に切られる。焼失住居、間しきり溝あり。
13	62	II	N-0°	隅丸方形 523×522×25	<u>24.4</u> —	不明	—	古墳 前期	土師器高坏、壺、埴、鉢、ミニチュア	250土を切る。246・290土に切られる。
14	62	II	(N-169°-E)	隅丸方形 568×516×20	<u>25.9</u> —	なし	—	古墳 前期	土師器器台、甕、紡錘車、金埴	15住に貼られる。
15	62	II	(N-162°-E)	隅丸方形 754×680×25	<u>49.7</u> —	不明	—	古墳 前期	土師器高坏、壺、器台、甕、台付甕、S字甕	14住を貼る。277・278・353土に切られる。
16	62	II	(N-14°-E)	(方形) (450)×432×8	<u>17.5</u> 18.9	中央	地床炉 60×60	古墳 前期	土師器甕、ミニチュア	281土に切られる。
17	62	II	(N-0°)	不明 240×200×13	<u>8.1</u> 不明	不明	—	古墳 前期		
18	62	II	(N-49°-E)	不明 (460)×(420)×(13)	<u>不明</u> —	不明	—	古墳 前期	土師器高坏、埴、小形壺、ミニチュア	289・290土に切られる。間仕切りあり。

遺構 No.	年 度	図 No.	主 軸	平 面 形 規 模 (cm)	床面積 (㎡)	炉位置	炉形態 規模 (cm)	時期	出 土 遺 物	備 考
19	62	II	N-90°-E	不整円形 354×276×16	<u>7.7</u> 8.1	なし	—	古墳 前期		202土を切る。201土に切られる。
20	62	II	N-158°-E	隅丸方形 430×380×( 3)	<u>15.1</u> —	なし	—	古墳 前期		
21	62	II	N-162°-E	隅丸方形 440×440×( 3)	<u>17.1</u> 17.9	柱穴間	地床炉 54×50	古墳 前期	土師器甕、壺、 S字甕	374土、P199に切られる。
22	62	II	不明	不明 (620)×(164)×40	<u>10.2</u> 不明	不明		古墳 前期	土師器高坏、壺、 甕、台付甕	29住を切る。
23	62	II	(N-2°-E)	(隅丸方形) 556×(364)×8	<u>17.1</u> 32.1	不明		古墳 前期	土師器高坏、壺 甕 S字甕、器台	312・618・621・772・774・787・ 788・789土に切られる。
24	62	II	N-87°-E	(方形) 680×(620)×20	<u>27.9</u> 39.6	柱穴間 柱穴間	縁石埋甕炉 ①. 42×32 ②. 35×22	古墳 前期	土師器高坏、甕	670・673・683・687・688・690・691・ 700・771土、P275・P288に切られる。 炉は①の方が②より新しい。
25	62	II	(N-14°-E)	(隅丸方形) (318)×(210)×16	<u>5.7</u> 不明	不明		古墳 前期		757・776土に切られる。
26	62	II	N-166°-E	隅丸方形 382×330×15	<u>11.2</u> —	中央	地床炉 32×22	古墳 前期		757土に切られる。
27	62	II	(N-3°-E)	(隅丸方形) 520×(270)×32	<u>10.8</u> 24.2	不明		古墳 前期		28住を切る。775・783土に 切られる。
28	62	II	(N-4°-E)	(隅丸方形) 402×(140)×8	<u>5.2</u> 15.6	不明		古墳 前期		27住、775・783土に切られ る。
29	62	II	不明	不明 (392)×(56)×20	<u>1.0</u> 不明	不明		古墳 前期	土師器小形甕、 壺、台付甕	22住に切られる。
30	62	II	(N-124°-E)	(隅丸方形) 620×(460)×24	<u>20.2</u> 30.2	柱穴間	地床炉 124×100	古墳 前期	土師器高坏、甕、 小形甕	北側にベット状遺構あり。
31	62	I	N-10°-E	隅丸長方形 480×350×32	<u>9.5</u> 13.8	不明		古墳 前期	土師器高坏、甕、 壺	383・384・385・386・405・ 504土に切られる。
32	62	I	N-6°-E	隅丸方形 310×310×30	<u>9.0</u> —	なし	—	古墳 前期	土師器埴、壺、 甕	7・41住、409土を切る。393 土に切られる。
33	62	I	(N-6°-E)	方形 340×(260)×20	<u>0.6</u> 10.9	不明		古墳 前期		412・414・415・416・436・ 439・503土に切られる。
34	62	I	(N-81°-W)	(隅丸長方形) (544)×(440)×—	<u>—</u> 26.2	柱穴間	地床炉 30×34	古墳 前期		床面まで削平され、ピット・ 炉のみ残る。
35	62	I	N-16°-E	隅丸長方形 360×260×12	<u>7.7</u> —	なし	—	古墳 前期	土師器壺、陶器 丸皿	545土に切られる。
36	62	I	N-68°-E	隅丸方形 540×530×35	<u>24.5</u> —	中央	地床炉 48×40	古墳 前期	土師器高坏、甕、 台付甕、壺	溝に切られる。



遺構 No.	年 度	図 No.	主 軸	平 面 形 規 模 (cm)	床面積 (㎡)	炉位置	炉形態 規模 (cm)	時期	出 土 遺 物	備 考
37	62	I	N-22°-E	隅丸長方形 860×(700)×20	$\frac{41.7}{55.1}$	柱穴間 柱穴間	埋甕炉 ①. 60×49 ②. 41×31 地床炉 ①. 48×46 ②. 48×42	古墳 中期	土師器高坏、甕、 台付甕、壺	6号墳丘下に存在、東側削平。 509・584・588・589・590・591・ 596土に切られる。
38	62	I	(N-12°-E)	方形 590×(430)×6	$\frac{26.4}{32.6}$	不明		古墳 前期	土師器高坏	東側削平。
39	62	I	不明	不明 (248)×(108)×15	$\frac{2.0}{不明}$	不明		古墳 中期	須恵器蓋、土師 器高坏、坏、壺	焼失住居。817土を切る。42 住、7号墳周溝に切られる。
40	62	II	(N-46°-E)	(隅丸方形) 750×(680)×30	$\frac{24.3}{59.8}$	不明		古墳 前期	土師器甕、台付 甕、壺	400土を切る。7・32住に切 られる。
41	62	I	不明	不明 (136)×(96)×41	$\frac{1.0}{不明}$	不明		古墳 前期	土師器鉢、埴	40住を切る。7号墳周溝に 切られる。
42	62	II	(N-175°-E)	(隅丸方形) 536×(344)×40	$\frac{16.1}{27.7}$	不明		古墳 前期		床面まで削平され、ピット・ 周溝の一部のみ残る。
43	62	I	不明	不明 (520)×(160)×—	$\frac{—}{不明}$	不明		古墳 前期	土師器器台、埴、 直口壺、壺	焼失住居か。 873土に切られる。
44	62	II	N-65°-E	隅丸方形 590×706×16	$\frac{39.0}{—}$	柱穴間	縁石地床炉 30×28	古墳 前期	土師器台付甕、 ミニチュア	P586を切る。920・926土に 切られる。
45	62	II	N-14°-W	隅丸方形 640×620×20	$\frac{37.7}{—}$	柱穴間	埋甕炉 90×90	古墳 前期	土師器高坏、甕、 台付甕、手づくね	946・947土に切られる。
46	62	I	N-50°-E	隅丸方形 340×320×10	$\frac{8.1}{9.2}$	不明		古墳 前期	土師器直口壺、 埴、鉢、壺	930土を切る。899・927・928 土に切られる。
47	62	II	N-20°-E	隅丸長方形 520×378×16	$\frac{18.0}{—}$	不明		古墳 前期	土師器壺、ミニ チュア	946・947土に切られる。
50	63	3	N-15°-E	隅丸長方形 608×525×16	$\frac{28.2}{—}$	柱穴間	地床炉 ①. 22×20 ②. 22×20 ③. 22×20	古墳 前期	土師器甕、甌	553土、P804を切る。
51 A	63	4	N-10°-E	隅丸長方形 552×424×28	$\frac{20.8}{—}$	南西寄り	地床炉 36×34	古墳 前期	土師器小形丸底 埴、壺、甕	二重床。東側にベット状遺 構あり。1091土に切られる。
51 B	63	5	N-10°-E	隅丸長方形 552×424×32	$\frac{20.8}{—}$	不明		古墳 前期		周溝あり。 1091土に切られる。
52	63	6	N-15°-W	隅丸長方形 828×612×24	$\frac{40.8}{—}$	中央	地床炉 68×64	縄文 中期 初頭	縄文土器深鉢、 石器	1044・1112・1113土に切ら れる。
53	63	8	N-110°-E	隅丸方形 548×536×44	$\frac{25.5}{—}$	柱穴間 中央 柱穴間 柱穴間	地床炉 ①. 58×52 ②. 46×34 ③. 48×46 ④. 42×36	古墳 前期	土師器壺、甕、 鉢、高坏	焼失住居。 10号墳周溝に切られる。

遺構 No.	年度	図 No.	主 軸	平面形 規模 (cm)	床面積 (㎡)	炉位置	炉形態 規模 (cm)	時期	出土遺物	備 考
54	63	9	N-15°-E	隅丸方形 328×308×16	$\frac{8.8}{—}$	不明		古墳 前期	土師器片	1596・1971土に切られる。
55	63	9	N-25°-E	不整形 608×604×16	$\frac{31.1}{—}$	不明		古墳 前期	土師器片	
56	63	10	N-25°-W	楕円形 960×676×52	$\frac{49.6}{—}$	中央 中央 北寄り	地床炉 ①. 58×56 ②. 52×50 ③. 50×44	縄文 中期 初頭	縄文土器深鉢、石 器、土偶、石棒	61住を切る。
57	63	13	N-25°-E	(楕円形) (432)×496×24	$\frac{16.6}{23.3}$	不明		縄文	縄文土器片、土 師器片	
58	63	13	N-0°	楕円形 384×316×24	$\frac{8.5}{8.8}$	中央	埋甕炉 10×10	縄文 中期 初頭	縄文土器深鉢、 石器	59住を切る。1746土に切ら れる。
59	63	14	N-80°-W	(楕円形) (330)×308×20	$\frac{7.3}{9.3}$	不明		縄文 中期 初頭	縄文土器深鉢	58住、1746・1772土に切ら れる。 ビット内に完形土器あり。
60	63	14	N-0°	(円形) 420×420×32	$\frac{11.0}{11.5}$	不明		縄文 中期 初頭	縄文土器片	58住に切られる。
61	63	15	不明	(不整形) 360×(208)×16	$\frac{6.0}{9.3}$	不明		縄文	土師器片、石器	56住、1070土に切られる。
62	63	15	N-110°-E	不整形 372×320×16	$\frac{9.0}{9.1}$	不明		縄文		1700・1800・1805土に切ら れる。
63	63	16	N-45°-W	(隅丸長方形) 488×424×28	$\frac{7.8}{16.2}$	不明		古墳 前期	土師器台付甕、 石器	12号墳周溝に切られる。
64	63	16	N-15°-E	(長方形) 532×(304)×36	$\frac{12.4}{19.1}$	(中央)	地床炉 32×26	古墳 前期	土師器甕、台付 甕、高坏、器台	12号墳周溝に切られる。
65	63	19	N-0°	不明 (412)×368×20	$\frac{11.9}{不明}$	(中央北寄り)	地床炉 ①. 32× 32 ②. 30× (16)	古墳 前期	土師器高坏、石 器	12号墳周溝に切られる。
66	63	17	N-25°-E	隅丸方形 564×552×32	$\frac{25.3}{27.2}$	(中央北寄り)	地床炉 42×38	古墳 前期	土師器壺、甕、 台付甕、蓋、器 台、石器	12号墳周溝に切られる。
67	63	18	N-20°-E	(隅丸方形) 764×748×32	$\frac{27.9}{51.4}$	(中央北寄り)	地床炉 40×32	古墳 前期	土師器壺、鉢、 台付甕、砥石	11号・12号墳周溝に切られ る。
68	63	19	N-15°-E	隅丸方形 336×312×28	$\frac{8.5}{—}$	不明		古墳 前期	土師器高坏	11号墳周溝に切られる。
69	63	19	不明	不明 324×(142)×28	$\frac{2.4}{不明}$	不明		古墳 前期	土師器片、壺	11号墳周溝に切られる。
70	63	20	N-0°	(隅丸長方形) (412)×612×16	$\frac{22.4}{39.7}$	柱穴間	地床炉 ①. 72×64 ②. 40×(28)	古墳 前期	土師器器台	11号墳周溝に切られる。

第3表 向畑Ⅲ土坑一覧表

<…切られる >…切る

番号	旧番号	区	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1000			S 60-W57	楕円形94×70	B 42	a	縄文		
1001		37	S 54-W60	長方形154×130	B 20	a	縄文	>1002土	
1002			S 54-W60	楕円形(88)×62	B 20	a	縄文	> P1208、<1001土	
1003			S 54-W63	楕円形104×85	B 30	a	縄文		
1004		37	S 54-W66	円形78×74	B 40	a	縄文	>1005土	
1005			S 57-W63	楕円形(78)×(54)	A 16	a	縄文	<1004土	
1006			S 57-W63	円形86×78	C 48	a	縄文	> P1207	
1007			S 57-W66	円形65×61	C 30	a	縄文		
1008		37	S 57-W69	楕円形163×116	A 10	a	縄文	>1009土	
1009			S 57-W69	円形(80)×70	B 16	a	縄文	<1008土	
1010			S 54-W69	円形74×74	C 40	a	縄文	>1011土	
1011			S 54-W69	円形71×(70)	A 16	a	縄文	>1014土、<1010土	
1012		37	S 54-W72	円形94×90	A 14	a	縄文	>1014土・1015	
1013			S 54-W72	円形50×42	A 20	a	縄文	>1015土	
1014			S 54-W72	楕円形(94)×80	A 16	a	縄文	>1015土、<1011土・1012	
1015			S 54-W72	楕円形(78)×70	A 12	a	縄文	<1012土・1013・1014	
1016			S 57-W72	楕円形180×60	C 12	a	縄文		
1017			S 51-W72	楕円形134×84	E 60	a	縄文	>1018土	
1018			S 51-W72	楕円形130×(120)	C 46	a	縄文	> P1204、<1017土	
1019			S 51-W72	楕円形152×83	A 20	a	縄文	< P1162	
1020			S 54-W75	楕円形62×44	B 33	a	縄文	>1021土	
1021			S 54-W75	円形64×64	B 30	a	縄文	<1020土	
1022			S 54-W75	楕円形66×52	A 50	a	縄文		
1023			S 57-W75	円形54×54	B 26	a	縄文		
1024			S 57-W75	楕円形82×74	B 26	a	縄文		
1025			S 54-W78	円形78×72	C 14	a	縄文		
1026			S 54-W78	円形64×56	B 22	a	縄文		
1027			S 57-W78	円形60×60	B 22	a	縄文		
1028		37	S 57-W78	円形76×68	A 10	a	縄文		
1029			S 60-W81	円形67×60	A 10	a	縄文		
1030		37	S 60-W84	円形123×114	A 14	a	縄文		
1031			S 54-W87	円形66×63	C 28	a	縄文		
1032			S 60-W87	円形86×86	C 32	a	縄文		
1033		37	S 60-W90	楕円形196×159	B 50	a	縄文		
1034			S 63-W90	円形66×66	A 20	a	縄文		
1035			S 63-W93	楕円形92×68	C 28	a	縄文		
1036			S 60-W93	円形(90)×88	C 23	a	縄文		
1037			S 57-W93	隅丸方形92×68	C 28	a	縄文		
1038		38	S 57-W90	円形70×70	D 38	a	縄文		
1039			S 57-W90	円形80×76	C 24	a	縄文		
1040			S 54-W90	円形66×64	B 24	a	縄文	>1041土	
1041		38	S 54-W90	円形(60)×60	B 14	a	縄文	<1040土	石器
1042		38	S 54-W90	円形86×86	C 24	a	縄文	> P1190	
1043			S 54-W93	楕円形64×54	B 24	a	縄文		

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模 (cm)	断面形 深さ (cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1044			S 51-W93	円形118×106	B17	a	縄文	>52住	
1045		38	S 54-W87	円形89×84	C40	b	縄文		縄文土器
1046			S 54-W87	円形66×64	C22	a	縄文	>1047土	
1047			S 54-W87	円形(76)×76	C25	a	縄文	<1046土	
1048			S 54-W87	楕円形90×70	B28	a	縄文		
1049			S 57-W87	円形62×60	C20	a	縄文		
1050			S 54-W84	楕円形70×50	B14	a	縄文		
1051			S 57-W86	円形82×73	B22	a	縄文		
1052			S 54-W86	円形86×86	B18	a	縄文		
1053			S 54-W81	楕円形100×74	C60	a	縄文	>1054土	
1054			S 54-W81	楕円形(100)×92	A40	a	縄文	<1053土	
1055			S 54-W78	円形80×73	B23	a	縄文		
1056			S 57-W81	円形70×68	B20	a	縄文		
1057			S 51-W54	円形90×90	A24	a	縄文		
1058		38	S 54-W54	円形60×60	A16	a	縄文		
1059			S 54-W54	楕円形70×55	C16	a	縄文		
1060			S 54-W57	隅丸長方形170×(50)	C20	a	縄文	>24溝	
1061			S 51-W57	不整円形140×177	B18	a	縄文		
1062			S 3-W86	楕円形(74)×66	B14	a	縄文		
1063			S 51-W63	円形73×72	C26	a	縄文		
1064			S 48-W60	円形(73)×74	B14	a	縄文		
1065			S 48-W60	円形76×73	A42	a	縄文		鉄滓
1066		38	S 48-W60	円形111×110	C12	a	縄文		
1067			S 45-W60	方形79×72	C26	a	縄文		
1068			S 42-W54	楕円形162×106	C20	a	縄文		
1069			S 54-W51	円形96×83	C20	a	縄文	>1070土	土師器
1070			S 45-W57	楕円形146×113	C7	a	縄文	>P1175、<1069土	石器
1071			S 45-W57	楕円形100×88	B26	a	縄文		
1072			S 48-W57	円形62×56	B68	a	縄文		
1073			S 42-W57	楕円形195×117	F50	a	縄文		
1074			S 42-W60	楕円形76×56	B30	a	縄文		
1075			S 48-W66	円形142×122	C32	a	縄文		
1076			S 42-W63	円形87×80	C16	a	縄文		
1077			S 45-W63	円形(86)×94	A16	a	縄文		
1078		38	S 45-W63	楕円形118×80	B55	a	縄文	>P1164	
1079			S 51-W66	円形60×55	C30	a	縄文		
1080			S 51-W69	楕円形88×55	B20	a	縄文		
1081			S 48-W72	円形92×80	C20	a	縄文	>1371土	
1082		39	S 45-W72	楕円形255×168	B15	a	縄文	>1084土	
1083			S 45-W69	円形66×63	B16	a	縄文		
1084		38	S 45-W75	円形168×(126)	B18	a	縄文	>1085土、<1082土	
1085			S 45-W75	円形120×(60)	B12	a	縄文	<1082土・1084土	
1086			S 45-W72	円形90×86	F10	c	縄文		
1087			S 42-W72	楕円形78×58	B30	a	縄文	>1088土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1088			S 42-W72	楕円形110×84	A 16	a	縄文	<1087土	
1089			S 42-W72	楕円形115×94	A 14	a	縄文		
1090			S 39-W72	楕円形112×92	B 30	a	縄文		
1091			S 49-W69	長方形121×83	A 14	a	縄文	>1092土	
1092			S 49-W69	円形74×(54)	A 32	a	縄文	>1093土、<1091土	
1093			S 43-W72	楕円形103×95	C 20	a	縄文	<1092土	
1094			S 48-W72	円形98×98	B 30	a	縄文		縄文土器
1095			S 51-W78	楕円形105×89	B 26	a	縄文		
1096			S 48-W81	円形196×190	B 22	a	縄文	>1097・1100・1101土	
1097			S 48-W81	円形126×180	C 44	a	縄文	<1096土	
1098			S 48-W81	円形102×92	C 30	a	縄文		
1099			S 51-W81	楕円形125×98	B 18	a	縄文		
1100			S 48-W84	楕円形(100)×100	B 38	b	縄文	<1096土	
1101		38	S 45-W81	楕円形210×176	B 16	a	縄文	>1102土、<1096土	
1102			S 48-W81	円形144×(70)	B 16	a	縄文	<1101土	
1103			S 45-W78	円形136×134	B 44	a	縄文		
1104			S 42-W75	円形95×86	B 24	b	縄文		
1105		40	S 42-W78	円形59×59	B 14	a	縄文		
1106			S 42-W75	円形77×66	B 14	a	縄文	> P 1122、< P 1123	
1107			S 45-W86	円形60×60	B 16	a	縄文		
1108			S 3-W78	方形(210)×(190)	B 36	a	縄文	<1473・1491・1492・1494・1496土	鉄器
1109			S 45-W86	円形60×60	B 12	a	縄文		
1110			S 48-W84	円形125×113	B 22	b	縄文	> P 1152	
1111			S 51-W81	円形60×58	B 10	a	縄文		
1112			S 48-W40	楕円形72×46	B 20	a	縄文	>52住	
1113			S 48-W93	楕円形66×52	B 30	a	縄文	>52住	
1114		40	S 42-W84	楕円形142×96	C 28	a	縄文		縄文土器
1115			S 42-W81	円形87×82	C 11	a	縄文		
1116			S 36-W54	不整形136×114	C 8	a	中世	<1118土	
1117			S 33-W51	長方形192×158	A 34	b	中世		
1118			S 36-W51	方形113×178	C 10	a	中世	>1116土	
1119			S 33-W54	長方形120×50	B 26	b	中世		
1120			S 36-W57	楕円形176×110	B 18	b	中世		
1121		39	S 30-W54	長方形250×146	B 34	b	中世		
1122			S 35-W57	楕円形158×60	A 72	b	中世	> P 1106	
1123		39	S 30-W57	楕円形204×153	A 96	b	中世	>1124土	
1124			S 33-W60	方形(106)×90	B 38	a	中世	<1123土	
1125			S 33-W63	長方形196×165	B 22	a	中世	> P 1100	
1126			S 33-W60	長方形126×95	C 20	a	中世		
1127			S 36-W60	長方形216×140	A 38	a	中世		
1128			S 36-W60	長方形164×90	B 12	a	中世		
1129			S 36-W60	円形146×86	A 40	a	縄文		石器
1130			S 36-W63	楕円形108×86	A 42	a	縄文	< P 1103	
1131			S 39-W57	円形65×64	F 46	a	縄文		

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模 (cm)	断面形 深さ (cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1132			S 39-W57	楕円形98×90	C 38	a	縄文		
1133			S 39-W60	楕円形100×94	C 22	a	縄文		
1134			S 39-W60	円形90×85	C 7	a	縄文		
1135		40	S 39-W60	楕円形90×62	B 16	a	縄文		
1136			S 42-W63	円形52×48	C 40	a	縄文		
1137			S 39-W60	楕円形73×62	F 8	a	縄文		
1138			S 39-W66	円形70×60	C 21	a	縄文		
1139			S 39-W66	楕円形99×73	B 20	a	縄文		
1140			S 39-W63	楕円形98×82	F 60	a	不明	> 1141・1699土、< 1341土	
1141			S 39-W66	楕円形(105)×(65)	C 14	b	不明	> P1139、< 1140・1142・1343・1699土	
1142			S 39-W66	隅丸方形112×95	B 20	b	不明	> 1141土、< 1341土	
1143			S 39-W66	楕円形118×89	B 24	a	縄文	> 1144土	
1144			S 36-W66	楕円形(76)×72	F 24	a	縄文	< 1143土	
1145			S 36-W69	楕円形134×170	B 30	a	縄文	< 1146土	
1146			S 36-W69	楕円形83×68	B 30	a	縄文	> 1145土	
1147			S 36-W66	楕円形106×94	B 30	a	縄文		
1148			S 36-W69	円形73×70	D 23	a	縄文		
1149			S 33-W69	楕円形108×90	C 34	b	縄文		
1150		40	S 36-W75	円形66×62	B 14	a	縄文		縄文土器
1151			N 6-W75	方形118×108	A 62	b	中世	> 1623土	
1152			S 39-W81	円形112×92	F 8	a	縄文		
1153			S 36-W78	方形203×135	A 36	b	中世	> 1154・1156土・P 1077・1079	
1154			S 36-W78	円形100×94	A 24	b	不明	< 1153土	
1155			S 36-W78	楕円形(65)×58	A 32	b	不明	> P 1078、< 1156土	
1156			S 36-W78	方形(70)×65	B 30	b	不明	> 1155土、< 1153土	
1157			S 39-W81	円形82×76	C 30	a	縄文		
1158			S 30-W84	円形82×65	B 26	b	縄文		
1159			S 36-W81	円形60×56	B 12	a	縄文		
1160			S 36-W84	円形125×108	B 50	b	縄文		
1161			S 36-W87	楕円形72×54	B 10	b	縄文		
1162			S 36-W87	円形116×104	C 22	a	縄文		
1163			S 36-W87	不整円形113×140	B 10	a	縄文	> 1164土	
1164			S 36-W87	楕円形273×160	B 14	a	縄文	< 1163・1166土	
1165			S 33-W90	楕円形(98)×84	B 28	a	縄文	> 1166・1167土、< 1168土	
1166			S 33-W90	円形120×(70)	B 22	a	縄文	> 1164・1167土、< 1165土	
1167			S 33-W90	方形70×53	C 26	a	縄文	< 1165・1166土	
1168			S 33-W87	円形69×64	B 28	a	縄文	< 1165・1166土	
1169			S 30-W87	円形66×54	B 10	a	縄文		
1170			S 33-W90	円形108×106	B 22	b	縄文	> P 1060	
1171			S 30-W87	楕円形104×70	B 36	b	縄文	> 1172土	
1172			S 33-W90	円形79×64	B 18	a	縄文	> P 1060、< 1171土	
1173		40	S 30-W90	円形105×105	B 24	b	縄文		耳飾
1174			S 33-W84	円形95×83	D 46	b	縄文		
1175			S 33-W81	方形144×122	D 32	b	縄文	> 1176土	

番号	旧番号	図	位 置	平 面 形 規 模 (cm)	断 面 形 深 さ (cm)	覆 土	時 期	切 り 合 い 関 係	備 考
1176			S33-W81	方 形154×(63)	B30	a	縄文	<1175土	
1177			S30-W84	隅丸方形96×84	C21	a	縄文		
1178			S30-W84	円 形116×104	B30	b	縄文		
1179			S30-W84	楕円形84×72	C28	b	縄文		
1180			S30-W81	楕円形76×64	C20	a	縄文		
1181			S30-W81	楕円形93×75	C24	a	縄文		
1182			S42-W66	楕円形62×53	B20	a	縄文		
1183			S24-W78	円 形84×84	B19	b	縄文		
1184			S30-W81	楕円形88×(50)	B16	a	縄文		
1185			S30-W81	円 形68×64	B18	a	縄文		
1186			S30-W78	円 形81×75	B16	a	縄文		
1187			S30-W78	楕円形88×70	B12	a	縄文		
1188			S33-W75	楕円形156×(63)	B36	b	縄文		
1189			S30-W75	長方形300×158	B22	b	中世		
1190			S30-W72	円 形105×85	C32	a	中世	>1191土	
1191		40	S30-W72	隅丸方形80×62	E50	a	縄文	<1190土	
1192			S30-W69	円 形125×98	A12	a	不明	>P1052	
1193			S27-W57	隅丸方形150×121	A40	a	中世	>1286土	石器、鉄器
1194			S27-W57	長方形168×140	A26	b	中世	>P1058	石器、土師器
1195			S27-W57	楕円形121×90	C18	b	中世	>1285土	
1196			S27-W57	方 形125×108	B60	b	中世		
1197		39	S27-W60	円 形253×195	B108	b	中世		
1198			S27-W63	長方形160×114	B26	b	中世	>P1050	
1199			S27-W63	方 形108×99	B18	b	中世	>1211・1200土	
1200			S27-W63	不整形150×130	B26	b	中世	<1199土	
1201			S24-W57	楕円形147×110	B24	b	中世	>1203土	
1202			S21-W60	長方形269×196	A34	b	中世	>1203・1204・1206土	石器
1203			S24-W60	不整形(270)×160	A44	b	中世	<1201・1202・1204土	鉄器
1204			S21-W57	楕円形145×160	B32	b	中世	>1203土、<1202土	
1205			S21-W60	隅丸方形200×174	A30	b	中世	>1206・1208・1322・1323土	
1206			S21-W60	長方形278×188	B56	b	中世	<1202・1205土、>1208土	
1207			S24-W63	長方形250×170	A24	b	中世		
1208			S18-W60	楕円形(65)×70	不明			<1205・1206土	
1209			S18-W66	楕円形92×80	F10	c	中世		
1210			S24-W63	隅丸長方形140×112	A24	b	中世		
1211			S27-W63	円 形98×(45)	A16	b	中世	<1199土	
1212		40	S30-W66	方 形120×105	A24	b	中世	>1213土	
1213			S30-W66	円 形(130)×(50)	B22	b	中世	<1212土	
1214			S30-W66	長方形160×175	B20	b	中世		
1215			S27-W69	円 形162×150	B28	b	中世	>1217土	
1216			S27-W69	楕円形136×100	B49	b	中世	>1217土	
1217			S27-W69	楕円形(100)×65	B40	b	中世	<1215・1516土	
1218			S24-W66	楕円形146×112	B20	b	中世	>1219土	
1219			S24-W66	楕円形(95)×(72)	C16	a	中世	>P1045・1046、<1218土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1220		42	S24-W66	隅丸方形177×155	C48	b	中世	>1225土、P1047	火葬墓、銭貨
1221			S21-W69	円形138×120	B56	b	不明	>1222・1226・1619土	
1222			S21-W66	楕円形155×(50)	B70	b	中世	>1223・1224・1226土、<1221土	
1223			S21-W66	方形165×154	B18	b	中世	>1224土、P1013、<1222・1619土	
1224			S21-W66	長方形(118)×(50)	B32	b	中世	<1222・1223・1226土	
1225			S24-W66	方形(104)×70	B14	b	中世	>1226土、<1220土	
1226			S24-W66	方形(85)×(84)	B36	b	中世	>1224・1227・1619土、<1221・1222・1225土	
1227			S24-W69	円形(118)×(55)	B20	b	中世	<1226・1228・1619土	
1228			S21-W69	長方形165×120	B48	b	中世	>1227・1229土	
1229			S24-W69	楕円形(113)×105	B14	b	中世	<1228土	
1230			S24-W72	楕円形196×160	B14	b	中世	>1411土	
1231		40	S27-W72	方形145×106	B20	b	中世	>1232・1233・1411土	鉄器、陶磁器
1232			S27-W69	方形120×(96)	不明		中世	>1233・1411土、<1231土	
1233			S27-W69	方形(142)×(118)	B15	b	中世	<1231・1232土	
1234			S27-W72	長方形124×104	B30	b	中世		
1235			S27-W72	楕円形115×90	B22	b	中世	>1236土	
1236			S27-W72	円形94×(55)	C22	b	中世	<1235土	
1237			S24-W72	楕円形140×100	B10	b	中世		
1238			S24-W72	方形95×88	B15	b	中世		
1239			S24-W72	方形113×80	B40	b	中世	>1249土	
1240		41	N60-W48	方形275×275	A100	b	中世		陶磁器
1241			S24-W72	方形120×106	B20	b	中世	>1242・1243土	
1242			S24-W75	方形(86)×80	B12	b	中世	>1243土、<1241土	
1243			S24-W72	楕円形158×130	B20	b	不明	<1241・1242土、P1002・1004	土師器
1244			S24-W72	長方形170×100	C14	b	中世	>P1003・1002	
1245			S21-W76	長方形136×92	B36	b	中世	>1246土	
1246			S21-W75	楕円形86×97	B39	b	中世	>1254土、<1245土	
1247		40	NS0-W84	円形120×110	B42	b	中世		
1248			S24-W78	方形142×130	B22	b	中世	>1249・1250土	
1249			S24-W75	方形186×(113)	B24	b	中世	<1239・1248・1250土	
1250			S21-W75	円形97×(40)	B38	b	中世	>1249・1248土	
1251			S27-W75	長方形126×104	B18	b	中世	<1253土	
1252			S27-W75	楕円形143×123	B40	b	中世		
1253			S27-W75	長方形104×57	B8	b	中世	>1251土、P1038	
1254			S27-W78	長方形80×73	A20	b	中世		
1255			S24-W81	方形235×189	B34	b	中世		
1256			S27-W84	楕円形145×100	C16	b	中世	>1257土	
1257			S24-W84	長方形157×(126)	B16	b	中世	<1256土	
1258			S27-W84	円形75×65	C30	a	縄文		
1259			S27-W84	不整形96×88	C36	a	縄文		
1260			S24-W87	楕円形102×80	B22	b	縄文		
1261		41	S24-W87	円形70×60	B21	a	縄文		
1262			S24-W87	円形72×64	C12	a	縄文		
1263			S24-W87	円形91×87	A30	a	縄文		



番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1264			S21-W84	円形64×61	B42	b	不明	>1265土	石器、縄文土器
1265			S21-W84	円形90×85	B48	b	不明	<1264土	
1266			S24-W84	円形95×93	B32	b	不明		石器
1267			S21-W81	楕円形85×72	B12	b	不明		
1268			S21-W81	方形115×100	C14	b	中世		
1269			S18-W78	円形200×190	B24	b	中世	>1270土	
1270			S18-W75	楕円形(125)×95	B24	b	中世	<1269土	
1271		41	S21-W78	方形136×94	B26	b	中世	>1272・1364土	
1272			S18-W78	方形145×114	B16	b	中世	>1364土、<1271土	
1273			S18-W78	方形275×170	B22	b	中世	>1274・1349・1370土	銭貨
1274		41	S18-W78	方形200×(70)	B16	b	中世	<1273土	
1275			S12-W78	方形110×103	B12	b	中世	>1277土・P975	
1276			S15-W81	方形426×408	C20	b	中世		
1277			S12-W84	円形85×(50)	B9	b	不明	<1275土	
1278			S15-W84	円形104×88	B24	b	不明		
1279			S15-W84	円形75×75	B32	b	不明		
1280		41	S12-W84	円形108×104	C22	a	中世		
1281			S24-W54	楕円形132×94	A36	b	中世	>1287・1295・1296土	
1282			S24-W54	方形103×100	B34	b	中世	>1283・1295土	
1283			S21-W54	長方形180×98	B34	b	中世	>1295・1296・1299土、<1282土	
1284			S24-W54	方形165×128	A46	b	中世	>1287・1290・1297土、P1057	
1285			S27-W57	長方形165×108	B30	b	中世	<1195土、>1286土	
1286			S27-W54	楕円形136×106	B36	b	中世	<1193・1285土	
1287			S24-W54	楕円形92×75	B40	b	中世	>1288・1289・1294土、<1281・1284土	
1288			S24-W54	方形(98)×86	A36	b	中世	>1289・1291土、<1287・1294土	
1289			S24-W54	長方形(140)×92	A40	b	中世	>1290土、<1287・1288土	
1290			S24-W54	長方形147×82	A36	b	中世	>P1057、<1284・1289土	
1291			S27-W54	円形(73)×84	B42	b	中世	>1292・1288土	
1292			S27-W54	方形(150)×145	B42	b	中世	<1291・1293土	
1293			S27-W54	方形55×55	不明		中世	<1292土	
1294		41	S24-W54	楕円形(132)×95	B51	b	中世	>1288土、<1287土	
1295			S24-W54	長方形(120)×(100)	A40	b	中世	>1296土、<1281・1282・1283土	
1296			S21-W54	隅丸方形(120)×(80)	B36	b	中世	<1281・1283土	
1297			S24-W57	長方形134×68	A43	b	中世	>1298土、<1281土	
1298			S24-W57	円形100×(52)	B36	b	縄文	<1297土	鉄滓
1299		41	S21-W54	不整円形120×118	B50	b	縄文	>1283土、<1301・1038土	
1300			S21-W57	長方形104×80	A46	b	中世	<1302・1308・1309土	
1301			S21-W54	長方形118×78	A46	b	中世	>1038土、<1299土	
1302			S21-W54	長方形124×106	A42	b	中世	>1309土、<1300・1308土、P1028	
1303			S18-W57	長方形102×82	B8	b	中世	>1304・1309土	
1304			S18-W57	長方形166×135	B10	b	中世	>1309土、<1303土	
1305			S18-W54	長方形98×75	B22	b	中世	>1306土	
1306			S18-W54	長方形196×143	C30	b	中世	>1307・1308・1310・1312土、<1305土	
1307			S21-W54	楕円形92×76	A36	b	中世	>1308土、<1306土	

番号	旧番号	図	位置	平面形規模 (cm)	断面形深さ (cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1308			S18-W54	長方形250×200	B22	b	不明	>1302・1309・1310±、<1299・1300・1301・1306・1307±	
1309			N16-W78	楕円形108×84	B22	b	不明	<1630・1631±	
1310			S18-W57	不明70×38	F50	b	中世	<1306・1308±	
1311			S21-W54	長方形90×50	A42	b	中世	>1312±	
1312			S18-W54	長方形195×(95)	B22	b	中世	>P1031、<1306・1311±	
1313			S18-W54	円形95×88	B42	b	縄文		
1314			S18-W57	方形133×114	A18	b	中世	>1317±	
1315			S15-W57	方形108×104	A32	b	中世	>1316±	
1316			S15-W57	不整形214×76	B10	b	中世	<1315±	
1317			S18-W57	長方形188×148	A28	b	中世	<1314±	
1318			S3-W84	円形(70)×98	B34	a	縄文	<1064±	
1319			S15-W60	円形120×110	B40	a	縄文		
1320		41	S15-W60	長方形303×202	B22	b	中世	>1321±	
1321			S15-W60	円形130×(56)	B19	a	不明	<1320±	
1322			S15-W69	楕円形88×72	B8	b	不明	>1323±、<1205±	
1323			S18-W60	隅丸長方形230×(145)	A30	b	中世	>1324±、<1205・1322±	
1324			S18-W63	隅丸方形167×140	A34	b	中世	>1329±、<1323±	
1325			S21-W63	円形136×130	C20	b	中世	>P1019	
1326			S21-W63	楕円形97×82	B20	b	中世	>1327±	
1327			S21-W63	長方形174×118	B32	b	中世	>P1017、<1326±	
1328			S21-W63	円形70×65	C6	b	中世		
1329			S21-W63	隅丸方形(42)×(90)	B12	a	中世	<1324±	
1330			S15-W66	方形186×180	B20	b	中世		
1331			S15-W66	方形135×125	C20	b	中世	>P987	
1332			S12-W69	長方形266×215	B12	b	中世		
1333			S12-W75	方形157×124	B28	b	中世	>P982	
1334			S18-W69	方形200×180	B24	b	中世	>1337±、<P1010	
1335			S18-W69	方形73×70	B34	b	中世	>1336・1337・1338±	
1336			S18-W69	楕円形88×(60)	B17	b	中世	>1337±、<1335・1338±	
1337		42	S18-W69	楕円形(105)×(70)	B13	b	中世	<1335・1336±	
1338			S18-W69	楕円形86×(75)	B18	a	中世	>1336±、<1335±	
1339			S21-W69	円形86×80	C13	a	中世	>1340±	
1340			S21-W69	円形70×(55)	C6	b	不明	<1339±	
1341			S39-W69	長方形284×96	B32	b	中世	>1140・1141・1142・1699±、P1134	
1342			S33-W72	楕円形96×72	B18	b	中世	>P1085	
1343			S33-W78	円形76×72	C30	a	中世		
1344			S18-W72	隅丸方形130×88	B46	b	不明	>1347・1348・1350±	
1345		42	S18-W75	円形128×109	B28	b	中世	>1356±	銭貨
1346			S15-W75	楕円形105×84	B25	b	中世	>1359・1360±	
1347			S18-W74	隅丸方形177×113	B38	b	中世	>1350・1351・1354±、<1344±	
1348			S18-W75	隅丸方形(162)×120	B32	b	中世	>1349・1350±、<1344・1364±	
1349			S18-W75	方形182×(118)	B8	a	不明	<1273・1348・1364±	
1350		42	S18-W72	方形135×82	A30	b	中世	>1351・1352・1356±、<1344・1347・1348±	
1351			S18-W72	楕円形145×(92)	B36	b	中世	>1352・1355±、<1347・1350±	銭貨

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1352			S 18-W72	方 形139×110	B36	b	中世	>1356・1363土、<1350・1351土	石器
1353			S 21-W72	円 形110×108	B44	b	中世	>1354・1355土	石器
1354			S 21-W72	隅丸方形200×120	B20	b	中世	>1355土、<1246・1347・1353土	
1355			S 18-W72	隅丸長方形(104)×(80)	B30	b	中世	<1347・1351・1353・1354土	
1356			S 15-W72	方 形(220)×200	B30	b	中世	>1363・1361土、<1345・1350・1352土	
1357			S 15-W72	楕円形98×74	B41	b	中世	>1358土	
1358		42	S 15-W72	方 形130×130	B34	b	中世	>1369土、<1357土	
1359			S 15-W75	方 形126×(82)	B18	b	中世	>1360・1369・1374土<1346土	
1360			S 15-W75	楕円形(125)×95	B30	b	中世	<1346・1359土	
1361			S 15-W75	方 形110×(76)	B25	b	中世	>1362土、<1356土	
1362			S 15-W72	円 形65×(42)	B22	b	中世	<1361土	
1363			S 15-W72	不 明(50)×(50)	不明			<1352・1356土	
1364			S 18-W75	楕円形70×45	B20	b	中世	>1271・1272・1273・1349土	
1365			S 18-W75	楕円形90×62	A14	a	中世	>P1001	
1366			S 21-W72	楕円形72×60	B20	a	中世		
1367			S 12-W72	不整形(308)×(120)	B42	a	中世	<1634・1640・1641・1642土	
1368			S 12-W75	方 形155×100	B26	b	中世	>1369・1374土	
1369			S 12-W75	不 明(175)×120	不明		中世	>1374土、<1346・1357・1358・1359・1368土	
1370		42	S 15-W75	方 形138×114	B14	b	中世	<1273・1374土	
1371			S 48-W72	楕円形127×104	B16	b	縄文	<1081土	
1372			S 36-W84	円 形74×64	C18	a	縄文	>P1066	
1373			S 12-W75	楕円形115×70	B23	b	中世		
1374			S 15-W75	不 明(112)×140	B24	b	中世	>1370土、<1359・1368・1369土	
1375			S 12-W81	円 形88×74	B10	b	中世		
1376			S 12-W81	円 形95×95	B40	b	中世	>1370・1378・1379土、P968	
1377			S 12-W84	円 形(84)×(75)	B8	b	中世	>1376・1379土	
1378			S 12-W81	楕円形145×84	C8	a	不明	<1376土	銭貨
1379			S 12-W81	円 形(90)×126	B7	b	中世	<1376・1377土、P969	
1380			S 9-W84	隅丸方形78×64	C20	b	中世		
1381			S 15-W51	円 形100×95	B20	a	縄文	>1382土	
1382			S 12-W51	隅丸方形(208)×210	B34	b	中世	<1381土	
1383			S 15-W51	長方形108×100	B28	b	中世		
1384		42	S 15-W54	楕円形124×100	B28	b	中世	>1385・1387・1388土	
1385			S 15-W54	隅丸方形150×190	B40	b	中世	<1384・1387土	
1386			S 18-W54	隅丸方形172×140	B36	b	中世		
1387			S 15-W54	楕円形108×(60)	A40	b	中世	>1388土、<1384土	
1388			S 15-W54	長方形255×206	A42	b	中世	>1389土、<1384・1387土	
1389			S 12-W60	方 形92×(63)	A63	b	中世	<1388土、P990	
1390		43	S 12-W57	円 形96×89	B50	b	中世		
1391			S 12-W57	楕円形145×90	B6	b	中世		
1392		43	S 12-W57	長方形128×80	B28	b	中世	>1393土	
1393			S 12-W57	方 形130×130	B24	b	中世	<1392土	
1394			S 6-W63	方 形136×132	B30	b	中世		
1395			S 12-W60	方 形124×100	B25	b	中世	>1398土、<1409土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1396			S 9-W60	方形137×105	B16	b	中世	>1397・1399土	
1397			S 9-W60	円形160×(126)	B20	b	中世	>1329・1399・1405土、<1396土	稷(炭化物)
1398			S12-W60	長方形(120)×100	B26	b	中世	>1399・1405土、<1395土	
1399			S12-W60	不明(102)×(48)	不明			>1405土、<1396・1397・1398土	石器
1400		43	N 9-W78	楕円形100×70	B34	b	中世	<1531土	
1401			S12-W63	円形100×92	B22	b	中世	>1405・1406・1408・1409土	鉄滓
1402			S 9-W60	方形86×100	A16	b	中世	>1403土	
1403			S 9-W60	円形126×(70)	B29	b	中世	<1402・1406土	
1404			NS0-W75	隅丸方形58×54	C23	b	中世		
1405			S12-W60	不明162×(118)	A20	b	中世	>1409土、<1398・1399・1401土	
1406			S12-W60	方形(165)×175	A30	b	中世	>1403土、<1401・1405土、P985	
1407			S 3-W75	円形80×66	A18	b	中世		
1408			S12-W63	円形80×80	不明			<1401・1409土	
1409		43	S12-W60	方形(130)×116	B54	b	中世	>1408・1395土、<1401・1405土	
1410			S 9-W63	楕円形170×68	C39	b	中世		
1411			S24-W72	不明				>1230・1231・1232土	
1412	1511		S 9-W63	楕円形80×68	B40	b	不明		
1413	1512		S18-W69	円形65×52	B25	b	不明		
1414	1513		S 9-W63	円形109×100	B30	b	不明		
1415	1514		S 9-W66	円形(91)×82	C34	b	不明	<1415土	石鏃、内耳鍋
1416	1515		S 9-W66	円形130×96	A26	b	不明	>1416土	
1417	1516		S12-W66	円形75×75	B 9	a	縄文		
1418	1517		S12-W60	長方形160×75	B16	b	中世		石鏃
1419	1518		S 6-W69	方形124×106	B18	a	中世	>23溝	
1420	1519		S 6-W69	方形156×140	B19	a	中世		
1421	1520		S 9-W72	円形72×50	C16	b	不明		石鏃、陶磁器
1422	1521		S12-W51	長方形85×65	B22	a	中世		陶磁器
1423	1522		S 9-W54	長方形125×56	B10	a	中世	>1434・1430土	
1424	1523		S12-W54	長方形115×85	C14	a	中世	>1433・1434土	
1425	1524		S 9-W54	方形145×108	B20	b	中世	>1429土、P941	
1426	1525	43	S 9-W81	楕円形125×90	A12	a	中世		
1427	1526		S 6-W54	方形103×88	B24	b	中世	>1428土	
1428	1527		S 6-W54	方形124×113	B22	b	中世	<1427土	
1429	1528		S 9-W54	長方形120×66	B26	b	中世	>1433土、<1425土	
1430	1529		S 9-W51	方形(160)×(140)	B18	b	中世	>1432・1433・1434土、<P263	
1431	1530		S 9-W51	長方形126×66	B 8	b	中世		
1432	1531		S 9-W54	長方形144×(36)	B19	b	中世	<1430土	
1433	1532		S 9-W54	長方形165×108	不明		中世	<1424・1429・1430・1435・1439土	
1434	1533		S12-W54	長方形(104)×(74)	B10	a	中世	>1433土、<1423・1424・1430土	
1435	1534		S12-W54	長方形140×100	C10	a	中世	>1433土	
1436	1535		S 9-W60	方形128×94	A32	b	中世	>1439・1440土	
1437	1536		S 9-W57	隅丸方形124×76	B42	b	中世	>1438・1439・1441土	
1438	1537		S 9-W57	隅丸方形189×(120)	B14	b	中世	>1440土、P991、<1437・1439土	
1439	1538		S 9-W57	不明(80)×80	B18	a	中世	>1439・1440・1441土、<1436・1437土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模 (cm)	断面形 深さ (cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1440	1539		S 9 - W57	不明 (155) × (83)	B 17	a	中世	< 1436・1438・1439土	
1441	1540		S 9 - W57	楕円形 (75) × 90	B 32	a	中世	< 1437・1439土	鉄鍍
1442	1541		S 9 - W51	楕円形 90 × 49	B 8	b	不明	< P 962	
1443	1542		S 6 - W48	楕円形 90 × 49	B 8	a	中世	< 1444土	
1444	1543		S 6 - W48	不明 96 × (42)	B 14	a	中世	> 1443土	
1445	1544		S 3 - W48	隅丸方形 110 × 80	B 34	b	中世		
1446	1545		NS 0 - W48	楕円形 (100) × (80)	不明		中世		陶磁器
1447	1546		NS 0 - W51	方形 114 × 105	C 22	a	中世	> 1448土	
1448	1547		NS 0 - W51	楕円形 (185) × 83	B 38	b	中世	< 1447土、P 876	
1449	1548		S 3 - W51	円形 (40) × 56	B 9	b	中世	< P 277	
1450	1549		NS 0 - W54	円形 115 × 106	C 14	a	中世	> P 870	
1451	1550		NS 0 - W54	楕円形 80 × 63	B 14	b	中世	> 1452土	
1452	1551		NS 0 - W54	楕円形 (80) × 70	B 42	b	中世	< 1451土	
1453	1552		S 3 - W57	円形 88 × 76	B 6	a	中世		
1454	1553		S 3 - W57	円形 90 × 86	B 10	a	中世		
1455	1554		S 6 - W57	円形 173 × 157	B 12	a	中世		
1456	1555		S 3 - W57	長方形 142 × 94	B 32	b	中世		
1457	1556		S 3 - W60	円形 75 × 64	A 8	b	中世		
1458	1557		S 6 - W60	楕円形 86 × 60	A 10	b	中世	< P 925	
1459	1558		S 6 - W60	円形 84 × 73	B 6	b	中世		
1460	1559	43	S 6 - W57	楕円形 104 × 70	B 46	b	中世	> 1461土	
1461	1560		S 6 - W57	円形 133 × 128	不明			< 1460土	
1462	1561		S 18 - W48	楕円形 80 × 55	C 23	a	縄文		
1463	1562		S 6 - W60	円形 82 × 74	B 12	b	中世	< P 924	
1464	1563		S 6 - W57	楕円形 81 × 54	B 20	a	中世	> P 934	
1465	1564		NS 0 - W66	楕円形 80 × 56	B 12	a	縄文		
1466	1565		S 3 - W69	方形 143 × 116	C 8	a	中世	> P 848	
1467	1566		S 3 - W72	楕円形 146 × 66	B 34	b	不明		
1468	1567	43	S 3 - W72	不整長方形 122 × 93	B 20	b	中世	> 1469土	
1469	1568		S 3 - W72	方形 108 × 102	B 28	b	中世	< 1478土	
1470	1569	43	NS 0 - W75	隅丸方形 90 × 88	B 14	a	中世	> P 832、< P 830・831	
1471	1570		NS 0 - W75	長方形 100 × 86	B 10	b	中世		
1472	1571		NS 0 - W75	方形 100 × 108	B 34	b	中世		
1473	1572		S 3 - W75	隅丸方形 130 × 108	B 46	b	中世	> 1108土	
1474	1573		S 3 - W75	楕円形 111 × 90	B 34	b	不明		
1475	1574		S 6 - W75	方形 93 × 84	B 36	b	中世	> 1476土	
1476	1575		S 6 - W75	方形 (88) × 86	B 34	b	中世	< 1475土	
1477	1576		S 6 - W75	円形 121 × 107	A 5	b	中世		
1478	1577		S 54 - W75	円形 80 × 70	A 21	a	縄文		
1479	1578		S 9 - W78	楕円形 86 × 77	A 36	b	不明		
1480	1579		S 9 - W81	楕円形 143 × 110	B 12	b	中世		
1481	1580	43	S 3 - W81	楕円形 134 × 82	F 28	b	中世		
1482	1581		S 3 - W84	隅丸方形 140 × 70	A 12	b	中世	> 1483・1484土	
1483	1582		S 3 - W84	隅丸方形 (220) × 125	A 8	b	中世	< 1482土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1484	1583		NS0-W84	不整形(130)×(112)	B44	b	中世	<1482土	
1485	1584		NS0-W81	隅丸方形170×120	B42	b	中世	>1487土	
1486	1585		S3-W81	方形134×120	B22	b	中世	>1489・1490土	
1487	1586		NS0-W81	方形(110)×94	A8	b	中世	<1485土	
1488	1587		N9-W69	方形108×(40)	B25	b	中世	<1545土	
1489	1588		S3-W81	不明(53)×(16)	不明			>1486・1490土	
1490	1589		S3-W81	不整形140×(80)	A21	b	中世	<1486・1489土	土師器
1491	1590		S3-W78	方形118×108	B20	b	中世	>1108・1492・1493土	銭貨
1492	1591		S3-W78	方形103×110	B9	b	中世	>1108・1494土、<1491土	
1493	1592		S3-W78	楕円形153×112	C26	b	中世	<1491土	
1494	1593		S3-W78	方形120×105	B36	b	中世	>1108・1496土、<1489・1490土	
1495	1594		NS0-W78	楕円形132×100	B60	b	中世	>1496・1497土	銭貨
1496	1595		S3-W78	楕円形115×80	B36	b	中世	>1108土、<1494・1495・1497土	
1497	1596		NS0-W78	長方形220×110	B36	b	中世	>1496土、<1495土	
1498	1597		NS0-W78	隅丸方形204×122	B40	b	中世	>P822	
1499	1598		N3-W78	楕円形130×74	C38	a	中世		
1500	1599		N3-W78	円形80×76	B10	a	中世		
1501	1600		N3-W81	不整形220×180	B18	b	中世	>1528土	
1502	1601		S6-W72	円形102×96	C7	b	中世		
1503	1602		S3-W54	円形70×63	B16	a	縄文		
1504	1603		N3-W54	円形(95)×(56)	B12	a	縄文	<P869	
1505	1604		N3-W63	楕円形145×110	B10	a	縄文	>1506土、P846・849・850・851・852	
1506	1605		N3-W63	楕円形(132)×(60)	A4	a	縄文	>P853、<1505土	
1507	1606		NS0-W63	円形85×77	B12	a	縄文		
1508	1607	44	N3-W66	円形100×90	B26	b	中世		
1509	1608		NS0-W69	方形185×146	B14	a	中世	>P847	陶磁器
1510	1609		N6-W69	方形184×134	C24	b	中世	<23溝	
1511	1610		NS0-W72	円形108×104	B14	b	中世		
1512	1611		NS0-W72	円形110×108	B38	b	中世	>1513土	
1513	1612		NS0-W72	楕円形(144)×120	B28	b	中世	<1512土	
1514	1613		N9-W75	隅丸方形64×68	B14	b	中世	>1515土	
1515	1614		N3-W75	不整形長方形86×80	B18	a	中世	<1514土	
1516	1615	44	N3-W72	長方形96×76	B20	b	中世		
1517	1616		N6-W72	方形165×110	B16	b	中世	>1518・1520土、23溝	
1518	1617	44	N6-W72	円形115×105	B60	b	中世	<1517土	
1519	1618		N6-W72	方形290×170	B30	b	中世	>1521・1524土	
1520	1619		N6-W69	楕円形162×(100)	B18	b	中世	<1517土、23溝	
1521	1620		N6-W72	円形80×(70)	B16	b	中世	<1519土	
1522	1621		N6-W75	方形96×80	C22	a	中世		
1523	1622		N6-W75	長方形240×164	B22	b	中世	>P768、<1151土	
1524	1623		N6-W72	方形210×(120)	B34	b	中世	<1519土	
1525	1624		N6-W72	長方形296×152	B32	b	中世	>1526・1532土	
1526	1625		N6-W78	円形(120)×(132)	B36	b	中世	>1626土、<1526土	
1527	1626		N3-W81	方形(128)×130	B22	b	中世	<1525土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1528	1627		N 6 - W81	方 形218×184	B 46	b	中世	<1501土	陶磁器
1529	1628		N 6 - W81	方 形136×128	B 32	b	中世		
1530	1629		N 6 - W78	円 形70×64	B 10	b	中世		
1531	1630		N 9 - W78	方 形150×(104)	B 26	b	中世	>1400土	
1532	1631		N 9 - W78	楕円形192×106	B 18	a	縄文	>1309・1525土	
1533	1632		N12 - W78	円 形122×111	B 26	b	中世	>1534土	
1534	1633		N12 - W78	円 形104×100	A 14	b	中世	<1533・1536土	
1535	1634		N12 - W75	長方形400×194	B 40	b	中世	>1367土、<P 715・714	
1536	1635		N12 - W78	長方形246×152	B 44	b	中世	>1534・1537・1538土	
1537	1636		N12 - W78	円 形70×(42)	B 38	b	中世	<1536土	
1538	1627		N12 - W78	楕円形190×(80)	C 40	a	中世	<1636土	
1539	1638		N 9 - W72	方 形268×192	B 18	b	中世	>1544・1546・1548土、23溝	陶磁器
1540	1639	44	N 9 - W72	楕円形120×80	B 14	b	中世	>1546土	
1541	1640		N 9 - W72	円 形152×132	B 36	b	中世	>1367土	
1542	1641		N 9 - W72	楕円形112×78	B 24	a	中世	>1367・1543土	
1543	1642		N 9 - W72	楕円形(68)×68	B 68	b	中世	>1367土、<1542土	銭貨
1544	1643		N12 - W72	円 形114×(74)	B 10	b	中世	>23溝、<1539土	
1545	1644		N 9 - W69	長方形215×110	B 36	b	中世	>1488・1597土	陶磁器
1546	1645		N 9 - W69	楕円形(210)×(100)	B 30	b	中世	>23溝、<1539・1540土	
1547	1646	44	N 9 - W69	方 形180×120	B 24	b	中世	>1548土	
1548	1647		N12 - W69	方 形192×(120)	B 30	b	中世	<1547土	石鉄
1549	1648		N 9 - W66	隅丸方形110×85	B 32	a	中世		
1550	1649		N12 - W63	円 形118×94	B 16	a	縄文		
1551	1650		N 6 - W63	円 形115×105	B 22	a	縄文		
1552	1651		N 6 - W54	長方形304×182	B 28	a	中世		
1553	1652	44	N12 - W57	方 形180×(148)	B 24	b	縄文	<50住	
1554	1653		S 6 - W54	楕円形64×52	B 15	a	中世		土師器
1555	1654		N15 - W57	隅丸方形199×108	A 34	b	中世	>1556土	
1556	1655	44	N15 - W51	方 形192×(160)	B 36	b	中世	<1555土	
1557	1656		N18 - W54	隅丸方形128×122	B 34	b	中世	>1558土	
1558	1657		N18 - W54	隅丸方形194×122	B 42	b	中世	>1559土、<1557土	
1559	1658		N18 - W54	方 形130×(80)	B 34	b	中世	>1585土、<1558土	
1560	1659		N21 - W57	楕円形104×58	不明		縄文		
1561	1660	44	N21 - W60	円 形110×106	B 10	c	中世		
1562	1661		N24 - W60	円 形90×80	B 6	b	縄文		
1563	1662		N24 - W60	不整長方形206×150	B 50	b	縄文		
1564	1663		N24 - W63	円 形104×92	B 30	b	縄文		
1565	1664		N24 - W63	隅丸方形130×125	B 16	b	中世	>1566土、P 679・684・681・682	陶磁器
1566	1665		N24 - W63	隅丸方形144×(220)	B 30	b	中世	>1567土、<1565土	
1567	1666		N27 - W63	長方形140×92	B 32	b	中世	<1566土、P 678	
1568	1667		N21 - W63	円 形164×148	B 20	b	中世	>P 683	
1569	1668		N18 - W69	円 形110×90	B 32	b	中世	>1571土	
1570	1669		N18 - W69	円 形96×86	B 12	a	縄文	>1571土	
1571	1670		N18 - W69	円 形(100)×(90)	B 14	b	縄文	<1569・1570土	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1572	1671		N12-W66	円形70×62	A22	a	縄文		
1573	1672		N12-W69	円形80×64	C14	a	縄文		
1574	1673		N12-W69	円形84×70	B18	a	縄文		
1575	1674		N15-W69	円形74×70	A50	a	縄文	> P728	
1576	1675		N18-W69	円形70×64	C10	a	縄文		
1577	1676		N18-W72	円形84×69	B16	a	縄文		
1578	1677		N21-W72	長方形186×120	B44	b	縄文	> P676	
1579	1678		N21-W72	円形90×116	B38	a	中世		
1580	1679		N18-W75	円形125×130	B38	b	縄文	> 1581土、P708	
1581	1680	44	N18-W75	円形70×(70)	B40	a	縄文	< 1580土	
1582	1681		N21-W69	円形84×78	B14	a	縄文		
1583	1682		N21-W66	円形78×78	B42	b	縄文		石器、縄文土器
1584	1683		N21-W63	円形96×80	B14	a	縄文		
1585	1684		N18-W54	円形72×(40)	B30	b	縄文	< 1559土	
1586	1685		N12-W48	円形144×(36)	B38	b	縄文	> 1588土	
1587	1686	45	N15-W48	楕円形118×62	B40	b	縄文	> 1588土	
1588	1687		N18-W63	円形62×68	C20	a	縄文		
1589	1688		N24-W54	円形90×90	B20	a	縄文		
1590	1689		N30-W51	円形70×80	B12	b	縄文		
1591	1690		N30-W57	長方形140×120	A98	B	縄文	< 1592土	
1592	1691		N30-W57	長方形144×114	B42	b	中世	> 1591土	
1593	1692		N30-W60	円形56×56	B56	b	縄文		
1594	1693	45	S9-W81	楕円形70×50	B45	b	縄文		
1595	1694		N30-W61	楕円形188×106	C36	b	中世		鉄器
1596	1695		N30-W66	長方形160×82	C22	b	中世	> 54住	
1597	1696		N9-W69	楕円形440×120	A21	b	中世	< 1545・1546土、23溝、P1444・1445	
1598	1697		N36-W45	不整形円形120×90	B14	b	中世		
1599	1698		N36-W51	長方形130×80	B12	b	中世	> 10号墳周溝	
1600	1699	45	S39-W66	楕円形140×80	F54	a	縄文	> 1140・1141・1142・1341土	
1601	1700		N36-W51	楕円形100×70	B20	a	縄文	> 10号墳周溝	
1602	1701		S9-W78	長方形100×50	B18	a	中世		
1603	1702		N27-W63	楕円形70×55	C30	b	中世		鉄滓
1604	1703	45	S60-W54	円形74×68	A50	b	中世	> 1608土	
1605	1704	45	N42-W57	隅丸方形186×146	A70	b	中世		
1606	1705		N45-W57	長方形134×96	B24	b	中世		
1607	1706		N45-W60	円形106×92	B22	b	中世		
1608	1707		S63-W54	円形64×64	A36	a	縄文	< 1604土	石器
1609	1708		S9-W87	円形68×62	不明				
1610	1709		N54-W48	楕円形152×82	B10	a	不明		
1611	1710		N66-W42	不整形方形126×123	C12	a	中世	< 1612土	
1612	1711		N66-W42	楕円形56×44	C10	a	不明	> 1611土	
1613	1712		S3-W69	長方形144×44	B34	b	中世		
1614	1713		N30-W66	円形52×46	不明			> 66住	土師器
1615	1714	45	S3-W54	円形66×60	C50	a	中世		



番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1616	1715		N48-W66	不整形260×195	B12	a	中世		
1617	1716		N75-W45	楕円形310×170	B12	a	縄文		
1618	1717		S6-W51	円形68×68	B12	a	縄文		
1619	1718		S21-W66	隅丸方形(160)×(120)	B26	b	中世	>1223・1227土、<1221・1222土	
1620	1719		N33-W72	楕円形134×88	不明				
1621	1720		S54-W96	長方形150×60	A15	a	縄文		
1622	1721		S57-W90	円形76×64	A5	a	縄文		
1623	1722		S57-W102	円形54×54	A4	a	縄文	>1625土	
1624	1723		S57-W96	楕円形72×46	F5	a	縄文		
1625	1724		S57-W102	楕円形128×104	B18	a	縄文	<1623土	
1626	1725		S57-W102	円形80×70	B36	a	縄文	>25溝	
1627	1726		S54-W102	楕円形54×40	C10	a	縄文	>25溝	
1628	1727		S54-W105	隅丸方形50×42	C12	a	縄文	>25溝	
1629	1728		S51-W105	楕円形82×70	C9	a	縄文		
1630	1729		S51-W105	円形106×104	A20	a	縄文		
1631	1730	45	S54-W102	円形110×100	B14	a	縄文		
1632	1731		S57-W102	円形78×66	B34	a	縄文	>1633土	
1633	1732	45	S57-W102	円形66×64	A46	a	縄文	<1632土	
1634	1733		S54-W102	円形60×58	B32	a	縄文		
1635	1734	45	S54-W99	円形58×56	B32	a	縄文		
1636	1735		S54-W99	円形70×68	C30	a	縄文	>25溝	
1637	1736		S54-W99	円形64×58	B36	a	縄文		
1638	1737		S54-W99	円形60×58	B18	a	縄文		
1639	1738		S54-W99	円形70×60	B36	a	縄文		
1640	1739		S54-W96	円形60×56	B26	a	縄文		
1641	1740		S54-W96	円形70×62	B40	a	縄文		
1642	1741		S51-W99	円形56×56	A16	a	縄文		
1643	1742	46	S51-W99	円形56×54	B34	a	縄文		
1644	1743		S51-W96	円形72×70	B20	a	縄文		
1645	1744	46	S54-W96	円形54×54	B20	a	縄文		
1646	1745		S51-W96	円形74×56	B19	a	縄文	>52住	
1647	1746		S51-W99	円形52×50	C12	c	縄文		
1648	1748		S48-W96	円形60×55	F6	a	縄文	>1649土	
1649	1749		S48-W96	楕円形64×54	F7	a	縄文	>P1433・1434、<1648土、P1432	
1650	1750		S48-W99	円形80×80	B14	a	縄文		縄文土器
1651	1751		S48-W102	円形65×55	F16	c	縄文		
1652	1752		S51-W102	円形76×58	B10	a	縄文		
1653	1753		S48-W102	楕円形57×39	F8	a	縄文		
1654	1754		S51-W102	楕円形52×43	C14	a	縄文	>P1422	
1655	1755	46	S48-W105	楕円形200×116	E24	a	縄文		石器、縄文土器
1656	1756		S48-W108	円形50×50	C20	a	縄文		
1657	1757		S48-W108	円形84×84	B38	a	縄文	>1658・1661土	
1658	1758		S48-W108	楕円形92×80	B14	a	縄文	<1657土、>1661土	
1659	1759		S45-W108	円形94×87	F40	a	縄文	>1660土、P1418	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1660	1760		S45-W108	円形(75)×70	C40	a	縄文	>P1419、<1659±	
1661	1761		S48-W108	楕円形(70)×54	C20	a	縄文	<1657・1658±、P1419	
1662	1762		N30-W78	楕円形104×84	C34	a	縄文	>1715・1718±	
1663	1763		S45-W108	円形67×60	C24	a	縄文	>1664±	
1664	1764		S45-W108	楕円形58×(46)	C23	a	縄文	<1663±	
1665	1765		S45-W111	円形66×60	B20	a	縄文		
1666	1766		S45-W111	楕円形122×104	C42	a	縄文	>1667・1668±、P1411	
1667	1767		S48-W111	楕円形66×52	A30	a	縄文	<1666±	
1668	1768	46	S45-W108	楕円形(100)×76	F37	a	縄文	<1666・1669±	
1669	1769		S45-W108	楕円形100×80	F22	a	縄文	>1668±	
1670	1770		S45-W111	楕円形108×94	A44	a	縄文	>1672±、P1408・1409	
1671	1771		S45-W111	円形60×60	A16	a	縄文	>1672±、P1409	
1672	1772		S45-W111	円形50×(50)	C30	a	縄文	<1670・1671±	
1673	1773		S42-W108	円形64×63	B32	a	縄文		
1674	1774		S42-W108	不整形円形100×70	B20	a	縄文		
1675	1775	46	S42-W105	円形80×74	E30	a	縄文	>1679±	
1676	1776		S42-W108	円形70×67	B14	a	縄文	>1679±	
1677	1777		S45-W105	円形70×65	B14	a	縄文	<1678±	
1678	1778		S45-W105	楕円形140×88	B12	a	縄文	>1677±、<1679±	
1679	1779		S42-W105	円形163×150	B36	a	縄文	<1675・1676・1678±	石器
1680	1780		S45-W105	楕円形51×37	E46	a	縄文	>P1421	
1681	1781		S45-W105	円形54×50	E12	a	縄文		
1682	1782		S45-W99	円形82×76	E20	a	縄文		
1683	1783		S45-W99	円形65×58	F4	a	縄文		
1684	1784		N30-W78	円形72×64	B26	a	縄文	>1718±	
1685	1785		S45-W96	楕円形105×72	A18	a	縄文	<P1431	
1686	1787		S42-W96	楕円形65×36	B16	a	縄文		
1687	1788		S42-W99	円形80×76	F28	a	縄文		石器
1688	1789		S42-W102	円形60×60	B15	a	縄文		
1689	1790		S33-W111	円形58×48	B15	a	縄文		石器
1690	1791		S33-W111	円形86×82	C15	a	縄文	>1691±	
1691	1792		S30-W111	円形60×(58)	C11	a	縄文	<1690±	
1692	1793		S30-W111	円形60×55	C20	a	縄文		
1693	1794		S33-W108	円形62×58	C18	a	縄文		
1694	1795		S30-W108	楕円形53×42	C20	a	縄文		
1695	1796		S33-W108	楕円形86×58	C22	a	縄文		
1696	1797		S33-W105	円形53×45	A12	a	縄文	>1698・1699±	
1697	1798		S33-W105	円形57×54	A10	a	縄文		
1698	1799		S33-W105	円形67×(66)	A9	a	縄文	<1696±	
1699	1800		S33-W105	円形60×57	A8	a	縄文	>62住、<±1696	
1700	1801		S33-W108	円形54×49	A16	a	縄文	>62住	
1701	1802		S30-W108	不明(32)×(60)	不明			<62住	
1702	1803		S33-W105	円形80×75	C30	a	縄文	>1703±	
1703	1804		S33-W105	楕円形(110)×95	不明			<62住、1702±	

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1704	1805		S30-W102	楕円形65×50	C18	a	縄文	>62住	
1705	1806		S30-W102	円形67×67	C21	a	縄文	>1707土	
1706	1807		S30-W102	円形92×83	B16	a	縄文	>1707・1708土	
1707	1808		S30-W102	円形230×215	B15	a	縄文	>1705・1706・1708土	
1708	1809		S30-W102	楕円形(170)×140	B26	a	縄文	>1709土、<1706・1707土	
1709	1810		S30-W99	円形94×92	B10	a	縄文	<1708土	
1710	1811		S30-W96	楕円形120×96	E40	a	縄文		
1711	1812		S30-W96	円形70×70	C17	a	縄文		
1712	1813		S33-W96	不整形100×36	F6	a	縄文		
1713	1814		S36-W96	円形50×46	F7	a	縄文		
1714	1815		S36-W93	円形56×52	F6	a	縄文		
1715	1816		N33-W75	円形60×(54)	F5	a	縄文	<1662・1718土	
1716	1817		S36-W93	楕円形54×44	F5	a	縄文		
1717	1818		S36-W93	円形87×78	B12	a	縄文		
1718	1819	46	N36-W93	楕円形134×84	B23	a	縄文	>1715土、<1662・1684土	
1719	1820		S33-W93	隅丸方形(90)×73	B8	a	縄文		
1720	1821		S33-W93	円形50×50	B4	a	縄文		
1721	1822		S33-W93	円形60×56	B4	a	縄文		
1722	1823		N33-W78	円形78×80	A4	c	縄文	>1836土	
1723	1824		S30-W93	円形50×50	B5	a	縄文		
1724	1825		S30-W93	楕円形68×48	B7	a	縄文		
1725	1826		S33-W96	楕円形60×46	B7	a	縄文		
1726	1827		S30-W93	楕円形57×40	B7	a	縄文		
1727	1828		S30-W93	楕円形124×100	B9	a	縄文		
1728	1829		S27-W90	円形78×74	B14	a	縄文		
1729	1830		S27-W93	楕円形93×72	B20	a	縄文		
1730	1831	46	S27-W99	楕円形134×115	F64	a	縄文		
1731	1832		S27-W99	円形61×57	A90	a	縄文		
1732	1833		S27-W99	円形70×66	B60	a	縄文		
1733	1834		S27-W105	円形104×90	C25	a	縄文		
1734	1835		S27-W105	円形65×56	C37	a	縄文		
1735	1836		S30-W108	楕円形65×(60)	不明				
1736	1837		S27-W108	円形55×(45)	C22	a	縄文	>1737土	
1737	1838		S27-W108	円形90×85	C20	a	縄文	<1736土	
1738	1839		S24-W102	円形105×100	B22	a	縄文	>1739土	
1739	1840		S24-W102	円形60×65	C73	a	縄文	>1742土、<1738土	
1740	1841	47	S24-W102	楕円形140×104	F54	a	縄文	>1741土、<1743土	
1741	1842		S24-W102	円形60×60	不明			<1739・1740土	
1742	1743		S24-W102	円形105×(95)	B28	a	縄文	<1739土	
1743	1844		S24-W102	円形60×60	B40	a	縄文	>1740土	石器
1744	1845		S24-W102	楕円形75×60	A44	a	縄文	>1745土	
1745	1846		S24-W102	楕円形65×(35)	B44	a	縄文	<1744土	
1746	1847	47	S21-W105	楕円形110×90	B50	a	縄文	>58住・59住	
1747	1848		S24-W99	円形50×50	B40	a	縄文		

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1748	1849		S 24-W99	楕円形70×(70)	B 40	a	縄文	<1750土	石器
1749	1850		S 24-W99	円形70×65	B 34	a	縄文	>1750土	
1750	1851		S 24-W99	楕円形110×60	B 40	a	縄文	>1748土、<1749土	
1751	1852		S 24-W96	楕円形82×68	F 34	a	縄文		
1752	1853		S 24-W96	円形66×66	B 40	a	縄文	> P 1353・1354	
1753	1854		S 24-W99	円形123×120	B 24	a	縄文		
1754	1855		S 24-W99	円形70×65	B 30	a	縄文	>1756・1757土	
1755	1856		S 24-W96	楕円形60×40	C 17	a	縄文	>1757土	
1756	1857		S 24-W99	楕円形(198)×80	B 73	a	縄文	<1754土	
1757	1858		S 24-W96	楕円形(85)×82	不明			<1754・1755土	
1758	1859		S 24-W96	円形85×80	B 20	a	縄文		
1759	1860		S 24-W93	楕円形148×94	E 30	a	縄文		
1760	1861		S 24-W96	円形68×60	F 100	a	縄文		石器
1761	1862		S 24-W93	楕円形105×100	C 26	a	縄文		
1762	1863		S 21-W90	円形74×70	B 20	a	縄文		
1763	1864		S 18-W90	円形56×56	B 14	a	縄文		
1764	1865	47	S 18-W90	円形120×113	B 52	a	縄文		
1765	1866		S 18-W93	円形85×80	B 13	a	縄文		
1766	1867		S 21-W90	円形70×60	B 44	a	縄文		
1767	1868		S 21-W96	円形75×80	B 14	a	縄文		
1768	1869		S 21-W102	円形60×55	B 8	a	縄文	>1769土	
1769	1870		S 21-W102	円形80×(55)	A 23	a	縄文	<1768土	
1770	1871		S 18-W105	方形60×59	B 40	a	縄文	>1772土	
1771	1872		S 18-W108	円形65×60	B 24	a	縄文	>1772土	
1772	1873		S 21-W108	楕円形160×116	B 50	a	縄文	>1770・1771土	
1773	1874		S 18-W108	円形110×95	B 46	a	縄文		
1774	1875	47	S 21-W108	円形60×55	B 50	a	縄文	>1775土	
1775	1876		S 21-W108	楕円形170×(125)	A 36	a	縄文	>31溝、<59住、1774土	
1776	1877		S 68-W108	楕円形150×(85)	A 17	a	縄文	<56住	
1777	1878		S 18-W99	円形64×(58)	C 31	a	縄文	<56住	
1778	1879		S 15-W99	円形75×(40)	B 30	a	縄文	<56住	
1779	1880		S 15-W99	楕円形90×75	A 9	a	縄文		
1780	1881		S 18-W99	円形70×70	A 12	a	縄文		
1781	1882		S 15-W99	円形73×65	B 14	a	縄文		
1782	1883		S 12-W99	円形85×75	B 18	a	縄文		
1783	1884	47	S 12-W99	円形65×60	B 26	a	縄文		
1784	1885		S 12-W99	楕円形80×60	B 22	a	縄文		
1785	1886		S 12-W108	円形50×40	A 5	a	縄文		
1786	1887		S 9-W105	円形80×80	A 9	a	縄文		
1787	1888		S 9-W105	円形85×85	B 5	a	縄文		
1788	1889		S 6-W105	楕円形74×62	B 11	a	縄文		
1789	1890		S 6-W105	円形64×60	B 8	a	縄文		
1790	1891		S 9-W102	楕円形110×100	B 12	a	縄文		
1791	1892		S 9-W102	円形50×45	B 18	a	縄文		
1792	1893		S 9-W96	円形50×55	B 18	a	縄文		

番号	旧番号	図	位 置	平 面 形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切 り 合 い 関 係	備 考
1793	1894		S 9 - W99	円 形55×55	C 40	a	縄文		
1794	1895		S 9 - W96	円 形50×50	B 44	a	縄文		
1795	1896		S 9 - W96	円 形68×60	C 52	a	縄文		
1796	1897		S 12 - W96	楕円形90×75	B 32	a	縄文		
1797	1898		S 12 - W96	楕円形110×95	B 36	a	縄文		
1798	1899		S 12 - W96	楕円形140×110	B 20	a	縄文		
1799	1900	47	S 15 - W96	楕円形105×70	B 36	a	縄文		
1800	1901		S 15 - W96	円 形55×55	B 12	a	縄文		
1801	1902		S 15 - W96	円 形55×55	B 6	a	縄文		
1802	1903		S 15 - W96	円 形80×75	B 10	a	縄文		
1803	1904		S 12 - W90	楕円形110×90	C 30	a	縄文		
1804	1905		S 12 - W90	円 形100×100	E 70	a	縄文		石器、縄文土器
1805	1906	47	S 15 - W90	円 形85×86	B 22	a	縄文		
1806	1907		S 15 - W90	円 形87×80	B 37	a	縄文	> 1807・1808・1813土	
1807	1908		S 15 - W90	隅丸方形135×85	C 14	a	縄文	> 1813・1814土、< 1806土	
1808	1909		S 12 - W90	楕円形100×48	B 30	a	縄文	> 1809土、< 1806土	
1809	1910		S 12 - W90	楕円形98×68	B 9	a	縄文	< 1808土	
1810	1911		S 12 - W90	円 形116×104	B 13	a	縄文	> 1811・1813土	石器
1811	1912		S 12 - W90	円 形123×(63)	不明			> 1813土、< 1810土	
1812	1913		N 36 - W 78	円 形53×52	不明				
1813	1914		S 12 - W90	楕円形173×124	不明			< 1806・1807・1810・1811・1814土、P134	
1814	1915		S 15 - W90	円 形76×(65)	B 9	a	縄文	> 1813土、< 1807土	
1815	1916		S 12 - W93	円 形68×68	B 16	a	縄文		
1816	1917		S 12 - W93	円 形80×68	A 4	a	縄文	> 1817土	
1817	1918		S 12 - W93	円 形45×(53)	不明			< 1816土	
1818	1919		S 12 - W93	楕円形120×85	A 8	a	縄文		
1819	1920		S 9 - W96	楕円形90×68	C 25	a	縄文		
1820	1921		S 9 - W96	楕円形105×75	E 42	a	縄文	> 1821土	
1821	1922	47	S 6 - W92	円 形64×(50)	C 22	a	縄文	< 1820土	
1822	1923	47	S 9 - W93	楕円形105×75	C 37	a	縄文	> 1824土	
1823	1924		S 9 - W93	円 形70×65	C 15	a	縄文	> 1824土	
1824	1925		S 9 - W93	円 形70×70	C 13	a	縄文	< 1822・1823土	
1825	1926		S 9 - W93	円 形60×60	C 25	a	縄文		
1826	1927		S 9 - W93	楕円形60×47	C 22	a	縄文		
1827	1928		S 9 - W93	円 形55×50	C 21	a	縄文		
1828	1929	48	S 9 - W87	円 形50×50	C 12	a	縄文		
1829	1930		S 9 - W87	円 形83×83	A 5	a	縄文		
1830	1931		S 6 - W84	不整形240×150	A 27	a	縄文		
1831	1932		S 9 - W105	不整楕円形60×36	不明		縄文	> 27溝	
1832	1933		S 3 - W87	円 形85×80	F 8	c	縄文		
1833	1934	48	S 6 - W96	楕円形55×45	C 25	a	縄文		
1834	1935		S 6 - W96	円 形55×45	C 21	a	縄文		
1835	1936		S 6 - W96	円 形100×90	B 14	a	縄文	> P1310・1311、< P1312・1313	
1836	1937		N 33 - W 78	円 形60×70	C 15	a	縄文	< 1722土	
1837	1938		N 33 - W 78	円 形130×99	C 12	a	縄文		

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1838	1939		N30-W75	楕円形147×102	B 8	a	縄文		
1839	1940		S 3-W93	円形75×70	C14	a	縄文		
1840	1941		S 3-W96	楕円形75×50	C12	a	縄文		
1841	1942		S 3-W99	楕円形140×52	B10	a	縄文	>14堅	
1842	1943		S 3-W99	楕円形90×55	A13	a	縄文		
1843	1944		S 6-W99	円形65×65	B13	a	縄文	>14堅	
1844	1945		S 3-W99	楕円形90×70	B26	a	縄文	>14堅	
1845	1946		S 3-W105	楕円形155×110	B10	a	縄文		
1846	1947		NS 0-W105	円形75×75	C20	a	縄文	>1847・1848土、P1446	
1847	1948		NS 0-W102	円形80×(50)	C25	a	縄文	<1846土	
1848	1949		NS 0-W105	楕円形(125)×112	B22	a	縄文	<1846土	
1849	1950		NS 0-W99	楕円形84×74	C 7	a	縄文		
1850	1951		N 3-W102	不整形134×114	C23	a	縄文		
1851	1952		N 3-W99	円形66×64	C14	a	縄文		
1852	1953		N 3-W98	楕円形102×68	F 3	c	縄文	>1853土	
1853	1954		N 3-W99	隅丸方形(65)×48	F 4	c	縄文	<1852土	
1854	1955		N 3-W96	円形88×87	A 7	a	縄文		
1855	1956		NS 0-W96	円形64×60	C13	a	縄文		
1856	1957	48	N 3-W96	楕円形80×52	C24	a	縄文		
1857	1958		NS 0-W93	楕円形232×58	A12	a	縄文	>P1296	
1858	1959		NS 0-W93	円形112×98	A13	a	縄文		
1859	1960		S 3-W93	円形55×50	F 4	c	縄文		陶磁器
1860	1961		NS 0-W93	楕円形60×45	C 8	a	縄文		
1861	1962		NS 0-W93	円形50×45	A18	a	縄文		
1862	1963		NS 0-W87	円形80×80	F 6	c	縄文		
1863	1964		NS 0-W87	楕円形100×80	C 5	a	縄文		
1864	1965		S 3-W84	円形118×112	C20	a	縄文		
1865	1966		S 3-W87	円形105×97	C10	a	縄文		
1866	1967		N 3-W84	不整形132×80	C16	a	縄文		
1867	1968		N 3-W84	円形100×95	C14	a	縄文		
1868	1969	48	N 3-W87	楕円形358×150	B34	a	縄文		石器
1869	1970		N 3-W90	楕円形332×220	C 9	a	縄文		石器
1870	1971		N 3-W90	円形95×88	C10	a	縄文		
1871	1972		N 3-W90	楕円形88×62	F 5	c	縄文		
1872	1973		N 6-W90	円形105×82	F 5	c	縄文		
1873	1974		N 3-W93	円形55×58	C13	a	縄文		
1874	1975		N 6-W90	楕円形85×71	B26	a	縄文		
1875	1976		N 6-W67	円形79×76	B14	a	縄文		
1876	1977		N 6-W90	隅丸方形71×41	B30	a	縄文		
1877	1978		N 6-W90	楕円形84×51	B22	a	縄文		
1878	1979		N 6-W93	楕円形270×66	B17	a	縄文	>1879土、P1278	
1879	1980		N 6-W93	楕円形144×130	B15	a	縄文	<1878土	
1880	1981		N 6-W93	楕円形100×68	B10	a	縄文		
1881	1982	48	N33-W84	円形53×47	C15	a	縄文	<1882土	
1882	1983		N33-W78	円形78×63	C15	a	縄文	>1881土	

番号	旧番号	図	位 置	平 面 形 規模 (cm)	断面形 深さ (cm)	覆土	時期	切 り 合 い 関 係	備 考
1883	1984		N33-W78	円 形94×88	B36	a	縄文	>1884土	
1884	1985		N33-W78	円 形89×(78)	C11	a	縄文	<1883土	
1885	1986		N12-W96	円 形60×52	C7	a	縄文		
1886	1987		N9-W93	楕円形88×74	E8	a	縄文		
1887	1988		N9-W93	楕円形68×54	C7	a	縄文		
1988	1989		N9-W90	楕円形120×88	B50	a	縄文		
1889	1990		N12-W90	円 形60×60	C8	a	縄文		
1890	1991		N9-W87	円 形52×48	C21	a	縄文		
1891	1992		N9-W87	円 形64×54	C24	a	縄文		
1892	1993		N9-W87	円 形53×50	B7	a	縄文		
1893	1994		N12-W87	隅丸方形144×103	B12	a	縄文		
1894	1995		N12-W84	楕円形153×84	B9	a	縄文		
1895	1996		N9-W84	円 形60×53	B16	a	縄文		
1896	1997		N9-W81	方 形80×80	B47	a	縄文		
1897	1998		N9-W81	楕円形132×72	B22	a	縄文		
1898	1999		N15-W84	楕円形82×48	B16	a	縄文		
1899	2000		N15-W87	円 形75×70	B30	a	縄文		
1900	2001		N15-W87	楕円形60×36	B16	a	縄文		
1901	2002	48	N15-W87	楕円形160×112	B20	a	縄文	>P1268	
1902	2003		N15-W87	楕円形126×103	B9	a	縄文		
1903	2004		N15-W90	楕円形113×81	B16	a	縄文		
1904	2005		N15-W90	円 形57×53	C20	a	縄文		
1905	2006		N15-W93	楕円形90×76	C20	a	縄文		
1906	2007		N15-W96	楕円形(90)×76	F24	a	縄文		
1907	2008		N15-W96	楕円形82×69	B36	a	縄文	>1908土	
1908	2009		N15-W96	楕円形62×51	B12	a	縄文	<1907土	
1909	2010		N15-W99	楕円形70×53	C22	a	縄文		
1910	2011		N21-W96	楕円形128×106	B15	a	縄文	>1911土	
1911	2012		N21-W96	不整形270×200	C7	a	縄文	>1913土、<1910土、28溝	
1912	2013	49	N18-W96	不整形250×(160)	C8	a	縄文	>1913土、<28溝	
1913	2014		N18-W96	不整形(350)×(180)	C16	a	縄文	<1911・1912土、29溝	
1914	2015		N21-W93	楕円形70×64	B18	a	縄文	>1916土	
1915	2016		N21-W93	円 形82×70	C20	a	縄文	>1916土	
1916	2017		N21-W93	円 形82×(80)	不明		縄文	<1914・1915土	
1917	2018		N24-W93	楕円形134×104	C20	a	縄文		
1918	2019		N18-W90	円形124×88	C14	a	縄文		
1919	2020		N24-W90	楕円形124×90	C14	a	縄文		
1920	2021		N18-W90	円 形80×76	C20	a	縄文	>1921土	
1921	2022		N18-W90	円 形69×60	C16	a	縄文	<1920土	
1922	2023		N18-W78	楕円形60×46	F12	a	縄文		
1923	2024		N18-W87	楕円形90×64	C20	a	縄文		
1924	2025		N18-W87	円 形92×85	C5	a	縄文	>1925土	
1925	2026		N18-W87	円 形66×(65)	C20	a	縄文	<1924土	
1926	2027		N18-W87	円 形70×70	F10	c	縄文		
1927	2028		N18-W84	楕円形90×75	B18	a	縄文		

番号	旧番号	図	位置	平面形 規模(cm)	断面形 深さ(cm)	覆土	時期	切り合い関係	備考
1928	2029		N18-W84	楕円形70×60	C 9	a	縄文		
1929	2030	48	N30-W93	楕円形140×120	C17	a	縄文	<1930土	
1930	2031		N30-W93	円形106×103	C10	a	縄文	>1929・1931土、P1222	
1931	2032		N27-W93	円形106×103	C 6	a	縄文	>P1222、<1930土	
1932	2033		N30-W78	円形80×74	C13	a	縄文		
1933	2034		N30-W93	楕円形(140)×52	C 8	a	縄文	<11号墳周溝	
1934	2035		N51-W69	円形54×50	C17	a	縄文	>11整	
1935	2036		S 9-W102	円形80×75	B24	a	縄文		
1936	2037	48	N27-W87	楕円形110×88	C64	a	縄文	>10整、30溝	
1937	2038		N27-W87	楕円形100×80	C30	a	縄文		
1938	2039		N27-W87	楕円形92×66	C11	a	縄文		
1939	2040		N30-W84	円形64×56	C30	a	縄文	>1940土	
1940	2041		N30-W84	楕円形84×(62)	F20	a	縄文	<1939土	
1941	2042		N30-W84	円形50×46	B24	a	縄文		
1942	2043		N30-W84	楕円形93×68	C25	a	縄文		
1943	2044		N33-W84	円形64×63	C30	a	縄文		
1944	2045		N33-W84	楕円形82×64	C24	a	縄文		
1945	2046		N33-W84	楕円形76×61	C20	a	縄文		
1946	2047		N30-W84	楕円形60×46	C69	a	縄文		
1947	2048		N33-W87	円形70×68	C25	a	縄文		
1948	2049	49	N33-W87	楕円形172×(130)	E40	a	縄文	>1949土、<11号墳周溝	
1949	2050		N30-W87	円形66×(70)	C22	a	縄文	<1948土	
1950	2051		N38-W84	円形60×52	C23	a	縄文		
1951	2052		N33-W84	円形94×78	C16	a	縄文		
1952	2053	49	N33-W84	円形180×190	C28	a	縄文	>1953土	
1953	2054		N36-W84	不整形192×185	F27	a	縄文	>1954土、<1952土	
1954	2055		N36-W84	円形70×60	C31	a	縄文	<1953土	
1955	2056		N36-W81	円形55×57	C17	a	縄文		
1956	2057		N33-W81	円形52×52	C25	a	縄文	>1957・1959土	
1957	2058	49	N33-W81	楕円形157×110	E36	a	縄文	>1956・1958土	
1958	2059		N33-W81	円形94×(90)	不明		縄文	<1957土	
1959	2060		N33-W81	楕円形164×120	C15	a	縄文	<1956土	
1960	2061		N33-W81	円形58×54	F11	c	縄文		
1961	2062		N30-W81	円形76×68	C 8	a	縄文		
1962	2063		N30-W81	円形68×66	C 8	a	縄文		
1963	2064		N30-W81	円形71×78	C18	a	縄文		
1964	2065		N30-W81	円形56×63	C18	a	縄文		
1965	2066		N42-W69	円形64×48	不明				
1966	2067		N51-W69	円形(132)×144	C45	a	縄文	<1968土、11整	陶磁器
1967	2068		N51-W69	円形52×57	C11	a	縄文		
1968	2069	49	N54-W69	不整形330×160	C23	a	縄文	>11整	
1969	2070		N48-W81	円形74×66	不明				
1970	2071		S94-W111	円形70×70	B15	a	不明		焼土、骨片
1971	2072		N36-W66	楕円形84×56	B14	a	不明	>54住	
1972		49	N26-W75	楕円形172×(88)	B84	a	不明	<11号墳周溝	焼土



第4表 溝一覧表

遺構 No.	調査 年度	図 No.	位 置	規 模			重 複 関 係	備 考	
				長さ(m)	幅(cm)	深さ(cm)		時 期	そ の 他
1	/	/	欠番						
2	62	II	S5-S6, W24-W26	2.60	120	20		古墳時代前期以前	
3	/	/	—————	—————	—————	—————			7号墳周溝となる。
4	62	II	S81-S82, W15-W29	14.14	30~74	11~37	2・5住を切る。5溝に切られる。	古墳時代前期	
5	62	II	S72-S82, W22-W27	9.00	80~250	10~25	4溝を切る。		
6	62	I	NS0-S3, W29-W34	1.90	130	10~70		縄文時代中期	
7	62	II	S30-S34, W1-W3	3.80	60~74	7~12		時期不明	
8	62	I	S1-S3, W38-W42	4.20	70~125	16~50	482土に切られる。	縄文時代中期	
9	62	I	NS0-S2, W50-W52	2.70	70~130	14~21			
10	62	I	N69-N71, W27-W28	10.50	75~110	3~13		古墳時代前期	
11	62	I	N71-N72, W30-W32	2.20	35~60	15~23		時期不明	
12	62	I	N39-N45, W39-W40	6.70	50~90	4~12	36住、7号墳に切られる。	古墳時代以前	
13	62	II	N20-N26, W14-W16	5.10	110~150	40~45		古墳時代前期	
14	/	/	欠番						
15	62	I	S99-S105, W47-W50	5.60	50~70	18~36			暗渠排水路
16	62	I	S92-S94, W40-W41	2.45	40~55	7~12			
17	62	II	S93-S103, W23-W35	10.20	90~260	3~11			
18	62	II	S106-S109, W35-W40	3.50	100~160	6~25			
19	62	II	S94-S113, W20-W40	26.10	120~283	8~16	21溝、P324・P329を切る。 P322・P323に切られる。		暗渠排水路
20	62	II	S100-S107, W22-W31	9.50	110~210	6~11	21溝に切られる。		
21	62	II	S102-S115, W21-W40	21.00	160~360	5~26	P325に切られる。		
22	62	II	S90-S93, W16-W18	2.40	40~50	4~14	843土に切られる。		
23	63	50	N19-S10, W68-W76	29.70	20~80	8~32	1510・1597土、P912を切る。 11号墳周溝、1419・1517・1520・ 1539・1544・1546土、P911に 切られる。	縄文時代中期初頭	
24	63	51	S53-S56, W57-W70	12.60	20~140	18~30	1060・1064土を切る。	中世以降	
25	63	51	S55-S58, W100-W109	6.20	90~170	2~25	1626・1627・1628・1636土、 P1440に切られる。	縄文時代中期初頭	
26	63	/	S52-S55, W108-W112	2.80	150~160	8~17		時期不明	
27	63	/	S35-S45, W92-W113	22.00	260~750	2~15	1830土に切られる。	時期不明	暗渠排水路
28	63	50	N14-N20, W98-W101	5.60	50~90	2~10	29溝、1912土を切る。1911 土に切られる。	古墳時代前期	
29	63	50	N16-N22, W95-W101	6.80	40~120	8~57	1913土を切る。28溝に切ら れる。	古墳時代中期以前	
30	63	51	N23-N27, W86-W99	12.70	95~300	3~14	11号墳周溝、1936土に切ら れる。	古墳時代中期以前	
31	63	/	S21-S31, W110-W112	9.80	(120)	7~24	1775土に切られる。		
32	63	50	N39-N50, W79-W83	7.80	40~60	13~17	11・12号墳周溝に切られる。	古墳時代中期以前	
33	63	52	N56-N68, W69-W74	12.20	120~250	9~24	12号墳周溝に切られる。	古墳時代中期以前	
34	63	52	N66-N71, W58-W70	12.80	40~120	5~22		時期不明	

第5表 竪穴状遺構一覧表

遺構 No.	調査 年次	位 置	平面形	規 模	時 期	重 複 関 係	備 考	掲載図
				長軸・短軸・深さ (cm)				
1	62	—————	—————	—————	—————		第7号古墳周溝となる(1地区)。	—————
2	62	N21~N25、E1~E5	不明	(344)×(272)×112	平安時代			II
3	62	N10~N16、W4~W9	不整形	464×424×134	平安時代			II
4	62	N11~N16、EW0~W4	不明	(296)×392×152	平安時代			II
5	62	N60~N64、W23~W27	不整形	372×366×10	不明	593土を切る。		I
6	62	N47~N54、W38~W43	不整形	630×344×36	近世以降			I
7	62	N8~N11、W28~W32	不整形	340×270×40	不明	523・525・526・527土に切られる。		I
8	63	S72~S75、W84~W89	不明	(396)×(224)×12	縄文?			第53図
9	63	—————	—————	—————	—————		第1972号土坑に変更。	—
10	63	N26~N31、W86~W91	楕円形	(580)×420×24	縄文時代	11号墳周溝、1936土に切られる。		第54図
11	63	N47~N54、W71~W76	不整形	504×(460)×52	中世?	12号墳周溝、1934・1968に切られる。1966土を切る。		第55図
12	63	N66~N69、W49~W61	不明	(632)×(308)×56	不明	9号墳周溝に切られる。		第53図
13	63	N41~N44、W44~W47	楕円形?	(316)×(276)×176	平安時代			第56図
14	63	S4~S8、W100~W104	円形	412×412×20	縄文時代 中期初頭	1841・1843・1844土に切られる。		第56図

## 第3節 遺物

### 1. 土器・陶磁器

#### (1) 縄文時代の土器 (第58～63図)

##### 1) 早期の土器 (64・72)

押型文を有するもの。64は器面が荒れるが、わずかに山形押型文が観察され、薄手である。72は密な格子目押型文で、破片全面に施される。

##### 2) 早期末～前期初頭の土器 (20・22・28・61・62・73)

胎土に繊維を混入するもの。28は口縁部破片で、端部直下に隆帯を貼付するが剥落している。20・61・62・73は撚糸文が観察される。22は斜縄文を施し、薄手である。

##### 3) 前期の土器 (14・63)

諸磯式に属するものである。14は器形の復元できるもので、4単位の内湾する波状口縁を有する。施文は波状口縁部を円形、そのほかの部位は横位に細い粘土紐を貼付し、LRの縄文を横転する。諸磯B式に比定できよう。63は体部破片で、狭い平行沈線を斜位に施した後、円形の貼付を行う。

##### 4) 中期初頭の土器

本類の土器については過去2回の調査でも主体的に出土しており、第2次調査報告において4段階に編年を行っている。今回もこれに基づき系統・段階を把握した。

①縄文系の土器 (1・6～11・15～18・25・26・29～37・50・51・53・55～57・60・68～71・74・75・80・82～84・89・90・92・100・103) 第1段階に属するものは土坑1865出土の18が挙げられる。浅い鉢形の形態で、口縁部は内湾する。施文は3帯に分かれ、体部文様帯の上端には4単位の橋状把手を付す。いずれも細線文を主文様とする。三角陰刻文は列点化しており、本段階でも新しいものと考えられる。

第2段階に位置づけられるものは量的に最も多い。器形は深鉢、鉢(8)が挙げられる。深鉢はキャリパー形を呈するもの(10・11・15等)と直線的なもの(7・17等)の2者が存在する。文様帯は口縁部2段・体部1ないし2段が基本である。口縁部文様帯は上段が縄文、下段が無文のもの(15・30・34・25)の他、下段に縦位の平行沈線文等を施すもの(10)もみられる。三角陰刻文は列点状の刺突文に変化している(8・11・15等)。7は細線文+橋状把手・山形文の組合せで、基本的には第1段階に含むべき文様であるが、体部文様帯のあり方から本段階に含む。17も同様で、細線文は粗略化されている。外反する器形、突起のあり方等次段階につながる要素ももつ。体部は上段にやや弧線化したY字状文を巡らすもの(3・9)、玉抱き三叉文等を横帯させるもの(1・8・11・17)と、縦位に直線や弧線、ひし形のモチーフなどを垂下させるものがある(7・15)。7の垂下文は4単位で、次段階で確立する体部縦位4区画の先駆的なものと考えられる。体部の縄文は縦

位帯状に施すが、その間隔は狭く、接するものもある。16は口縁部に雑な刺突文、口縁部に1条の粗大な山形文を有する。体部は結節縄文を横転させた後さらに縦位に回転する。あまり見慣れないものだが胎土は他と同様在地の特徴を示す。おそらく2段階頃に帰属するものと考えられる。

第3段階は確実な遺構がなく、土器も小破片のため抽出が困難である。31・36は波状口縁をなすキャリバー形の深鉢である。口縁端部に刻目を施し、沈線による構図を施文する。36は波状部に玉抱き三叉文を描くものである。交互刺突文が多用される。71は縄文帯を有し、以下に沈線文を施す。45は深鉢底部で外方に張り出す形態。底部に沿って直線文、交互刺突文、列点文を施文する。

②沈線文系の土器（2・4・38～43・46～48・52・54・55・58・65～67・76～79・91・94～99） 小破片が多く、全形の判明するものが少ない。第1段階に属するものは99・102が挙げられる。2点とも外開する深鉢口縁部の破片である。102は古相を呈し、端部に細い粘土紐を貼付する。口縁部外面は上端を横位、以下縦位に平行沈線文を施文する。99は端部に刻みを行うほか102と施文が似る。縦位の平行沈線文は間隔をおいて行い、縄文地文となる。

第2段階は2～4他が該当する。深鉢は頸部が開いた後くの字状に内屈し、体部は直線のかやや張る形態を呈する。文様帯は口頸部2段・体部2段から3段ほどである。口頸部上段は格子目文（4・39・54・58・94・101）・瓦状押し引き文（84・38）等が施文される。口縁部および上下段の境界を幅広の連続爪形文を付した隆帯で画するものが存在する（39・58・94・101）。この手法は次段階で顕著となるが、上段の文様帯の幅が広く、交互刺突文を充填するものが見られないことから多くは本段階のものと考えた。口頸部下段は例外なく縦位の直線文となるが、1条毎間隔をおき、地文に縄文を施すものが顕著である（4・52・55・95）。これは縄文系にも時折見られるものである（10・32）。体部は上位に1～2帯横位の直線文（78）、格子目文（3・43・67・76・96）、羽状文（46）等を横帯させ、それ以下は無文（78）、あるいは縦位の沈線文（2・46）となる。3は格子目文帯の下に弧線化したY字状文を配し、縄文系との折衷と考えられる。地文に縄文を施すものも同様であろう。

第3・4段階は確実なものがない。41は体部破片で、縦位の隆帯を有する。

③外来系の土器（24・27・85～88） 24・27は同一個体の破片である。薄い器壁を有し、口縁部は内傾する。2片とも横位に狭い文様帯を有する。その上下は結節平行沈線で画し、内部にはRLの縄文を横転している。85～88も同一個体と考えられ、非常に薄手である。88は口縁下に突帯を貼付、端部および突帯上に連続爪形文、地文にLRの縄文を横転する。85～87は体部片で、縄文施文の後縦横位に連続爪形文を付した隆帯を貼付する。これらは胎土が異なり、おそらく関西地方よりもたらされたものと考えられる。

##### 5) 中期後葉の土器（19・81）

唐草文系の土器で、81は口縁部、19は体部の破片である。いずれも太い沈線により施文され、81は口縁部に最大径を有し、横位の区画文が描かれる。

## (2) 古墳時代前期の土器 (第64～66図)

古墳時代土器の主体を占めるが、摩滅の進んだ小破片が多く、提示できた点数は前2回の報告より少ない。該期の住居址からの出土が多いが、中期古墳の周溝埋土に混入していたものもかなりある。すべて土師器で、器種は壺、甕、台付甕、高坏、器台、鉢、蓋、小形丸底埴、甑があり、壺・甕・台付甕・器台などに多様性が指摘できる。

壺は全形がわかるものはないが、口縁部形態では、単純に開くもの(58・63)、端部がわずかに受け口を呈すもの(5)、端部が折り返し状に稜をもつもの(7・50・73)、端部が立ち上がるように稜をもつもの(67)、端部に面を作り文様をもつもの(29・175)、有段口縁のもの(14)、などに分類できる。文様を持つものもいくつかあり、円形浮文(14・175)、棒状浮文(29)、T字文・横線文(163・166・170・171)、などが見られる。甕は球形の胴部から「く」の字状に口縁部が開く形態と、胴部がやや卵形を呈するものがあり、後者には櫛描波状文が施されたり(39・165)、タタキが巡る(38)。台付甕は口縁部形態が単純に開くものと、稜をもって斜めに立ち上がるものがあり、後者はいわゆるS字状口縁台付甕(24)とそれを模したものであろう。器台には小形器台(19・30・46・53・68)と装飾器台(28・57)が見られる。

壺の有段口縁や円形浮文は畿内、台付甕や壺の棒状浮文あるいは折り返し口縁は東海地方、装飾器台は北陸の影響と考えられ、T字文・横線文や櫛描波状文、単純に開く壺の口縁部形態などが在地の弥生時代後期から残る要素である。

一括性の高い良好な資料としては第66号住居址出土の一群(28～40)が挙げられる。口縁端部が面をもって立ち上がり棒状浮文で飾られる壺、T字文の壺、各種の台付甕、球形胴やタタキ・波状文の甕、涙滴形透かしを持つ装飾器台などが組合わさっており、在地系と各種の外来系土器の混在は注目に値しよう。前2回の報告のなかでは第37号住居址や第40号住居址出土品の一括性が高いが、本址出土品の内容はこれらに比肩し、本遺跡の該期を代表する資料の一つといえる。

## (3) 古墳時代中期の土器 (第67～70図)

本項では第3次調査において出土した古墳時代の土器のうち、11・12号墳周溝より出土した、中期に属するものについての記述を行う。

### 1) 器種・器形

出土土器は古墳の供献品という性格上、器種は該期の一般相と比べ偏りや欠落、また特殊な形態がみられる。分類に当たっては一般的な呼称を用い、必要なものはアルファベットや数字を冠して細分を行った。

器種は須恵器蓋・坏・甗・甕、土師器坏・高坏・埴・壺・甕・手捏ねが挙げられる。

#### ① 須恵器蓋 (79)

1点存在する。口径13.1cm・器高4.7cm。形態は長く直な立ち上がりに、偏平な天井部が取り付け。境界の稜は鋭くつまみ出され、口縁端部は内傾気味に鋭く面取りがなされる。天井部の回転へ

ラケズリは時計回りに稜付近まで入念に行われ、南面には仕上げナデが施される。この様に丁寧なつくりである反面、全体に厚手の印象を受ける。焼成は堅緻である。

#### ②須恵器坏 (80)

口径11.2cm・器高5.0cm。やや長く内傾気味に立ち上がる口縁部と、腰が張り偏平な底部が特徴的である。口縁端部は内傾してやや凹面をなし、受け部のつまみ出しは鋭角的である。底部の回転ラケズリは時計回りに受け部付近まで入念に行われる。また見込みには仕上げナデが施され、蓋との技法上の共通点が多く、分量・出土状況などからセットと考えられよう。

#### ③須恵器甕 (81~83)

小形甕 (81・82) と大形甕 (83) に分けられる。形態は3点とも体部に最大径を有し、口縁部および頸部径が小さい。体部の形態は (81・83) が上位に最大径を有するのに対し、(82) は中位が張る。口縁端部は鋭く外方につまみ出されるが、(82) は内側が凹面をなす。頸部の稜は (82) を除き鋭くつまみ出される。

製作技法上の特徴としてはいずれもロクロナデの後底部内面に棒状工具先端による突きが行われ、対応して外面体部下半にはタタキや不定方向のナデが残される (ロクロナデの後に行われる)。

施文は口頸部及び体部最大径付近に密な櫛描波状文が施されるが、(81) は体部無文、(82) は波状文の上下に区画線を有している。

焼成は (82) がやや軟質な感を受けるが他は非常に堅緻である。

#### ④須恵器甕 (84・85)

(85) は全形の窺えるもので、最大径に比べ器高の短い形態である。また (84) も含め頸部の取約が大きい。口頸部は両者とも大きく外反し、端部は水平に外開、面を有する。そのつまみ出しは (85) は鋭く、(84) は鈍く丸い。(85) は口縁部に断面三角形の鈍い稜を有する。施文は2点とも行われない。

体部は外面に密な平行タタキを行い、内面は同心円当て具痕をナデ消している。(85) は体部外面にカキ目をラセン状に巡らせている。

器壁はやや厚く、焼成は (84) は甘く軟質、(85) は堅緻で上半部に自然釉が厚く付着する。

#### ⑤土師器坏 (95~99・136~142)

量的に少ないが口縁部の形態にA・Bの二者がみられる。

坏A 口縁部がくの字状に短く外反、丸底を呈する。最大径の位置よりさらに二者に分かれる。

A 1 (97・98・140・141) 口縁部に最大径を有し、体部の張らないもの。

A 2 (99) 体部の径が口径と等しいか、大きいもの。

坏B 口縁部を単純に収めるもの。丸みを帯びた体部、丸底を呈する。

B 1 (96・136~138) 口縁部が直立または外開するもの。

B 2 (95) 口縁部が内湾するもの。

これらは法量的には口径11.9～15.0cm・器高4.0～6.6cm、径高指数32～44のものが大半だが、口径に比して深い（径高指数60前後）ものがA 1（140）・2（99）、B 1（136）に存在する。

製作技法的にはミガキが徹底され、ヘラケズリにより器壁の薄化が図られるが、B 1形態においては必ずしもミガキを行わないものも見受けられる（96・136）。また前述の深い形態のものは底部が厚手で、胎土もやや粗い。

（139）はA・Bの規格から外れるもので、厚手の器体、雑な成形・調整が特徴的である。口縁端部は内傾する面を有し、ヘラ状の工具により、粗雑に刻み（およそ装飾とは考えられない）を行っている。胎土は精製され杯A・Bと似るが他に類品がなく、異質なものである。

#### ⑥土師器高坏（100～128・143）

坏部の形態によりA～C、さらに脚部の形態から1～3に分類されよう。

高坏A（100～113）2段に成形される坏部で、腰部に鈍い稜を有する。大半がこの形態である。口径15.8～20.6cm・器高11.1～12.5cmを測る。坏部の径高指数は23.2～27.8で個体差があまりない。口縁部～体部は内湾傾向が強く、端部も内反させるものが多い。内外ハケ調整・口縁部ヨコナデの後縦位にミガキを行うが、全体にやや雑である。胎土は精選され、橙褐色を呈する。これらの特徴は各個体とも極めて近似している。

高坏B（115）坏部を3段に成形するもので、外面に2条の稜を有する。口径18.4cm・器高13.3cm・坏部径高指数29.9を測る。口縁端部は内湾する。内外縦位のミガキを行い、胎土は精良、橙褐色を呈する。

高坏C（114）口縁部がくの字状に短く外反し、深い坏形態を呈する。口径18.0cm・器高14.0cm・坏部径高指数40.6を測る。腰部には他と同様鈍い稜を有し、内外縦位のミガキを施す。胎土・色調は他の高坏と同傾向を示す。

脚部形態1（106～114・116～119・121～124・127）裾部が明瞭に屈折して開くもの。柱状部は緩く外開し、やや膨らむものもみられる。裾端部は内湾気味に収める。

脚部形態2（115～125?）裾部は屈折して開くが、柱状部との境界が不明瞭で、短い。形態1と比べ柱状部の開きが強い。形態1・3の中間的な形態。

脚部形態3（120・126?・128）柱状部・裾部の区別がない。接合部より大きく開き、外反して裾部に至る。裾端部は反り上がり気味となる。

量的には形態1が圧倒的に多い。いずれも外面に縦位のミガキを行う。坏部との関係が把握できるものは11点存在する。高坏Aは9点全てが形態1である。高坏B（115）は形態2である。高坏C（114）は形態1がみられる。形態3は坏部との接合例がなく不明。

#### ⑦土師器埴（129・130・144）

丸底の直口壺である。次の2形態が存在する。

埴A（129・130）口径8.7～9.3cm・器高13.4～13.5cm。下位に最大径を有するやや扁平な体部に、

内湾気味に緩く開く口縁部が付く。口縁部内外・体部外面にミガキを行い、胎土は精製される。2点とも形態・法量・技法等がほぼ一致する。

埴 B (144) 球形の体部に短い口縁部の取り付け形態。口径8.8cm・器高11.4cm。体部径に比して口径が大きく、口縁端部は短く内湾する。胎土は精製され、口縁部内外、体部外面に縦位のミガキを行う。

#### ⑧土師器壺 (131・145～147)

有段口縁、平底の小形品が認められた。口縁部の形態から2種に分けられる。

壺 A (145・146) 二重口縁の形態。口径11.0～13.9・器高11.8cm (146)。口頸部は短く、内面は段を形成しない。外面は鈍い稜を有する。口縁端部は内湾気味に収める。146は球形の体部をなし、小平底を有する。胎土は精製され、口縁部内外に横ないし縦位のミガキ、体部外面に縦位のミガキを行う。

壺 B (147) 口頸部が3段にくびれるもの。口径12.2cm・器高17.2cm。2条の稜は鈍く、口縁端部は外反気味に収める。体部はやや上位に最大径をおき、小径で厚い底部を有する。頸部から体部外面にはハケメを残し、ミガキは行っていない。胎土も粗く、壺 A とは対照的である。

#### ⑨土師器甕 (132～135・148)

主に小形の形態が見られる。135はこれらの内では大きいものだが、上半部の形態が不明である。

甕 A (132・133) 坏との区別が不明瞭な形態で、2点出土している。口縁部がくの字状に短く外反し、体部上位が張る平底の小形品で、器高は口径とほぼ等しい。口径8.4～10.5cm・器高8.7cm (133)。胎土は精製され、ミガキは行わないようだが丁寧なナデを施し薄手である。

甕 B (134・148) 丸底・球形の体部、くの字状に外反する口縁部を有する。口径10.8～12.3cm・器高9.2～10.0cm。胎土は粗く、調整も雑である。器壁は全体に厚い。148にはススの付着がみられる。

#### ⑩手捏ね (88～94)

頸部のくびれる壺形 (93・94?) とくびれない坏形 (86～92) が存在する。口径4.0～6.0cm・器高3.3～4.2cm。坏形の口縁部は内湾傾向のものと外反ないし外開するものがある。いずれも肉厚な平底を有し、雑なナデ・ヨコナデにより仕上げる。胎土は坏や高坏と同様精製され、橙褐色を呈する。

### 2) 各遺構出土土器の様相

ここでは1・2次調査で検出された住居址、古墳も含め、各遺構及び古墳周溝内の土器集中出土土器の様相を記す。なお第15号住居址出土土器は古墳時代中期に属するが、時期的に他の土器群とは大きく隔たりがあるとみられ、ここでは扱わないこととする。

#### ①第39号住居址出土土器 (第1次)

遺物が少なく、全形の知れるものはない。器種は須恵器蓋、土師器高坏・壺 (各1点) が存在す



る。須恵器蓋は直な立ち上がり、鋭い稜を特徴とするが、口径が非常に小さく、天井部がぶ厚い。土師器高坏は脚部のみで、形態2の特徴を示す。壺は全く形態がわからない。

#### ②第6号古墳出土土器（第1次）

遺物は断片的である。須恵器小形甕（1点）、土師器高坏（3点）がある。須恵器甕は口縁部を欠する。体部は肩部が強く張り、尖り気味の底部となる。穿孔部位に密な櫛描波状文を巡らす。頸部は無文である。高坏は脚部のみで、いずれも形態1の特徴を示す。

#### ③第7号古墳出土土器（第1次）

須恵器甕（1点）、土師器坏（2点）・高坏（7点）・壺（1点）が挙げられる。須恵器を除き周溝内からまとまって出土したものである。須恵器甕は口縁端部が上下に拡張され、頸部中に鈍い稜を有する。稜以下にはカキ目を施す。体部は平行タタキの後凹線をラセン状に巡らす。総じて薄手である。土師器坏は2点あり、坏B2に該当しよう。高坏はB類の坏部のみみられ、内面黒色処理を行うものが1点ある。脚部は形態2が5点、形態3が1点で、形態1は出土していない。壺は二重口縁となるもので、外反する口縁部に突帯を付して段を表出している。口縁部外面には縦位のミガキを暗文風に施す。

#### ④第11号古墳出土土器

器種の詳細については前項で述べた通りである。土器は周溝内においてA～F群の遺物集中から出土しており、各群に時間差を含む可能性も考え個別に提示する。

A群 器種は須恵器蓋・坏・大形甕・小形甕（以上各1点）、土師器坏A1（2点）・A2（1点）・高坏A（8点）・B（1点）・C（1点）・埴A（2点）・甕B（1点）が存在する。高坏脚部は形態1（13点）・2（2点）・3（1点）がある。

B群 須恵器甕（1点）、土師器坏B1（1点）・高坏A（3点）・壺A（1点）・手捏ね（1点）が出土している。高坏脚部は形態1（5点）・3（1点）である。

C群 須恵器甕（1点）、土師器坏B2（1点）・高坏A（1点）がある。高坏脚部は形態1（1点）がみられる。

D群 形態2の高坏脚部1点が存在。

E群 須恵器甕（1点）が出土している。

F群 土師器手捏ね（8点）がまとまって出土。

#### ⑤第12号古墳出土土器

以下の器種が認められた。土師器坏（1点）・坏A1（2点）・B1（3点）・高坏（1点）・埴B（1点）・壺A（2点）・B（1点）・甕B（1点）。

### 3）各遺構出土土器の時期

最後にまとめとして各遺構出土土器群の前後関係、帰属時期を把握したい。当該期の土器資料については松本平では少なく、編年も確立されていない。本遺跡出土品については古墳供献品という

性格上器種が限定され、また集落出土品と同義に扱うことも問題があると思われる。ここでは県内におけるこれまでの研究成果や、生産地における須恵器編年を参考におおまかな時期を考えたい。

まず須恵器の年代について。3次にわたる調査で出土した須恵器は、いずれも古式の様相を呈するものである。それぞれの特徴については既に詳細を記したところであるが、以下器種毎に再度取り上げ、時期を比定したい。

#### ①蓋・坏

(79・80)はセットとなるもので、低く平坦な天井部・底部と、長い立ち上がりの口縁部を有する。鋭い稜、端部の面取り、深く丁寧な時計回りのヘラケズリ等、入念な調整の反面、器壁はやや厚手で未熟な感を受ける。これらの特徴は田辺昭三氏の陶邑編年に照らせば、TK208型式の前半、ON46型式のそれに当てはまるものと考えられよう。

第39号住居址出土の蓋は天井部が分厚く、立ち上がりが外傾気味、口径が異常に小さいなど定型化以前の様相と考えられ、鋭い稜、面取りした端部と合わせON46型式頃と考えたい。

#### ②甗

(81・82・83)はいずれも体部径に比して頸部が非常に細い。対して6号墳出土のものは頸部が太く、やや新しい感を受ける。体部の形態は(82)が中位に最大径を有し、古い特徴を示す。(81・83)は肩部が張るが底部に丸みを残し、6号墳出土品ほど顕著な無花果形とはならない。櫛描波状文は密に施され、口縁部、頸部あるいは体部穿孔位置のいずれか2ヶ所に施される。それぞれ規格を逸脱するものではない。

この様な特徴から4点はTK208型式、中でも11号墳出土の3点はより古いON46型式に当てはまるだろうか。

#### ③甗

(85)は口縁部末端が水平に近く反り、端部は面を有する。直下の突帯は鈍く、櫛描文は施さない。体部は最大径がやや低い位置にあり、外面の密な平行タタキ、内面の同心円文スリ消しが特徴である。(84)は(85)と同様分厚い器壁で、口縁部が強く外反する。端部は外傾する面をもつがその両端は丸く鈍い。突帯、櫛描波状文は施されない。これらの特徴から2点は坏・甗と同様ON46型式に比定してよいと考えられよう。

7号墳出土品は11号墳のものと比較して薄手である。口縁部の反りも弱く端部が上下に拡張された形態となっている。頸部中位の稜は低く鈍い。稜以下にはカキ目が施される。体部のタタキは荒い目のものである。これらの事からその時期は上記2点より下り、TK23～47型式に比定できよう。

次に須恵器の年代を参考に各土器群の時期を笹沢浩氏の編年に照らしてみたい。

まず第11号墳出土土器であるが、各遺物集中間での時間差は、同一製作の可能性を示す形態・技法・胎土・分量の近似した高坏の存在、同一型式の須恵器の存在等からさほど開きはないものと考えられる。

全体的にみて初期須恵器の共伴、土師器高坏Aの稜が弱い、高坏脚部形態1はやや開きが強く丈は短めである、等から古墳時代中期でも新しく、Ⅲ期新段階に位置づけられようか。

次に第12号墳出土土器。遺構のあり方から第11号墳に先行する。須恵器の出土はなく土師器は比較できる対象があまりないが、坏類の存在、退化した有段口縁の壺などからⅢ期中～新段階と考えたい。

第7号墳出土土器は土師器坏B2の存在、高坏の脚形態、内面黒色処理の存在等第11・12号古墳出土品より新しい傾向が窺え、伴出する須恵器TK23～47型式に属する。古墳時代Ⅳ期古段階に位置づけられようか。

第6号墳・第39号住居址出土土器は資料が乏しいものの、高坏の脚形態、伴出する須恵器から第11号墳と7号墳の間に位置づけておきたい。

#### 参考文献

- 笹沢 浩 1988 『古代の土器』『長野県史 考古資料編』全1巻4 長野県史刊行会  
田辺昭三 1966 『陶邑古窯址群』Ⅰ 平安学園考古クラブ  
1981 『須恵器大成』 角川書店  
1982 『初期須恵器について』『考古学論考』平凡社

#### (4) 古墳時代後期の土器 (第71図)

第8号古墳およびその周辺からのみ出土している。すべて第8号古墳に伴っていたものとする。すべて須恵器で、器種は坏、蓋、高坏、提瓶、平瓶、大甕が見られる。大甕の破片が多いが、それを除くと総量は少ない。図化できたものは、内面にかえりをもつ蓋(蓋B)、蓋坏(坏A)、脚に二段の透かしを持つ高坏、小形の平瓶、壺の底部が各1点、坏(坏B)、大甕が各2点、提瓶3点の、計12点である。提瓶は同部はやや扁平ではあるが、既に肩部の突起がなく、むしろフラスコ形瓶といったほうが適切かもしれない。

これらの土器群は時期的に見ると7世紀の初頭から末までというかなりのバラツキが考えられ、この時間幅が築造と追葬の期間を示していると推定される。しかし土器の数が少なく厳密な時期の把握は困難であろう。

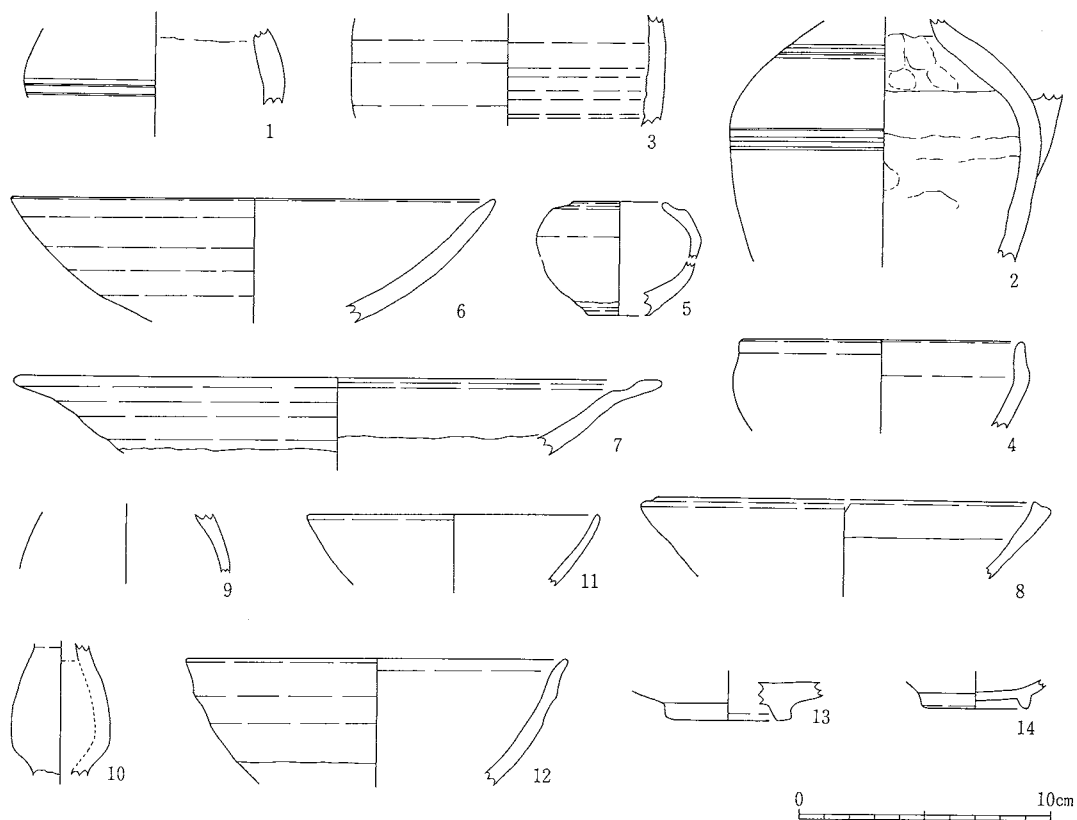
#### (5) 陶磁器 (第57図)

陶磁器は中近世のものを含めて、僅か21点しかなく、そのほとんどが土坑から出土したものである。時期的には13C末から現代にいたるが、現代のものは発掘区域内全域の検出面出土であるので、土坑出土の陶磁器で時代を判定してもよいであろう。それからみると13C～15Cである。なお産地・時期判定については瀬戸市民俗資料館の藤沢良祐氏にご教示いただいた。

1は土坑1960の検出面より出土したもので瓶子の肩に近い部分である。2は土坑1638と1644出土のもので接合される。手付水注で肩から胴部にかけてのもので、今回出土のものでは最大の破片である。外面には薄緑茶の灰釉がかかり、器壁は厚くがっしりとしている。肩と胴に4～3本の櫛描沈線がめぐり、紐輪積みロクロ成形で、内面には指頭圧痕や調整痕が残っている。肩は撫で肩で、幅2.8cmの板状の把手がつく。把手には7本の沈線が縦に施されている。1もまったく2と同様であ

るので、水注になるものかも知れない。瀬戸産の13C後半から終末のものである。

3は瓶子あるいは四耳壺の胴部で、外面には灰釉がかかり、内面はロクロ調整痕が残っている。19区検出面出土で、これも瀬戸の13C後半のものである。4も19区検出面出土のもので天目茶碗の口縁部である。黒と茶褐色を呈し、口縁は直に立ち上がり、体部はハの字状に開く。これも瀬戸産の14C後半のものである。5は合子で口縁部は発掘区の検出面、底部は土坑1627出土のもので、同一個体と思われるが接合点はない。内外ともに薄緑茶色の灰釉で、肩部は水平にちかく削って張っている。口縁は小さく立つ。外面底部からは露胎で灰茶色である。瀬戸の14C後半のものである。6は土坑1694出土の灰釉平碗で、外面腰部からは露胎である。釉は淡緑灰色で外面腰部には厚い釉溜まりがある。素地は灰白色で、ロクロ調整痕が粗く残っている。瀬戸産の14C末のものである。7は折縁深皿で土坑1520、1664出土のものである。口径25.4cmの大きなもので、口縁部は外側に折



第57図 中世陶磁器

り曲げている。釉は灰釉で欠損部直上までかかり、露胎部分は茶灰色を呈している。瀬戸産の14C末のものである。8はおろし皿で土坑1608出土で、灰釉は内外口縁のみで以下は露胎で明茶色の火色をみせている。口唇は平で広く、中央がやや窪んでいる。瀬戸14C末である。

9、10はとも花瓶とみられるもので、10は仏花瓶である。前者は土坑1231、後者は土坑1655出土である。9は外面に灰釉のかかった肩部で、頸部に立ち上がる直前である。内面にはロクロ成形痕を残している。10は残存部5cmあまりの小型のもので、灰釉で最下部は露胎である。内面一部にはロクロ成形痕がみられる。胴部に1.3cmほどのヒツキ痕が残っている。瀬戸の15C前半のものである。11は検出面出土の山茶碗で、内湾気味に立ち上がる。外面はロクロナデで、内面は滑らかである。瀬戸15C前半のものである。12は灰釉平碗で土坑1521出土である。外面腰部以下が露胎である。外面にはロクロ調整の稜が強く残っている。瀬戸15C中半のものである。このほか図示しないが灰釉平碗の小破片が1点ある。

13は磁器で青白磁の底部である。釉は高台以外にかかっている。素地は白色で輸入物ではないかと思われ、15Cころのものとみている。14は土坑2067出土の皿であるが、高台の削り出し部分など粗いつくりである。内面は灰釉がかかっている。瀬戸美濃系の19Cのものである。ほかに近世・現代ものの陶磁器の小破片3点、土師質土器片1点が土坑1194から出ている。

## 2. 石器 (第72図～81図)

今回で向畑遺跡の調査報告が完結するため、2年次にわたった調査の結果・成果を最初に述べることにする。石器は総計278点が出土している。内訳は下表の通りである。

時 代 種 類	文 弥 生 古墳												合 計
	石 鏃	石 錐	石 匙	ピ エ ス ・ エ ス キ ー ユ	ス ク レ イ パ ー	打 製 石 斧	磨 製 石 斧	凹 ・ 敲 ・ 磨 石	砥 石	磨 製 石 鏃	石 庖 丁	砥 石	
1987年度 (県道)	13	2	2	2	5	5	2	11		2	1	6	51
1987年度 (ほ場)	17	4	2	7	8	15	5	9				7	74
1988年度 (ほ場)	29	4	5	9	15	51	3	28	4			5	153
計	59	10	9	18	28	71	10	48	4	2	1	18	278

時代別では縄文時代の石器257点・弥生時代の石器3点・古墳時代の石器18点がある。遺構の関連でみると住居址・土坑からの出土が大半であるが、検出面や後世の遺構覆土からの出土も多い。このことは本遺跡が古墳の築造や中世以降の造墓活動によって、遺物の移動がかなりあったためと考えている。そのため、向畑遺跡の石器群の歴史資料としての価値は限定されるが、次の成果をあげることができた。

①特殊磨石の出土 特殊磨石が総計9点出土している。これは縄文時代早期後半頃に特徴的にみられる石器で本遺跡の年代の上限を推定させる資料である。

②有茎鏃の出土 凹基・有茎鏃が3点（1987年度）出土している。このうち1点は両側縁が横に張り出す飛行機鏃である。これらの石器は縄文時代晩期に特徴的な石器である。今後、発掘区周辺で該期の遺構の存在が推定される。

③弥生時代の石器の出土 磨製石庖丁1・磨製石鏃2点（1987年度）出土している。発掘では古墳時代前期の集落が検出されているが、弥生時代の遺構は見つかっていない。今後、周辺の該期の遺構の検出が期待される。

④鉄器用砥石の出土 古墳時代前期の住居址から鉄器用と考えられる砥石が出土している。特に、第14号住居（1987年度）では鍛造時に使用する鉄鉗が伴出している。現時点で、当地方の鉄器製作・修理などに関する最古の資料である。

今回報告する石器は1988年度の発掘調査で出土したものである。石器は定形的な石器のほか、2次加工のある剥片・使用痕のある剥片・原石・剥片・碎片が多数出土している。このうち定形的な石器153点に限って報告する。

整理にあたっては遺物の形態をよく残すもの（完形品など）、使用痕・着柄痕などが観察されるもの、特徴的なものを図化して掲載することにした。また、すべての石器について出土地点・寸法・石質・破損状況を一覧表に登載している。なお、石質の鑑定は太田守夫氏にご教示を受けている。遺物の説明は器種毎の概要・傾向と特殊な遺物を中心に記述している。文中の遺物を説明する数字は図番号である。

#### 1) 石鏃（1～29）

成品・未成品をあわせて総計29点が出土している。石材は黒曜石製20・チャート製9点である。住居址・土坑からの出土のほか、検出面での採集も多く、遺物の移動がかなりあったものと考えられる。成品は24点が出土している。これらは基部の形態と茎の有無から分類できる。基部の失われている5点を除くと、凹基・無茎鏃17点・平基・無茎鏃2点がある。凹基鏃についてはさらに基部のえぐりが浅いものから深いものまで変異に富んでいる。平面形では、正三角形に近いタイプ（3～5、7・8）と二等辺三角形を呈するタイプがある。前者では特に第56号住居址から出土したものは形態的に斉一性がある。後者の23については脚部が先細に尖らずに幅をもち、基部のえぐりが

全長の1/2近くあることからやや古い様相をもつ鏃である。このほかに2次加工を施して先端を作り出そうとしている未成品5点がある。

## 2) 石錐 (30~33)

4点が出土している。石材は黒曜石製3・チャート製1点である。31が棒状錐で、他はつまみを有する錐である。錐部の加工については、すべて両面加工である。錐部の断面は31がレンズ状、32・33は三角形である。なお、33については錐部の剝離面の稜線が摩耗しており使用痕と考えられる。

## 3) ピエス・エスキュー (34~42)

9点が出土している。石材はすべて黒曜石である。住居址からの出土はなく、土坑から7点が出土している。

平面形は四辺形を呈するものがほとんどである。34~36は上端に加撃による縁辺のつぶれが残っている。35・41が上端に打面状の平坦面をもっているほかは、縦断面が紡錘形を呈するものである。なお、34・35・37は片側辺に上端から下端に達する剝離面（剪断面）がある。

なお、このほかに背面側の上・下端に剝離面をもち、腹面側には剝離の際の主要剝離面を大きく残すものが2点出土しているが、これらは両極打法によって剝離された素材剝片と考えてピエス・エスキューから除外している。

## 4) 石匙 (43~47)

5点が出土している。石材はガラス質安山岩製1・チャート製4点である。つまみの挟りを平行に置いた場合の刃部の位置と形態で分類すると、横形・外湾刃1点(44)、斜形・直刃2点(45・46)、不明2点である。44は横長剝片を素材に片面加工で片刃を形成している。45は横長剝片を素材に両面加工で両刃を形成している。46は縦長剝片を素材にしているが、打面に近い側に刃部を作り出している。刃部は両面加工の両刃である。

## 5) スクレイパー (48~58)

15点が出土している。これらは黒曜石・チャート製の小形・精製品と硬砂岩・ガラス質安山岩製の大形・粗製品に分けることができる。いずれも剝片の末端で器厚の薄い部分を利用して刃部を作り出している。そのため刃部の位置は素材剝片の形態に規制され、打面を上にした場合に横長剝片は下側に、縦長剝片は左右に刃部が作り出されているものが大半である。なお、大形・粗製品は横長剝片を素材にしているものが多い。刃部の形態は小形・精製品はバラエティーに富むが、大形・粗製品は直刃が多い(50・51・53・54)。刃部の形状は片刃が多いが、刃部調整には片面加工・両面加工がある。なお、両面加工の多くは片面の調整が大きな剝離を連続して行って丁寧に刃部を作り出しているのに対し、反対側の面は浅い剝離が不連続に行われるものが多く、片刃を意識した調整と考えている。

次に特徴的なものについて述べる。51・54は片側を破損しているが平面形が長方形を呈するものである。刃部と背側に剝離調整が行われているが、背側は雑な剝離である。53はいわゆる横刃形石

器である。56は接合できないが同一個体と考えられるものである。剥片の片側辺に剥離を加えて刃部を作り出している。幅が狭いうえに先細の先端をもつこと、横断面が三角形を呈することから「切る」「搔く」道具でなく、刺突具の可能性がある。なお、下段の石器の側縁につぶれが観察されるが、着柄痕の可能性はある。

#### 6) 打製石斧 (59~82)

51点が出土している。このうち第56号住居からは12点(未成品2点を含む)、土坑1194から3点、土坑1383から4点とまとまって出土している。石材は硬砂岩16点・砂岩7点と砂岩類が半数近くを占めている。このほかにホルンフェルス8点、緑色・輝緑凝灰岩6点、千枚岩6点が比較的多い。なお、緑泥片岩が1点出土しているが本遺跡周辺で採集することはできないので外部から搬入されたものである。打製石斧は平面形で分類すると短冊形12・撥形28・不明11点である。分銅形はなく、撥形が主体である。また、刃部の形態から分類すると円刃23・偏刃9・直刃2・不明17点である。刃部には使用による摩耗痕が観察されるものが3割近くある。使用痕は刃縁部と剥離面の稜が摩耗しているほかに、礫の表皮や剥離面内に線条痕を残しているものがある。この線条痕の方向は打製石斧の長軸方向に対してわずかに傾斜するものが多い。なお、76は2方向の線条痕が観察される。

また、側縁部に着柄痕と考えられるつぶれをもつものが多い。つぶれは両側縁にあるものと片側縁にだけ顕著なつぶれがあるものがあるが、後者が比較的多い。このほかに69・72・76は頭・胴部の表面が摩耗している。これらについては着柄後、使用の過程で生じたものと考えられる。

#### 7) 磨製石斧 (83~85)

3点が出土している。83は緑色凝灰岩製の定角式石斧である。刃部を失っているが、破損面に下からの加撃によるリングが見られるので使用中の破損品と考えられる。84は輝緑岩製の乳棒状石斧である。両側面には敲打痕を残している。刃部は蛤刃状を呈するが、左右対称ではなくやや左上がりの偏刃である。刃縁部は使用による摩耗で石の表面が変色している。85は蛇紋岩製である。整形時の剥離調整が深いため器厚が薄く、定角式のような側面はみられないが、石材・平面形から小形の定角式石斧の範疇で捉えられるものである。

#### 8) 凹・敲・磨石 (86~110)

28点が出土している。一般に磨石・敲石・凹石と区別して呼ばれることが多い石器である。しかし、これらは単独の使用痕をもつ以外に、複数の使用痕をもつものがあるのでまとめて扱っている。実測図では磨面を----- (平面) ・ ←→ (断面)、敲打痕は——— (平面) ・ ← → (断面)、特殊磨石の機能磨面はスクリーントーン (平面) ・ ←→ (断面)、調整磨面は ←→ (断面) で表現している。また磨面のうち、特に顕著な研磨が行われた結果、研磨方向が確認できたり礫の表皮に変色がみられるものは----- (平面) で表現している。石材は砂岩16・硬砂岩2点と砂岩類が6割以上を占めている。このほかに安山岩が8点と多い。これらの石器は素材となる礫の形状から分類することができる。断面が三角形を呈する棒状礫を素材にする特殊磨石は7点が出土している。すべ



て破損品で全形のうかがえるものはない。多くは機能磨面のほかに調整磨面が観察され、特に91に顕著にみられる。100は先端に敲打痕、107は凹部と敲打痕を伴っている。盤状の大形礫を素材にするものは87・93・97があり、台石の可能性もある。棒状礫を素材にするものは5点ある。楕円礫を素材にするものは9点と多い。このうち凹部をもつものは3点(90・94・104)あり、いずれも敲打痕・磨面を伴っている。90・94は表裏・両長側面に凹部をもち、表面がわずかに外湾する磨面と、短側面に敲打痕をもつものである。95は楕円礫の片側だけが磨かれた結果、平坦面が形成されている。

### 9) 砥石(縄文)(111・112)

縄文時代の砥石と考えられるものは4点出土している。うち、2点が第56号住居からの出土である。石材は砂岩2・硬砂岩1・凝灰質粘土岩1点である。111は平面形が四辺形の盤状礫を素材にしている。両面に長軸方向の研磨痕が観察される。特に、片面中央の上・下端と右側辺は顕著な研磨が行われた結果、磨面が幅1.5～2.5cmの凹状を呈している。112は板状礫の両面に研磨痕をもつものである。

### 10) 砥石(古墳)(113～117)

5点が出土している。内訳は置き砥石2点(113・114)、手持ち砥石3点(115～117)である。石材は前者が硬砂岩製、後者が凝灰岩製である。113は平面・断面とも三角形を呈する大形礫の3面に、研磨痕が観察される。安定性を欠くが手で保持するには重いので置き砥石とした。114は横断面が方形を呈する大形礫の両面に研磨痕をもつものである。よく研磨された結果、砥面は周囲の礫の表面とは平滑さや色調が著しく異なっている。研ぎの方向は長側辺に沿って2方向が観察される。115～117は古墳時代以降に一般的に見られる手持ち砥石である。いずれも片側にいくにつれて幅・厚さが減じていく直方体を呈するものである。砥面は全面にみられる。長側面の1面は外湾する砥面をもつが、他の面は内湾するものが多い。

## 3. 石製品・ガラス製品(第81図)

石製品9点とガラス製品(小玉)2点が出土している。整理にあたっては実測可能な9点を図化・掲載している。このうち勾玉1点とガラス小玉2点は第8号古墳の副葬品である。器種が判明している石製品では勾玉が古墳時代に属し、そのほかは縄文時代に属するものである。また、器種不明の石製品2点は古墳時代以降の遺物と考えている。なお、すべてについて寸法・重量・材質等を一覧表に登載している。

1はホルンフェルス製の石棒である。下端をわずかに破損しているが全長25.80cm、最大幅5.85cmの小形品で、横断面は偏平な楕円形を呈している。表面は平滑であるが研磨が行われたかは不明である。他に安山岩製の小形石棒の一部が出土している。2は緑色凝灰岩製の石刀である。横断面が偏紡錘形を呈する棒状礫のほぼ長軸方向に沿って研磨痕がみられる。3は凝灰質粘土岩製の薄板状の破

片で、表面と2側面に研磨痕がみられる。側面の研磨は1面が側面に平行して、他面は斜行して行われている。4は蛋白石製の塊状耳飾で、全長4cm以上、厚さ1.03cmの大形品である。5は粘板岩製の薄板状の剥片である。両面に研磨痕がみられるが研磨の方向は不整である。所属時期は不明である。このほかにチャート製の海浜石1点が出土している。6はメノウ製の勾玉である。頭部は片面を浅くくぼませた後、反対側から片面穿孔で紐通しの孔をあけている。腹部は上下にやや開くC字形を呈するものである。7は第8号古墳から出土したメノウ製の勾玉である。頭部の穿孔方法は6と同じ片面穿孔である。さらに孔の上部には未貫通の穿孔途中痕があり、先端が凸形の錐で穿孔されたことがうかがわれる。8は薄緑色の小玉である。9は濃青色のガラス小玉で、上・下端に平坦面をもつため白形を呈している。いずれもガラス内の気泡が孔に平行して列状に伸びていることから、管状ガラスを切断して製作されたものである。

#### 参考文献

小瀬康行 「管切り法によるガラス小玉の成形」 『考古学雑誌』第73巻第2号 1987

#### 4. 土製品 (第82図)

5点が出土している。内訳は土偶3点・ミニチュア土器1点・不明土製品1点で、すべて縄文時代に属するものである。このうち第56号住居から4点(1・2・4・5)が出土している。

1は土偶の頭～胴部である。両手は水平に伸びていて、脇から下は破損している。土偶の胴部は破損部に観察される粘土の継目から、2枚の粘土板を接合して製作されたことがうかがわれる。頭部の破損部では粘土の分割塊とそのうえにかぶせた表層粘土が観察される。また、側頭部には幅1.8cmの粘土板を貼りつけて髪を表現している。顔面は粘土塊に直径1.9cmの薄い粘土板を貼り付けて区画している。頬から顎の下には幅4mmの粘土の隆帯を貼り付け、目・口は沈線で表現している。また、眉と額にあたる部分は逆ハ字状に隆起している。2は中期初頭にしばしばみられる妊娠土偶(註)の胴～脚部である。凸型に張り出した腹部中央には刺突によってへそが表現されている。そして下腹部には着衣または皺が、股下には性器が沈線で表現されている。3は土偶の胴部である。下端は分割塊の表面で破損している。破損面は平滑で、細棒による脚部との連結は行われていない。前面には沈線による雑な文様表現がある。4はミニチュア土器である。上部を破損しているが、現存で直径3.11cm、器厚1.47cmの平底の土器である。下端には沈線が2重に巡っているが、下側の沈線は全周していない。5は器種不明の土製品である。中央には内面から2孔があげられている。周囲を破損しているので全形はうかがえないが、蓋または小形土器の底部と考えている。

註 松本市内からは雨堀遺跡・林山腰遺跡から類似の土偶が出土している。

松本市教育委員会 1982 『松本市雨堀遺跡―第2次緊急発掘調査報告書』

松本市教育委員会 1988 『松本市林山腰遺跡』

## 5. 金属製品・銭貨（第83～86図）

今回の調査では金属製品85点以上、銭貨21点が出土している。これらの多くは古墳と土坑からの出土である。古墳については、第11号古墳で副葬または祭祀に使用されたと考えられる武器（・工具）、第8号古墳で横穴式石室に副葬された武器・馬具が出土している。これらは松本平の中・後期古墳文化を考えていく上で貴重な資料になると考えている。また、19基の土坑から出土した金属製品・銭貨は中世の土坑墓に副葬された可能性をもつものである。そこで、今回の報告では遺物の年代を考慮して、古墳出土の金属製品とその他の遺構から出土した金属製品をわけて記述している。

整理にあたっては鏽落しが終了した段階で実測と写真撮影を行った。実測は小破片と鉄鏃の一部を除いて実測可能なものはすべて図化している。鏃については個体数を識別することが可能な鏃身部・<sup>のかつぎ</sup>筥被・茎部端をもつものを中心に図化した。なお、すべての金属製品・銭貨について出土地点・器種・寸法・重量等を一覧表に登載している。

なお、鏃については、先端から<sup>まじ</sup>関にあたる部分を「鏃身部」、関から筥被までの部分を「頸部」、筥被から下の部分を「茎部」という術語で記述している。

### ①第11号古墳出土の金属製品（1～7）

周溝内から20点の鉄製品が出土している。このうち器種不明の小破片で図化できなかった13点を除いて、7点を掲載している。

1) 刀子 2点が出土している。2は先端を破損しているが大形の刀子である。関から身部にかけて棟側は徐々に、刃側は急激に幅を減じている。また、身部に比較してすづまりの感がする短い茎部をもっている。3は推定長10.7cmのほぼ完形の刀子である。関から身部にかけて棟側は内反りしながら急激に幅を減じている。刃側は徐々に幅を減じた後、先端付近で急激に幅を減じて先端を形成している。いずれも両関の刀子であるが、3は刃側の関が2にくらべてゆるやかな傾斜をもっている。

2) 鏃 5点が出土している。1は全長3.63cm、最大幅6.12cmの平根式の鏃である。ハ字状に広がる脚に<sup>かさねえぐり</sup>重<sup>かえり</sup>扶の逆刺をもつ鏃身部は中心線上の中程に1孔があげられている。筥被はなく短い茎部が鏃身部から直接伸びるものである。4は長頸鏃の頸～茎部である。下寄りに最大幅があり、明瞭な突出はないが筥被と考えられている。6・7は同じ形態をとる鏃の茎部である。5は全長10.64cmの完形の尖根式で、関筥被をもつ断面が方形の鏃である。鏃身部は約6cmの角錐状を呈し、関や頸部をもたないまま先端から筥被に至っている。

### ②第8号古墳出土の金属製品（8～48）

横穴式石室の床面付近から76点以上の金属製品が出土し、実測可能な41点を図化・掲載している。内訳は武器（鏢・鏃）、馬具（<sup>しおで</sup>鞍・<sup>か</sup>鉸具・雲珠または辻金具・留金具など）・不明鉄製品である。

1) 鏢 1点（8）が出土している。全長7.35cm、最大幅6.06cmの六角窓倒卵形鏢である。X線透過撮影を行ったが象嵌などの装飾は施されていない。

2) 鎌 27点を図化している。小破片が多く正確な個体数は把握できないが、鎌身部が13点(以上)出土している。過去に石室が破壊されているので、本来は数十本の鎌が副葬されていたと考えている。本古墳の鎌は鎌身部の形態から4つに分類できる。

I類 平面形が柳刃状で、小さな逆刺をもつ鎌(16・17・20・28~33)

9点が出土している。長3.5cm・幅1.4cm前後の細長い鎌身部で、断面は片面が平で、他面がカマボコ状を呈する片丸の鎌である。16・17などから長い頸部をもつことが推定される。

II類 平面形が五角形で腸扶をもつ無茎鎌(18)

1点が出土している。両脚を破損しているため全形は不明だが鎌身部の全長が5cmを超える大形の平根式の鎌である。断面はカマボコ状を呈する片丸である。無頸・茎で、鎌身部の中央下端には矢柄の着装痕と考えられる木質部が付着している。

III類 平面形が五角形で重<sup>かさねえぐり</sup>扶<sup>かえり</sup>の逆刺をもつ鎌(43・45)

2点出土している。いずれも鎌身部の先端と両脚端を欠いているが、推定で長3.5cm・幅3.3cm前後の平根式で、断面はカマボコ状の片丸を呈している。43では約2cmの短い頸部と関<sup>まじ</sup>籠<sup>のかつぎ</sup>被をもつが、茎部の長さは不明である。

IV類 片刃鎌(34・40)

2点が出土している。40は鎌身部の先端部分、34は鎌身部の両側が破損しているものである。これらは刀子の可能性もあるが、身幅が狭いことから鎌として扱った。

頸部~籠被は8点を図化しているが、頸部が2cm以上あることと、棘籠被であることから、I類(またはIV類)に属するものである。

木質部が付着した茎部は5点を図化している。いずれも茎部を細い植物繊維で巻いた後、矢柄を着装しているようである。

3) 鞍 3点(12・13・46)が出土しているが、いずれも破損品である。なお、13・46は同一個体になると考えられ、少なくとも2個体が鞍に着装されていたと考えられる。座金具(46)は6弁の花形を呈し、鋸で座金具を固定するための孔は推定で8カ所にあけられている。鞍を固定するために胸繫<sup>むながい</sup>・尻繫<sup>しりがい</sup>を連結する部分はホタテ貝形を呈する円環形式のものである。断面が長方形の脚は円環の下部を巻き込んで(13)、両端を座金具に差し込んでいる(12)。

4) 鉸具<sup>かこ</sup> 2点を図示している。42は鉸具の2脚(両端)を連結するための横棒である。47は鉸具の円環の一部である。

5) 鑑金具<sup>あぶみ</sup> 鑑に伴うと考えられる金具が2点出土している。21・22とも鑑を吊り下げるための付属具の可能性を考えている。

6) 雲珠または辻金具<sup>うず</sup> 2点出土している。26・27は雲珠または辻金具の鉢部の頂部に取り付けた飾鋸である。飾鋸は鉄地金銅張の宝珠と花形座がつく。花形座の花弁は5枚である。直径0.7cm前後の頭をもつ鋸端の上には、直径1.2cm前後の押え金具がついている。なお、宝珠には下半に凹線が

あるもの (26) とないもの (27) がある。

7) 飾金具 1点 (48) が出土している。鉄地金銅張の板状の飾金具である。平面形は長方形を呈するが、一方の短側辺は隅切りされている。金銅張の頭部をもつ鋌は2カ所に打たれている。また、飾板は鋌の間でカマボコ状に隆起している。

8) 不明鉄製品 このほかに器種不明の鉄製品が3点ある。9は先端が剣先状を呈しているが、断面と大きさから刀子の可能性が考えられる。11は先端が「く」字に折り曲げられている鉄製品である。全面に植物質の付着があり、植物繊維で巻かれていたと考えられる。なお、上面には黒～黒褐色の物質の付着（スクリーン tone で表現）がみられるが、黒漆の可能性もある。41は幅1cm前後、厚さ0.7cmの断面が長方形の棒状の鉄製品である。

### ③その他の遺構出土の金属製品・銭貨 (49～70)

土坑・溝・検出面等から総計16点の金属製品・鉄滓と銭貨21点が出土している。このうち金属製品については図示可能な8点を掲載している。

1) 鉄鏃 1点 (54) が出土している。残存長11.85cmの長頸鏃で、幅1.12cmの関籠被をもつ。鏃身部の形状は不明である。

2) 釘 4点が出土している。うち1点は溝からの出土である。すべて断面が方形の角釘で大形の52、中形の53、小形の56がある。56は頭部を叩いてわずかに先端を尖らせている。

3) 刀子 55は大形の刀子の可能性もある。厚みはないが棟・刃側は明瞭に認められる。

4) 不明鉄製品 49は断面が長方形の棒状を呈し、刀子の茎部かとも考えられるが、片端が立ち上がり始めている。50は両端を失っている板状の鉄製品である。51は側辺が波状を呈しているため5つの突出部が認められる。そして突出部の先端はわずかに折り曲げられている。

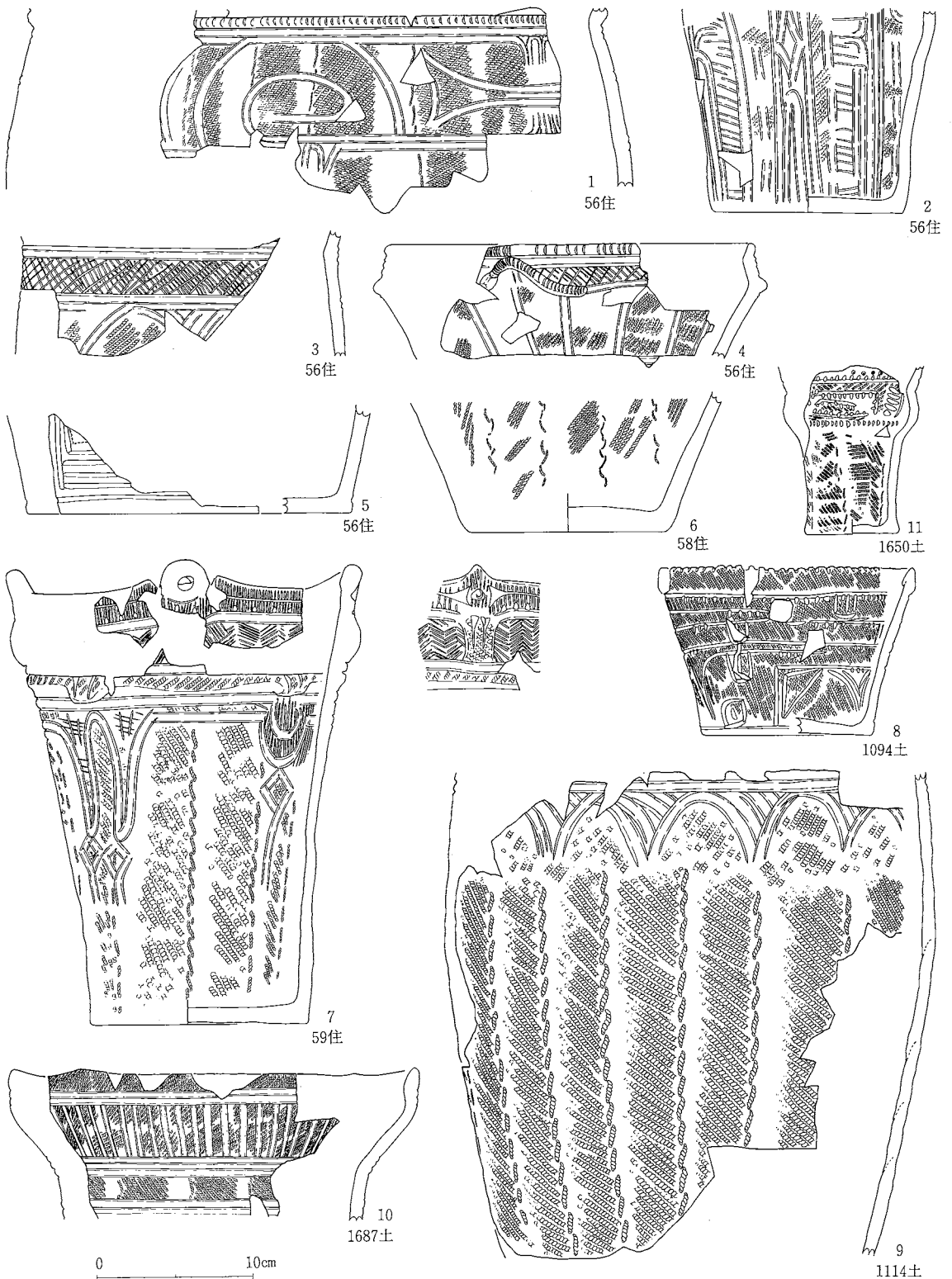
5) 不明青銅製品 検出面から1点が採集されている。57は小破片で全形はうかがえないが、推定径2cm前後のボタン状を呈するものである。後期古墳に伴う馬具または装身具の可能性を考えている。

6) 鉄滓 5点が出土している。いずれも塊状の小破片である。

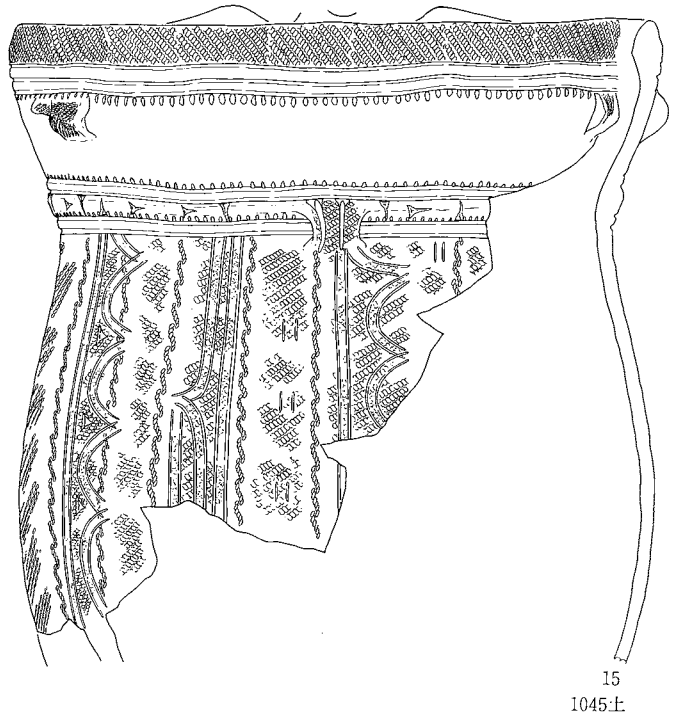
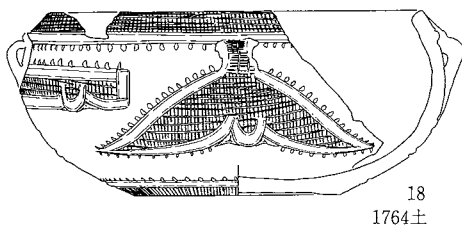
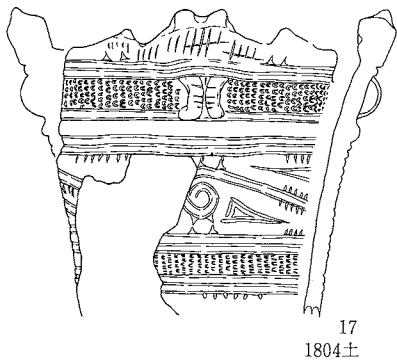
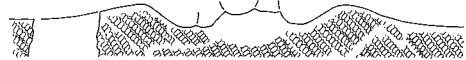
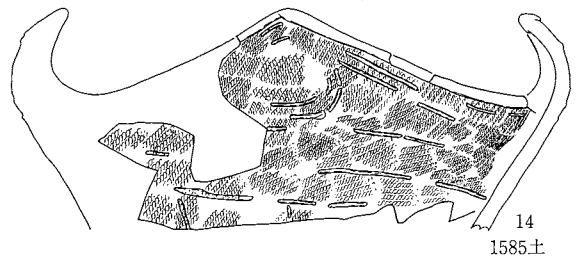
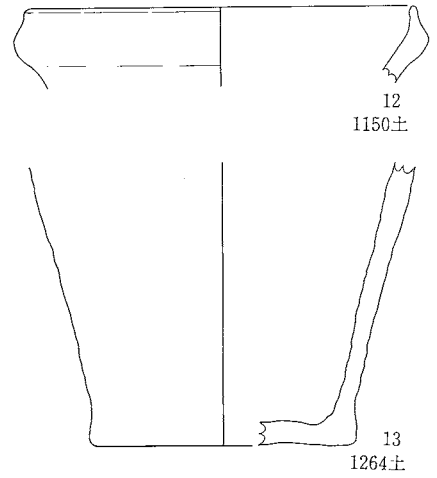
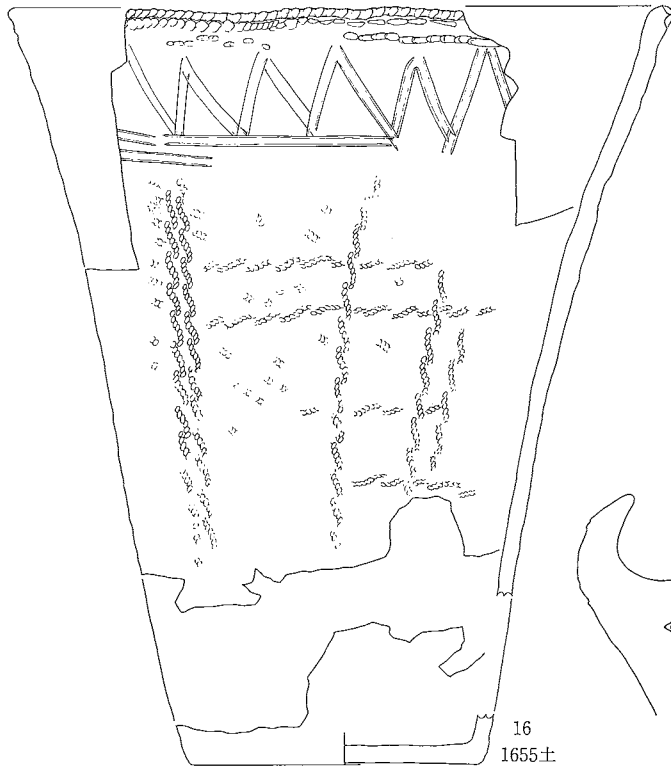
7) 銭貨 21点が出土している。このうち14点が8基の土坑からの出土である。なかでも土坑1220から3点、土坑1543から4点とまとまって出土している。これらは中世の土坑墓に副葬された六道銭と考えられるものである。

銭貨名の判読できたものは8種14点あった。(註)このうち唐銭の開元通宝1点以外は宋銭で、なかでも皇宋通宝は5点が出土している。これらを初鑄年でみると10世紀末の銭貨（淳化元宝、至道元宝、咸平元宝）と11世紀後半の銭貨（熙寧元宝、元豊通宝、元祐通宝）が集中している。本遺跡の土坑墓群の年代を推定させる資料になるものである。

註 判読できた銭貨名（初鑄年）は、開元通宝（845年）・淳化元宝（990年）・至道元宝（995年）・咸平元宝（998年）・皇宋通宝（1039年）・熙寧元宝（1068年）・元豊通宝（1078年）・元祐通宝（1086年）である。

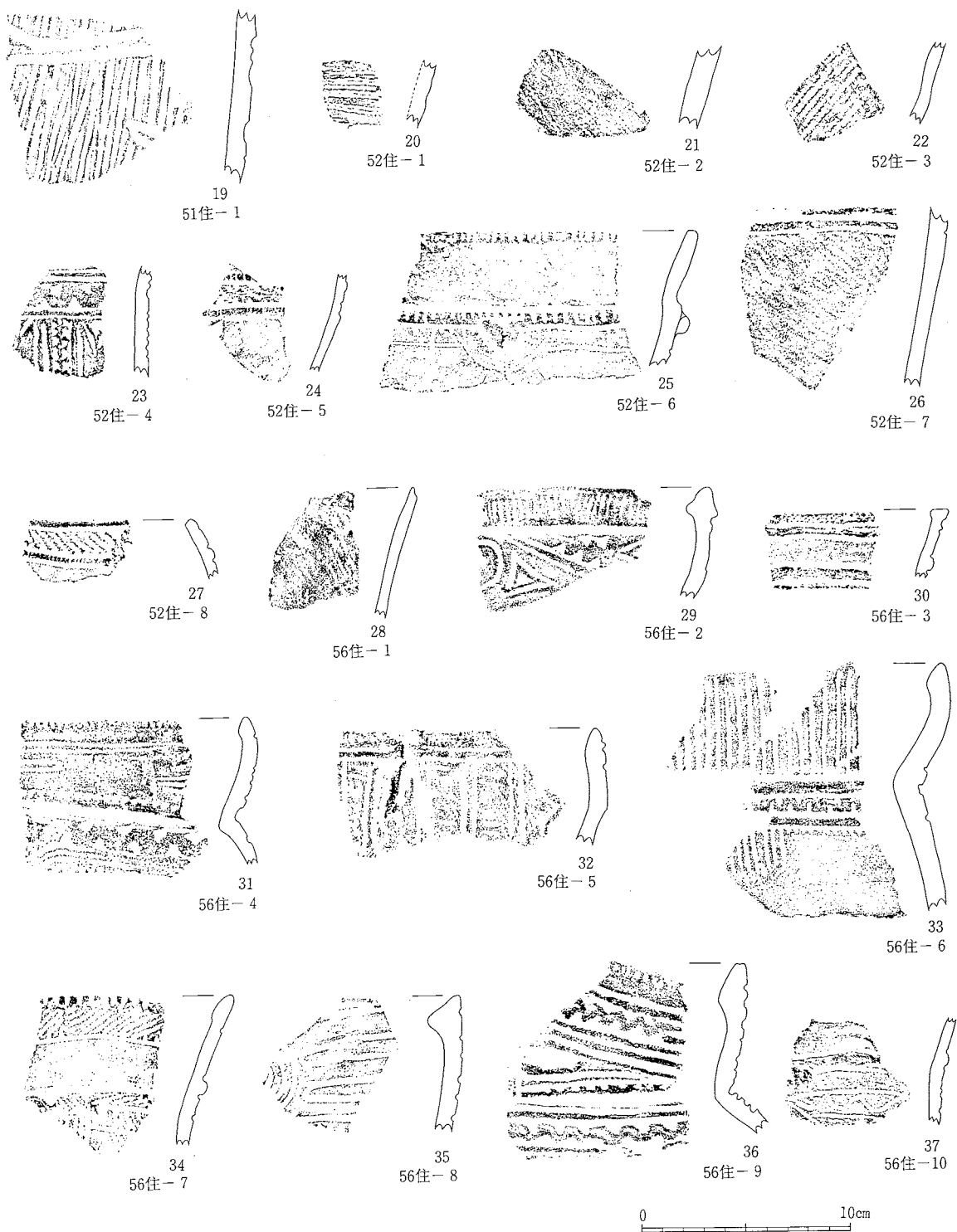


第58図 縄文土器(1)



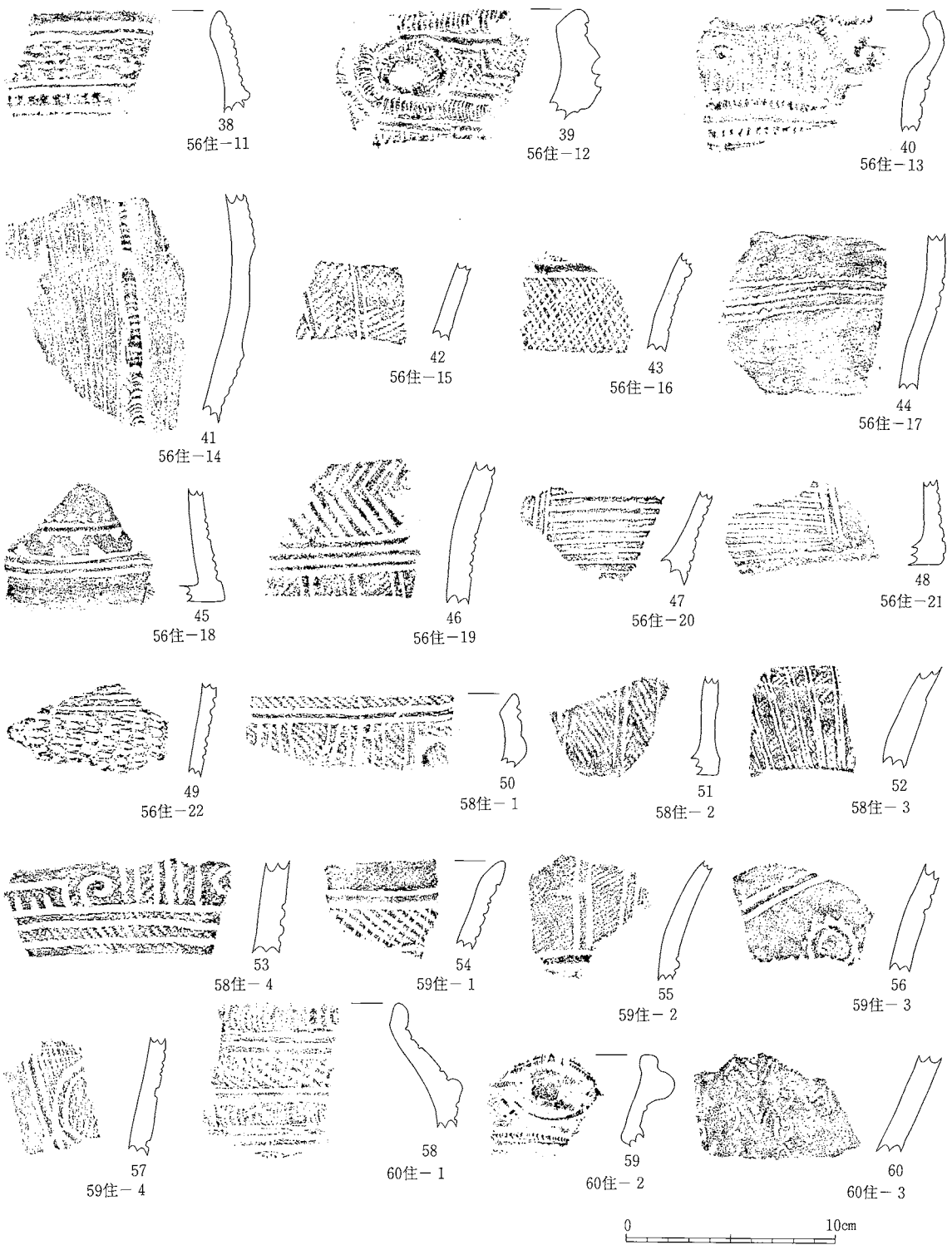
0 10cm

第59図 縄文土器(2)

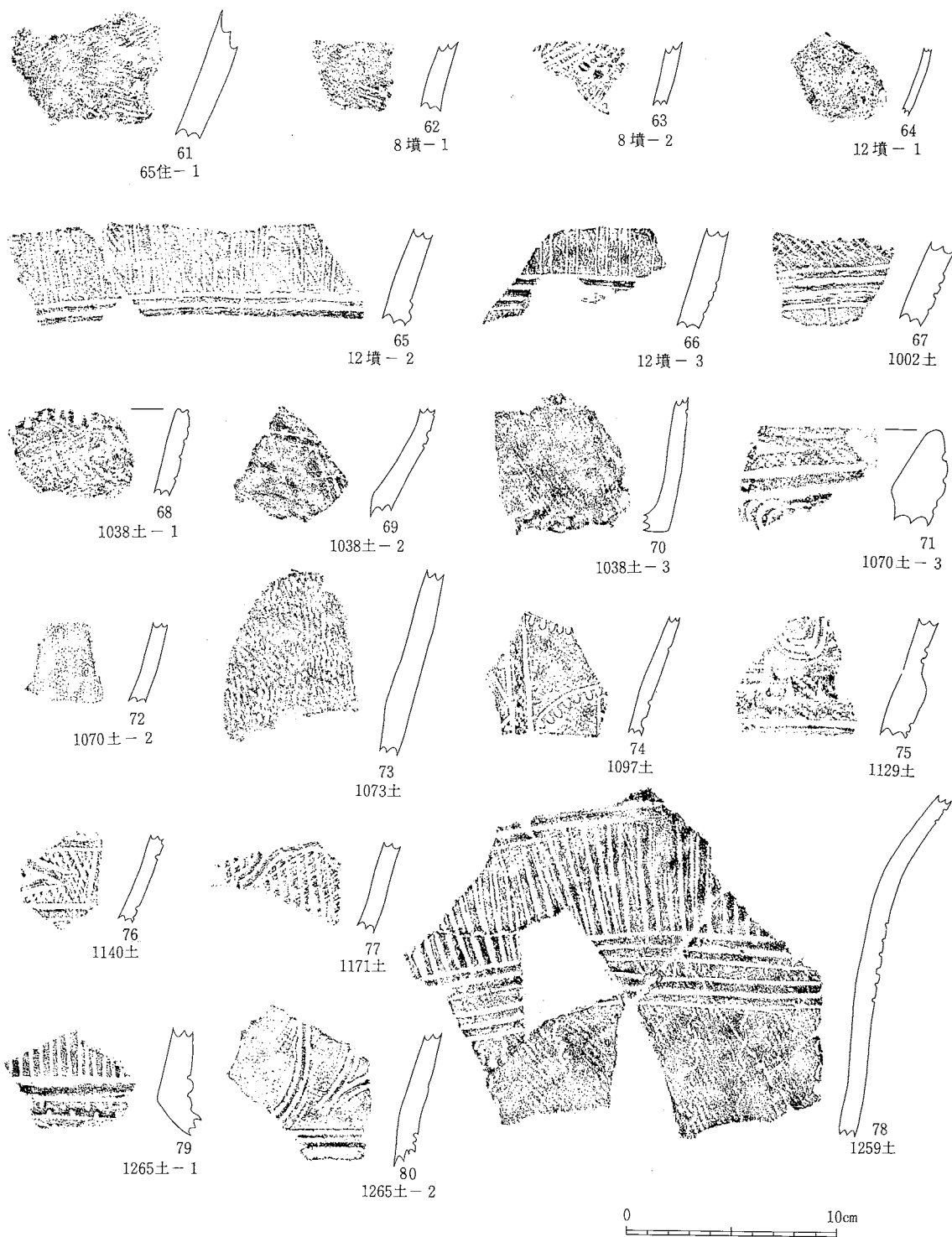


第60図 縄文土器拓影(1)

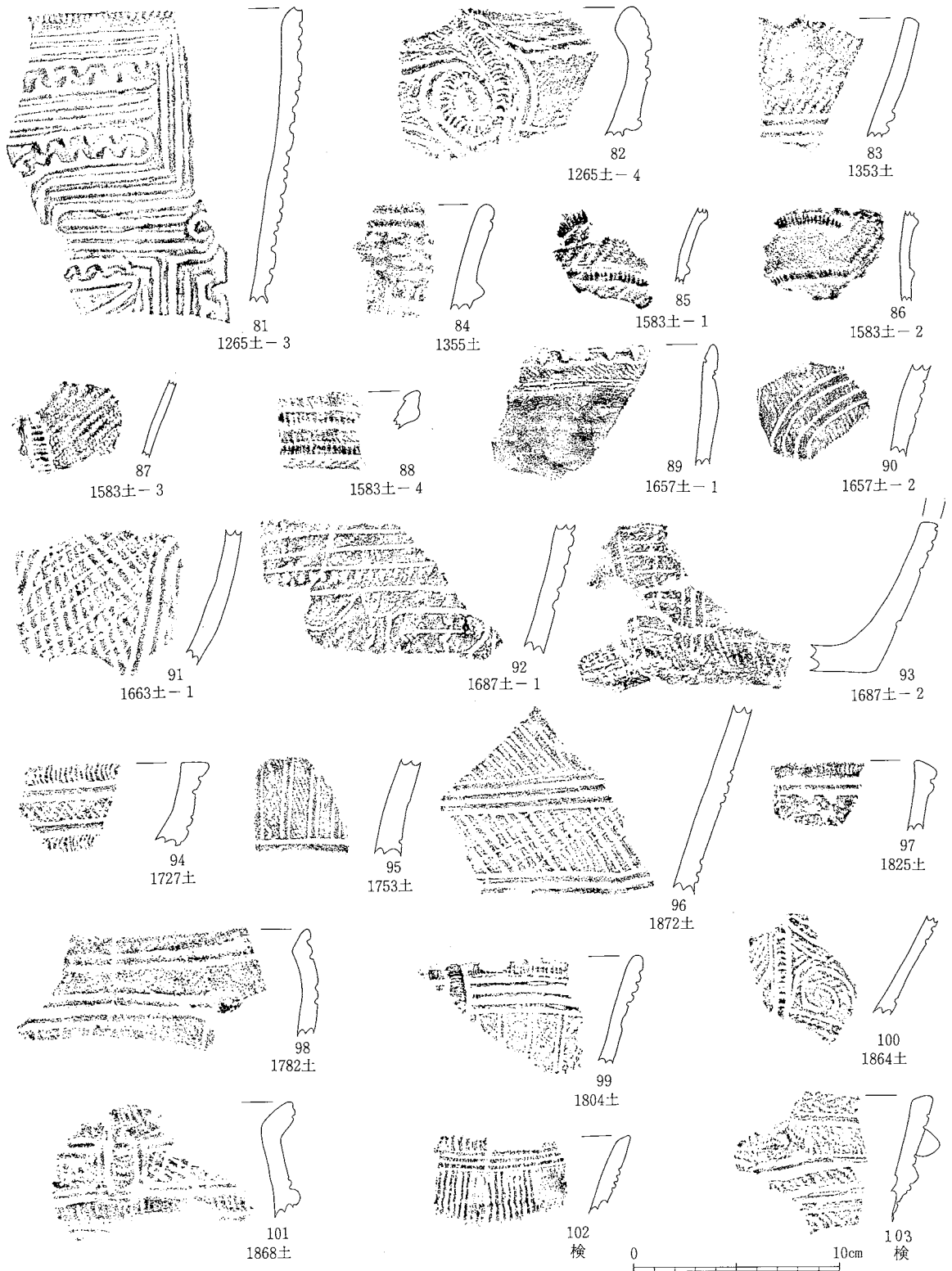




第61図 縄文土器拓影(2)

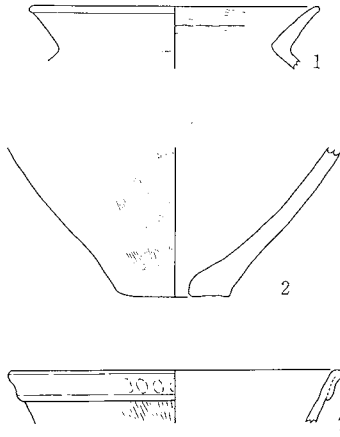


第62図 縄文土器拓影(3)

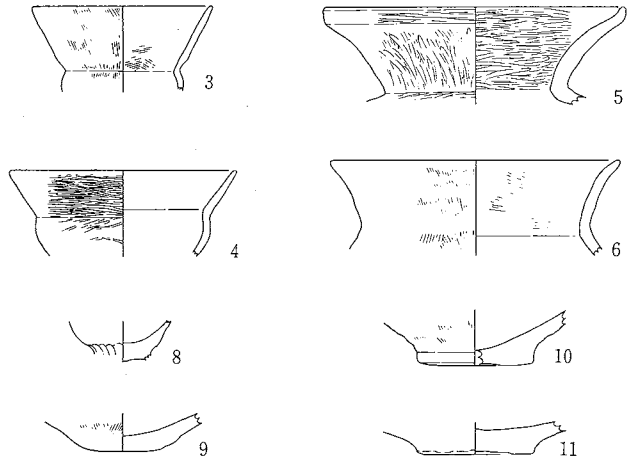


第63図 縄文土器拓影(4)

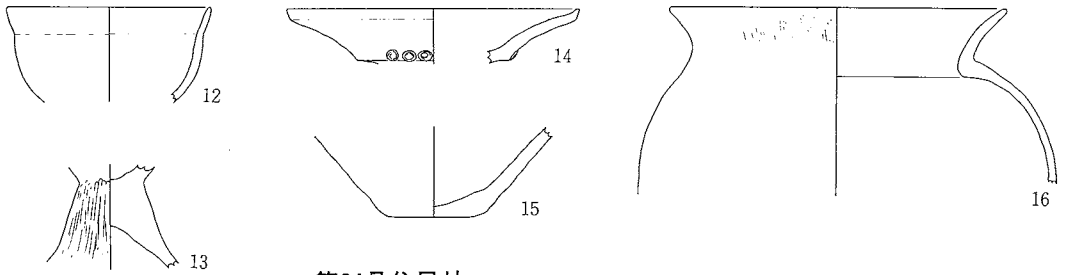
第50号住居址



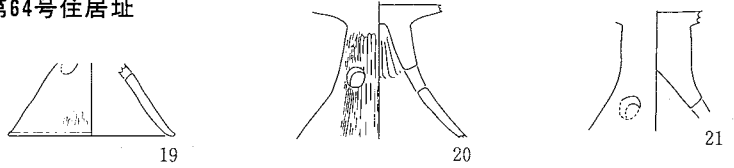
第51号住居址



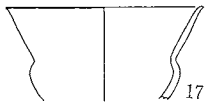
第53号住居址



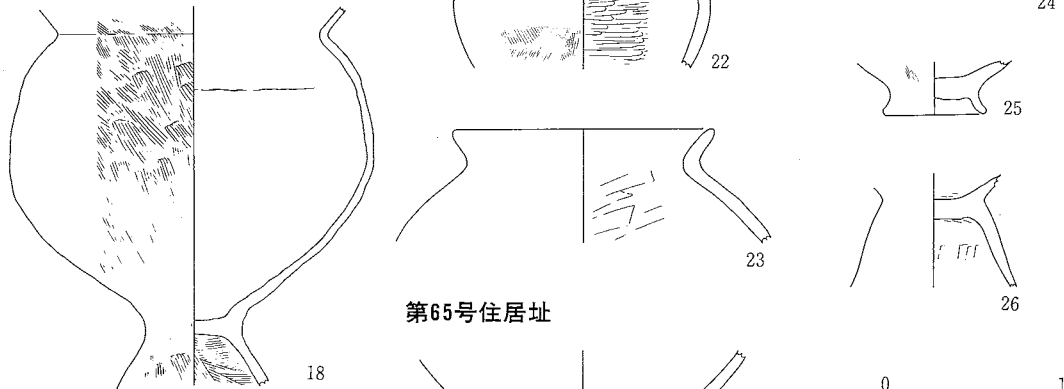
第64号住居址



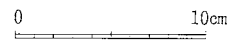
第56号住居址



第63号住居址

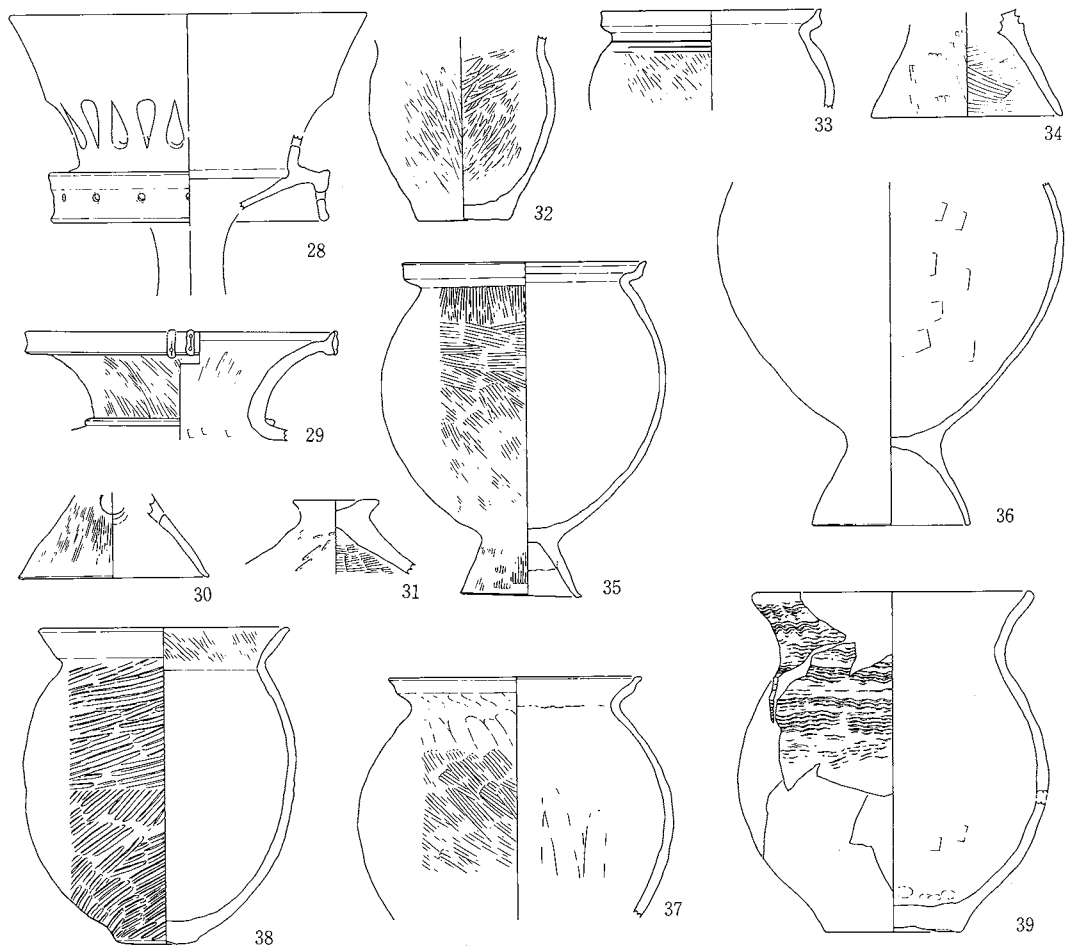


第65号住居址

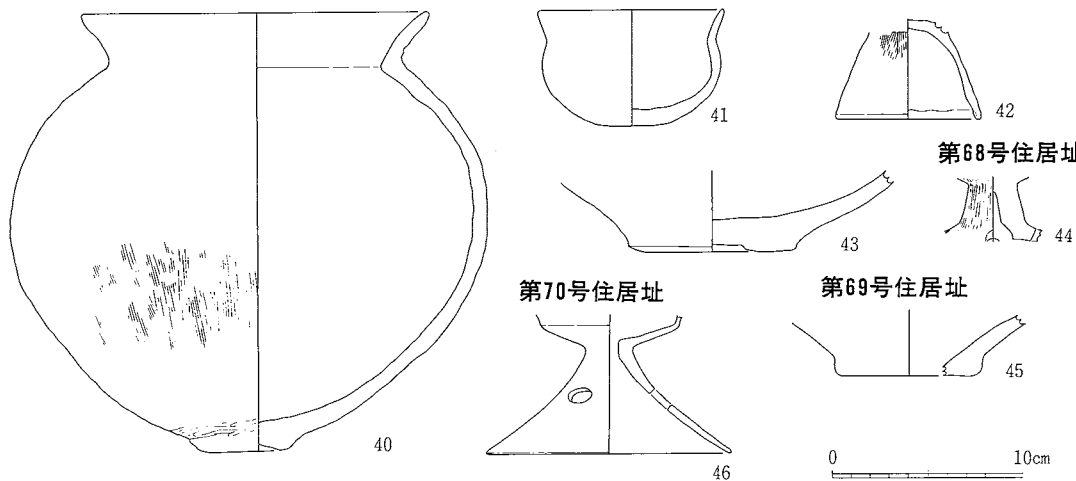


第64图 古墳時代土器(1)

第66号住居址

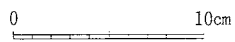


第67号住居址



第68号住居址

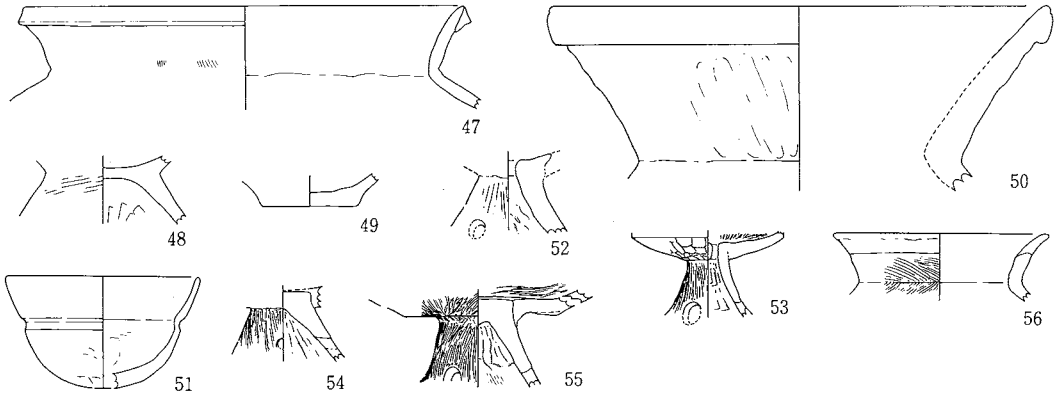
第69号住居址



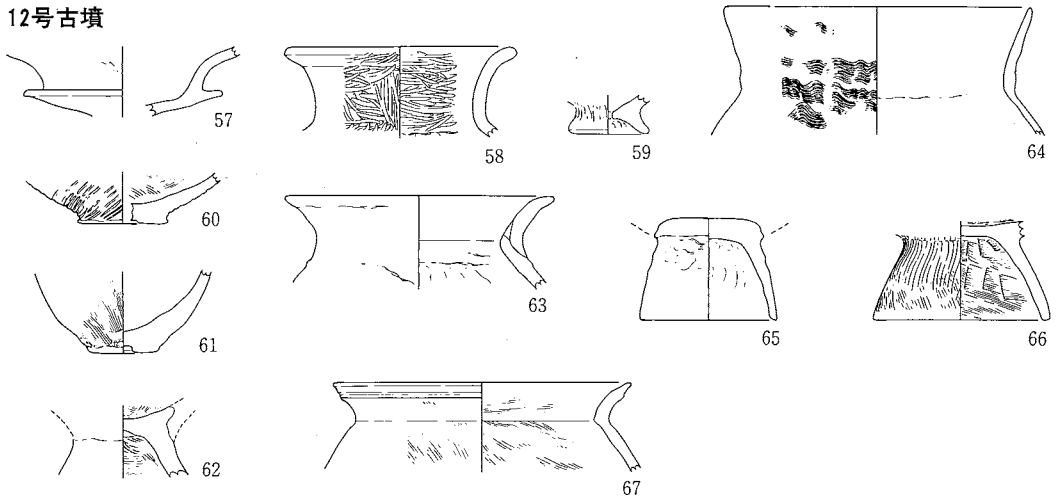
第65图 古墳時代土器(2)

10号古墳

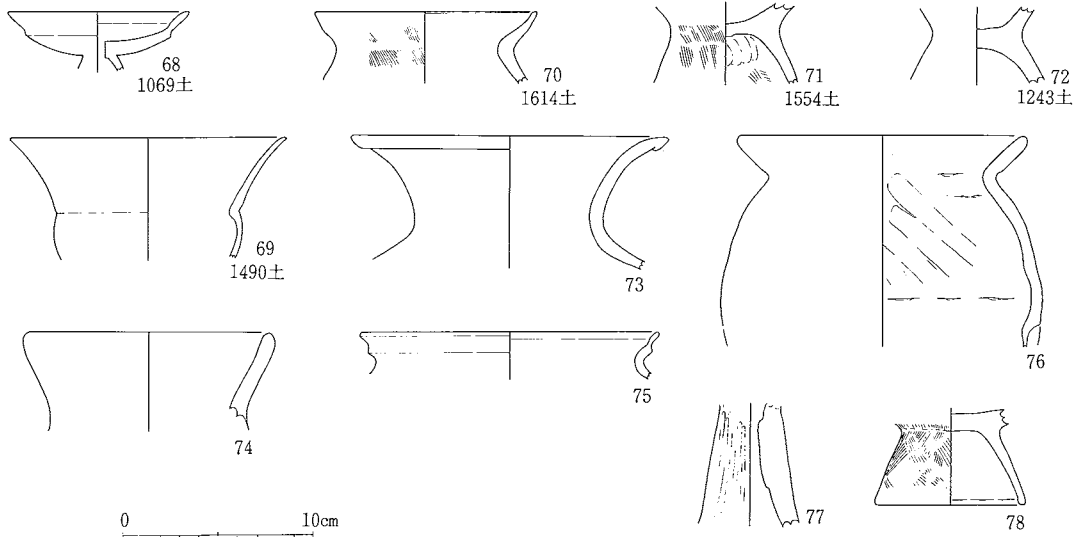
11号古墳



12号古墳



土坑・検出面



第66図 古墳時代土器(3)

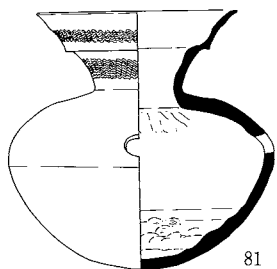
11号古墳



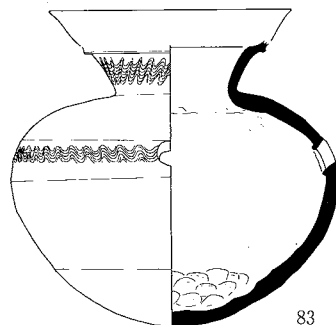
79



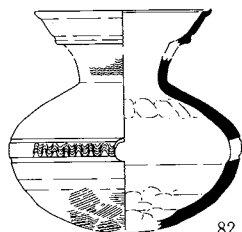
80



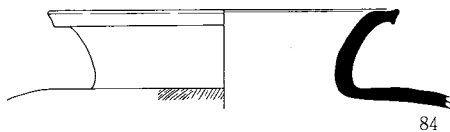
81



83

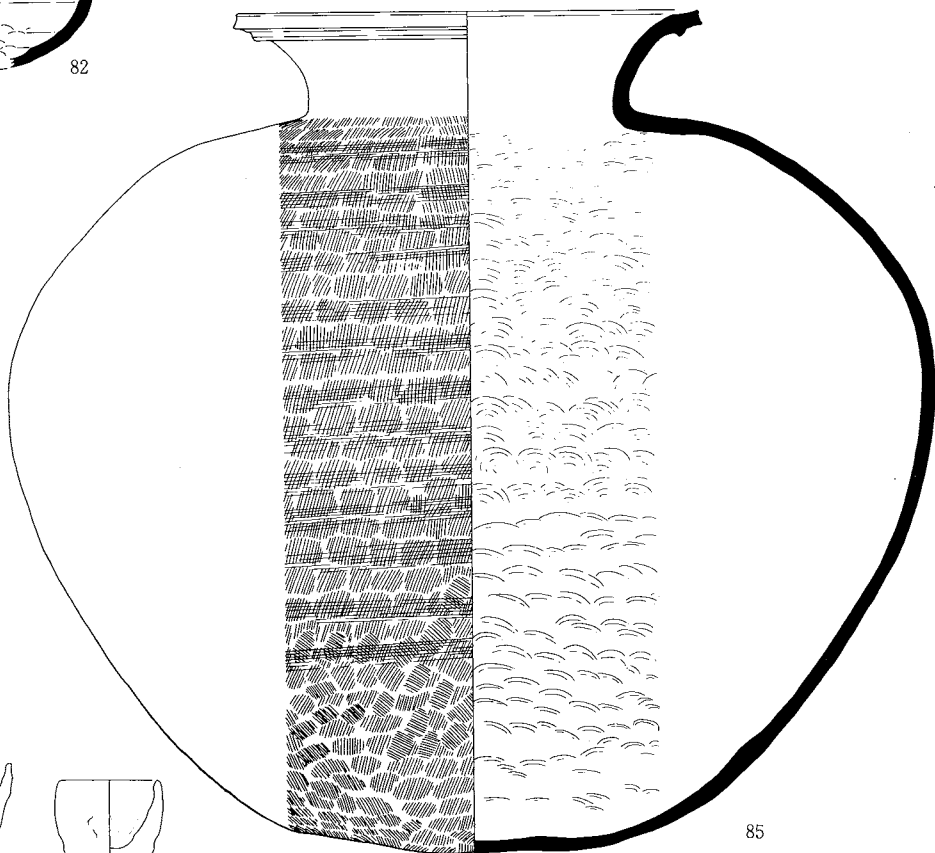


82



84

0 10cm



85



86



87



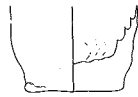
88



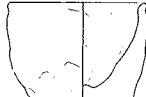
89



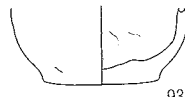
90



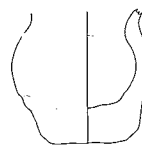
91



92



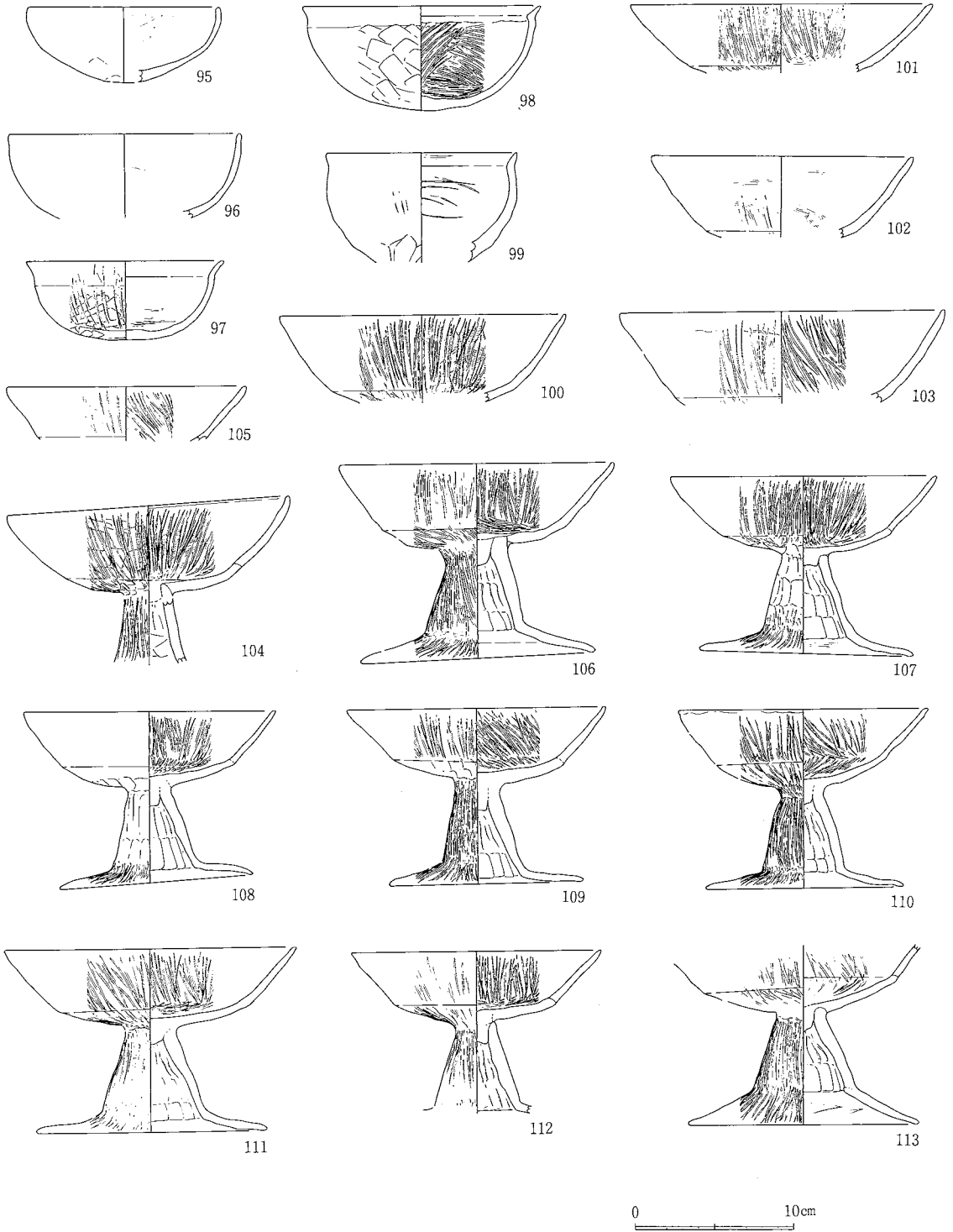
93



94

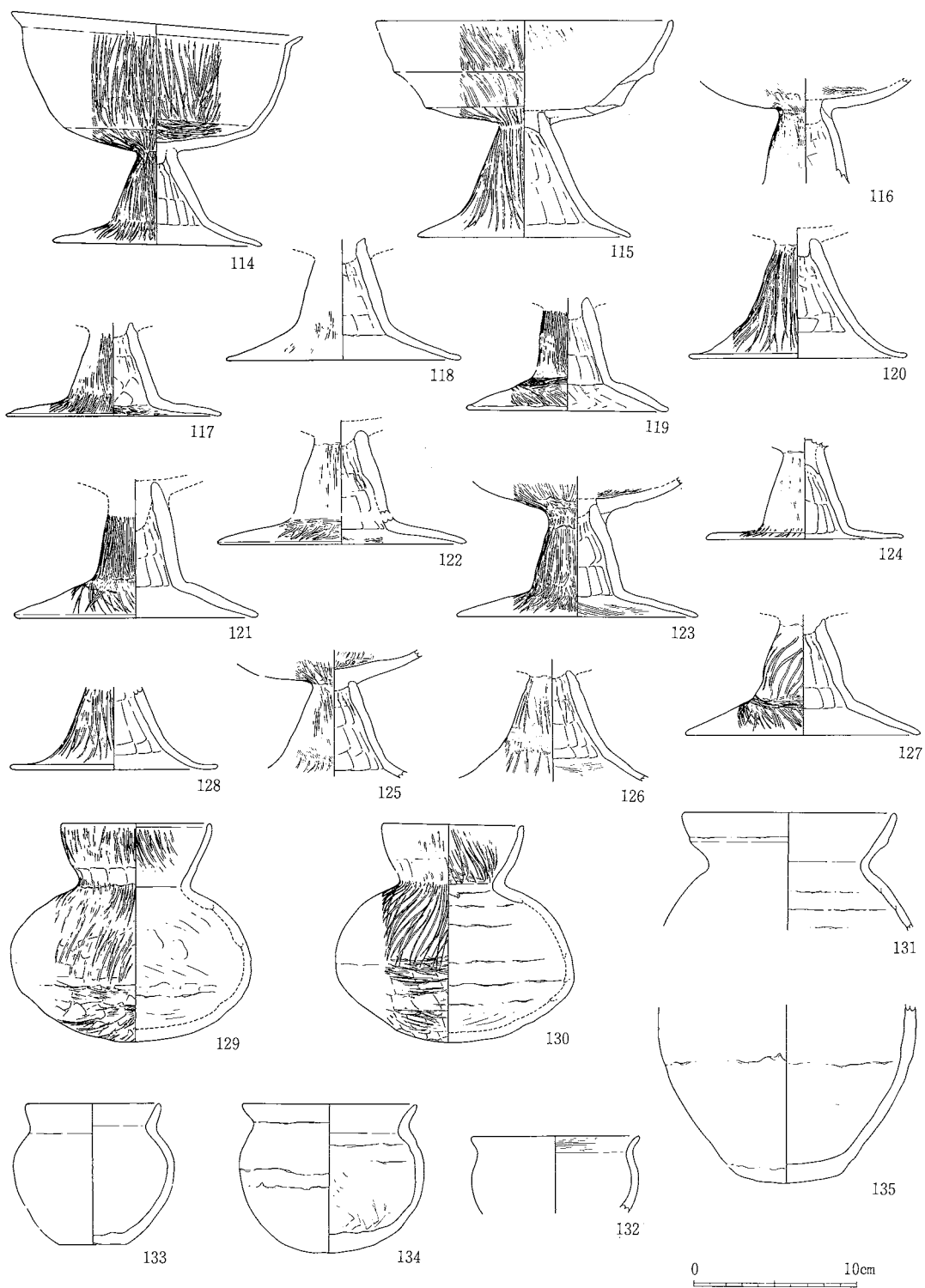
0 10cm

第67図 古墳時代土器(4)



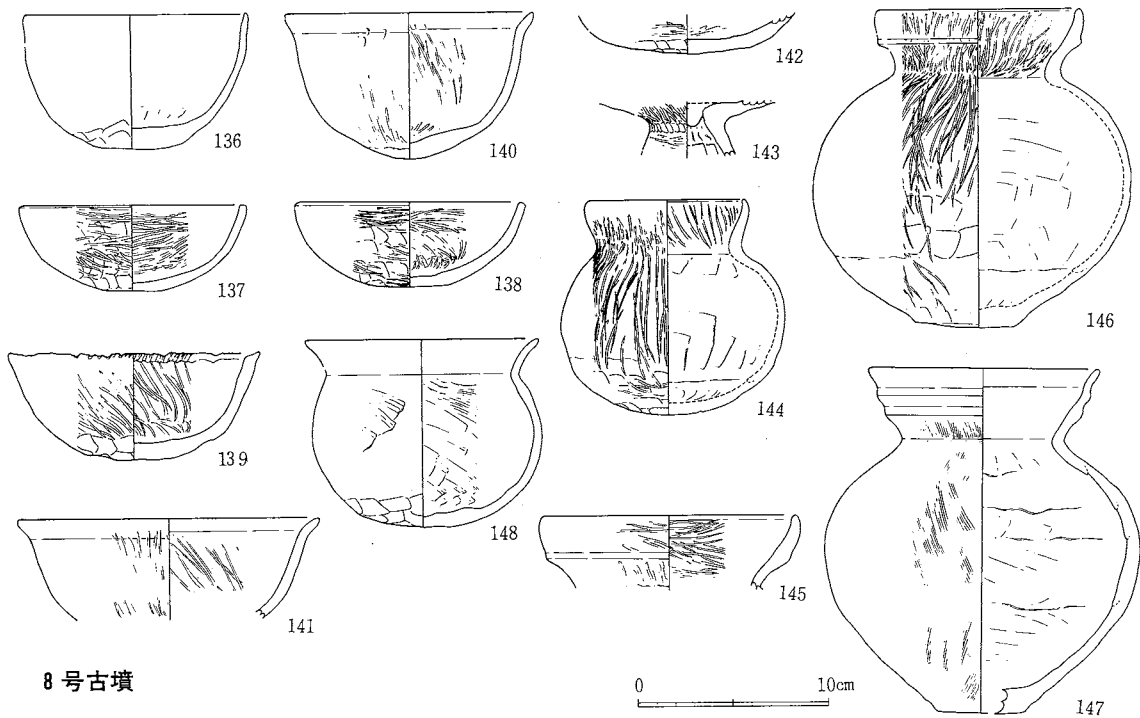
第68図 古墳時代土器(5)



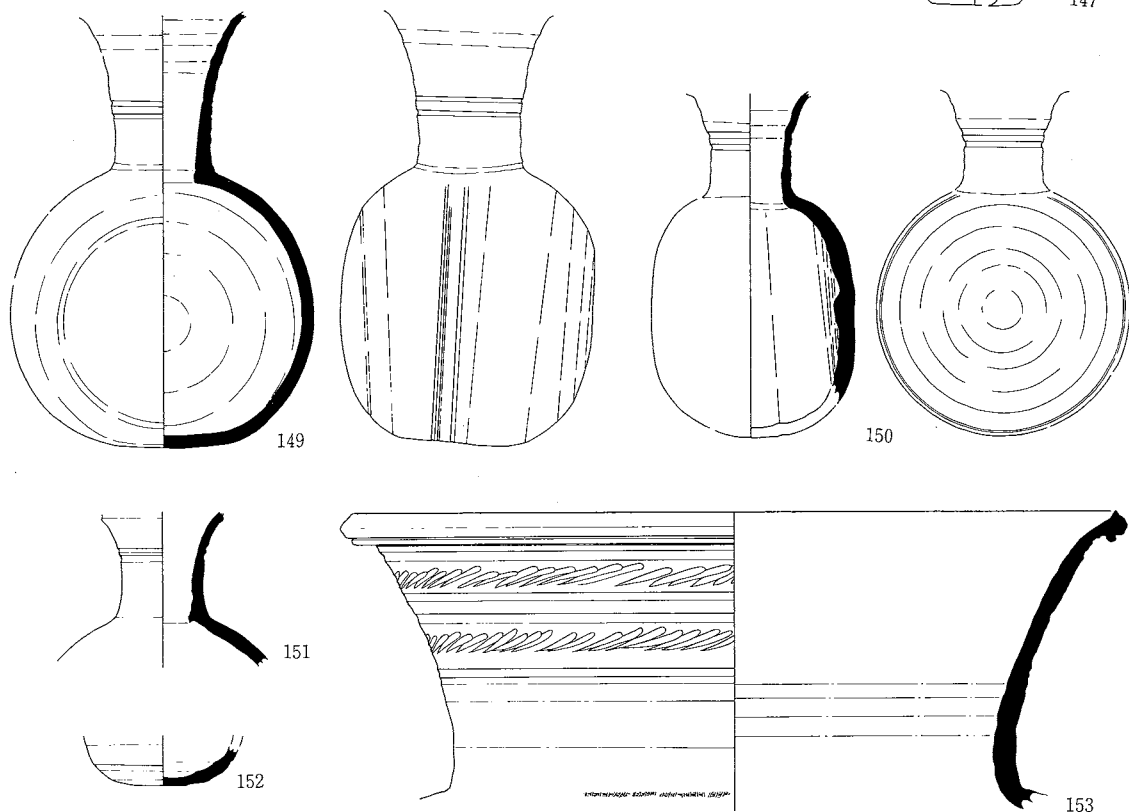


第69図 古墳時代土器(6)

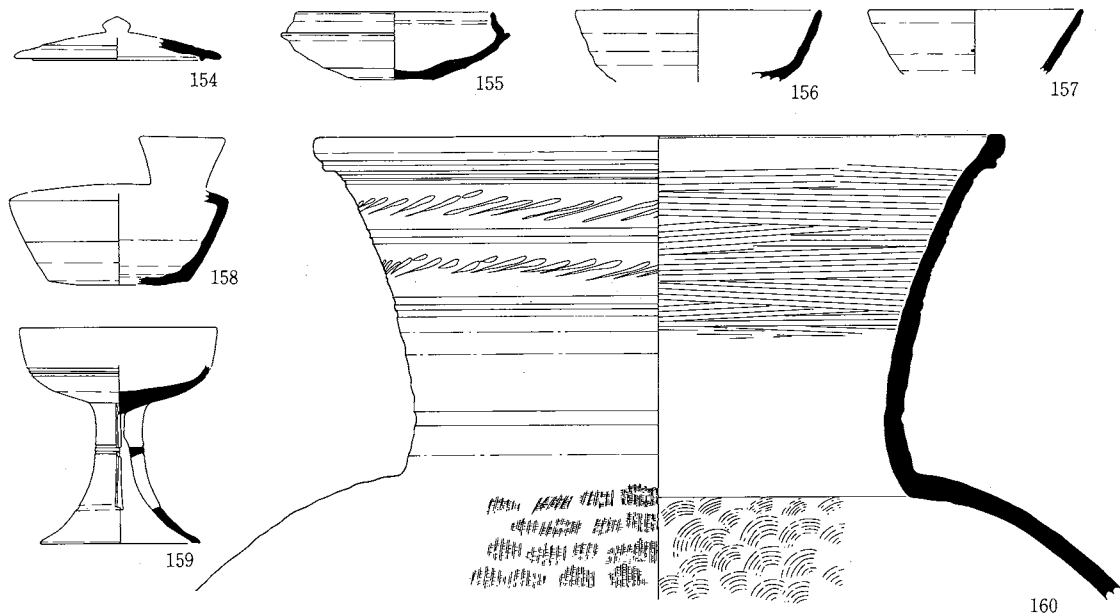
12号古墳



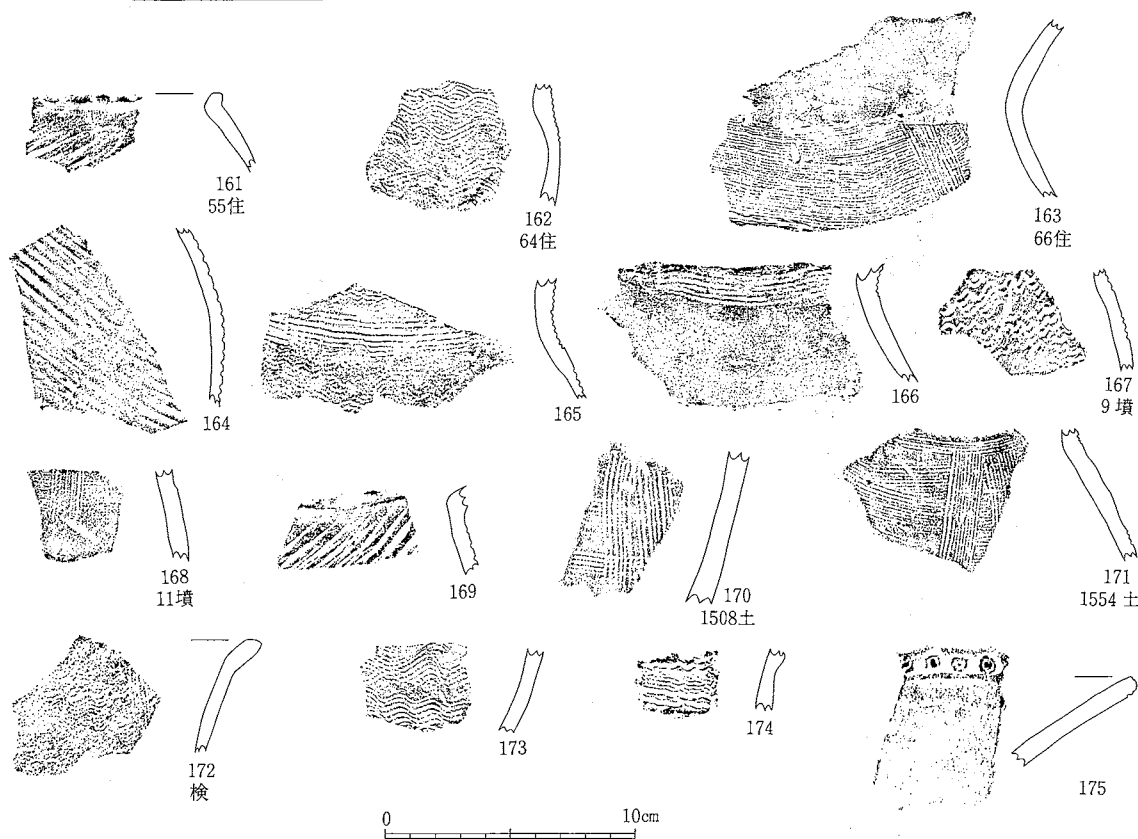
8号古墳



第70图 古墳時代土器(7)

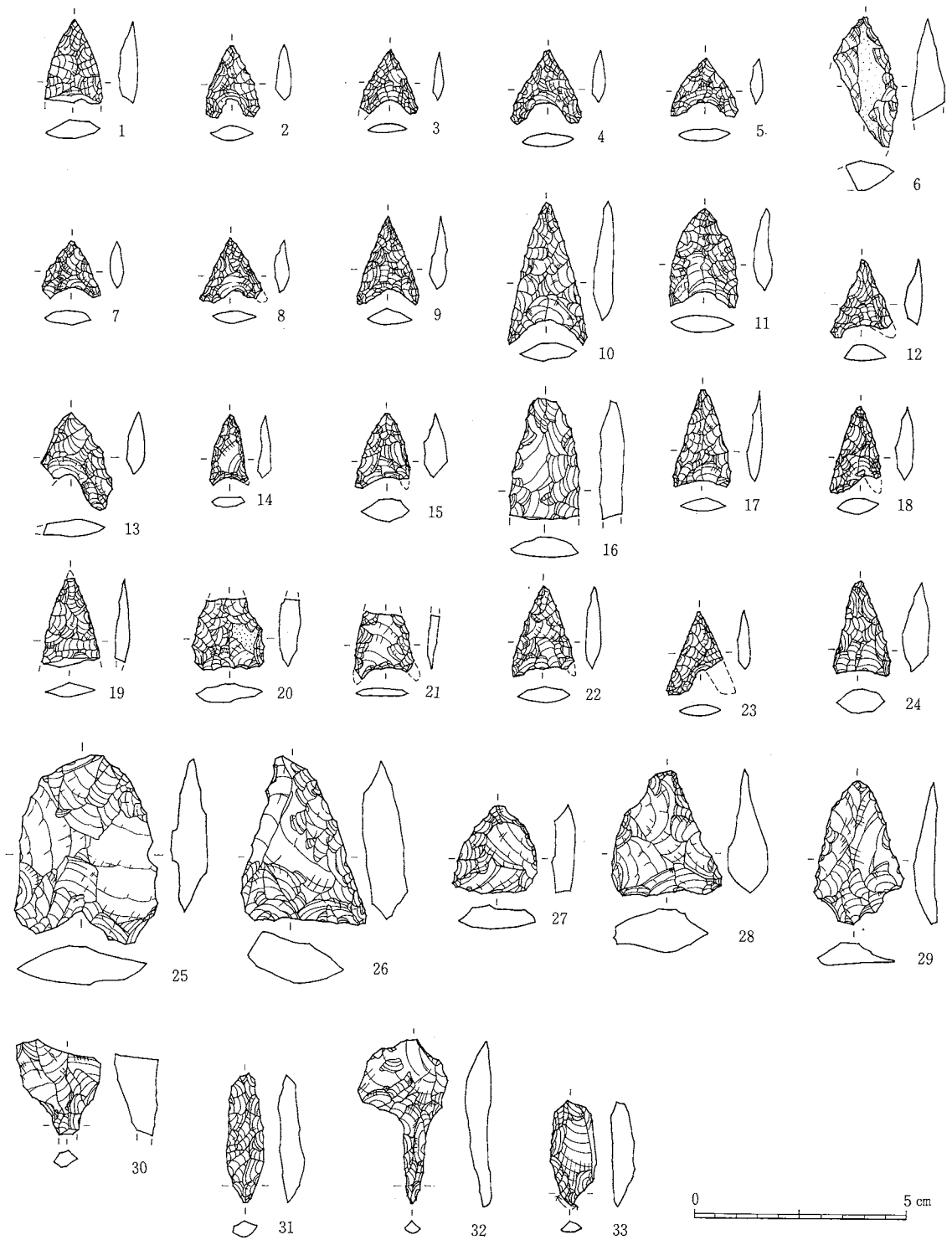


0 10cm

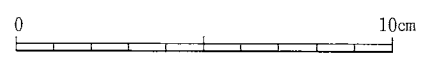
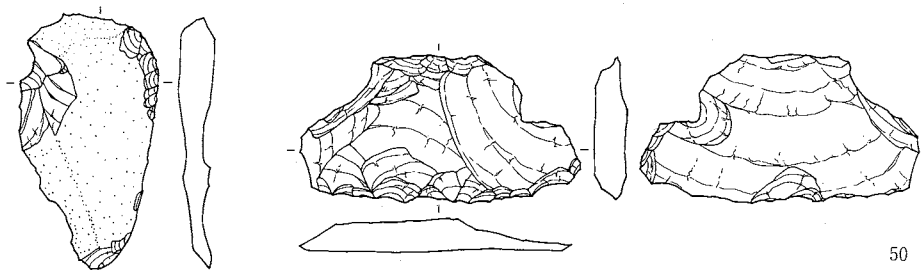
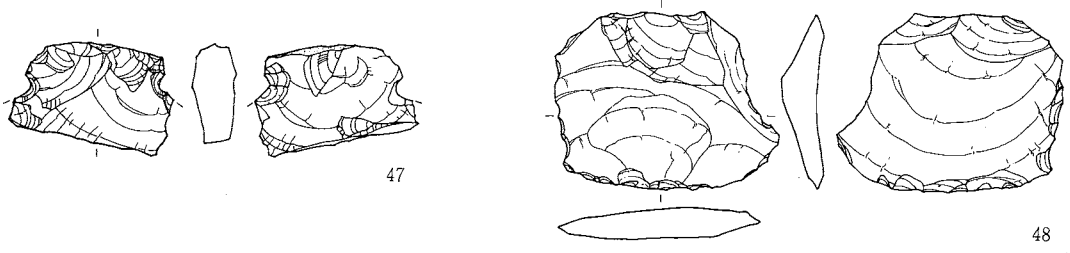
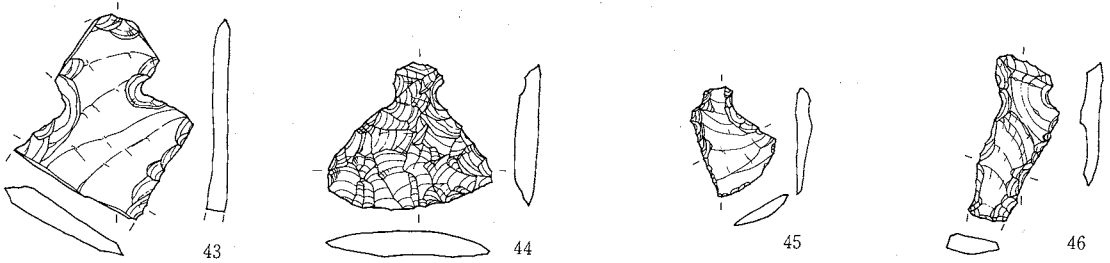
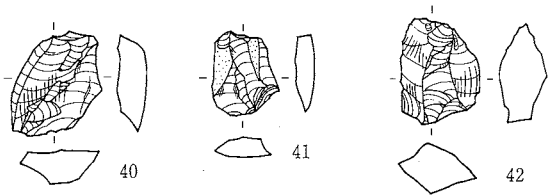
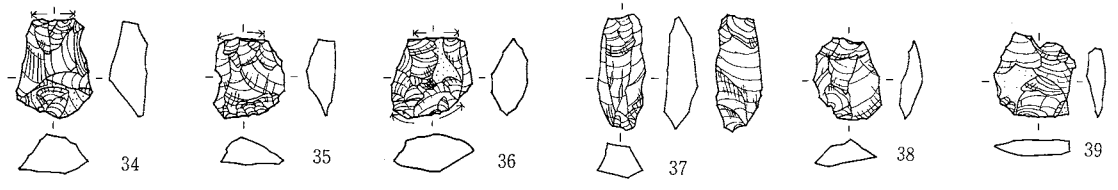


0 10cm

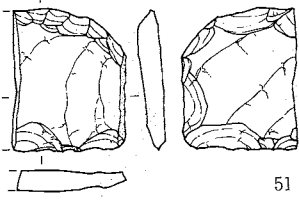
第71図 古墳時代土器(8)・拓影



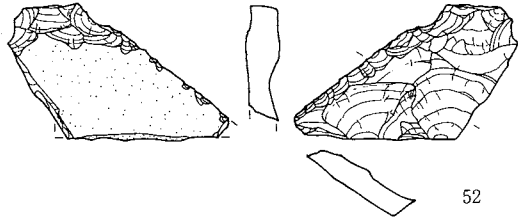
第72图 石器 (1)



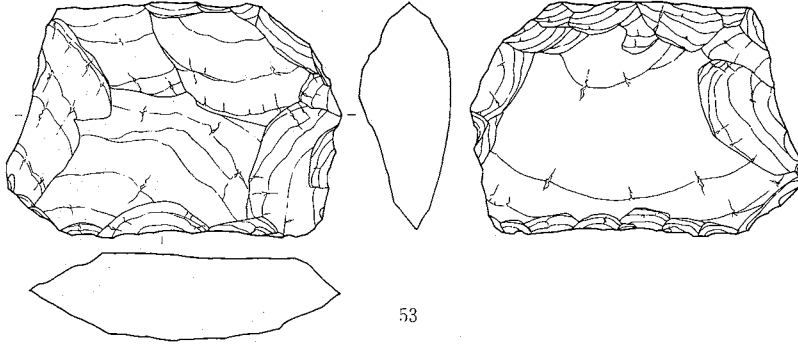
第73图 石器 (2)



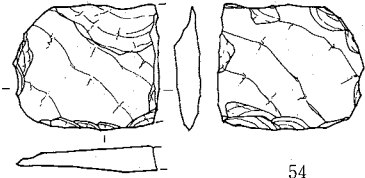
51



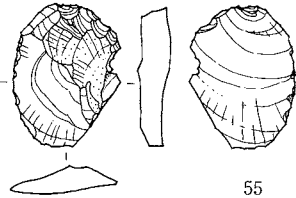
52



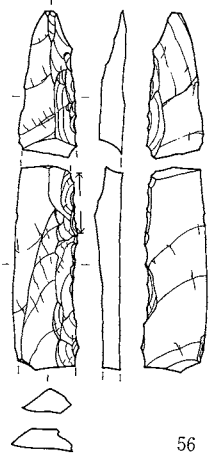
53



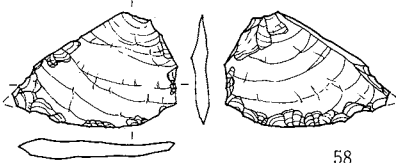
54



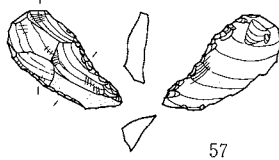
55



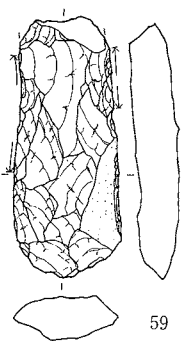
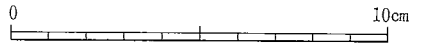
56



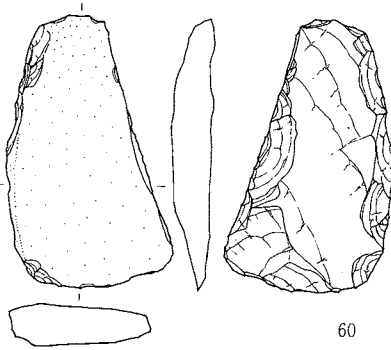
58



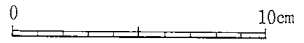
57



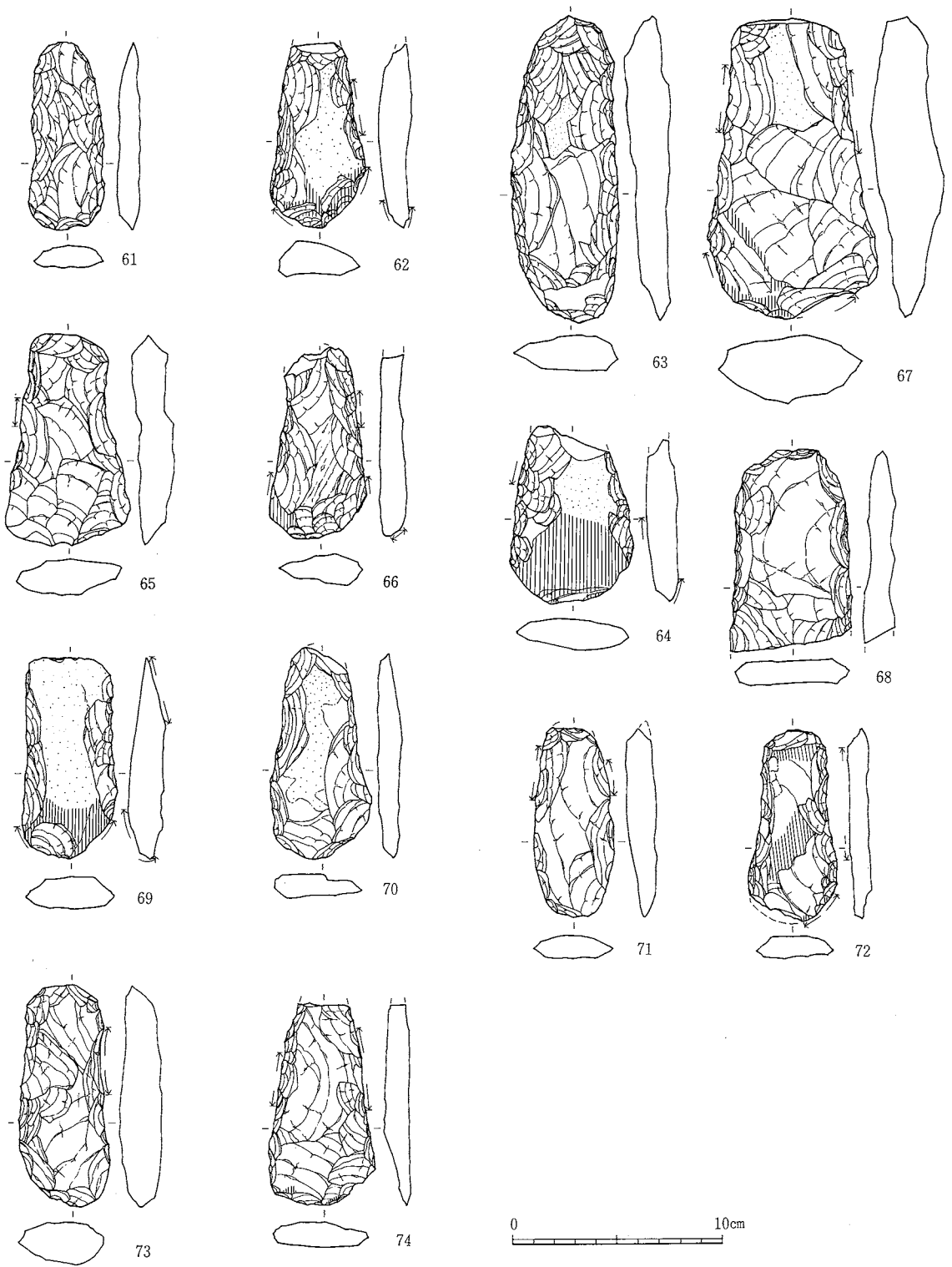
59



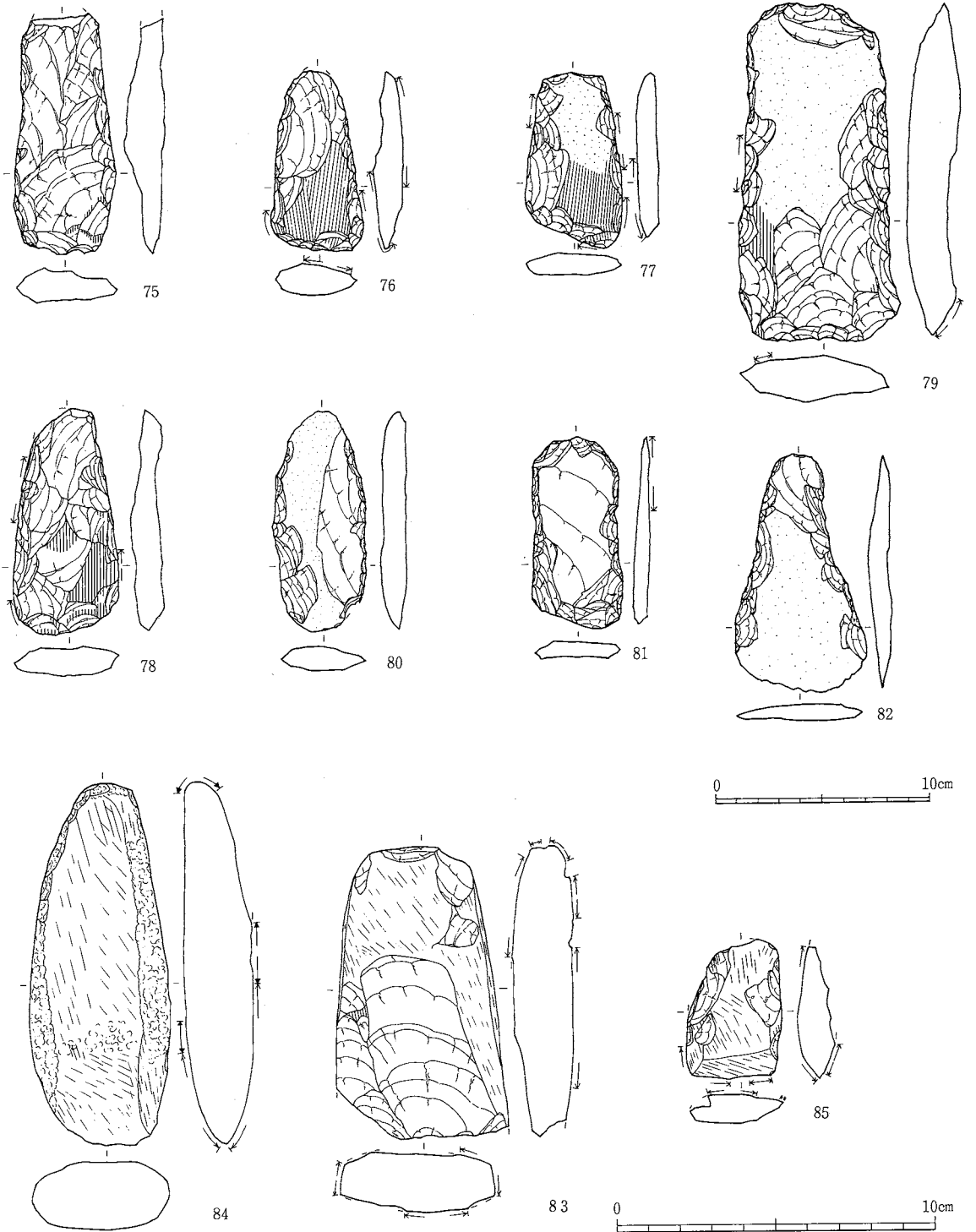
60



第74图 石器 (3)

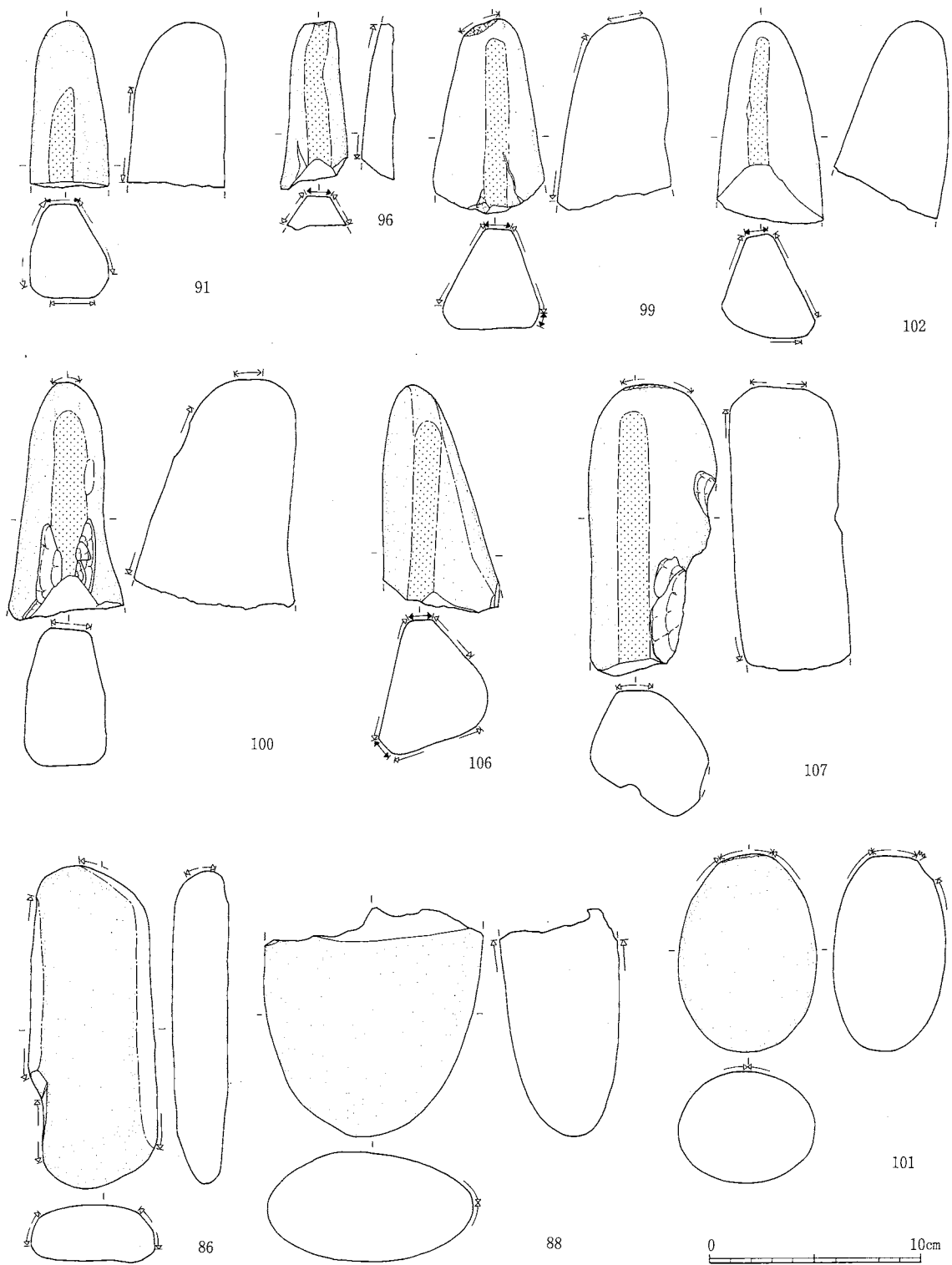


第75图 石器 (4)

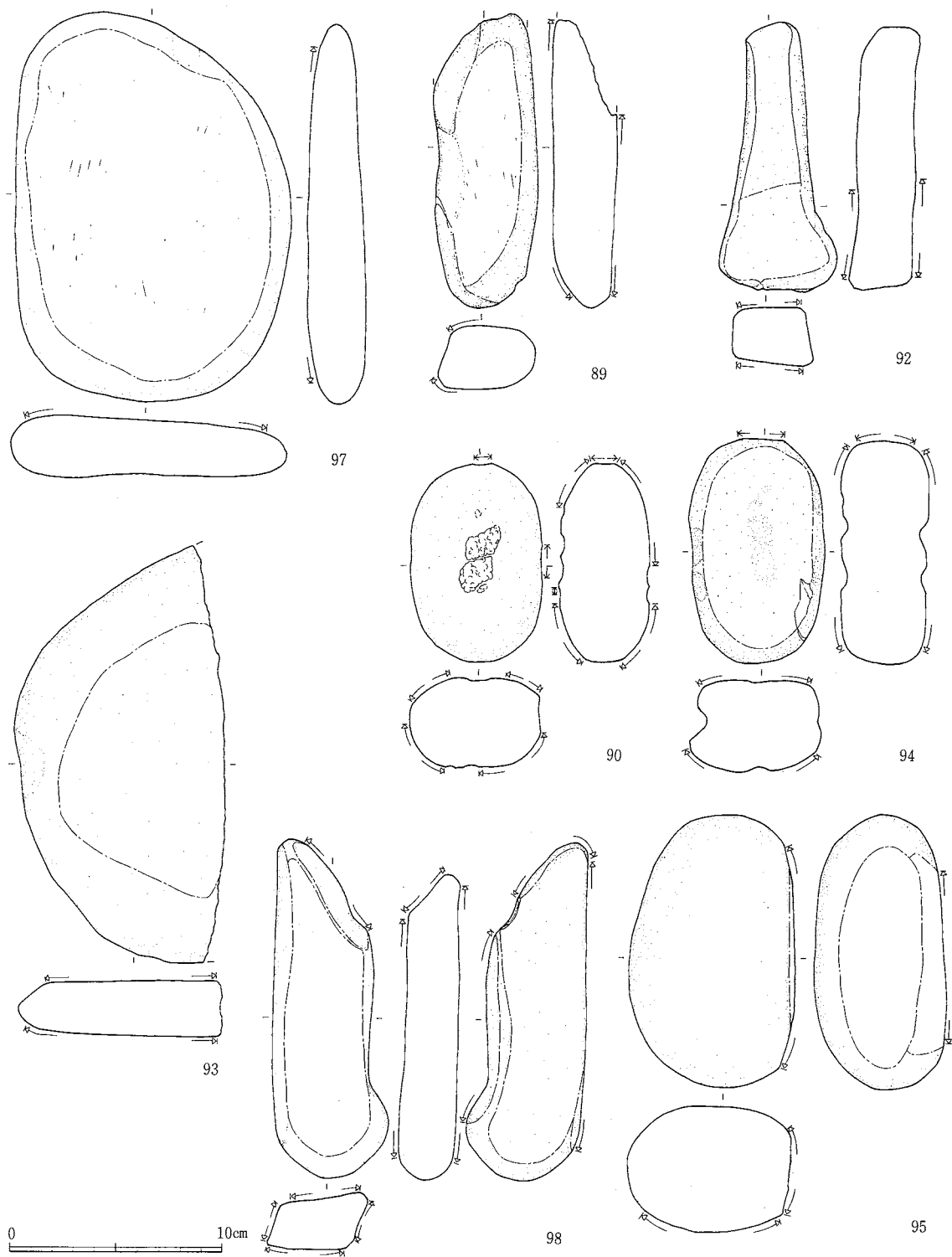


第76图 石器 (5)

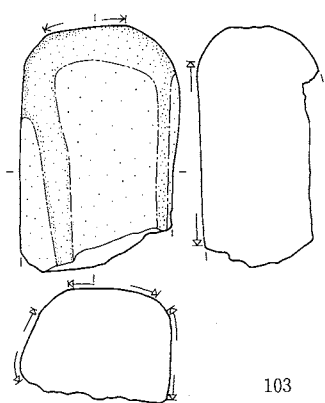




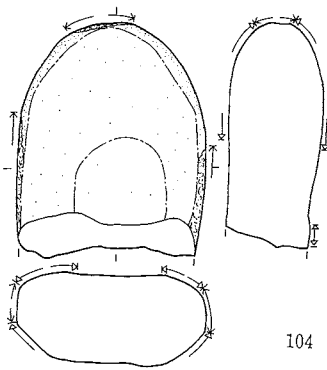
第77图 石器 (6)



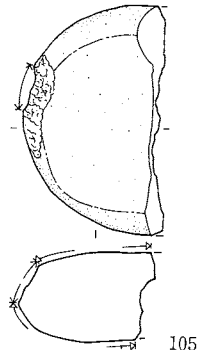
第78图 石器 (7)



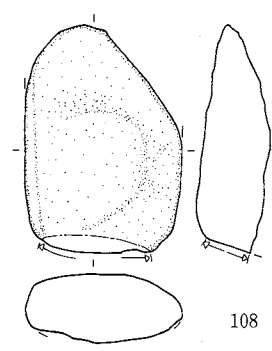
103



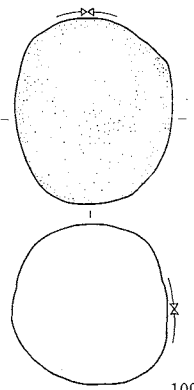
104



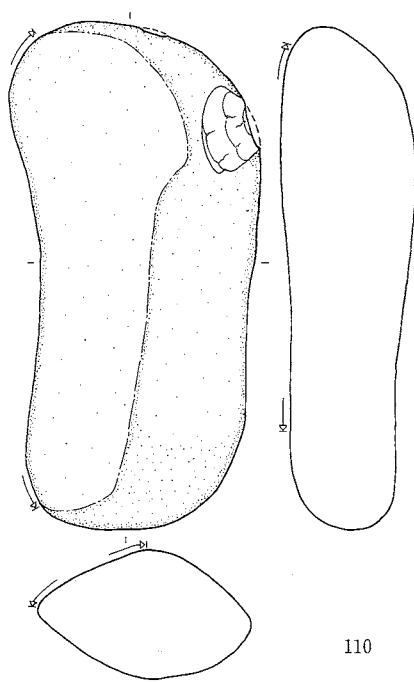
105



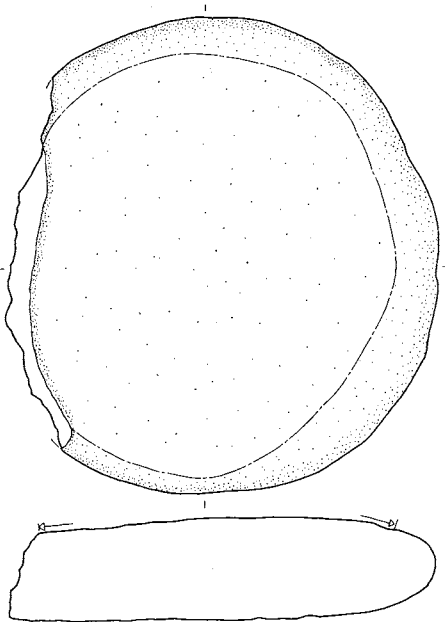
108



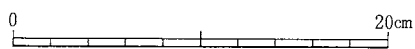
109



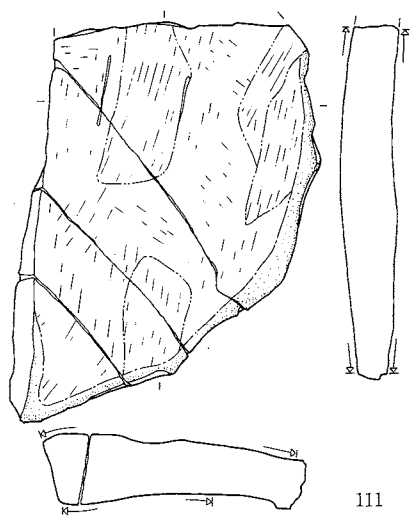
110



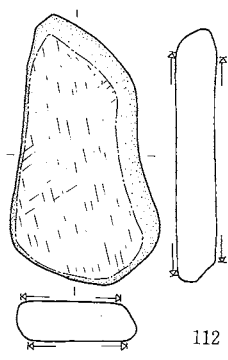
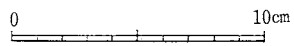
87



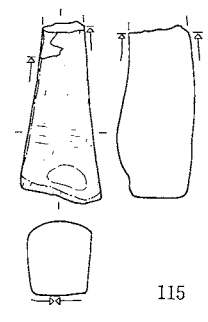
第79图 石器 (8)



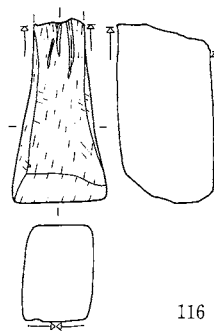
111



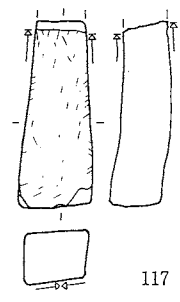
112



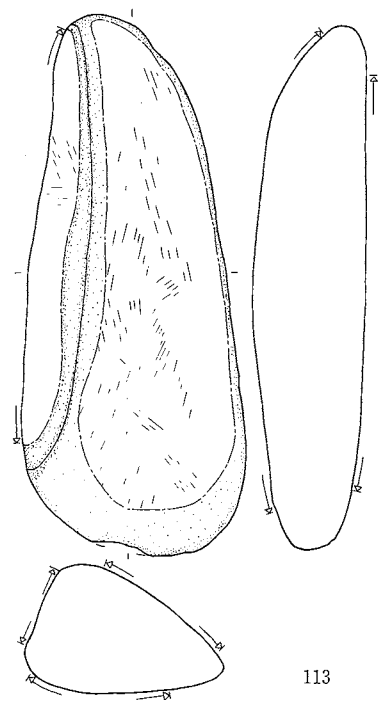
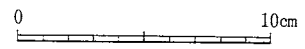
115



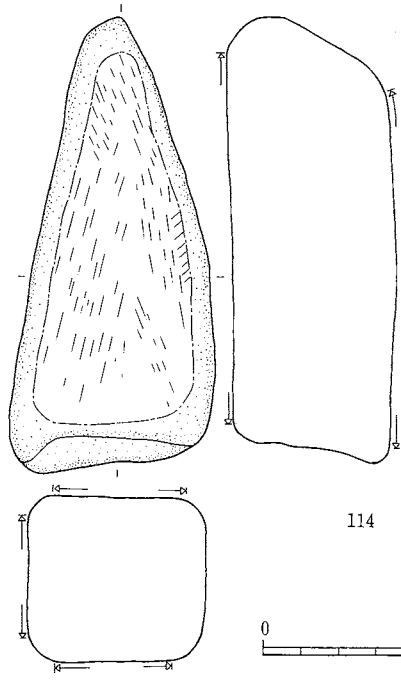
116



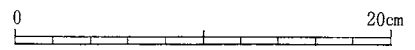
117



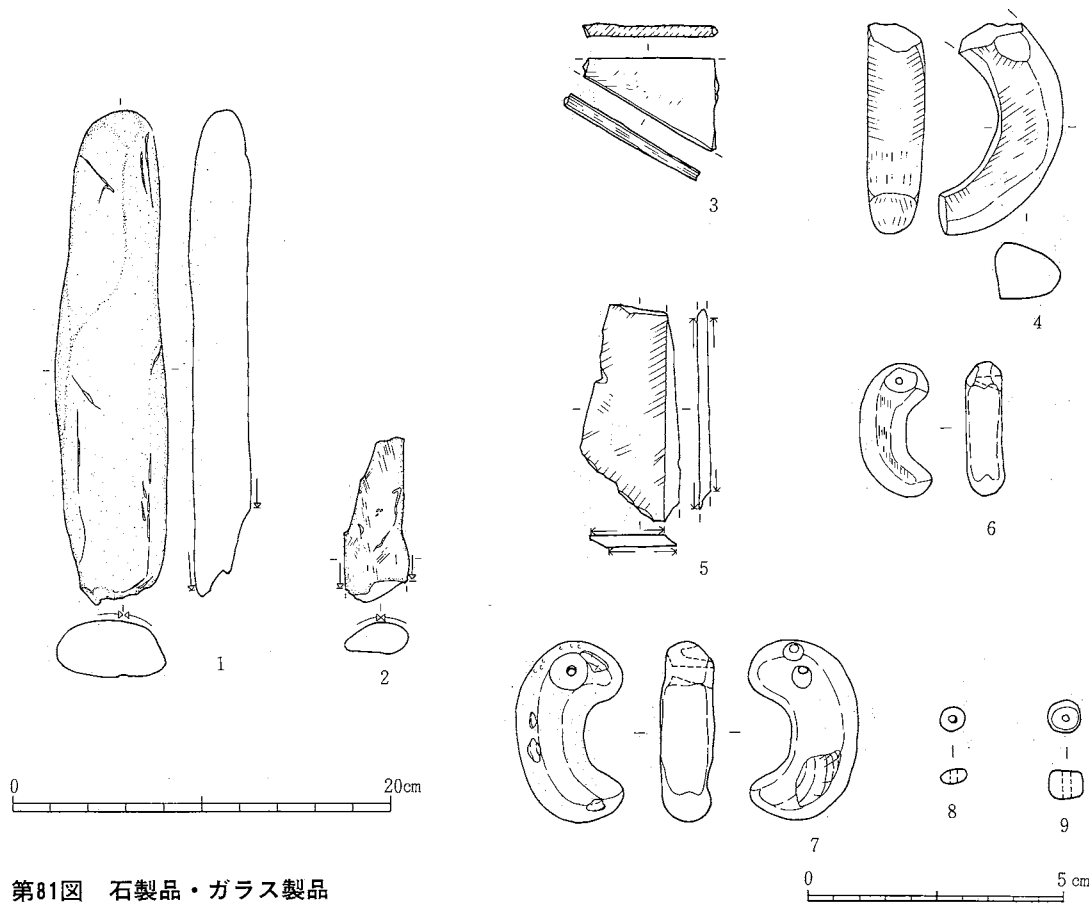
113



114



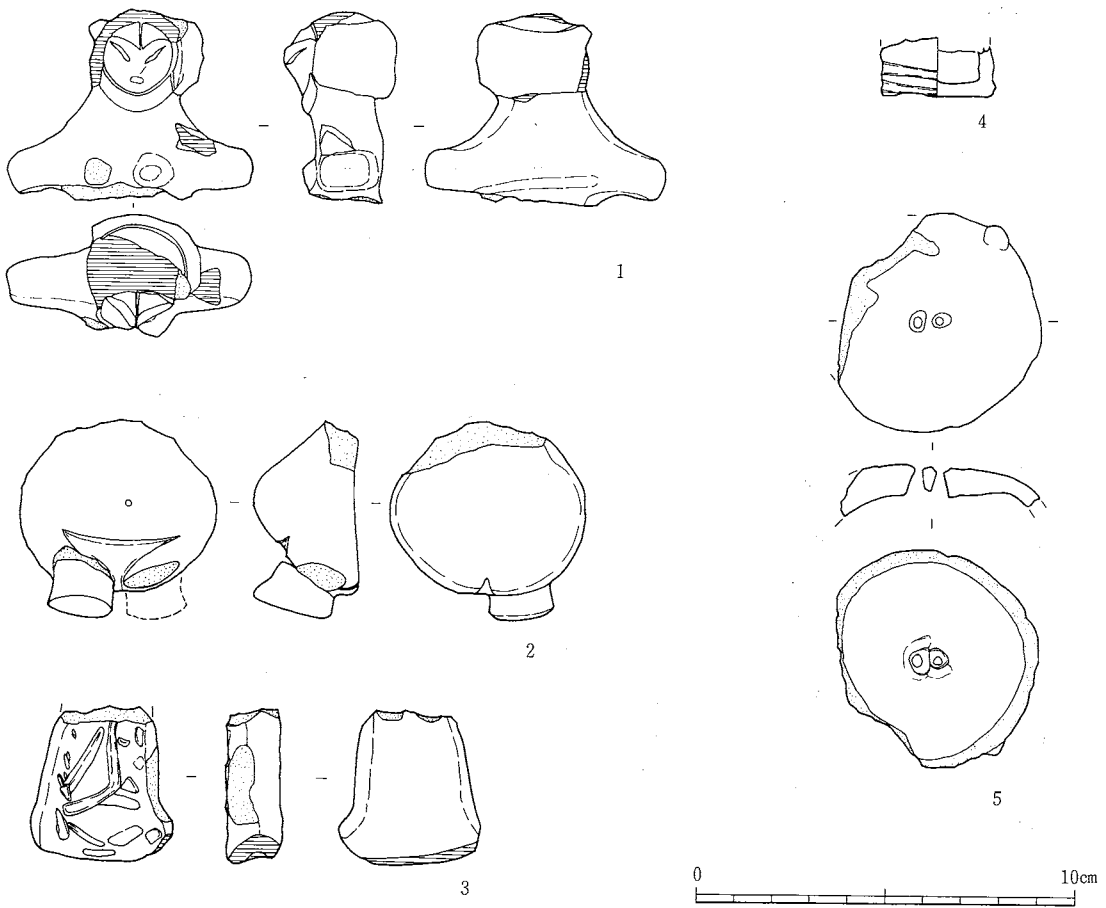
第80图 石器 (9)



第81図 石製品・ガラス製品

第6表 石製品・ガラス製品一覧表

No.	図No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	破損状況	備考
1		50住	石棒	(5.12)	(2.56)	(1.88)	(31.30)	安山岩	一部残	
2	1	56住No.1	石棒	(25.80)	5.85	3.32	(755)	ホルンフェルス	下端欠	
3	2	67住周辺検出面	石刀	(8.50)	(3.37)	1.79	(70.20)	緑色凝灰岩	一部残	
4	3	50住北西	不明	(2.65)	(1.80)	(0.28)	(1.65)	凝灰質粘土岩	一部残	
5	4	土坑1173	袂状耳飾	(3.79)	(2.36)	1.03	(12.35)	蛋白石	1/2欠	
6	5	8号墳耕作土	不明	(4.12)	(2.00)	(0.28)	(3.80)	粘板岩	一部残	
7		11号墳周溝C	海浜石	1.76	1.43	1.04	3.46	チャート	完形	
8	6	土坑1346No.1	勾玉	2.63	1.42	0.70	3.50	メノウ	完形	孔径0.32cm
9	7	8号墳No.2	勾玉	3.54	2.10	1.70	10.50	メノウ	完形	孔径0.13cm
10	8	8号墳No.3	小玉	0.55	0.62	—	0.35	ガラス	完形	薄緑色 孔径0.14cm
11	9	8号墳	小玉	0.26	0.51	—	0.10	ガラス	完形	濃青色 孔径0.12cm

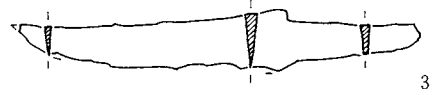
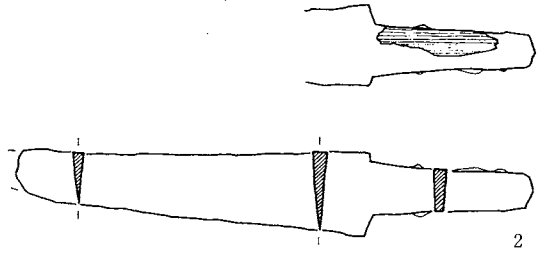
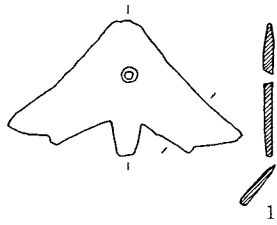


第82図 土製品

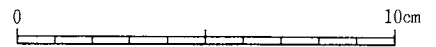
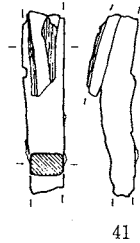
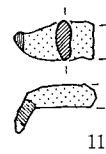
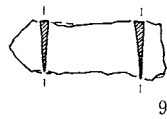
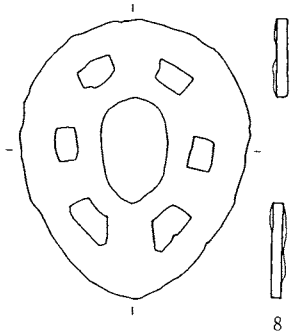
表7 土製品一覽表

No.	図No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存状況	備考
1	1	56住No.11	土偶	(4.90)	(6.38)	(3.01)	(49.75)	頭・胸部	
2	2	56住北西	土偶	(5.22)	(5.10)	(2.70)	(56.55)	胴・片脚	妊娠土偶
3	3	土坑1174	土偶	(4.09)	(3.67)	(1.52)	(23.30)	胸部	
4	4	56住No.4	ミニチュア土器	(1.47)	(3.11)	(0.42)	(8.10)	上半欠	
5	5	56住北東	不明	(5.75)	(5.29)	(0.82)	(26.80)	不明	2孔

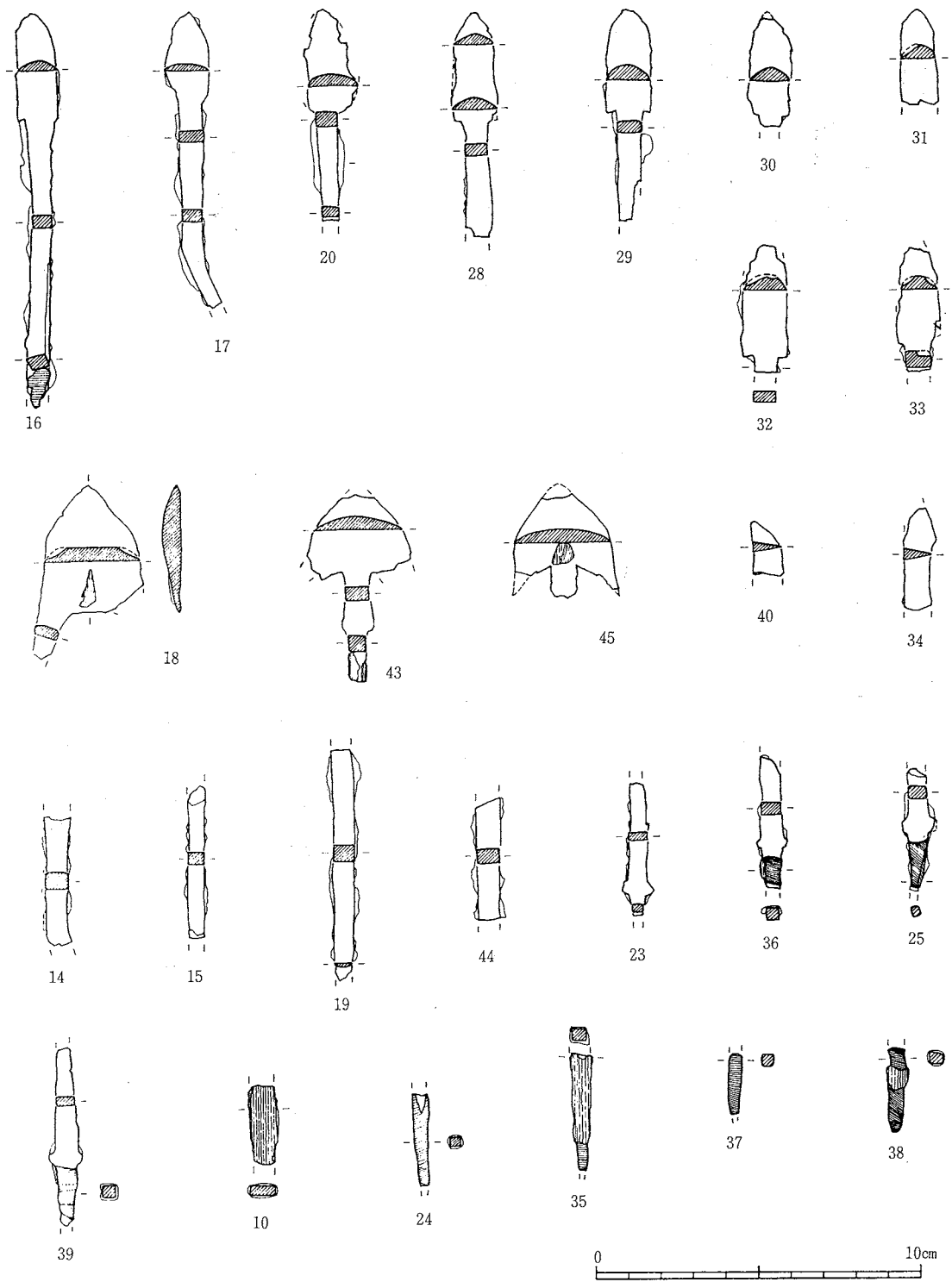
第11号古墳



第8号古墳

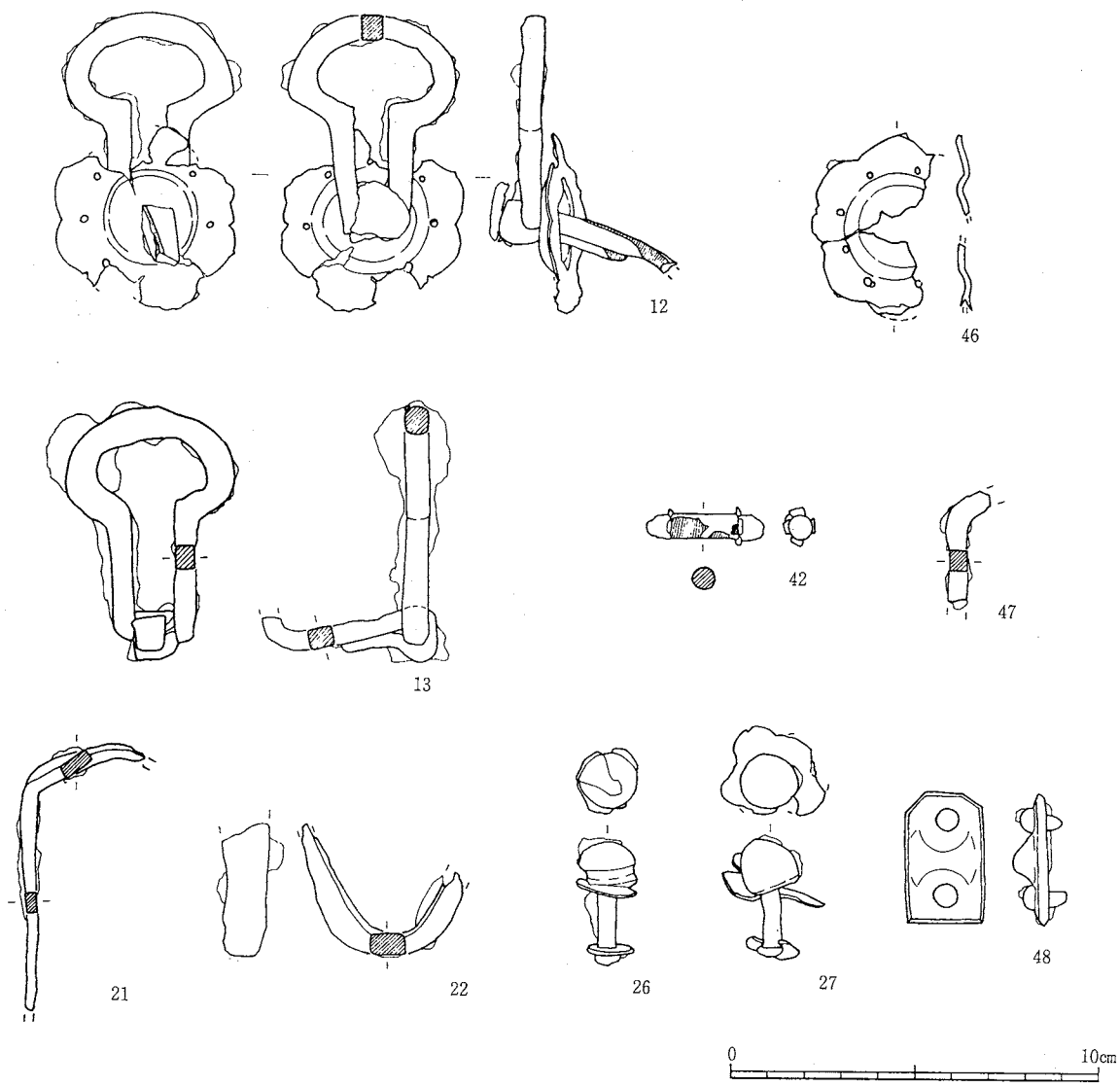


第83图：金属製品（1）



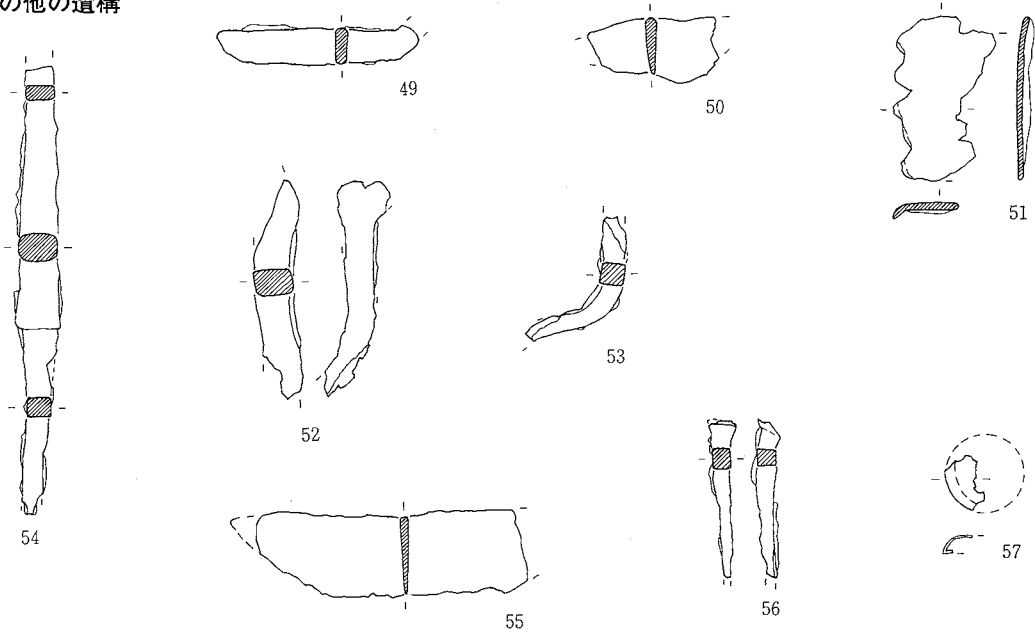
第84图 金属製品（2）



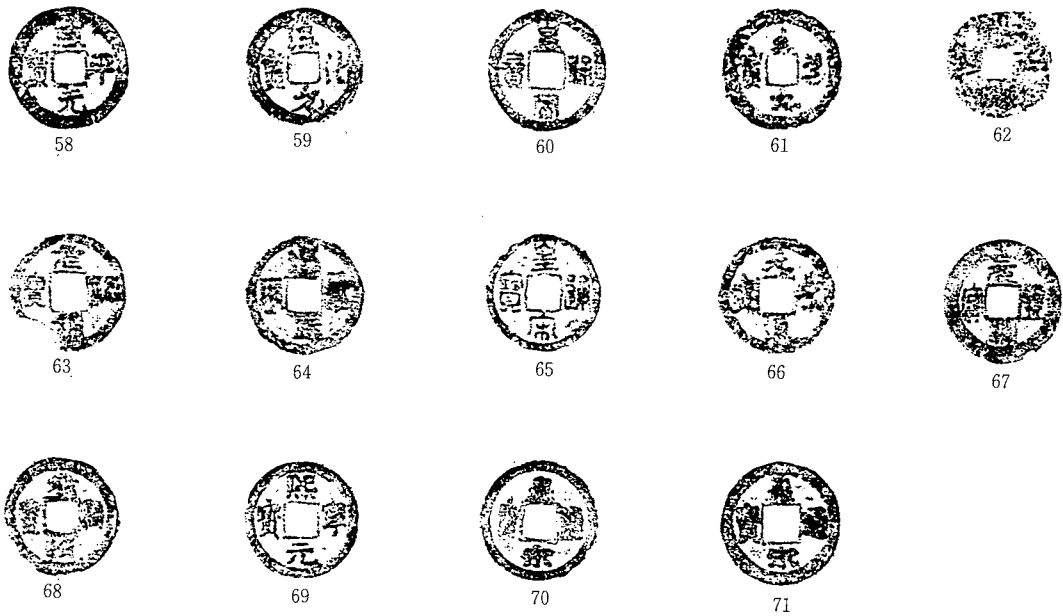


第85图 金属製品 (3)

その他の遺構



銭貨



第86図 金属製品(4)・銭貨

第8表 古墳時代土器一覽表

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考	
地点			器高	色調		外面		
土器			口径	焼成		内面		
図			底径					
50住	甕	口縁部1/8	15.3	橙褐	白色粒、雲母	ハケメ→口縁端部ヨコナデ		
1				やや良	褐色粒多量混入	ハケメ		
64								
50住	甗	底部完	5.6	赤褐	白色粒、砂粒	ハケメ		
2				やや良	多量混入	ナデ		
64								
51住	小形丸底埴	口縁部1/6	9.5	橙褐	白色粒、雲母	ハケメ→ナデ		
3				良	少量混入	ハケメ→ナデ		
64								
51住	小形丸底埴	口縁部1/6	12.0	黄褐	白色粒、石英粒褐色粒混入	端部ヨコナデ→横のミガキ		
4				やや不良		ナデ		
64								
51住	壺	口縁部ほぼ完	15.8	赤褐	白色粒、石英粒混入	ハケメ→ミガキ	内面少量炭化物付着	
5				良		ミガキ		
64								
51住	甕	口縁部1/5	15.2	灰褐	白色粒、雲母	口縁ハケメ→ナデ、胴縦のハケメ	外面スス付着	
6				良	多量混入	ハケメ→ナデ		
64								
51住	壺	口縁部1/9	17.7	黄褐	白色粒、石英粒混入	口縁折り返し部指圧痕、縦のハケメ		
7				良		ナデ		
64								
51住	(不明)	図化部完		黄褐	白色粒、石英粒混入	ナデ、ヘラナデ		
8				良		ナデ		
64								
51住	甕	底部完	4.0	暗褐	白色粒、雲母	ハケメ、ナデ		
9				やや良	石英粒多量混入	ナデ		
64								
51住	壺	底部1/2	6.1	黄褐	白色粒、石英粒混入	ナデ	内面黒変	
10				良		ナデ、ハケメ		
64								
51住	壺	底部完	6.2	赤褐	白色粒、雲母	ナデ		
11				良	少量混入	ハケメ(クモの巣状)		
64								
53住	鉢	口縁部1/8	10.8	橙褐	白色粒、石英粒多量混入	ナデ	全面風化	
12				やや良		ナデ		
64								
53住	高坏	図化部完		暗褐	白色粒、石英粒多量混入	縦のミガキ		
13				良		ナデ		
64								
53住	壺	口縁部1/5	15.5	赤褐	白色粒、石英粒多量混入	端部ヨコナデ、ナデ→円形浮文		
14				良		ナデ		
64								

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点			器高	色調		外面	
土器			口径	焼成		内面	
図			底径				
53住	甕	底部完		橙 褐	白色粒、砂粒	ナデ	内外面摩滅
15				やや良	石英粒多量混入	ナデ	
64			5.0				
53住	甕	口縁ほぼ完		橙 褐	白色粒、砂粒	口縁縦のハケメ、胴部ナデ	
16				良	石英粒多量混入	ナデ	
64			17.8				
56住	小形丸底埴	口縁部1/4		橙 褐	白色粒混入	口縁ヨコナデ、体部ケズリ→ナデ	
17				やや良		ナデ、指オサエ	
64			10.4				
63住	台付甕	頸部1/8 胴部完		暗 褐	白色粒、雲母	胴部上半ハケメ、下部・脚ハケメ・ナデ	胴部外面スス 内面炭化物付着
18				良	石英粒混入	ナデ	
64							
64住	器台	脚部1/4		橙 褐	長石粒、石英粒混入	縦のミガキ	3孔
19				良		ナデ	
64			8.8				
64住	高 環	図化部完		橙 褐	白色粒混入	縦のミガキ	3孔
20				良		脚内横のケズリ	
64							
64住	高 環	図化部完		橙 褐	砂粒、小石混入		全面摩滅 3孔
21				やや不良			
64							
64住	甕	図化部1/2		橙 褐	白色粒、雲母	ハケメ	
22				良	石英粒混入	横のミガキ	
64							
64住	甕	口縁部1/6		橙 褐	石英粒、長石粒混入	口縁ヨコナデ、胴部摩滅	
23				良		胴部ヘラナデ、板ナデ	
64			13.6				
64住	S字甕	口縁部1/4		暗茶褐	白色粒、雲母混入	口縁ヨコナデ、胴部縦のハケメ	
24				良		胴部指オサエ	
64			10.8				
64住	台付甕?	底部完		橙 褐	白色粒混入	ハケメ、底面指オサエ	
25				良		摩滅	
64			5.0				
64住	台付甕	図化部完		橙 褐	白色粒混入	摩滅	
26				やや良		板ナデ	
64							
65住	高 環 ?	図化部1/3		黄茶褐	赤褐色粒、雲母白色粒混入		内外面摩滅
27				良			
64							
66住	裝飾器台	図化部1/2		黄 褐	白色粒、褐色粒雲母、石英粒混入	ナデ、ミガキ、赤彩	上段涙滴形透かし 下段円孔 No. 7
28				良		ナデ	
65							

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点			器高	色調		外面	
土器			口径	焼成		内面	
図			底径				
66住 29 65	壺	口縁部1/2	16.4	黄褐 やや良	白色粒、石英粒、褐色粒、黒色粒多量混入	端部ヨコナデ、ハケメ、棒状浮文、頸部貼り付け突帯 板ナデ・ナデ→ミガキ	No.9
66住 30 65	器台	脚部1/4	10.0	赤褐 良	白色粒、石英粒褐色粒混入	端部ヨコナデ、縦のハケメ ナデ	No.17
66住 31 65	蓋	図化部完	4.5	橙～黄褐 良	白色粒、褐色粒少量混入	ナデ、工具による圧痕 ハケメ（クモの巣状）	フ
66住 32 65	甕	底部完	4.2	黄褐 やや良	白色粒、石英粒黒色粒多量混入	ミガキ、底面ナデ、摩滅 ミガキ	No.2
66住 33 65	甕	口縁部1/3	11.7	暗褐 やや良	白色粒、石英粒多量混入	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ、頸部に沈線 ナデ	フ
66住 34 65	台付甕	脚部1/2	10.0	赤褐 良	白色粒、石英粒多量混入	ハケメ ハケメ	フ
66住 35 65	台付甕	口縁部2/3 他は完	17.6 12.9 6.4	黄褐 良	白色粒、雲母多量混入	口縁ヨコナデ、頸部縦のハケメ→胴部横のハケメ ナデ	胴部外面スス No.3
66住 36 65	台付甕	胴部2/3 脚部1/2	8.3	黄褐 良	白色粒、雲母褐色粒多量混入	ナデ、摩滅 板ナデ	外面黒斑 No.2
66住 37 65	甕	口縁部1/4	13.3	赤褐 良	微量の石英粒、白色粒混入	口縁ヨコナデ、頸部工具ナデ→胴部斜ハケメ ナデ、縦の工具ナデ	No.8
66住 38 65	甕	口縁部3/4 他は完	16.8 13.3 4.2	橙褐 良	微量の雲母、白色粒混入	口縁ヨコナデ、胴部の2段のタタキ（下→上、左まわり）底面輪状 口縁ハケメ、胴部ナデ	外面上半スス、黒斑 No.1
66住 39 65	甕	口縁部1/4 底部完	18.0 14.8 7.2	赤褐 やや良	雲母、石英粒白色粒多量混入	口縁ヨコナデ、ナデ、上半部描波状文 ナデ、板ナデ、底部指オサエ	全体に摩滅 No.18、フ
66住 40 65	甕	口縁部1/4 底部完	23.3 18.4 4.8	橙褐 良	白色粒、石英粒砂粒多量混入	口縁ヨコナデ、胴部ハケメ→ナデ、底部際ヘラナデ ナデ（粗）	外面全体スス 底面上げ底 No.15・16
67住 41 65	鉢	口縁部1/8	6.2 10.0 (2.0)	淡褐 やや良	白色粒、石英粒多量混入	ナデ、口縁ヨコナデ ナデ	全体に摩滅
67住 42 65	台付甕	脚部1/6	7.6	橙褐 やや不良	白色粒、雲母混入	上半ハケメ、下半ナデ ナデ、下端部内面へ折り返し	S字甕の脚

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点			器高	色調		外面	
土器			口径	焼成		内面	
図			底径				
67住	壺	底部完		淡黄褐	微量の雲母、 白色粒混入	ナデ、底面輪状	全体に摩滅 内面黒変
43				やや良		ナデ	
65			9.0				
68住	高 坏	図化部完		橙 褐	白色粒、褐色 粒混入	縦のミガキ	4 孔
44				良		ナデ	
65							
69住	壺	底部1/4		橙 褐	白色粒混入	ナデ	
45				良		ナデ	
65			7.0				
70住	器 台	脚部1/3		橙 褐	白色粒、赤褐 色粒混入		全体に摩滅 3 孔
46				やや不良			
65			12.8				
10墳	甕	口縁部1/3		薄 橙	砂粒、小石 混入	頸部ハケメ	摩滅著しい
47				不良			
66			23.1				
10墳	台付甕	図化部完		淡 褐	砂粒、小石 混入	ハケメ	全体に摩滅
48				良		板ナデ、ナデ	
66							
10墳	甕	底部完		橙 褐	砂粒、小石 混入		全体に摩滅
49				やや良			
66			5.0				
11墳	壺	口縁部1/5		淡 橙 褐	～1mmの白色 粒・石英多量 ・やや粗	ナデ→ヨコナデ	やや摩耗 混入品
50				やや堅緻		ヨコナデ	
66			26.5				
11墳	小形丸底埴	口縁部1/8 頸部以下1/4		橙 褐	赤色微粒少量 ・密	口縁部ヨコナデ→口縁部から底部ミガキ	内外摩耗 混入品
51				堅 緻		口縁部ヨコナデ→ミガキ？	
66			10.3				
11墳	小形器台	接合部完存		橙 褐	白色微粒少量 ・赤色粒少量 ・密	脚部ミガキ	摩耗著しい 混入品
52				やや堅緻		脚部ヘラケズリ	
66							
11墳	小形器台	坏底部1/3 脚柱部1/2		橙 褐	赤色微粒 少量・密	坏部ヘラケズリ→ミガキ、脚部ミガキ	混入品
53				堅 緻		坏部ミガキ、脚部ヘラケズリ	
66							
11墳	高 坏	柱部完存		橙 褐	白色・赤色砂 粒微量、密	ミガキ・スカシ（円孔）	混入品
54				堅 緻		シボリ・ナデ	
66							
11墳	高 坏	坏底部1/2 脚柱部ほぼ完		橙 褐	～1mm白色粒 少量、密	坏・脚部ミガキ、スカシ（円孔3単位）	混入品
55				堅 緻		坏部ミガキ、脚部シボリ→ハケメ	
66							
11墳	甕	口縁部1/4		暗 褐 褐	～1mm白色・ 石英粒多量、 やや密	頸部から体部ハケメ→口縁部ヨコナデ	やや摩耗 混入品
56				やや堅緻		体部ナデ・口縁部ヨコナデ	
66			13.3				

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点			器高	色調		外面	
土器			口径	焼成		内面	
図			底径				
12 墳	高 環	坏体部1/4		橙 褐	白色・赤色微	ナデ→突帯ヨコナデ→ミガキ	内外摩滅 混入品
57				堅 緻	粒少量、密	ナデ	
66							
12 墳	壺	口縁部1/4		淡 橙 褐	白色粒微量、	口縁部ヨコナデ→ミガキ	混入品
58			10.3	堅 緻	やや密	口縁部ヨコナデ・体部ナデ→口縁部ミガキ	
66							
12 墳	ミニチュア 器 台	脚部完存		茶 褐	白色微粒少量	ナデ	混入品
59					やや堅緻	ナデ	
66			4.2				
12 墳	甕	底部1/2		茶 褐	白色粒少量、	体部タタキ(右上がりラセン状)、底部輪状(中 央に木葉痕)	混入品
60				堅 緻	密	ハケメ	
66			4.7				
12 墳	甕	底部1/3		赤 褐	白色微粒少量	ハケメ、底部輪状	混入品
61				やや堅緻	やや密	ナデ	
66			3.8				
12 墳	台 付 甕	接合部完存		茶 褐	白色粒・石英	ハケメ	混入品
62				やや堅緻	粒少量、やや	体部ハケメ、脚部ハケメ	
66					密		
12 墳	壺	口縁部1/3		橙 褐	~2mm白色粒	体部ナデ→口縁部ヨコナデ	混入品
63			14.3	堅 緻	少量、やや密	体部ナデ→口縁部ヨコナデ	
66							
12 墳	甕	口縁部1/4		淡 橙 褐	白色微粒少量	口縁部ヨコナデ→櫛描波状文(右→左)	器面摩滅 混入品
64			16.6	やや軟質	、石英粒少量	口縁部ヨコナデ・体部ナデ	
66					、やや密		
12 墳	台 付 甕	脚接合部完存		黒 灰	白色微粒少量	ナデ・端部ヨコナデ	外面スス附着 混入品
65				淡 黄 褐		ナデ・端部ヨコナデ	
66			7.2	やや軟質			
12 墳	台 付 甕	脚部完存		橙 褐	白色粒・石英	ハケメ→端部ヨコナデ	外面スス附着 混入品
66				やや堅緻	粒少量、密	ハケメ→端部ヨコナデ	
66			9.3				
12 墳	甕	口縁部1/4		茶 褐	白色微粒少量	体部ハケメ→口縁部ヨコナデ	台付甕の可能性有 り外面若干スス付 着混入品
67			15.8	堅 緻	、密	体部ハケメ→口縁部ヨコナデ	
66							
土	器 台	器受部完		橙 褐	赤褐色粒混入	端部ヨコナデ	全体に摩滅  1069土
68			9.5	やや良			
66							
土	小形丸底埴	口縁部2/3		灰	砂粒、小石		摩滅著しい  1490土
69			14.4	不 良	混入		
66							
土	甕	口縁部1/3		橙 褐	白色粒混入	端部ヨコナデ、頸部以下ハケメ	口縁端スス  1614土
70			11.4	良		ナデ、頸部内面ケズリ	
66							

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点 土器 図			器高	色調		外面	
			口径	焼成		内面	
			底径				
71 66	台付甕	図化部完		橙褐 やや良	赤褐色粒混入	ハケメ 指オサエ、ハケメ	1554土
72 66	台付甕	図化部完		淡褐 やや不良	白色粒混入		全体に摩滅 1243土
73 66	壺	口縁部1/3	16.6	橙褐 やや良	白色粒、赤褐色粒混入	ナデ	全体に摩滅
74 66	壺	口縁部1/4	12.8	橙褐 良	白色粒、赤褐色粒混入		全体に摩滅
75 66	S字甕	口縁部1/10	15.8	暗褐 良	白色粒混入	ヨコナデ	
76 66	甕	口縁部1/3	14.9	暗橙褐 良	白色粒混入	口縁ヨコナデ、胴部ナデ 胴部工具ナデ	
77 66	高坏	図化部完		橙褐 良	白色粒混入	縦のミガキ 横のケズリ	
78 66	台付甕	脚部完	7.9	橙褐 良	白色粒混入	斜の格子状ハケメ 脚部内ナデ、胴部内板ナデ、端部折り返し	
11 79 67	須恵器 蓋	完形	4.7 13.1	淡青灰	砂粒少量、密	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ ロクロナデ→天井部ナデ	No.42
11 80 67	須恵器 坏	口縁部～体部 1/2	5.0 11.2	淡青灰 堅緻	砂粒少量、密	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ ロクロナデ→見込みナデ	受部径13.1cm
11 81 67	須恵器 小形甕	ほぼ完形	13.8 10.6	暗青灰 堅緻	白色微粒少量、密	ロクロナデ→体部下半ナデ、頸部櫛描波状文 ロクロナデ→底部突き	最大径14.1cm No.58
11 82 67	須恵器 小形甕	口縁部1/3 体部1/2	9.4	淡青灰 堅緻	砂粒少量、密	口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→底部タタキ(平行)、沈線文・櫛描波状文 口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→底部突き	No.13
11 83 67	須恵器 大形甕	ほぼ完形		青黒 堅緻	微砂少量、密	口頸部ロクロナデ→櫛描波状文、体部ロクロナデ→体部下半～底部ナデ 口頸部ロクロナデ、体部ロクロナデ→底部突き	最大径17.2cm No.23・34～36・38・44・86
11 84 67	須恵器 甕	口縁部1/3	18.8	暗灰 軟質	微砂少量、密	体部タタキ→口縁部ロクロナデ 当具痕ナデ消し→口縁部ロクロナデ	No.7
11 85 67	須恵器 甕	ほぼ完形	44.6 24.4	暗灰 堅緻	白色粒少量、密	体部タタキ成形(密な平行叩き目文)→口縁部ロクロナデ→体部カキメ 体部タタキ成形(円心円当具痕)→口縁部ロクロナデ→当具痕ナデ消し	最大径49.0cm



番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点 土器 図			器高	色調 焼成		外面	
			口径			内面	
			底径				
11 墳 86 67	手捏ね 坏	口縁部1/2 底部完存	4.1	橙 褐 堅 緻	白色・石英微 粒少量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			4.7			ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.6				
11 墳 87 67	手捏ね 坏	口縁部1/4 底部1/2	4.1	橙 褐 堅 緻	赤色・石英微 粒少量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			5.9			ナデ→口縁部ヨコナデ	
			4.2				
11 墳 88 67	手捏ね 坏	口縁部1/12 底部完存	3.6	暗 褐 堅 緻	白色・黒灰色 ・石英微粒少 量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			4.0			ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.5				
11 墳 89 67	手捏ね 坏	口縁部2/3 底部完存	3.4	茶 褐 堅 緻	白色・石英微 粒少量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			6.0			板ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.9				
11 墳 90 67	手捏ね 坏	口縁部1/12 底部完存	3.3	茶 褐 堅 緻	白色・赤色・ 石英粒少量、 密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			5.8			ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.8				
11 墳 91 67	手捏ね 坏	底部完存		茶 褐 暗 褐 堅 緻	白色・石英粒 少量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			5.2			板ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.9				
11 墳 92 67	手捏ね 坏	口縁部1/16 底部完存	4.2	茶 褐 堅 緻	白色・黒灰色 ・石英微粒量 、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			5.5			ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.6				
11 墳 93 67	手捏ね 壺 ?	底部1/2		暗 褐 堅 緻	白色・赤色粒 少量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			4.6			ナデ→口縁部ヨコナデ	
11 墳 94 67	手捏ね 壺	底部完存		橙 褐 堅 緻	白色・石英粒 少量、密	ナデ→口縁部ヨコナデ	
			3.0			ナデ→口縁部ヨコナデ	
11 墳 95 68	坏 B 2	口縁部1/2	4.7	赤 褐 橙 褐 堅 緻	～1mmの白色 粒少量～0.5 mmの赤色粒微 量、密	口縁部ヨコナデ・底部ヘラケズリ	内外摩滅 No.41
			12.0			口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ	
11 墳 96 68	坏 B 1	口縁部1/4		茶 褐 堅 緻	白色微粒微量 ～0.5mmの赤 色粒微量、密	口縁部ヨコナデ→体部～底部ナデ	No.39
			14.6			口縁部ヨコナデ→全面ナデ	
11 墳 97 68	坏 A 1	完形	4.0	赤 褐 堅 緻	～0.5mmの白 色粒・赤色粒 少量、密	口縁部ヨコナデ→体部～底部ヘラケズリ→ミガキ	内外摩滅 No.44
			12.4			口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ→ミガキ	
11 墳 98 68	坏 A 1	完形	6.6	茶 褐 堅 緻	～2mmの白色 粒少量、～0.5 mmの赤色粒少 量、密	口縁部ヨコナデ→体部～底部ヘラケズリ	No.45
			15.6			体部～底部ナデ→口縁部ヨコナデ→ミガキ	
11 墳 99 68	坏 A 2	口縁部1/8		暗 褐 堅 緻	～1mmの白色 粒少量～0.5 mmの赤色粒少 量、密	口縁部ヨコナデ・体部ナデ→底部ヘラケズリ	内外若干摩滅 A群
			12.1			口縁部ヨコナデ・体部ナデ	
11 墳 100 68	高坏 A	口縁部3/4		橙 褐 堅 緻	白色・赤色微 粒少量、密	口縁部ヨコナデ→体部～底部ヘラケズリ・ナデ→ミガキ	No.12・18・35、 D区
			18.1			ハケメ→口縁部ヨコナデ→ミガキ	

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点			器高	色調		外面	
土器			口径	焼成		内面	
図			底径				
11 墳	高 坏 A	口縁部1/3	19.0	茶 褐	白色・赤色微 粒少量、密	口縁部ヨコナデ→体部～底部ナデ→ミガキ	No.25・34・39
101 68				堅 緻		ハケメ→口縁部ヨコナデ→ミガキ	
11 墳	高 坏 A	口縁部1/3	16.4	茶 褐	白色・赤色微 粒微量、密	ハケメ→口縁部ヨコナデ→ミガキ	内外やや摩耗
102 68				やや堅緻		ハケメ→口縁部ヨコナデ→ミガキ	
11 墳	高 坏 A	口縁部完存	20.6	茶 褐	白色・赤色微 粒少量、密	口縁部ヨコナデ・体部ナデ・体部ナデ→ミガキ	No.41, D区
103 68				堅 緻		ハケメ→口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ	
11 墳	高 坏 A 1	坏部3/4 脚柱部1/3	18.0	茶 褐	白色微粒・～ 1mm赤色微粒 少量、密	坏部：口縁部ヨコナデ→体部～底部ヘラケズリ →ミガキ 脚部：ナデ→ミガキ	No.10
104 68				堅 緻		坏部：ハケメ→口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：ヘラケズリ	
11 墳	高 坏 A	口縁部3/4	15.1	橙 褐	白色微粒微量 、赤色微粒少 量、密	口縁部ヨコナデ→体部～底部ヘラケズリ→ナデ →ミガキ	内外やや摩滅
105 68				堅 緻		口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ	
11 墳	高 坏 A 1	坏部3/5 脚部1/3	12.5	橙 褐	～2mm白色粒 ・赤色微粒微 量、密	坏部：口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ→ミガ キ 脚部：端部ヨコナデ・ナデ→ミガキ	No.13・14・16・17・ 19、D区 A-M
106 68			17.4	堅 緻		坏部：口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ→ミガ キ 脚部：柱部ヘラケズリ→端部ヨコナデ	
			14.9				
11 墳	高 坏 A 1	ほぼ完形	11.4	橙 褐	白色微粒微量 、赤色微粒少 量、密	坏部：ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ	A群No.51周辺
107 68			16.3	堅 緻		坏部：ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			13.5				
11 墳	高 坏 A 1	坏部完存 脚部1/2	12.2	淡 橙 褐 ～ 黄 褐	～0.5mm赤色 粒少量、密	坏部：口縁部ナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ →ミガキ 脚部：ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ	No.13、A-D、E 区A群
108 68			15.8	やや堅緻		坏部：ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			12.2				
11 墳	高 坏 A 1	坏部完存 脚端部1/2	11.1	橙 褐	～1.5mmの白 色粒少量、～ 0.5mmの赤 色粒多量、密	坏部：ナデ・口縁部ヨコナデ・底部ヘラケズリ →ミガキ 脚部：ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ	A-B、A-C、 A-J
109 68			16.4	やや堅緻		坏部：口縁部ヨコナデ→全面ナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			12.3				
11 墳	高 坏 A 1	坏口縁部1/2 脚部完存	11.3	橙 褐	～1mmの赤色 粒少量、密	坏部：口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ 脚部：裾部ヨコナデ→ミガキ	内外やや摩滅
110 68			15.3	黒		坏部：口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			12.6	堅 緻			
11 墳	高 坏 A 1	ほぼ完形	11.5	淡 橙 褐	白色微粒少量 、赤色微粒多 量、密	坏部：口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ→ミガ キ 脚部：裾部ヨコナデ→ミガキ	
111 68			18.5	やや堅緻		坏部：口縁部ヨコナデ→ナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			14.6				
11 墳	高 坏 A 1	坏部4/5 脚柱部完存	15.8	橙 褐	白色微粒微量 、赤色微粒少 量、密	坏部：口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ→ミガ キ 脚部：ナデ→ミガキ	A-B、D区、E 区
112 68				堅 緻		坏部：ナデ・ヨコナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
11 墳	高 坏 A 1	坏底部1/2 脚部完存	14.6	橙 褐	～1mmの白 色粒少量、～ 1mmの赤色粒 微量、密	坏部：ナデ→ミガキ 脚部：ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ	No.20・21・25・35・ 44
113 68				やや堅緻		坏部：ナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ・裾部ヨコナデ→ミガキ	
11 墳	高 坏 C 1	坏部完存 脚部1/3	14.0	橙 褐	～1mmの赤色 粒少量、密	坏部：ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ	No.38、A区、A群、 M区、E区
114 69			18.0	堅 緻		坏部：ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			12.9				
11 墳	高 坏 B 2	坏口縁部4/5 脚部完存	13.3	橙 褐	～1.5mmの白 色粒少量、～ 3mmの赤色粒 少量、密	坏部：口縁部ヨコナデ・底部ナデ→ミガキ 脚部：ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ	摩滅著しい
115 69			18.4	やや軟質		坏部：口縁部ヨコナデ→ミガキ 脚部：柱部ヘラケズリ→裾部ヨコナデ	
			13.1				

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点 土器 図			器高	色調		外面	
			口径	焼成		内面	
			底径				
11 116 69	高 坏	坏底部完存 脚柱部1/2		淡橙褐 堅緻	～1mmの赤色 粒少量、密	坏部：ハケメ→ミガキ 脚部：ミガキ 脚部：柱部へラケズリ	内外やや摩滅 A群、No.13
11 117 69	高 坏	脚部1/2		淡黄褐 堅緻	赤色微粒微量 、密	裾部ヨコナデ→ミガキ 裾部ハケメ・柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	E区
11 118 69	高 坏	脚部1/2		橙黒褐 堅緻	～1mmの白色 ・赤色粒多量 、密	裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	外面摩滅著しい No.22・27
11 119 69	高 坏	脚部3/4		橙褐 堅緻	～0.5mmの白 色粒少量、密	ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	No.40・43、E区
11 120 69	高 坏	脚部ほぼ完存		淡橙褐 堅緻	白色・赤色微 粒少量、密	ハケメ・裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	若干摩滅 No.8、D区
11 121 69	高 坏	脚部ほぼ完存		暗橙褐 堅緻	～1mmの白色 粒少量、密	ハケメ→裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	No.39
11 122 69	高 坏	脚部1/2		茶橙褐 堅緻	白色・赤色微 粒少量、密	裾部ヨコナデ→ミガキ 裾部ハケメ・柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	やや摩滅 No.24、D区
11 123 69	高 坏	坏底部完存 脚裾部1/2		淡橙褐 堅緻	緻密	坏部：ミガキ 脚部：裾部ヨコナデ→ミガキ 坏部：ミガキ 脚部：ハケメ・柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	No.14、D区、E区 A-I
11 124 69	高 坏	脚部ほぼ完存		淡橙褐 堅緻	白色微粒微量 、赤色微粒微 量、密	裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	やや摩滅 No.13 A-I、A-D
11 125 69	高 坏	坏底部完存 脚部2/3		橙褐 堅緻	～0.5mm白色 粒少量、密	坏部：ハケメ→ミガキ 坏部：ハケメ→ミガキ 脚部：柱部へラケズリ・裾部ハケメ→ヨコナデ	No.10、A-D、D 区
11 126 69	高 坏	脚柱部2/3		橙褐 堅緻	～0.5mm白色 粒少量、密	ハケメ→裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	No.37、D区
11 127 69	高 坏	脚部2/5		橙褐 堅緻	～1.5mm白色 粒少量	ナデ・裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	No.15・16、D区
11 128 69	高 坏	脚部3/4		橙褐 堅緻	白色微粒少量 、密	ハケメ→裾部ヨコナデ→ミガキ 柱部へラケズリ→裾部ヨコナデ	D区
11 129 69	埴 A	ほぼ完形	13.5 9.3	明橙褐 堅緻	白色微粒少量 ～0.5mm赤色 粒多量、密	口縁部：ヨコナデ→ミガキ 体部・底部：へラケズリ→ミガキ 口縁部：ヨコナデ→ミガキ 体部・底部：ナデ	外面やや摩滅 最大径14.8cm E区J、A-I、 A-P
11 130 69	埴 A	口縁部1/3 体部ほぼ完存	13.4 3.7	橙褐 堅緻	白色微粒・赤 色微粒少量、 密	口縁部：ヨコナデ→ミガキ 体部・底部：へラケズリ→ミガキ 口縁部：ヨコナデ→ミガキ 体部・底部：ナデ	最大径14.7cm No.50・60、A群- N

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点			器高	色調		外面	
土器			口径	焼成		内面	
図			底径				
11 墳	壺 A	口縁部2/3	13.2	淡橙褐	白色微粒少量 ～1mm石英粒 少量、赤色微 粒微量、やや粗	口縁部ヨコナデ	内外摩滅著しい  D区
131				淡黄褐		口縁部ヨコナデ・体部ナデ	
69				やや軟質			
11 墳	甕 A	口縁部1/4	10.5	黄褐	0.5mmの赤 色粒・白色粒 少量、やや密	口縁部ヨコナデ	内外摩滅  B区
132				赤褐		口縁部ヨコナデ・体部ナデ	
69				やや軟質			
11 墳	甕	口縁部1/3 底部完存	8.7	橙褐	～1mm白色粒 少量、やや粗	体部ナデ→口縁部ヨコナデ	周
133			8.4	やや堅緻		体部ナデ→口縁部ヨコナデ	
69			4.2				
11 墳	甕 B	完形	9.2	褐～黄褐	～1.5mm白色 粒多量、粗	口縁部ヨコナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ	内外摩滅 最大径10.9cm No.42
134			10.3	やや堅緻		口縁部ヨコナデ・体部板ナデ	
69							
11 墳	甕	底部完存		茶褐	～2.5mm白色 粒多量、粗	体部ナデ	内外摩滅
135				軟質		体部ナデ	
69			7.0				
12 墳	坏 B 1	口縁部1/4 底部完存	7.2	淡橙褐	～1mm白色粒 ・石英粒多量 、粗	ナデ→口縁部ヨコナデ	No.6
136			11.9	やや軟質		板ナデ→口縁部ヨコナデ	
70							
12 墳	坏 B 1	口縁部2/3 底部完存	4.5	淡橙褐	白色粒少量、 密	口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラケズリ→ミガキ	No.5・12
137			12.0	堅緻		ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ	
70							
12 墳	坏 B 1	ほぼ完形	4.5	橙褐	～0.5mm白色 粒少量、密	口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラケズリ→ミガキ	No.15
138			12.2	堅緻		ナデ・口縁部ヨコナデ→ミガキ	
70							
12 墳	坏	口縁部3/4 底部完存	5.7	橙褐	～1.5mm白色 粒少量、密	口縁部ヨコナデ・体部ナデ→底部ヘラケズリ→ ミガキ→口縁部ヘラケズリ→ミガキ	No.3・4
139			13.2	堅緻		口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ(粗い)	
70							
12 墳	坏 A 1	口縁部1/2 底部完存	7.7	橙褐	～1mm白色粒 少量、やや密	口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ	No.1
140			13.2	堅緻		口縁部ヨコナデ・体部ナデ→ミガキ	
70							
12 墳	坏 A 1	口縁部1/4		橙褐	～1mm白色粒 少量、赤色微 粒微量、密	口縁部ナデ・体部ナデ→ミガキ	
141			16.0	堅緻		口縁部ナデ・体部ナデ→ミガキ	
70							
12 墳	坏	底部3/4		橙褐	～0.5mm白色 ・赤色粒少量 、密	底部ヘラケズリ→ミガキ	C区
142				堅緻		ハケメ→ミガキ	
70							
12 墳	高坏	接合部完存		橙褐	白色・赤色微 粒少量、密	坏部：ミガキ 脚部：ミガキ	No.4
143				堅緻		坏部：ミガキ 脚部：ナデ・ヘラケズリ	
70							
12 墳	埴 B	完形	11.4	橙褐	～1.5mm白色 粒少量、密	口縁部ヨコナデ・体部ナデ・底部ヘラケズリ→ ミガキ	最大径11.9cm  No.2
144			8.8	堅緻		口縁部ヨコナデ・体部板ナデ→口縁部ミガキ	
70							
12 墳	壺 A	口縁部2/3		橙褐	白色粒多量、 やや密	口縁部ヨコナデ→ミガキ	
145			13.9	やや堅緻		口縁部ヨコナデ→ミガキ	
70							

番号	器種	残存度	法量	色調焼成	胎土	調整	備考
地点 土器 図			器高	色調 焼成		外面	
			口径			内面	
			底径				
12 墳 146 70	壺 A	完形	11.3	橙 褐	～1mmの白色 粒多量、やや 粗	体部2段成形、口縁部ヨコナデ・体部ナデ・底 部ヘラケズリ→ミガキ	No.1
11.0	堅 緻	口縁部ヨコナデ・体部板ナデ→口縁部ミガキ					
5.3							
12 墳 147 70	壺 B	口縁部1/4 底部1/4	17.2	黄 褐	～2mmの白色 粒・赤色粒多 量、粗	体部ハケメ→口縁部ヨコナデ	No.3・4
12.2	やや軟質	体部ナデ・板ナデ→口縁部ヨコナデ					
4.3							
12 墳 148 70	甕 B	体部完存	10.0	黄 褐	白色粒多量 粗	口縁部ヨコナデ・体部ハケメ・底部ヘラケズリ →体部～底部ナデ	外面スス付着
12.3	やや軟質	口縁部ヨコナデ・体部板ナデ				No.9	
8 墳 149 70	須恵器 提 瓶	頸部以下ほぼ 完形		黄 灰	微砂少量、密	口頸部：ロクロナデ→沈線施文 体部：ロクロナデ・ナデ、沈線施文	把手なし 体部直径16cm 厚さ13.4cm
				堅 緻		口縁部：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	
8 墳 150 70	須恵器 提 瓶	頸部完形 体部1/2		暗灰～灰	微砂少量、密	口頸部：ロクロナデ→沈線施文 体部：ロクロナデ・ナデ	把手の有無不明 体部直径推定 13.3cm
				堅 緻		口縁部：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	
8 墳 151 70	須恵器 提 瓶	頸部・体部 上半		暗 灰	白色粒混入密	口頸部：ロクロナデ→沈線 体部：ロクロナデ	
				堅 緻		口縁部：ロクロナデ 体部：ロクロナデ	
8 墳 152 70	須恵器 壺	底部完存		暗 灰	砂粒少量、密	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	短頸壺ないし直口 壺か
				堅 緻		ロクロナデ	
8 墳 153 70	須恵器 甕	口縁部1/4	41.7	灰	～4mmの白色 粒混入、密	ロクロナデ→沈線、斜の短沈線	
				堅 緻		ロクロナデ	
8 墳 154 71	須恵器 蓋 B	口縁部1/8	10.8	灰	白色微粒微量 、密	ロクロナデ→天井回転ヘラケズリ	
				不 良 軟 質		ロクロナデ	
8 墳 155 71	須恵器 坏 A	口縁部1/4 底部1/2	3.5 10.3	淡青灰	～1mm白色砂 粒少量、密	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ	底部外面ヘラ記号 有り(「-」か)
				やや甘い 堅 緻		ロクロナデ	
8 墳 156 71	須恵器 坏 B	口縁部1/3	12.9	灰	砂粒少量	ロクロナデ→底部ヘラキリ	
				不良軟質		ロクロナデ	
8 墳 157 71	須恵器 坏 B・C	口縁部1/6	11.2	青灰～褐 還元不足 やや堅緻	白色微粒少量 、密	ロクロナデ	
						ロクロナデ	
8 墳 158 71	須恵器 平 瓶	体部1/4	7.4	灰	密	ロクロナデ→体部下半～底部回転ヘラケズリ	
				堅 緻		ロクロナデ	
8 墳 159 71	須恵器 坏 高	脚部ほぼ完形	8.4	明 灰	密	坏部：ロクロナデ→沈線施文 脚部：ロクロナデ→沈線施文→スカシ	無蓋高坏スカシ 長方形2段2単位
				堅 緻		坏部：ロクロナデ 脚部：ロクロナデ	
8 墳 160 71	須恵器 甕	口縁部1/4	36.4	灰	～4mmの白色 粒混入、密	口頸部：ロクロナデ→沈線、斜の短沈線 体部：タタキ	
				堅 緻		口頸部：ロクロナデ→カキメ 体部：同心円文あて具痕	

第9表 石器一覧表

石鏃

No.	図No.	分類	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	破損状況	備考
1	1	不明・不明	51住北東	(2.00)	(1.31)	0.42	(0.95)	黒曜石	脚部欠	
2	2	凹基・無茎	51住北東	1.73	1.21	0.32	0.50	チャート	完形	
3	3	凹基・無茎	56住No.5	(1.54)	(1.36)	0.26	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
4	4	凹基・無茎	56住No.5	1.75	1.62	0.30	0.50	黒曜石	完形	
5	5	凹基・無茎	56住	1.41	1.57	0.29	0.40	黒曜石	完形	
6	6	凹基・無茎	56住	(3.14)	1.21	0.74	(1.95)	黒曜石	斜めに半欠	未成品?
7	7	凹基・無茎	土坑1202	1.38	1.36	0.35	0.45	黒曜石	完形	
8	8	凹基・無茎	土坑1383	(1.46)	(1.47)	0.32	0.45	黒曜石	片脚端欠	
9	9	凹基・無茎	土坑1415	2.09	1.44	0.42	0.65	黒曜石	完形	
10	10	凹基・無茎	土坑1421	3.41	1.83	0.48	2.00	チャート	完形	
11	11	凹基・無茎	土坑1548	2.40	1.63	0.44	1.35	黒曜石	完形	
12	12	凹基・無茎	土坑1868	(1.77)	(1.40)	0.48	(0.70)	黒曜石	片脚欠	
13	13	凹基・無茎	土坑1869	(2.28)	(1.58)	0.41	(1.05)	黒曜石	片脚欠	
14	14	凹基・無茎	ヒットA	1.66	(0.91)	0.29	(0.35)	黒曜石	片脚端欠	
15	15	凹基・無茎	11号墳周溝D	1.75	(1.31)	0.57	(0.95)	チャート	片脚欠	
16	16	不明・不明	11号墳周溝南	(2.82)	(1.61)	(0.50)	(3.10)	チャート	脚部欠	
17	17	不明・不明	12号墳周溝	2.27	1.34	0.38	0.75	チャート	完形	未成品?
18	18	不明・不明	検出面	(2.04)	(1.16)	0.39	(0.55)	黒曜石	片脚欠	
19	19	不明・不明	検出面(17区)	(2.06)	(1.34)	0.34	(0.75)	黒曜石	先端下部欠	
20	20	平基・無茎	検出面(17区)	(1.65)	(1.66)	0.45	(1.30)	黒曜石	上部欠	
21	21	凹基・無茎	検出面	(1.55)	1.41	0.24	(0.70)	チャート	上部・両脚端欠	
22	22	凹基・無茎	検出面	2.10	(1.48)	0.39	(0.95)	黒曜石	片脚端欠	
23	23	凹基・無茎	検出面(18区)	1.92	(1.35)	0.33	(0.55)	黒曜石	片脚欠	
24	24	平基・無茎	検出面	2.20	1.22	0.56	0.13	黒曜石		
25	25	凹基・無茎	土坑1418	4.47	3.42	0.93	13.85	チャート		未成品
26	26	平基・無茎	土坑1804	4.11	2.87	0.91	11.05	チャート		未成品
27	27	平基・無茎	土坑1869	2.12	1.96	0.50	2.20	黒曜石		未成品
28	28	平基・無茎	11号墳周溝F	2.40	2.56	1.00	8.05	チャート		未成品
29	29	不明・不明	検出面	3.44	2.09	0.54	2.95	黒曜石		未成品

石鏃

No.	図No.	分類	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	破損状況	備考
1	30	つまみ	56住	(2.22)	(1.99)	0.98	(3.80)	黒曜石	鏃部欠	
2	31	棒状	土坑	3.13	0.90	0.62	1.85	チャート	完形	両面加工・断面はレンズ状
3	32	つまみ	8号墳主体部	3.89	2.08	0.64	3.30	黒曜石	完形	両面加工・断面は三角形・鏃部幅0.56cm
4	33	つまみ	不明	2.46	1.06	0.48	1.45	黒曜石	完形	両面加工・断面は三角形・鏃部摩耗

打製石斧

No.	図No.	分類	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	破損状況	備考
1	59	短冊・円刃	52住	(10.12)	4.28	1.84	(114.05)	硬砂岩	頭部欠	側縁つぶれ
2		短冊・不明	56住北東	(8.75)	(3.98)	(2.00)	(82.40)	輝緑凝灰岩	刃部欠	片側縁つぶれ
3		不明・不明	56住北東	(8.97)	(4.02)	(1.62)	(49.60)	緑色凝灰岩	胴～刃部欠	片側縁つぶれ
4		不明・円刃	56住北東	(5.42)	(4.23)	(11.10)	(33.30)	雲母片岩	頭～胴部欠	
5		撥・偏刃	56住北東	9.07	4.46	0.97	48.10	砂岩	完形	未成品?
6	60	撥・円刃?	56住北東	10.69	6.30	1.80	128.75	硬砂岩		未成品
7		撥・不明	56住北西	(8.17)	(5.00)	(0.98)	(69.05)	千枚岩	胴～刃部欠	
8	61	撥・円刃	56住北西	8.71	3.53	1.19	52.45	ホルンフェルス	完形	風化が激しい
9		不明・円刃?	56住北西	(7.75)	4.68	1.85	(94.30)	硬砂岩	頭～胴部・刃端欠	

No.	図 No.	分 類	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	破 損 状 況	備 考
10		撥・不明	56住北西	(10.70)	4.77	1.33	(87.10)	硬砂岩	頭端・刃部欠	刃部摩耗
11		撥・不明	56住北西	(8.55)	(4.80)	(1.01)	(36.25)	砂岩	胴～刃部欠	
12	62	撥・円刃	56住南西	(8.61)	4.26	1.61	(69.45)	硬砂岩	頭部欠	片側縁つぶれ、刃部摩耗
13		撥・偏刃	56住南西	8.85	4.42	1.15	51.53	硬砂岩	完形	
14		不明・不明	58住	(9.49)	(3.09)	(1.66)	(51.25)	ヒン岩	一部残	
15	63	短冊・円刃	63住No.2	14.36	5.03	1.94	196.45	緑色凝灰岩	完形	片側縁つぶれ
16		不明・偏刃	65住南東	(6.56)	(4.81)	(1.87)	(70.40)	硬砂岩	頭～胴部欠	
17		不明・円刃	土坑1066	(5.32)	(3.53)	(1.08)	(21.05)	千枚岩	頭～胴部欠	
18	64	撥・円刃	土坑1194	(8.31)	5.98	1.55	(96.75)	チャート	頭部欠	片側縁つぶれ、刃部摩耗
19	65	撥・円刃	土坑1194	9.83	5.88	1.68	117.50	硬砂岩	完形	片側縁つぶれ
20	66	撥・偏刃	土坑1194	(8.95)	4.62	1.57	(79.40)	ヒン岩	頭部欠	片側縁つぶれ、刃部摩耗
21		不明・不明	土坑1202	(7.00)	(5.07)	(1.31)	(67.40)	石墨千枚岩	頭～胴・刃端部欠	刃部摩耗
22	67	撥・円刃	土坑1207	14.09	8.01	3.20	372	砂岩	完形	側縁つぶれ、刃部摩耗
23	68	撥・不明	土坑1259	(9.28)	(5.75)	(1.66)	(109.30)	ホルンフェルス	胴～刃部欠	
24		撥・不明	土坑1264	(8.71)	(4.52)	(1.86)	(85.50)	安山岩	胴～刃部欠	片側縁つぶれ
25	69	短冊・偏刃	土坑1275	9.43	4.32	1.71	91.25	砂岩	完形	刃部・腹面の頭部摩耗
26		撥・不明	土坑1324	(5.94)	(4.32)	(1.06)	(31.90)	緑泥片岩	胴～刃部欠	
27	70	撥・円刃	土坑1383	(9.85)	4.77	1.10	(66.25)	硬砂岩	頭部端欠	
28	71	撥・円刃	土坑1383	(8.91)	3.75	1.44	(64.35)	千枚岩	頭部端欠	側縁つぶれ、風化が激しい
29	72	撥・円刃	土坑1383	(9.00)	4.18	1.17	(53.80)	ヒン岩	刃端部欠	頭、胴、刃部摩耗
30	73	短冊・偏刃	土坑1383	10.40	4.26	1.92	124.60	ホルンフェルス	完形	片側縁つぶれ
31	74	撥・円刃	土坑1388	(9.34)	5.04	1.32	(83.10)	硬砂岩	頭部欠	側縁つぶれ、刃部摩耗
32		撥・円刃	不明	(7.44)	5.44	(1.33)	(62.50)	緑色凝灰岩	頭～胴・刃端部欠	刃部摩耗
33	75	短冊・直刃	土坑1655No.6	(11.07)	4.73	1.93	(101.00)	硬砂岩	頭部欠	刃部摩耗
34		不明・不明	土坑1689付近	(5.84)	(3.54)	(1.10)	(28.70)	ホルンフェルス	胴～刃部欠	
35	76	撥・円刃	土坑1748	(8.38)	4.33	1.40	(63.20)	硬砂岩	頭部端欠	刃部、腹面の頭部摩耗
36	77	撥・偏刃	土坑1760	7.80	4.51	1.00	58.70	硬砂岩	完形	側縁、刃部摩耗
37	78	撥・偏刃	土坑1868	(10.47)	4.97	1.47	(99.70)	緑色凝灰岩	頭部欠	片側縁つぶれ、刃部摩耗
38		不明・不明	8号墳周溝No.3	8.14	3.05	0.95	23.05	砂岩		未成品
39		短冊・円刃	8号墳北西	(9.15)	(5.07)	(2.08)	(132.15)	砂岩	頭～胴部欠	側縁つぶれ
40	79	短冊・直刃	9号墳周溝No.1	15.55	7.37	2.85	447	ホルンフェルス	完形	片側縁つぶれ、刃部摩耗
41		不明・不明	11号墳周溝B	(9.49)	(3.61)	(1.35)	(58.20)	硬砂岩	頭～刃部欠	
42	80	撥・円刃	11号墳周溝C	10.24	(4.15)	1.22	(72.85)	緑色凝灰岩	刃端部欠	刃部摩耗
43		撥・不明	11号墳周溝D	(8.39)	(3.40)	(1.10)	(35.95)	ホルンフェルス	胴～刃部欠	
44		短冊・円刃	11号墳周溝E	(7.70)	(4.20)	1.23	(54.40)	千枚岩	頭～胴部欠	
45		短冊・偏刃	11号墳周溝G	(7.24)	(4.55)	(1.30)	(47.20)	ホルンフェルス	頭～胴部欠	
46		撥・円刃	11号墳周溝	9.19	4.18	1.47	68.20	ホルンフェルス		未成品
47		撥・不明	12号周溝付近	(9.84)	(3.39)	(1.61)	(44.70)	硬砂岩	頭～刃部欠	
48	81	短冊・不明	検出面(17区)	(8.85)	(4.22)	(0.93)	(51.50)	硬砂岩	刃部欠	片面の頭部つぶれ、刃部摩耗
49		短冊・円刃	検出面(17区)	(7.31)	3.54	1.41	(50.30)	千枚岩	頭部欠	刃部摩耗

No.	図No.	分類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	破損状況	備考
50	82	撥・円刃	検出面	11.00	6.06	1.02	67.90	チャート	完形	未成品?
51		不明・不明	検出面	(8.59)	(5.44)	(1.27)	(79.10)	砂岩	胴~刃部欠	

ピエス・エスキーユ

No.	図No.	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	破損状況	備考
1	34	土坑1041	2.04	1.49	0.73	1.80	黒曜石	完形	上端つぶれ
2	35	土坑1129	1.63	1.57	0.57	1.20	黒曜石	完形	上端つぶれ
3	36	土坑1170	1.58	1.60	1.66	1.60	黒曜石	完形	上下端つぶれ
4	37	土坑1202	2.35	0.88	0.64	1.35	黒曜石	完形	
5	38	土坑1352	1.69	1.21	0.44	0.85	黒曜石	完形	
6	39	土坑1399	1.65	1.55	0.39	0.95	黒曜石	完形	
7	40	土坑1608	2.33	1.54	0.65	2.10	黒曜石	完形	
8	41	9号墳周溝B	1.58	1.25	0.43	0.85	黒曜石	完形	
9	42	12号墳周溝FG	2.01	1.59	0.94	2.70	黒曜石	完形	

石匙

No.	図No.	分類	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	破損状況	備考
1	43	不明・不明	56住南西	(3.51)	(4.52)	0.63	(14.30)	ガラス質安山岩	刃部欠	
2	44	横形・外湾	土坑1583	3.82	4.34	0.71	11.25	チャート	完形	
3	45	斜形・直	土坑1810	2.86	2.40	0.42	2.30	チャート	完形	
4	46	斜形・直	11号墳周溝D	(4.35)	2.21	0.65	(4.80)	チャート	刃部端欠	
5	47	不明・不明	11号墳周溝F	(2.65)	(4.15)	0.96	(12.50)	チャート	刃部欠	

スクレイパー

No.	図No.	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	破損状況	備考
1	48	50住	4.79	5.73	1.18	31.75	硬砂岩	完形	
2	49	52住	6.49	3.59	0.93	24.20	チャート		未成品
3	50	56住北西	3.81	7.41	0.85	24.60	ホルンフェルス	完形	
4	51	56住南西	(3.81)	(2.99)	(0.70)	(11.80)	ガラス質安山岩	片側欠	
5		56住北西	(3.67)	2.55	0.86	(5.25)	黒曜石	上端欠	
6	52	土坑1193	(3.78)	(5.92)	(0.79)	(16.70)	チャート	片側欠	未成品?
7	53	土坑1194	6.05	8.53	2.49	160.90	硬砂岩	完形	
8	54	土坑1264	(3.31)	(3.83)	0.82	(14.25)	硬砂岩	片側欠	側縁部摩耗
9	55	土坑1868西	3.76	2.81	0.82	8.75	黒曜石	完形	未成品?
10	56	8号墳周辺	(9.12)	(1.64)	(0.65)	(9.85)	ガラス質安山岩	下部欠	側縁部つぶれ
11	57	11号墳周溝F	2.38	3.18	0.55	2.95	黒曜石	完形	背部に急斜度剝離調整
12	58	11号墳周溝G	3.09	(4.38)	0.52	(7.15)	チャート	刃部端欠	
13		12号墳周溝	3.25	3.44	0.51	5.05	チャート	完形	未成品?
14		56住	(3.76)	(1.78)	(0.42)	(2.55)	チャート	下部欠	
15		11号墳	(3.37)	(4.38)	(0.66)	(9.50)	硬砂岩	片側欠	

磨製石斧

No.	図No.	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	破損状況	備考
1	83	61住	(9.12)	(5.22)	(1.85)	(148.35)	緑色凝灰岩	刃部欠	定角式
2	84	66住No.1	11.24	4.31	2.12	166.90	輝緑岩	完形	乳棒状
3	85	土坑1370	(4.31)	(2.98)	(1.06)	(18.55)	蛇紋岩	頭~胴部欠	定角式?



凹・鼓・磨石

No.	図 No.	凹 部	鼓打痕	磨面	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	破損状況	備 考
1	86			○	53住	15.35	5.96	2.67	415	安山岩	完形	
2	87			○	56住No.2	25.15	22.45	5.50	4700	安山岩	完形	
3	88			○	56住北西	(10.85)	(10.23)	(5.21)	(700)	砂岩	1/2欠	
4				○	56住北東	(6.15)	(5.90)	(1.70)	(95)	砂岩	両側欠	
5	89			○	竪10	(13.73)	(4.72)	(3.05)	(330)	硬砂岩	1/3欠	
6	90	○(1×3+2)	○	○	土坑1266No.6	9.25	5.97	4.32	315	安山岩	完形	
7	91			○	土坑1353	(7.74)	(3.65)	(4.49)	(175.08)	砂岩	1/2欠	特殊磨石
8	92			○	土坑1580	12.69	5.35	3.04	258.08	砂岩	完形	
9	93			○	土坑1655No.8	(19.65)	(9.95)	(2.67)	(730)	砂岩	1/2欠	
10	94	○(2×4)	○	○	土坑1687No.2	10.45	6.24	4.30	425	安山岩	完形	
11	95			○	土坑1743	12.62	7.58	5.96	940	安山岩	完形	
12	96			○	土坑1804	(7.81)	(3.19)	(1.55)	(37.80)	砂岩	一部残	特殊磨石
13	97			○	土坑1868	18.30	13.00	3.05	1150	砂岩	完形	
14	98			○	土坑No不明	15.95	5.60	3.70	340	砂岩	完形	
15	99		○	○	8号墳No.8	(9.10)	(5.25)	(5.35)	(264.05)	砂岩	1/2欠	特殊磨石
16	100		○	○	8号墳周溝	(11.15)	(5.40)	(7.45)	(490)	砂岩	1/2欠	特殊磨石
17	101		○	○	11号墳周溝No43	12.30	6.45	5.25	420	砂岩	完形	
18	102			○	11号墳周溝G	(9.50)	(4.30)	(5.30)	(235.04)	砂岩	2/3欠	特殊磨石
19	103		○	○	11号墳	(9.70)	(6.20)	(4.80)	(450)	安山岩	1/2欠	
20				○	11号墳	(7.20)	(7.70)	(4.82)	(375)	緑色凝灰岩	1/2欠	
21	104	○(1×2)	○	○	11号墳周溝A	(9.25)	8.40	(3.80)	(365)	砂岩	1/2欠	
22	105		○	○	11号墳周溝東	(9.05)	(6.50)	(3.80)	(250.06)	安山岩	1/2欠	
23				○	11号墳周溝東	(16.35)	4.60	3.95	(340)	硬砂岩	先端欠	
24	106			○	11号墳周溝	(10.60)	(5.00)	(5.10)	(430)	砂岩	1/2欠	特殊磨石
25	107	○(1)	○	○	11・12号墳排土	(14.70)	(5.65)	(5.60)	(615)	石英閃緑岩	1/3欠	特殊磨石
26	108			○	12号周溝G	8.95	6.20	2.90	163.06	砂岩	完形	
27	109			○	12号周溝	(7.35)	(6.15)	(6.30)	(325)	安山岩	一部残	
28	110			○	不明	20.05	8.40	5.25	1350	砂岩	完形	

砥石 (縄文)

No.	図 No.	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	破損状況	備 考
1	111	56住南西	(15.80)	(12.20)	2.25	570	砂岩	2/5欠	砥面1
2		56住北西	(5.49)	(3.82)	(1.32)	(21.45)	凝灰質粘土岩	一部残	(砥面2)
3		9号墳周溝B	(6.81)	(6.72)	(1.03)	(51.70)	硬砂岩	一部残	(砥面1)
4	112	9号墳周溝	10.65	5.95	1.81	166.03	砂岩	完形	砥面2

砥石 (古墳)

No.	図 No.	出土地点	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石 質	破損状況	備 考
1	113	51住No.5	28.70	10.35	5.95	2600	硬砂岩	完形	砥面3、置砥石
2	114	51住No.5	24.15	9.35	9.10	3550	硬砂岩	完形	砥面2、置砥石
3	115	67住	(6.92)	3.18	2.79	(75.33)	凝灰岩	上部欠	(砥面5)
4	116	土坑1345	(6.90)	3.76	(3.63)	135	凝灰岩	上部欠	(砥面5)
5	117	排土中	(7.44)	2.96	(2.23)	(74.80)	凝灰岩	上部欠	(砥面5)

第10表 金属製品一覧表

第11号古墳

No.	図No.	出土	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存状況	備考
1	1	周溝 No.9	鉄鎌	3.63	6.12	0.28	8.0	完形	重挟・1孔
2	2	周溝 No.26	刀子	(13.53)	2.21	0.47	(27.3)	刃端欠	
3	3	周溝 No.33	刀子	(10.50)	1.70	0.36	(10.6)	刃端欠	
4	4	周溝 No.33	鎌	(14.34)	0.93	0.53	(15.4)	頸~基部	
5	5	周溝(E区)	鎌	10.64	0.96	0.82	9.4	完形	
6	6	周溝(E区)	鎌	(5.82)	(0.46)	(0.45)	(2.3)	基部	
7	7	周溝(E区)	鎌	(4.43)	(0.44)	(0.40)	(1.4)	基部	
8		周溝	不明						破片 13点

第8号古墳

No.	図No.	出土	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存状況	備考
9	8	No.1	鐙	7.35	6.06	0.32	27.9	完形	六角窓倒卵形
10		No.1	鉄鎌	(2.44)	(0.64)	(0.72)	(1.7)	頸部	
11	9	No.1	刀子?	(4.10)	(1.52)	(0.45)	(3.1)	刃部	
12	10	No.4	鎌	(2.38)	(0.88)	(0.46)	(1.6)	基部	他に基部破片15点
13	11	No.4	不明	(2.14)	(0.99)	(0.98)	(2.1)	端部欠	黒褐色の物質付着
14	12	No.5	鞍	(8.12)	(4.92)	(4.80)	(33.5)		
15	13	No.6	鞍	(6.97)	(5.11)	(0.82)	(43.9)		66と同一個体
16	14	No.7	鎌	(4.05)	(0.86)	(0.65)	(3.4)	頸部	
17	15	No.7	鎌	(4.73)	(0.67)	(0.44)	(2.2)	基部	
18		No.7	鎌	(1.52)	(0.71)	(0.38)	(0.7)	頸部	
19		No.7	鎌	(2.83)	(0.40)	(0.41)	(0.6)	基部端	
20	16	No.8	鎌(I)	(12.12)	(1.36)	(0.59)	(10.1)	基部欠	
21	17	No.8	鎌(I)	(9.14)	(1.39)	(0.54)	(6.5)	基部欠	
22	18	No.8	鎌(II)	(5.48)	(3.08)	(0.63)	(11.0)	両脚欠	無茎鎌
23	19	No.8	鎌	(7.17)	(1.04)	(0.72)	(6.2)	頸部	
24	20	No.8	鎌(I)	(6.55)	(1.65)	(0.70)	(5.5)	基部欠	
25		No.8	鎌	(4.80)	(0.69)	(0.58)	(2.5)	頸部	
26		No.8	鎌	(3.41)	(0.83)	(0.53)	(3.9)	頸部	2片
27		No.8	鎌	(2.56)	(0.63)	(0.64)	(1.3)	頸部	
28		No.8	鎌	(1.52)	(0.39)	(0.35)	(0.3)	基部	
29		No.8	鎌	(3.02)	(1.54)	(0.29)	(1.1)	鎌身部残片	
30	21	No.9	鐙?	(7.35)	(3.52)	(0.83)	(6.2)		馬具
31	22	No.10	鐙	(3.62)	(4.39)	(1.70)	(14.5)		馬具
32	23	No.10	鉄鎌	(4.19)	(0.92)	(0.43)	(2.0)	頸部	
33	24	No.12	鉄鎌	(2.87)	(0.48)	(0.45)	(0.8)	基部	
34	25	No.12	鉄鎌	(3.74)	(0.97)	(0.54)	(2.2)	頸~基部	
35		No.12	鉄鎌	(2.63)	(0.50)	(0.42)	(0.5)	頸部	

No.	図No.	出土	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状況	備考
36	26	No.14	雲珠・辻金具	(3.37)	(1.63)	(1.72)	(11.4)	飾鉄	鉄地金銅張
37	27	No.14	辻金具	(3.41)	(2.89)	(2.08)	(10.9)	飾鉄	鉄地金銅張
38	28	主体部	鍔(I)	(6.96)	(1.42)	(0.48)	(5.6)	茎部欠	
39	29	主体部	鍔(I)	(6.56)	(1.48)	(0.67)	(6.4)	茎部欠	
40	30	主体部	鍔(I)	(3.38)	(1.32)	(0.58)	(2.9)	鍔身部	
41	31	主体部	鍔(I)	(2.96)	(1.14)	(0.47)	(2.3)	鍔身部	
42	32	主体部	鍔(I)	(3.91)	(1.53)	(0.70)	(4.0)	鍔身部	
43	33	主体部	鍔(I)	(3.81)	(1.38)	(0.68)	(3.1)	鍔身部	
44	34	主体部	鍔(IV)	(3.16)	(0.95)	(0.49)	(2.1)	鍔身部	刀子?
45	35	主体部	鍔	(3.56)	(0.56)	(0.48)	(1.2)	茎部	
46	36	主体部	鍔	(4.16)	(0.93)	(0.59)	(3.6)	頸~茎部	
47		主体部	鍔	(2.80)	(0.81)	(0.72)	(2.5)	頸部	
48		主体部	鍔	(2.04)	(0.70)	(0.55)	(1.2)	頸部	
49		主体部	鍔	(2.35)	(0.58)	(0.52)	(1.2)	茎部	
50		主体部	鍔	(2.98)	(0.57)	(0.44)	(1.0)	茎部	
51	37	主体部	鍔	(1.84)	(0.44)	(0.42)	(0.5)	茎部	
52	38	主体部	鍔	(2.52)	(0.66)	(0.57)	(1.2)	茎部	
53	39	主体部	鍔	(5.40)	(1.00)	0.52	2.7	頸~茎部	
54		主体部	鍔	(3.29)	(1.55)	0.23	1.5	鍔身部	
55	40	主体部	鍔(IV)	(1.81)	(0.90)	0.35	1.0	鍔身部	刀子?
56		主体部	鍔	(3.20)	(0.85)	0.51	1.8	頸部	
57		主体部	鍔	(3.46)	(0.78)	0.60	1.9	茎部	
58		主体部	鍔	(2.26)	(0.83)	0.68	1.5	茎部	
59		主体部	鍔	(1.91)	(0.62)	0.46	0.6	茎部	
60	41	主体部	不明	(4.79)	(1.08)	(1.18)	(8.3)	端部	
61	42	主体部	鉸具	(0.96)	(3.11)	(0.65)	(2.8)		
62	43	墳丘	鍔(III)	(5.77)	(3.11)	(0.57)	(9.2)	茎部欠	
63		石室床面	鍔	——	——	——	2.6	茎部破片4点	
64	44	不明	鍔	(3.79)	(0.92)	(0.56)	(3.3)	頸部	
65	45	不明	鍔(III)	(3.18)	(3.04)	(0.46)	(6.6)	鍔身部	
66	46	不明	鞞	5.00	(3.24)	(0.72)	(6.8)	座金具	15と同一個体
67	47	不明	鉸具	(3.24)	(1.46)	(1.60)	(2.9)		
68		不明	鉸具	(0.99)	(3.10)	(0.51)	(1.9)		61と同種
69	48	No.13	留金具	(3.59)	(2.15)	(1.34)	(9.9)	完形	鉄地金銅張

その他の遺構

No.	図No.	出土	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	残存状況	備考
70		土坑1065	鉄滓	——	——	——	31.5		
71	49	土坑1108	不明	(5.30)	(1.00)	(0.57)	(5.7)	片側欠	刀子?
72	50	土坑1193	不明	(3.37)	(1.72)	(0.35)	(3.6)	両側欠	
73	51	土坑1202	不明	(4.36)	(2.60)	(0.48)	(6.0)	片側欠	
74	52	土坑1203	釘?	(5.66)	(1.10)	(1.36)	(8.4)	両側欠	
75			釘	(1.70)	(0.29)	(0.32)	(0.6)	先端部	
76	53	土坑1231	釘	(3.83)	(0.79)	(0.75)	(3.4)	両側欠	他に残片4点
77			鉄滓	——	——	——	16.5		
78		土坑1298	鉄滓	——	——	——	10.7		
79		土坑1401	鉄滓	——	——	——	5.5		
80	54	土坑1540	鏃	(11.85)	1.12	(1.20)	(23.0)	頸～基部	
81	55	土坑1694	刀子?	(7.15)	(2.18)	(0.45)	(11.6)	身部	
82		土坑1702	鉄滓	——	——	——	14.8		
83	56	溝	釘	(4.13)	(0.70)	(0.72)	(2.4)	下側欠	
84		溝	不明	——	——	——	1.2	残片	
85	57	検出面	不明	(0.86)	(2.50)	(0.59)	(1.8)	3/4欠	馬具?

第11表 銭貨一覧表

No.	図No.	出土地点	名称	径(mm)	重量(g)	備考	No.	図No.	出土地点	名称	径(mm)	重量(g)	備考
1		土坑1220	不明	24.9	(6.85)	2と付着	12	66	土坑1642	元豊通宝	23.6	2.75	
2		土坑1220	不明	25.1			13	67	土坑1642	元豊通宝	25.0	2.35	
3		土坑1220	元□□宝	——	(0.95)	1/2欠	14	68	土坑1642	□□□宝	23.8	2.50	
4	58	土坑1273	咸平元宝	24.9	3.30		15	69	10号墳周溝	熙寧元宝	23.9	2.80	
5	59	土坑1273	淳化元宝	23.9	3.50		16	70	検出面(Ⅱ区)	皇宋通宝	24.6	2.80	
6	60	土坑1345	皇宋通宝	24.7	2.85		17	71	検出面	皇宋通宝	24.8	2.80	
7	61	土坑1351	至道元宝	24.6	2.90		18		不明	元祐通宝	24.4	3.60	
8	62	土坑1378	不明	(22.7)	(1.35)	周縁欠	19		不明	開元通宝	(22.4)	(1.65)	周縁欠
9	63	土坑1491	元祐通宝	24.0	(2.40)	1/5欠	20		不明	不明	(24.2)	(1.35)	1/2欠
10	64	土坑1593	皇宋通宝	24.3	2.60		21		不明	不明	——	(1.15)	2/3欠
11	65	土坑1642	皇宋通宝	24.1	2.80								

## 第3章 第1～3次調査のまとめ

### 第1節 向畑遺跡の集落景観の変化

本遺跡からは縄文時代から中世にわたる様々な時期の各種の遺構が発見されたが、時期的に連続していた訳ではなく、かなりのまとまりをみせている。それは、縄文時代中期初頭、古墳時代前期、古墳時代中期、中世、の4時期であり、その間にはまったく遺構の断絶する時もある。ここではこれらの各時期について遺構分布や地形的な要素から若干の考えを巡らしてみたい。

#### 1 縄文時代中期初頭

この時期以前の遺構ははっきりしない。時期を窺える遺物としては早期の押型文土器・繊維土器・特殊磨石、前期の土器などで、縄文時代に属するとした土坑のいくつかはこれらに伴うのかもしれない。本遺跡の西側斜面を約300mほど下ったところにある坪ノ内遺跡では、本遺跡に先行する前期後葉の住居が発見されている。

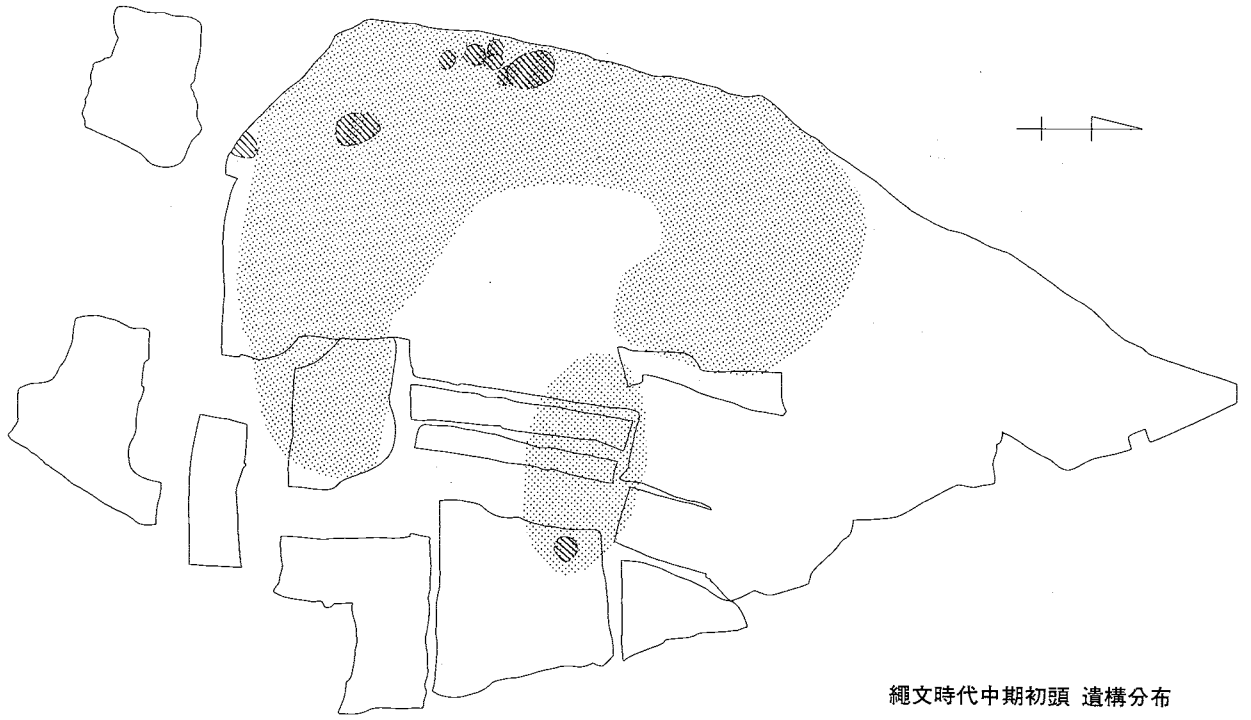
中期初頭になると台地西端部の傾斜にかかる部分に8軒の住居が集中して設けられる。また土坑はその背後ともいえる東側の台地上平坦部に大きく広がる。従来、前期末からこの時期にかけての集落には、台地や段丘の斜面に住居が作られ、土坑はそれを登り切った背後の平坦地に展開する例がいくつか指摘されているが、本遺跡もこれに該当するものであろう。1軒のみ台地東側に離れて存在するが、この周辺には同期の遺構はほとんどない。集中している住居群はさらに調査地外の西側に続く可能性もあるが、この時期の集落は概して小規模であり、大きく広がることはなからう。

これ以後の縄文時代の本遺跡は、中期後半・末の土器が微量出土したのみで、皆無といってもよいであろう。先述の坪ノ内遺跡では、中期中葉の土器捨て場や中期後葉、後期の集落が、また南方600mの南中島遺跡では中葉から後葉にかけての集落が発見されており、本遺跡の中期初頭集落はその方向に発展していったものと推定される。

#### 2 古墳時代前期

弥生時代に関しては、中期後半～末くらいに位置付けられる土器小片が微量出土しているだけで、遺構はない。本遺構周辺の適地に目を向けていかねばなるまい。

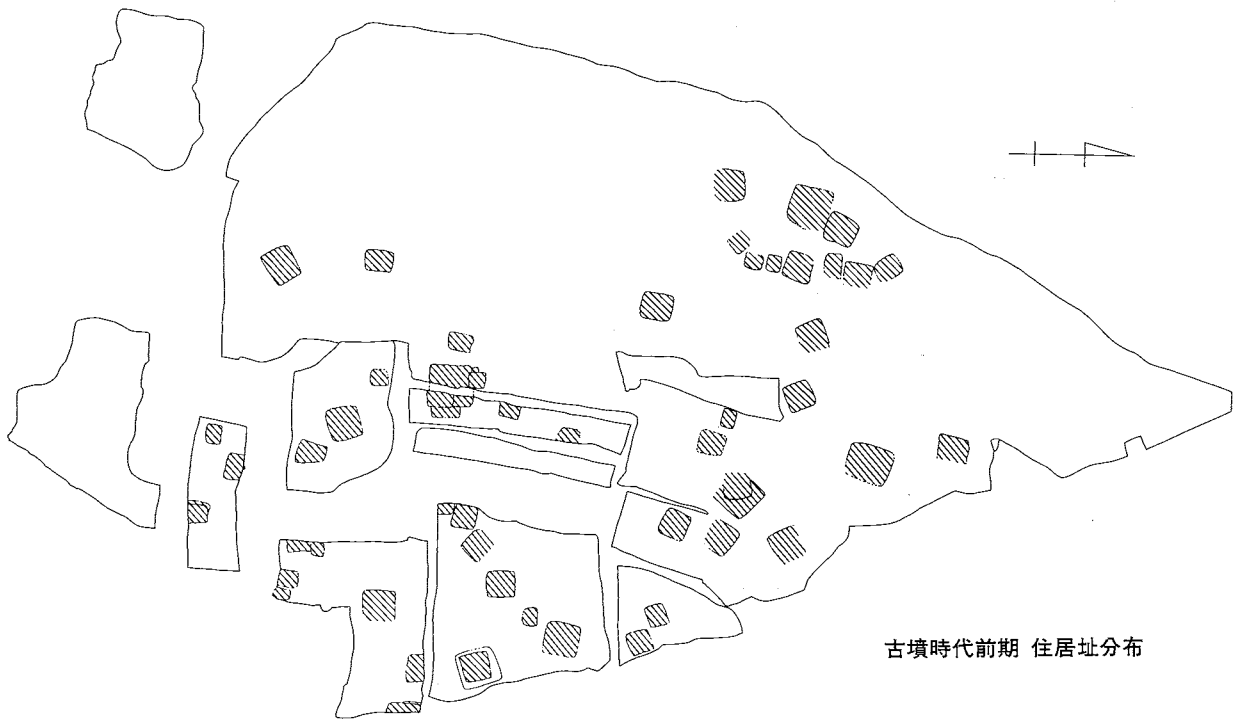
古墳時代に入ると本遺跡は最盛期を迎える。調査地のほぼ全域に4世紀に属するとみられる住居が広がり、57軒を数える。この時期の住居57軒という数は松本市内だけでなく中信地区でも最大で、県下でも屈指のものといえよう。これらの分布を厳密に見ると、調査地南西部分を除く台地平坦部全域に広がり、北側と南側の斜面には存在しない。また調査地東外は急斜面となって落ち、西側の緩斜面も昭和58年の保育所建設に伴う発掘でまったく該期の遺構が発見されていないので、この古墳時代前期の集落はほぼ完全に捉えられたとみてよい。台地平坦部の北側から東側、南東部に連な



縄文時代中期初頭 遺構分布

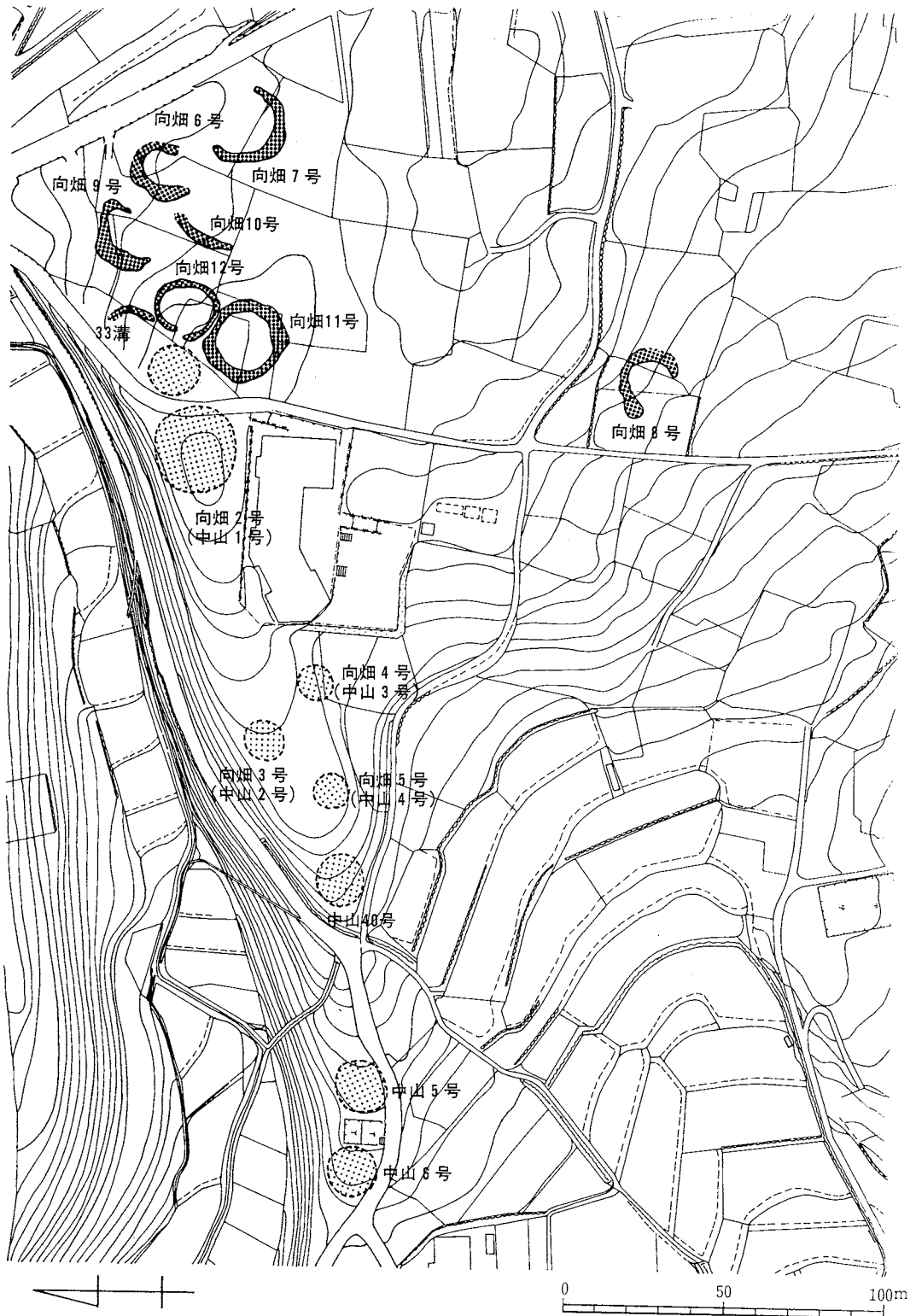
斜線は住居址

網点は土坑分布範囲



古墳時代前期 住居址分布

第87図 縄文時代中期初頭・古墳時代前期の遺構配置



第88図 向畑古墳群分布図 濃い網点は今回一連の調査対象となったもの

る大きな弧状に住居が展開している。個々の住居の主軸方向は、ほぼ南北かわずかに東に振れているものと、南北方向に対して約45度振れるものの2つのグループがあるようにみえる。

集落自体の立地は小高い台地上にあり、標高も高く、地形的にも強い南風の吹きつける場所で、居住地としてはこの時代以降、現代に至るまでとうとう利用されることのなかった地でもある。なぜこのような地に、この時代に規模の大きな集落が造られたかは疑問だが、近年の調査では、平坦地とは別に丘陵上、あるいは山間平坦地に同時期の小規模な集落が見出されている例があり、その種の集落の規模の大きなものと理解できよう。近隣に自然地形に恵まれた可耕地をもつことや、丘陵上で防御的な側面も考えていかなければなるまい。

### 3 古墳時代中期

この時期の住居は2軒確認されているが、そのうちの1軒は古墳の周溝に付随する施設の可能性があるので、確実なものは1軒のみである。前期から中期にかけて住居が減少していったというより、突然前期集落がなくなって、後に中期の住居が1軒建てられたとみたほうがわかり易い。やがて調査地の北部を中心に古墳が築かれ始める。

調査地北西部外から西南西にむかって尾根が延びているが、その尾根上に向畑2・3号古墳が、またその西の斜面に4・5号古墳が確認されている。特に2号古墳は大正12年の発掘調査で石を用いない竪穴系の主体部と剣、鹿角製品が検出され、中期古墳として捉えられてきた。調査地内にはこれに続く6・7・9～12号古墳が、同一の尾根の東方への延長線上に集まっている。これらの古墳は墳丘は既に削平されて周溝しか残っていないが、その周溝も全周を残すのは11・12号の2基だけである。2号と一連の調査で発見された古墳は一定の範囲内に少しずつ時期をずらして築造され、しかもそれにあたっては隣の古墳との関係を考慮しており、同一の造営集団によって作り継がれたものといえよう。往時は調査地や中山保育所の北に延びる尾根上にいくつも墳丘を連ね壮観であったろう。ただしその造営集団の居住地は判明していない。前期に集落を造っていた人達が移動後もその故地を墓域と選んだのであろうか。

古墳が築かれ墓域となってからは、中世まで大きな変動はない。古墳時代後期に調査地の南端部に後期古墳(8号古墳)が築かれたこと、平安時代に調査地の北東部に竪穴状遺構が4基掘られたことを挙げ得るだけである。8号古墳とその他の古墳の間には認知関係は無いであろう。平安時代の遺構も同様である。「墓域」という意識が長く残ったためであろうか。あるいは居住不適地として畑地などにずっと利用されていたのかもしれない。

### 4 中世以降

多数の土坑が台地中央の平坦部に掘られる。覆土からみて墓と推定され、13～15世紀が中心となる。この土坑群についての詳述は次節に譲るが、この頃にはまだいくつかの中期古墳の墳丘が残っていた可能性もある。この段階でこの地は完全に墓域とされ、以後現代まで居住地にはならなかった。調査前の景観ができたのは、近世以降、畑地を広げ墓域を徐々に狭めていったためであろう。



## 第2節 中世の土坑墓群

中近世の土坑は向畑遺跡全体では762基である。これらの土坑はすべてが土坑墓として確認できたものではないが、一部の土坑に供献品をもつ土坑墓があり、その類似をもって土坑墓と推定している。ここでは土坑墓としての観点から記述を試みる。762基の形状などは下記のとおりである。

### (1)土坑の形状

#### 平面形

円形	楕円形	方形	長方形	不整形	不明	合計
138	129	325	124	40	8	762
18.1%	16.9%	42.7%	16.0%	5.3%	1.0%	100%

#### 断面形

方・長方形	台形	半円形	フラスコ状	二段底	その他	不明	合計
91	559	73	2	17	15	5	762
11.9%	73.3%	9.6%	0.3%	2.2%	2.0%	0.7%	100%

#### 規模（長径）

50～100	101～150	151～200	201～250	251～	合計
206	301	153	66	36	762
27.6%	39.5%	20.1%	8.7%	4.7%	100%

#### 覆土

自然堆積	人為堆積	不明瞭	未掘	合計
65	688	4	5	762
8.5%	90.3%	0.5%	0.7%	100%

この結果からみると平均的なものは、平面形は方形で、断面形は台形、規模は101～150cm、覆土は人為堆積となる。

### (2)伴出遺物

伴出遺物のあった土坑は、土器・陶器27、鉄製品16、銭貨17、炭化物3、骨4箇所である。これらの中には、1土坑から複数出土のものや、縄文時代の土坑から出土のものも含まれている。延べ数で67となり、単純に割ると10%弱と少ない。

### 1. 墓域の立地

南北にはしる尾根の頂点を中心として、東西約100×南北約100mの範囲に分布する。標高は最高

が727mで最低は724mと比較的平坦である。墓域の東南隅には東西30×南北20mあまりの墓地があるが、本来はここも墓域に含まれるものであったと思われる。墓域の北側には蟹堀の沢を隔てて標高836mの中山丘陵が続き、東は東西500mあまりの水田地帯（沖田 標高716～730m）を経て、中山の中心的な集落に至る。発掘時には遺跡のすぐ東側に道があり、小さな墓地の脇を通過して北中島の集落に達していた。さらに東の水田の脇には後述する鉾塚(1)があった。

東山裾には信濃の16の御牧の一つ、埴原の牧があり、千石・古屋敷には繫飼場跡が残っている。沖田の6町歩は埴原の牧の牧監に与えられたもの(2)があり、本遺跡より北西500mの地点に推定牧監庁跡が残っている。また対面する東山の尾根には、南北朝期ころの築城とされる埴原城があり、山裾には梅屋敷などの地割りが残っている。

周辺の寺院は南方2kmあまりの山麓に、平安時代末ころの仏像をもつ牛伏寺があり、北東山麓には1368年上野長楽寺前任持良中が死去したという記録のある保福寺がある。沖田を隔てた町村には蓮華寺と栄珠院があるが、ともに南東の千石から1559、1701年に現在地に移ったものである(3)。このようにみると東から南東側にかけて集落の存在が想定され、その墓として使用されていたのではないかと考えられる。

## 2. 土坑墓の配置

本遺跡は既に畑地とされているために、土坑墓上に何が存在していたかは不明である。しかし、現状からみて、墳墓・集石墓が存在した形跡はなく、この地は土坑墓ばかりで、一部にグビ跡があったと推定したい。実際に中山周辺では昭和40年代近くまでも、土葬がおこなわれており、棺桶を埋めた後、まわりの土で小さい土饅頭をつくり、その上に人頭大程度の石を置いて目印としていた。その後棺桶が朽ち、目印も失われて、墓穴を掘ると人骨にあたることもあった。遺構としては切り合いである。中世には土葬・火葬ともにおこなわれたということであるが、ここでは圧倒的に土葬が多かったことがうかがわれる。

土坑墓の場合、穴の配列は南北に長径をとるものが多く、全体図からはある程度のブロックに分けることができる。NS 0-W78を中心とした50基あまりのブロックの場合は、平均値以上の大きさの土坑墓が北側にかぎ形に並び、小形のものも散在している。切り合いをみてもある程度の規則性があり、平行移動をしているものがある。一方狭い範囲にいくつもの切り合いのあるブロックもあるが、この場合は血縁者や同族を中心とした小集団の墓域が狭く、他の広がる場所がなかったからではないかと思われる。

土坑墓が揃って並んでいる場所に接して、空白の地が道状に続くところがある。例えばS 60-W 12あたりから、右に15mあまり進み、北へ曲って20mあまりの部分、S 30-W72あたりから東へ進み、W50で左に曲がり北に20mあまり行く間などが、墓道の状態を示している。墓間は2m余空いているが、小さい土饅頭を考慮にいれば、歩くだけの狭い道である。



第89図 土坑墓

### 3. 伴出遺物から

時期の確定できるものからみると、土器・陶器では13C～15Cであり、銭貨のうち初鑄年の遅いものでは、聖宋元宝の1101年である。このことは最大にさかのぼっても12C初め以降の土坑墓であることを示す。

銭貨が複数出土した土坑墓は623の5枚、1642の4枚、1273の2枚である。この他の銭貨も含めて六道銭として死者に持たせたものであろう。鉄器では釘の出ている墓があるが、棺桶の釘と思われる。鉄滓も出ているが、時期の判定はできない。

陶磁器については、他遺跡では蔵骨器の出土例を多見するが、鉢塚からも13C代の四耳壺が出ている。しかし、本遺跡の場合は少量の小破片のみで、器種も日常雑器が多い。土坑墓の供献用として用いられたものであろう。

#### 註・参考文献

(1)1988年松本市教育委員会が発掘調査をおこない、四耳壺の出土をみている。水田の一角に小さな祠を建てて祭ってあった。報告書未刊のため詳細ははぶく。

(2)延暦16(797)年『類聚三代格』一五、職田位田公廩田事に記載あり

(3)中島経夫 1989『中山小学校百年史』年表

網野善彦 石井進編1988『中世の都市と墳墓――谷遺跡をめぐって――』日本エディタースクー出版部

網野善彦ほか1986『歴史手帳』「中世墳墓を考える」 14巻11号 名著出版

齊藤 忠 昭和61 『日本史小百科 墳墓』 近藤出版社

藤沢良祐 昭和53「長野県出土の古瀬戸について―特に蔵骨器を中心として―」『信濃』31巻-11

中川治雄ほか平成元『中世中山の村と習俗―向畑遺跡をめぐって―』シンポジウム資料 中山史蹟を愛する会  
ほか

## 第4章 結 語

本文中に書けなかったことなどいくつか触れて結びとしたい。

第1は縄文時代中期初頭のこと。近年は松本市内でもいくつかの遺跡でこの時期の遺構・遺物に遭たる。いずれも規模が小さく、大半は土坑が主体となっている遺跡である。この時期は短く、数も少ないというのは先入観で、思いの他、各所から発見されてくるようになろう。

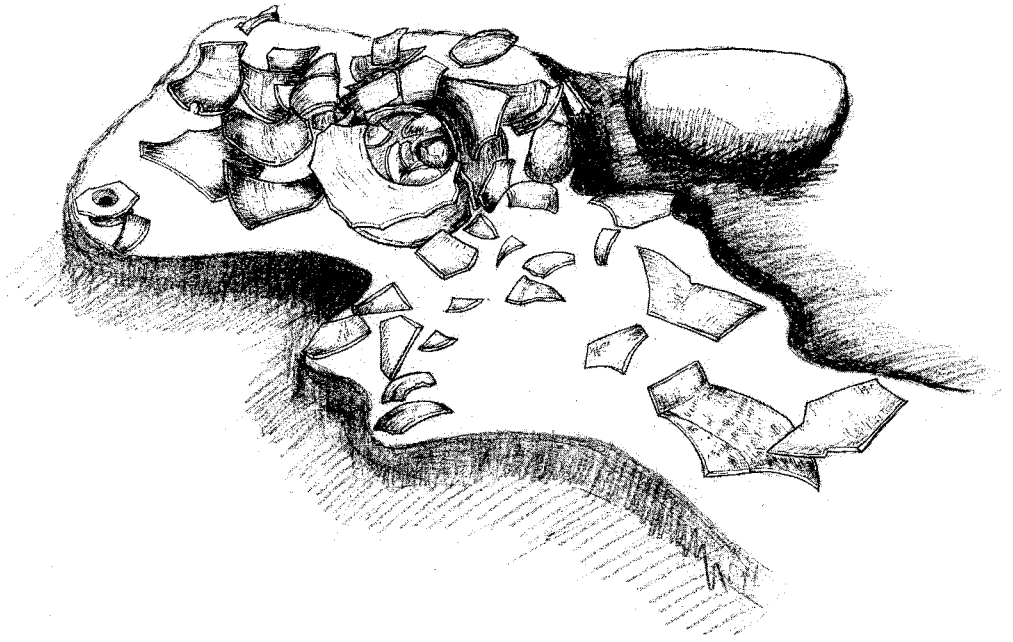
第2は古墳時代前期のことだが、本遺跡のある中山丘陵の北端には当地区を代表する前期古墳の弘法山古墳があり、この古墳の背後関係の究明が急がれている。本遺跡はどのように関わるのであろうか。立地的に直接の関係を想定するのは難しいが、当然、大きな一つの集団を構成するものの一部だったのではあろう。それに時期的な特性もあろうが、他地域の土器を模倣したものがかなり目についたことも確かである。それは畿内系のタタキの甕、東海系のS字状口縁、棒状浮文の二重口縁壺、北陸系の裝飾器台などであり、弘法山古墳からの土器も他地域の色合が強く、この地域一帯の特徴をよく示すものかもしれない。

第3は古墳時代中期の古墳群についてで、この古墳群は従来から後期群集墳として知られている中山の各所の古墳群とは性格を異にしていると考えたい。造営集団については、松本市北部に点在する中期古墳と同様、下から見上げるような尾根上に占地するものとみ、眼下の寿方面から登ってきたとの推定もできる。一方、遺跡東側の沖田の水田地帯を囲むどこかに該期集落があるとの意見も否定は難しい。ただ当地方全体で見てこの時期の集落遺跡は異常なほど少なく、小規模で分散するのではなく、いくつか拠点的に集中しているのではないかという観測があり、この点によれば古墳造営集団については前者のほうが有力であろう。

2年間3次にわたった向畑遺跡の発掘調査は本書をもって終了する。先に刊行した『松本市向畑遺跡I』、『松本市向畑遺跡II』と本書を合せて全報告が完結したことになる。しかし調査内容の豊富さをどこまで忠実に示せたかは誠に自信がない。いわんや各種の検討についてなどもってのほかである。調査、整理担当者一同、資料の山を目の前に、時間や費用の制約から操作も思うに任せないことが多く、残念無念との思いも強い。本書を活用される方々に期待するばかりである。

最後になったが、無事発掘調査を終了して、このように報告書が刊行できるのは、関係する多くの方々のご理解、ご協力の賜物であることは言うまでもない。ここで関係者の皆様に満腔の謝意を表すると共に、埋蔵文化財に対しての尚一層のご理解をお願いし結びとしたい。

# 版 图

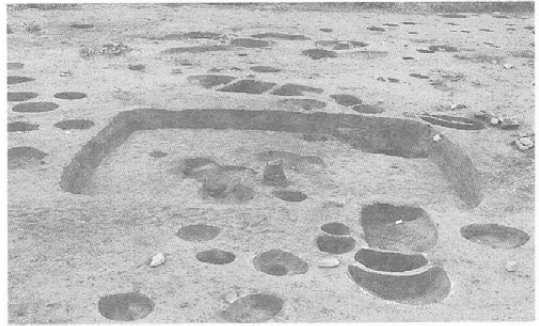


11号古墳B群





第50号住居址(古墳時代前期)



第51号住居址(古墳時代前期)



第52号住居址(縄文時代中期初頭)



第55号住居址(古墳時代前期)



第53号住居址(古墳時代前期)



第53号住居址 炭化材出土状況  
(前方の溝は11号古墳周溝)



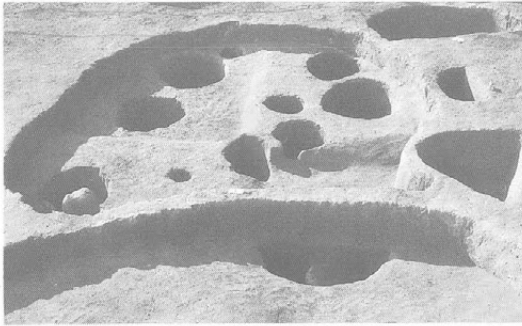
第56号住居址(縄文時代中期初頭)



第58号住居址(縄文時代中期初頭)

第1図版





第59号住居址 (縄文時代中期初頭)



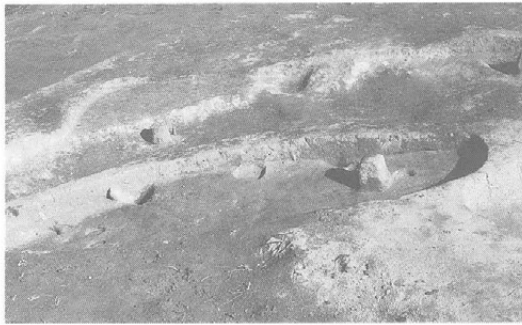
第60号住居址 (縄文時代中期初頭)



第61号住居址 (縄文時代)



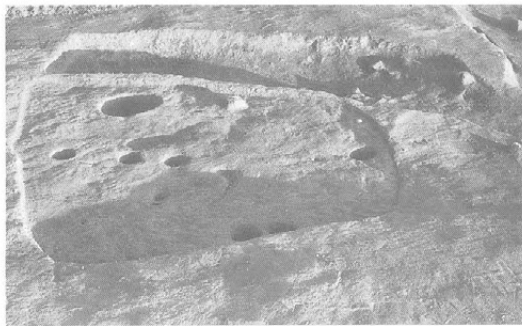
第62号住居址 (縄文時代)



第63号住居址 (古墳時代前期)



第64号住居址 (古墳時代前期)

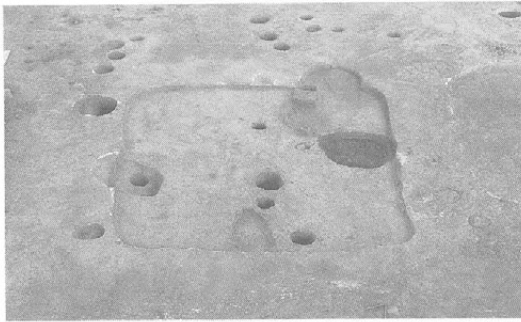


第65号住居址 (古墳時代前期)



第66号住居址 (古墳時代前期)

第2図版



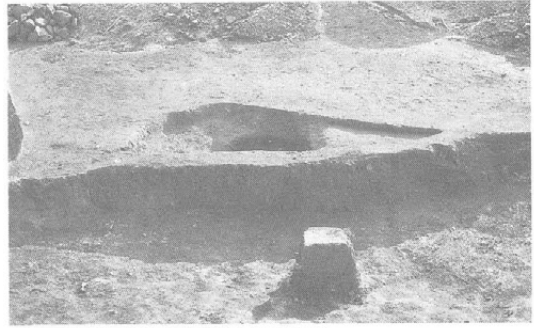
第54号住居址 (古墳時代前期)



第67号住居址 (古墳時代前期)



第68号住居址 (古墳時代前期)



第69号住居址 (古墳時代前期)



第70号住居址 (古墳時代前期)



第8号古墳 石室内の礎



第8号古墳 全景



第8号古墳 石室



第9号古墳 周溝内の礫



第9号古墳 周溝内の礫



第10号古墳



第11号古墳 全景



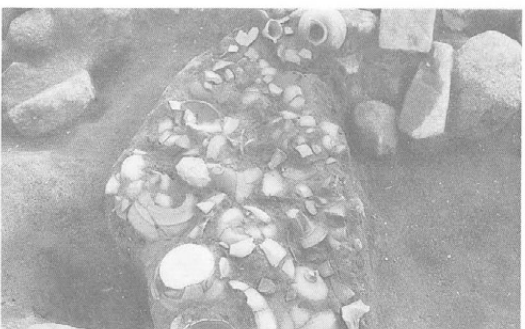
第11号古墳 西部



第11号古墳 東部



第11号古墳 周溝内礫・遺物



第11号古墳 周溝内遺物出土 (A群)

第4図版



第11号古墳 周溝内遺物出土 (A群)



第11号古墳 周溝内遺物出土 (A群)



第11号古墳 周溝内遺物出土 (A群)



第11号古墳 周溝内遺物出土 (A群)



第12号古墳 全景



第12号古墳 礫出土状況



第51号住居址 礫・遺物出土状況



第52号住居址 礫出土状況



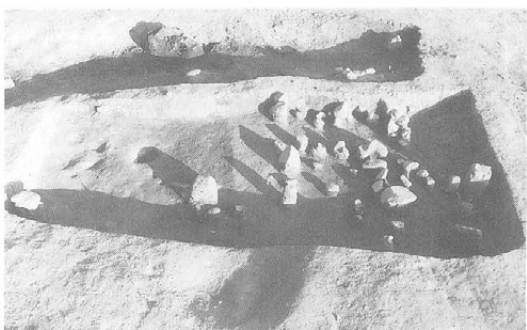
第56号住居址 礫・遺物出土状況



第58号住居址 中央部土器炉



第59号住居址 土器出土状況



第64号住居址 礫・遺物出土状況



第65号住居址 礫出土状況

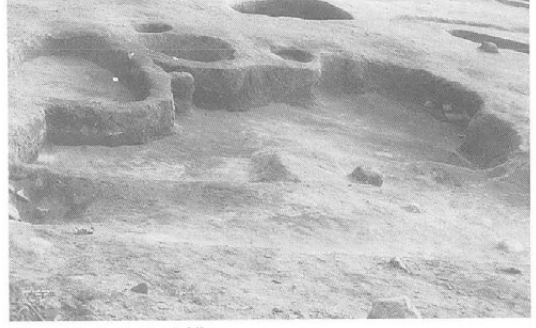


第66号住居址 礫・遺物出土状況

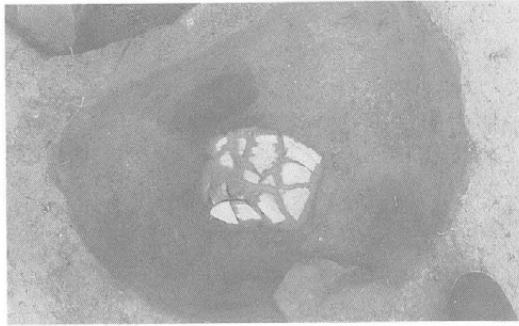
第6 図版



第10号竖穴状遺構



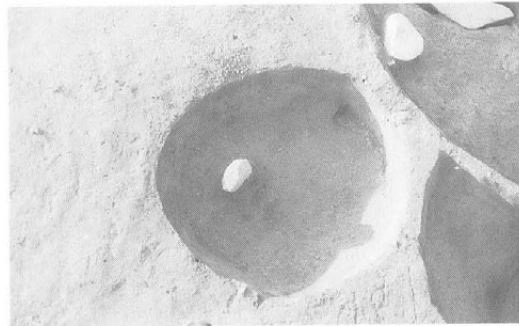
第11号竖穴状遺構



第1094号土坑



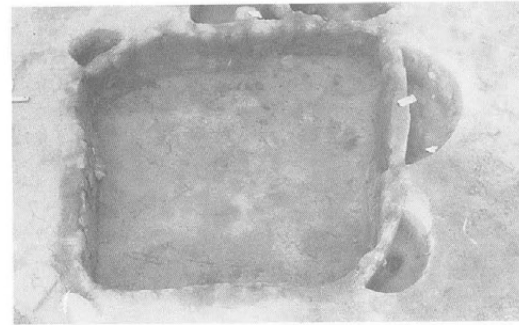
第1097号土坑



第1093号土坑



第1114号土坑



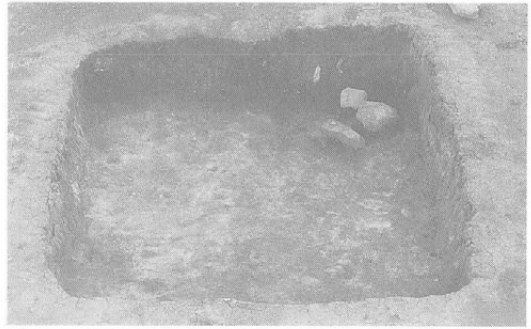
第1153号土坑



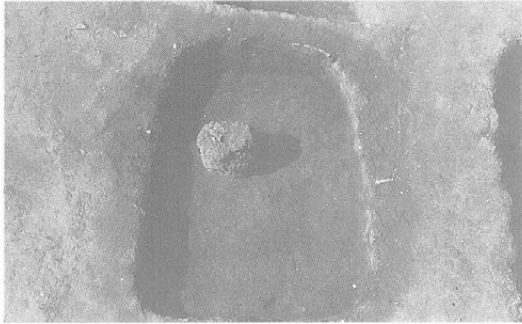
第1197号土坑



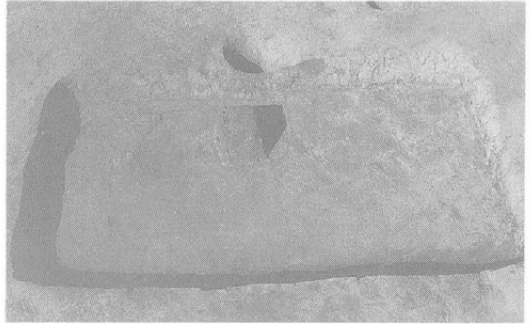
第1220号土坑



第1240号土坑



第1271号土坑



第1552号土坑



第1764号土坑



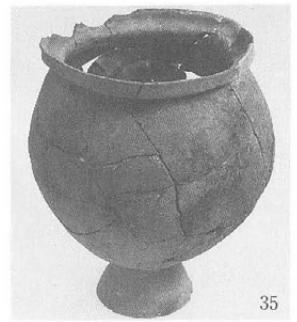
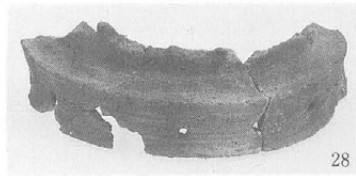
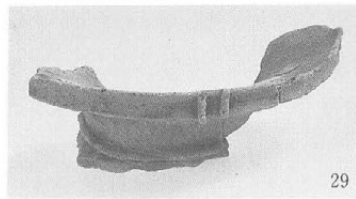
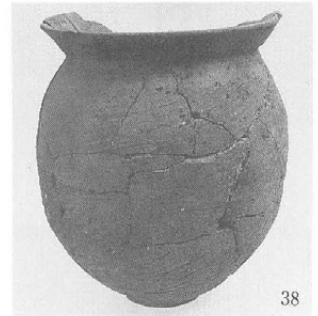
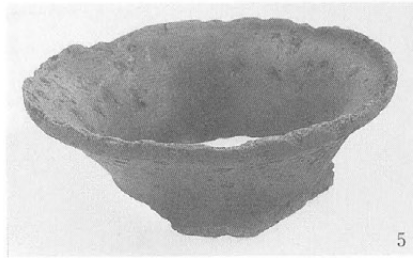
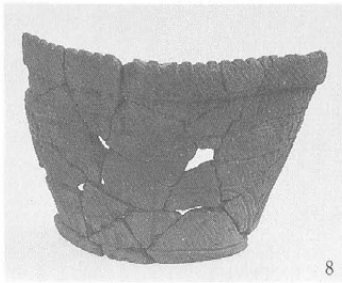
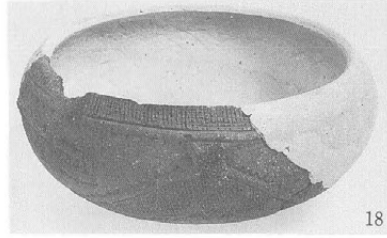
第1804号土坑



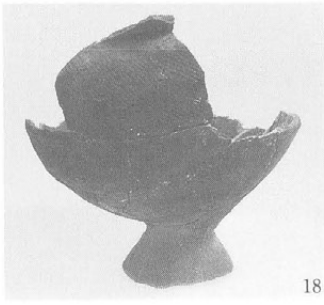
中世土坑群



縄文時代土坑群



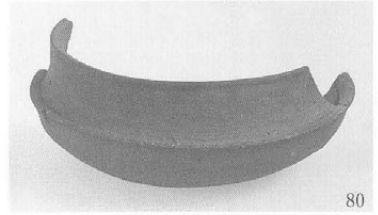




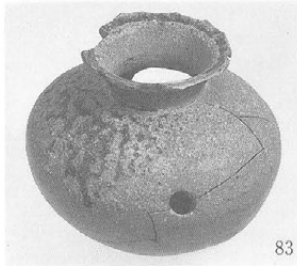
18



79



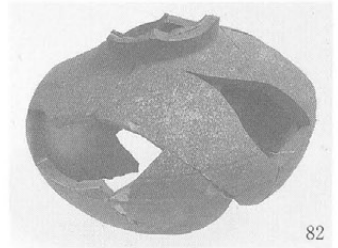
80



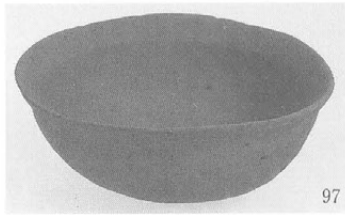
83



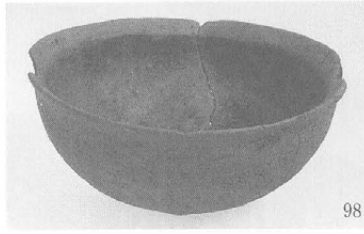
81



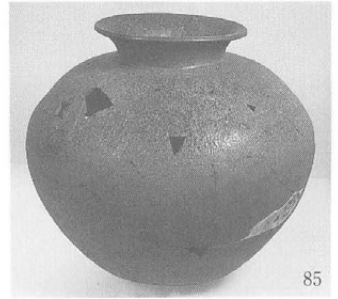
82



97



98



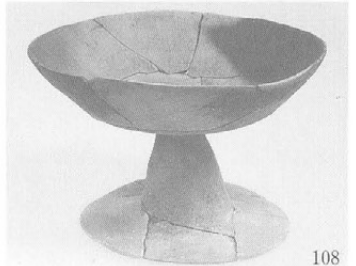
85



106



107



108



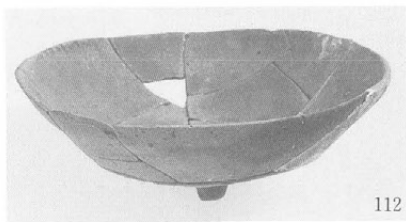
109



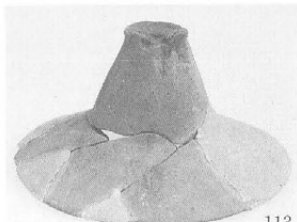
110



111



112



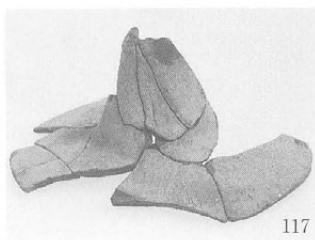
113



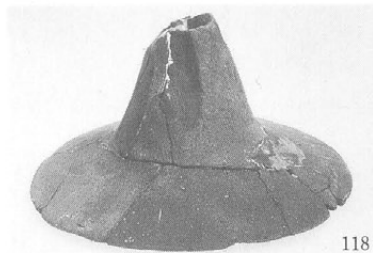
114



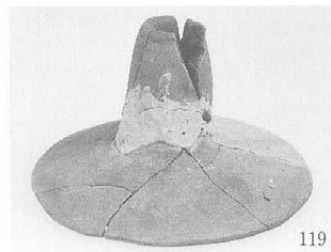
115



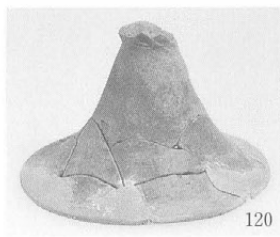
117



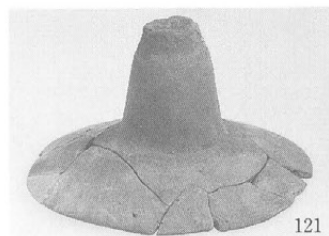
118



119



120



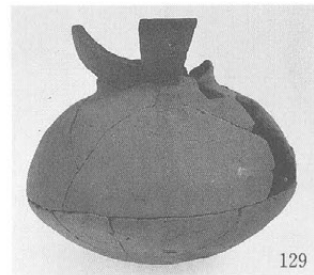
121



123



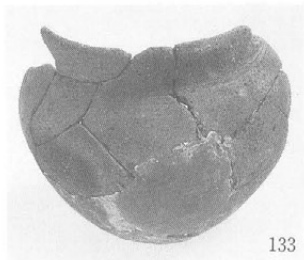
124



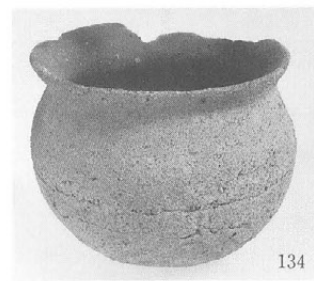
129



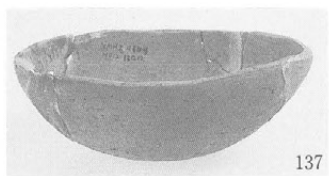
130



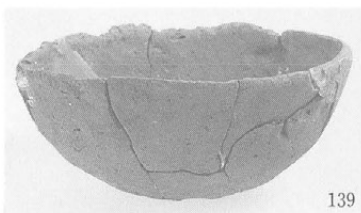
133



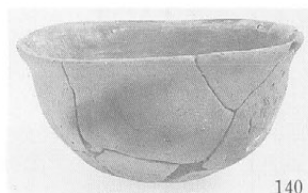
134



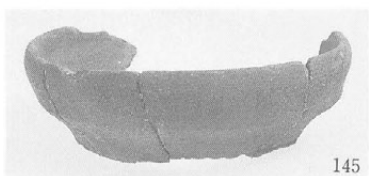
137



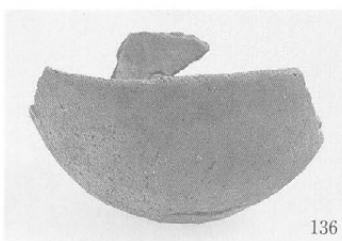
139



140



145



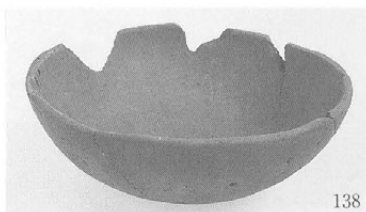
136



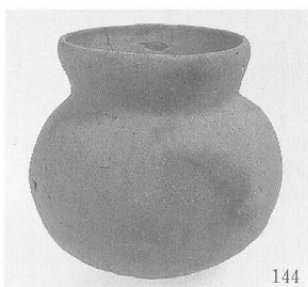
148



146



138



144



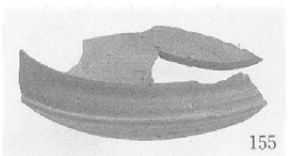
149



150



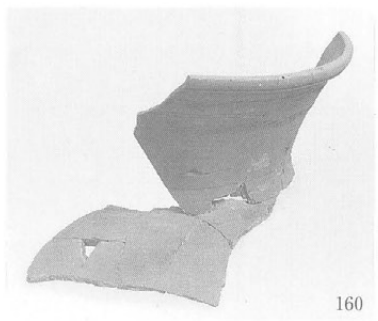
153



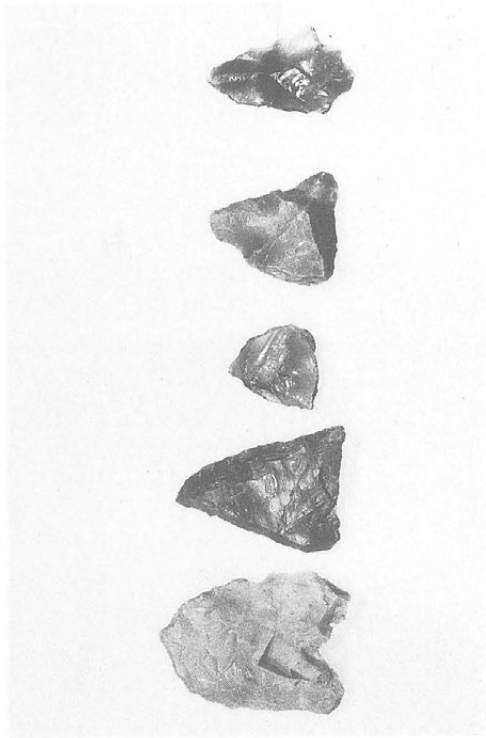
155



159



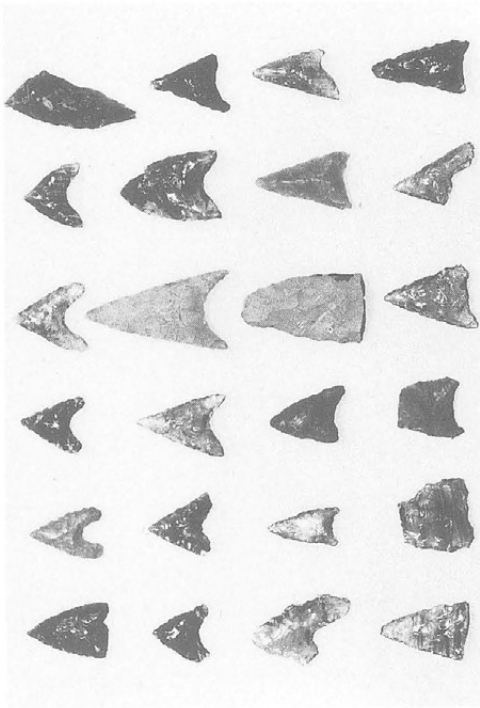
160



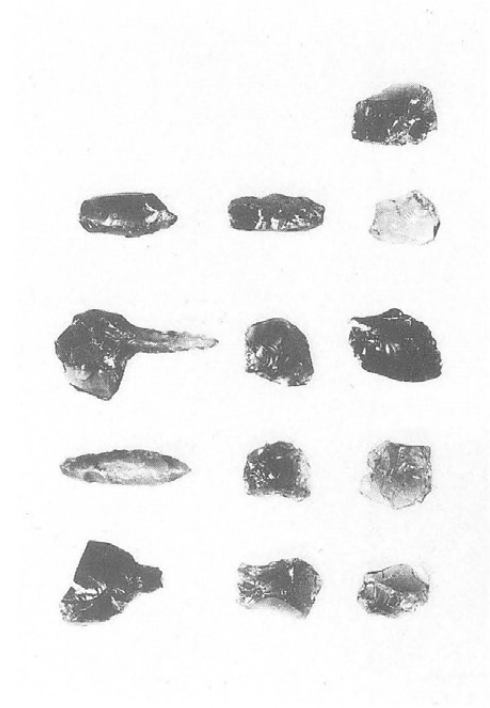
石鏃未成品 (25~29)



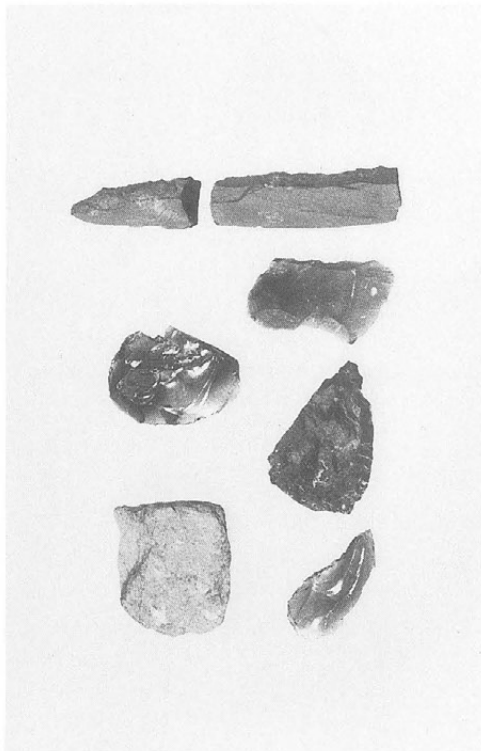
石鏃 (43~47)



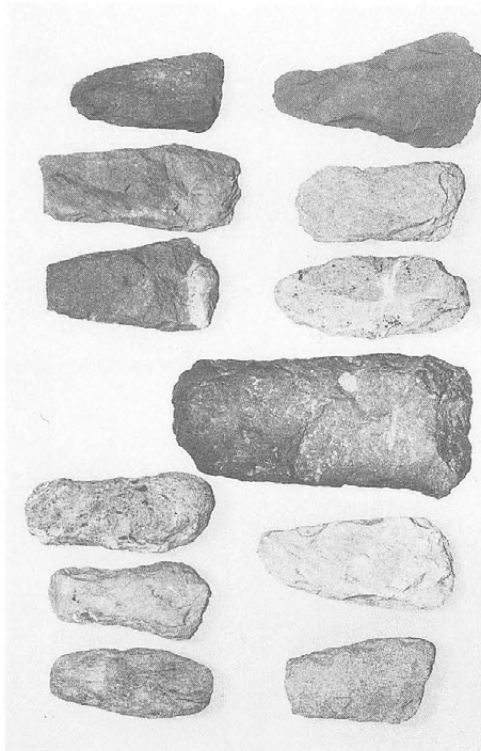
石鏃 (1~24)



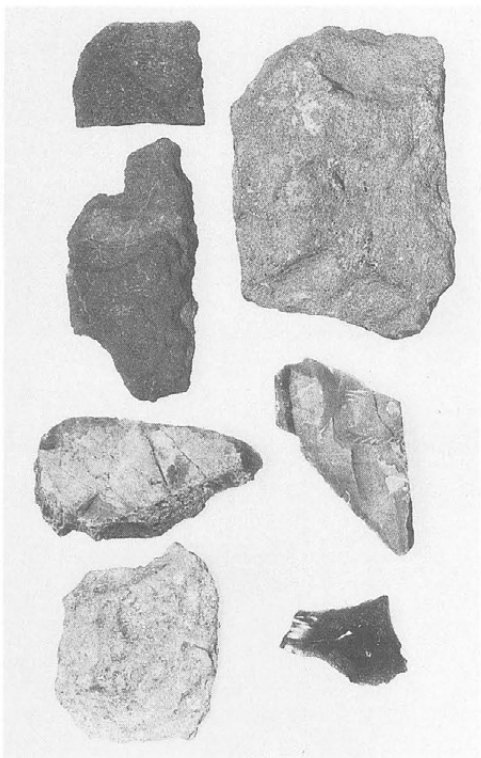
石鏃 (30~33) . ピエス・エスキュー (34~42)



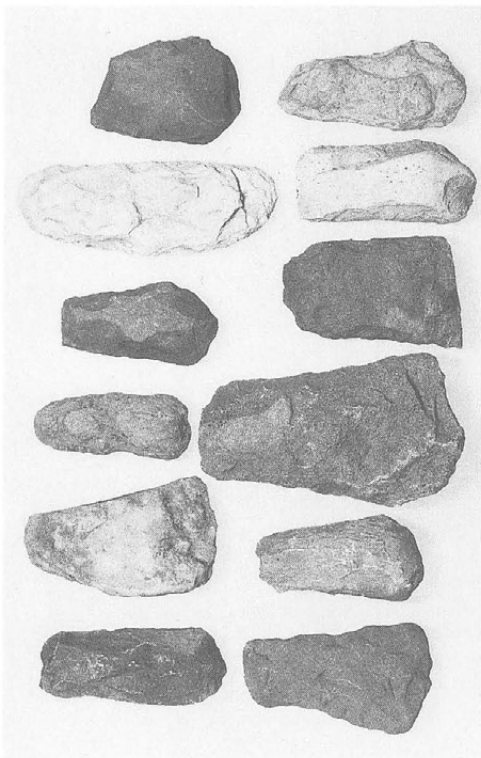
スクレイパー (54~58)



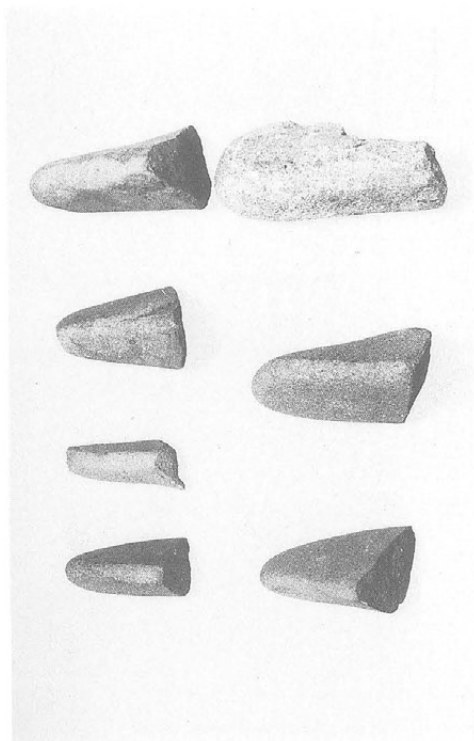
打製石斧 (71~82)



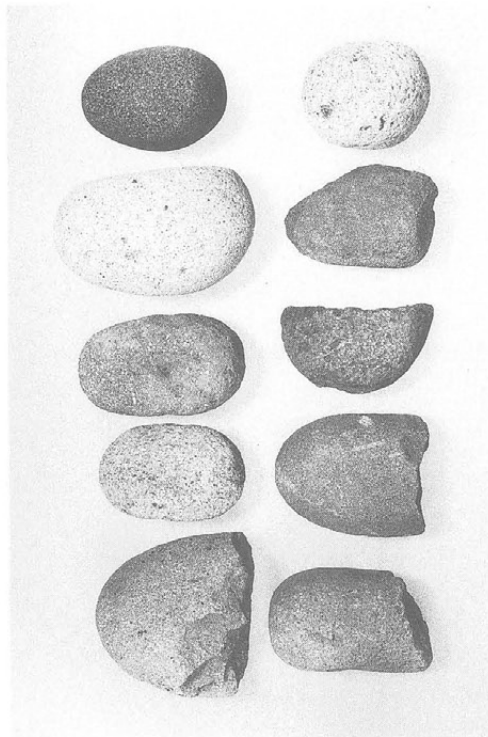
スクレイパー (48~53)



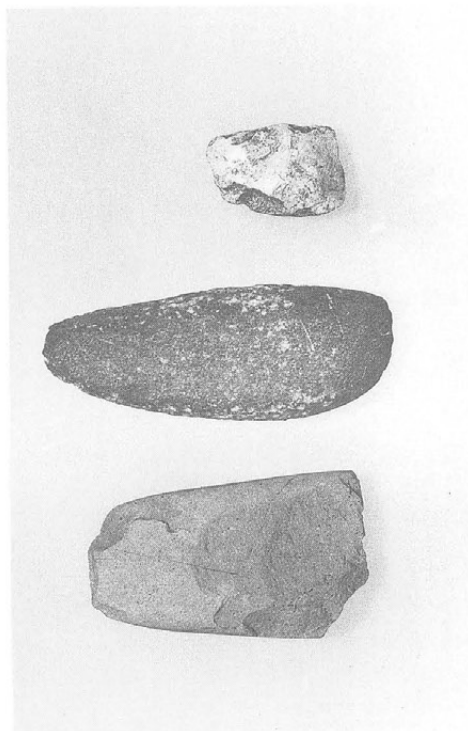
打製石斧 (59~70)



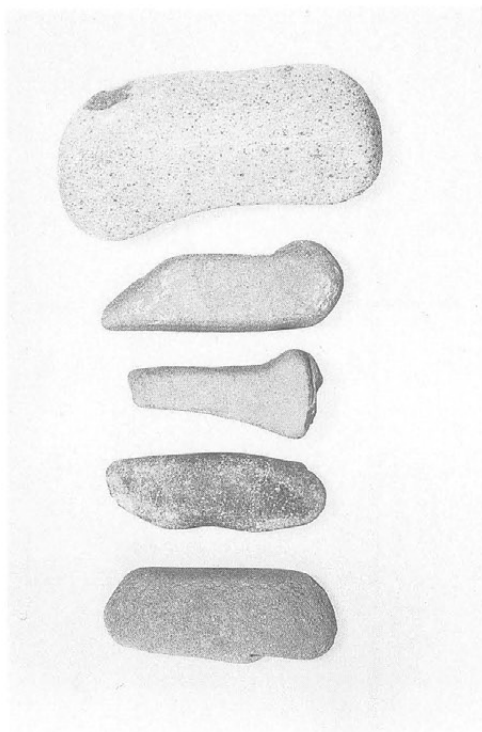
特殊磨石 (91・96・99・100・102・106・107)



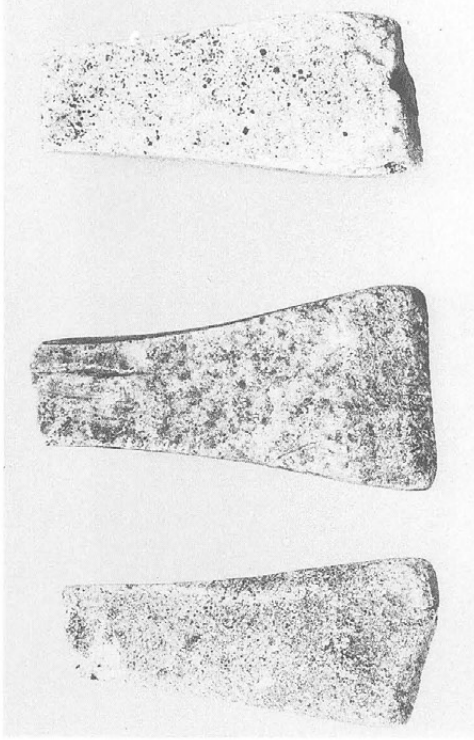
凹・敲・磨石 (88・90・94・95・101・103~105・108・109)



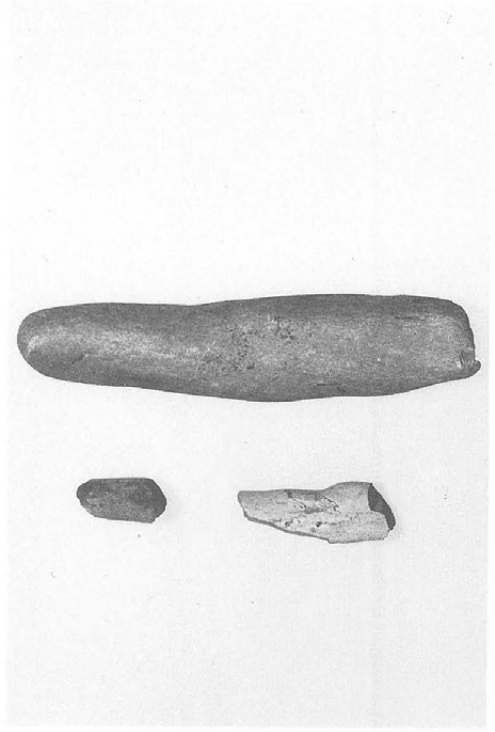
磨製石斧 (83~85)



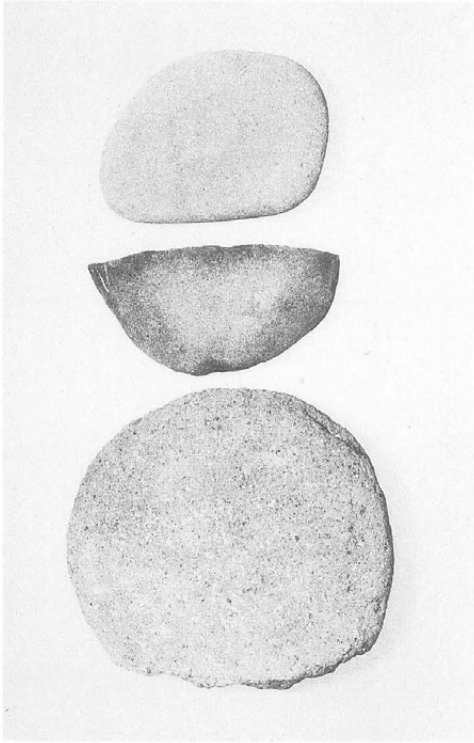
凹・敲・磨石 (86・89・92・98・110)



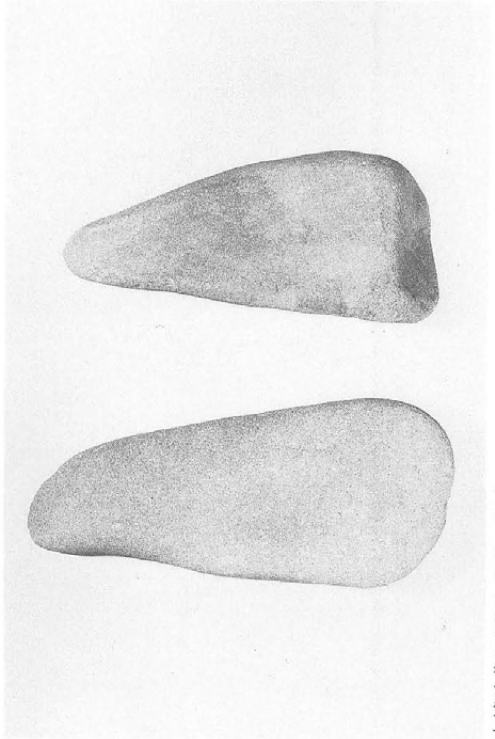
古墳時代の砥石 (115~117)



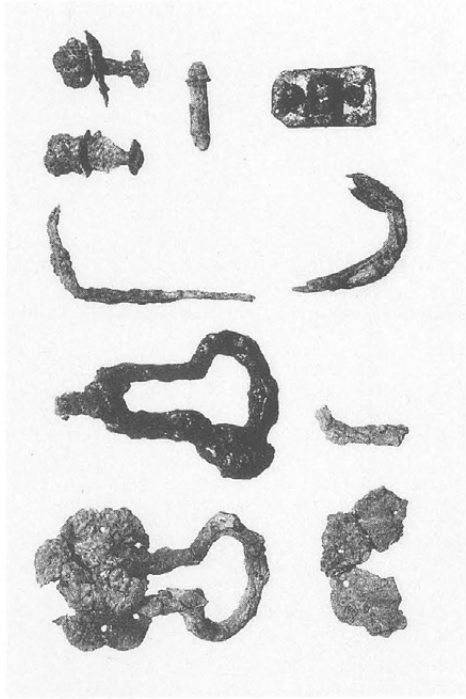
石棒 (1・2)



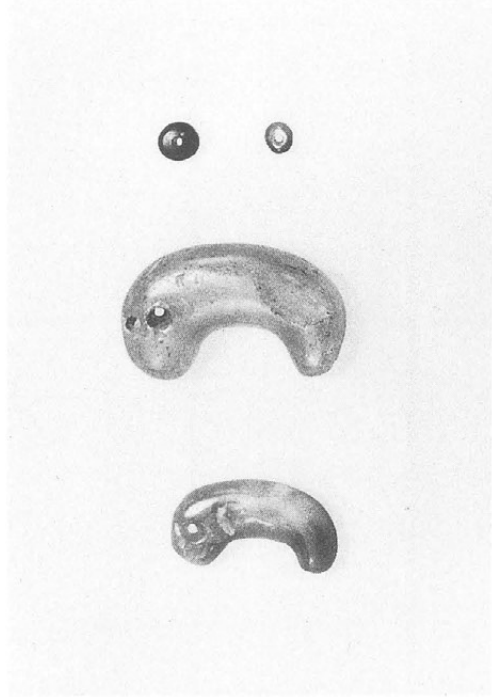
凹・敲・磨石 (87・93・97)



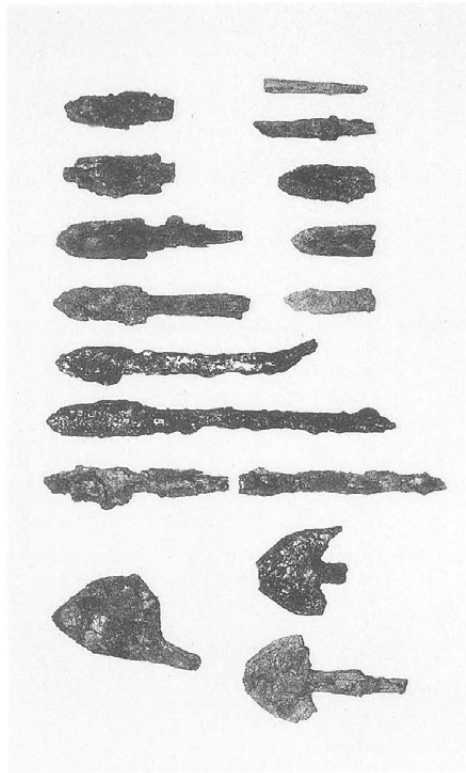
古墳時代の砥石 (113・114)



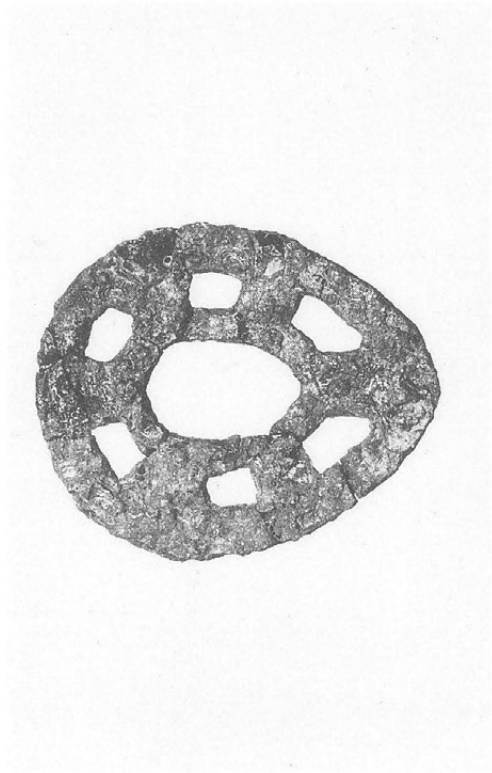
馬具 (第8号古墳)



勾玉・ガラス小玉 (第8号古墳)

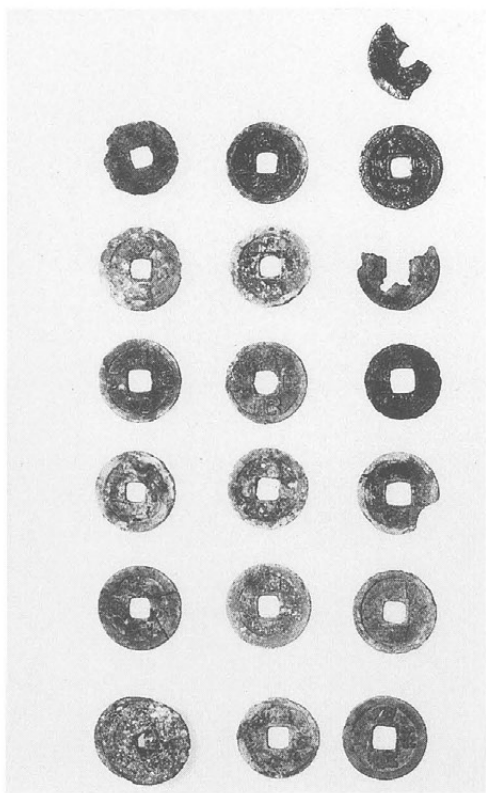


鐵 (第8号古墳)

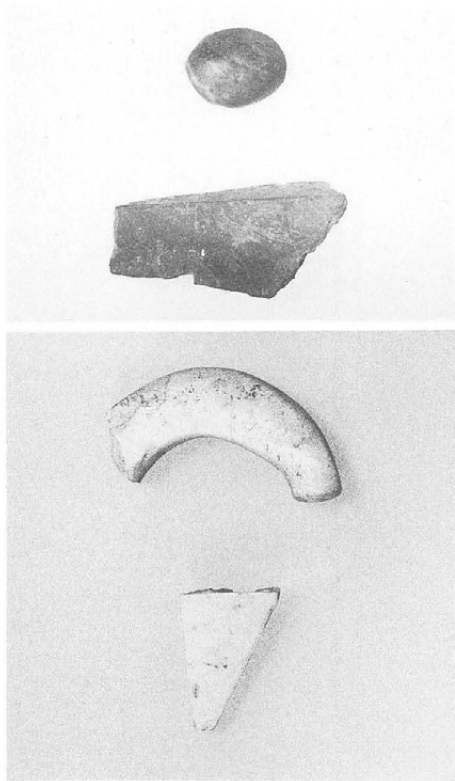


六角窓御形鐙 (第8号古墳)

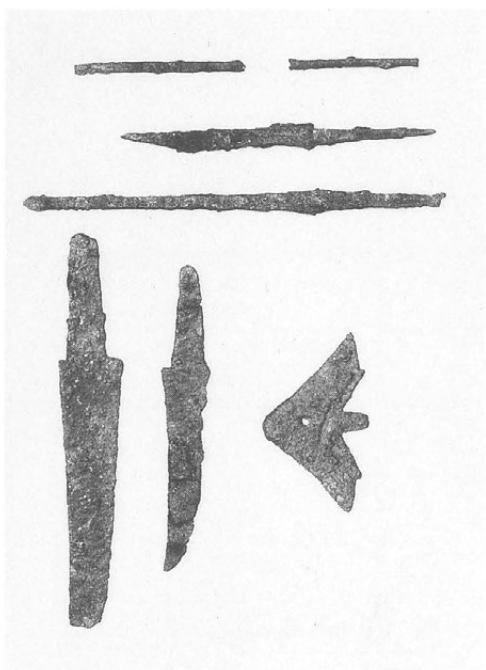




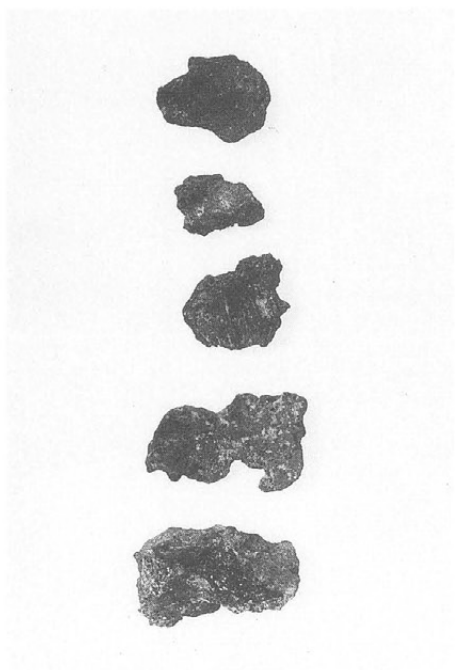
钱货



石製品 (3・4・5・海浜石)



刀子・鏃 (第11号古墳)



鉄滓

---

松本市文化財調査報告 No.83

## 松本市向畑遺跡Ⅲ

平成2年3月20日 印刷

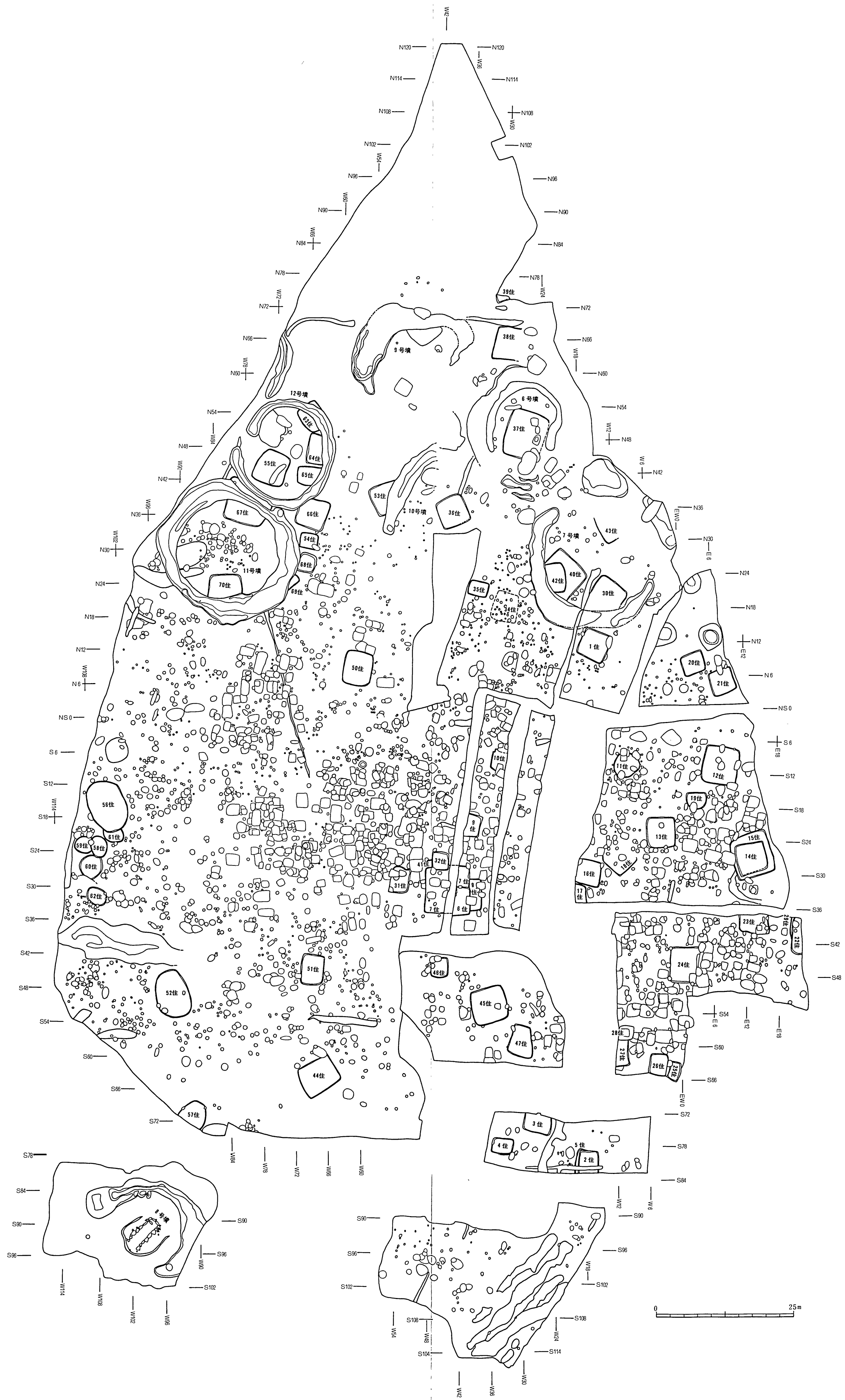
平成2年3月20日 発行

編集 松本市教育委員会  
〒390 長野県松本市丸の内3-7  
TEL0263(34)3000

発行 松本市教育委員会

印刷 精美堂印刷株式会社

---



付図 向畑遺跡Ⅰ～Ⅲ全体図  $\frac{1}{500}$

